

聖山公園遺跡 根古谷台遺跡

(古代・中近世編)

平成5年3月

宇都宮市教育委員会



横古谷の建設現場

発刊にあたって

聖山公園遺跡及び根古谷台遺跡の発掘調査は、市営の墓地公園造成に先立つ調査として、昭和57年4月に開始しました。当初計画では、対象面積約6万㎡を造成計画に沿って5ヵ年で調査することといたしました。調査開始から4年次目（昭和60年度）までは、古墳時代の集落跡と円墳群が確認されましたが、記録保存の上、計画通り墓地造成を進めてまいりました。ところが、最終年度の5年次目（昭和61年度）に至り、予想もしていなかった縄文前期の大規模集落跡が確認され、昭和62年度まで調査を延長することとなりました。

この縄文前期の集落跡は、2ヵ年の調査の結果、これまでにあまり例のない特異な建物跡群と多数の墓塚から構成されていることが判明し、いくつかの墓塚からは全国的にも極めて希少な耳飾りや首飾りの玉類が出土しました。この成果は学会からも大きく注目され、研究者のみならず一般の多くの人々の関心を引き起こすこととなりました。これを受け宇都宮市は、墓地造成計画を変更し、この重要遺跡の保存を決定し、昭和63年5月、根古谷台遺跡として国史跡の指定を受け、恒久的保存が保証されるに至りました。さらに平成4年2月には、史跡公園「うつのみや遺跡の広場」として開園し、遺跡の積極的な活用を進めているところです。

本書は、昭和57年4月から昭和62年11月までの約6年間におよんだ発掘調査の内、霊園墓地として造成された聖山公園遺跡及び国指定史跡として保存された根古谷台遺跡の古代に関する部分の調査報告書です。内容的には集落跡と墳墓が中心ですが、時代的には縄文時代前期から古墳時代・奈良時代さらには中世と非常に多岐にわたっています。各方面で活用され、原始・古代社会史解明の一助となれば幸いに存じます。なお、根古谷台遺跡の縄文時代前期集落跡は、建物跡の規模・構成、さらには墓塚の在り方など、これまでにない多くの知見が提示されたものであり、本地方はもとより同時代の日本列島の動向を考える上でも貴重なものと思われませんが、後日改めて報告することといたします。

末文になりましたが、発掘調査から整理作業に至るまで長期にわたってご教導いただきました栃木県教育委員会文化課、栃木県立博物館、栃木県文化振興事業団の3指導機関及び指導委員の国史館大学教授・大川 清氏、早稲田大学教授・久保智三氏（故人）、宇都宮市文化財保護審議委員会委員・堀 静夫氏、同・小堀時蔵氏、同・大金宣亮氏、同・橋本澄朗氏に対しまして厚くお礼申し上げます。なお、根古谷台遺跡につきましては、文化庁記念物課より多大なる御指導をいただきました。記して感謝の意を表します。

平成5年3月31日

宇都宮市教育委員会教育長 藤田 昌平

例 言

- 1 本書は、昭和57年4月～昭和62年11月に実施した宇都宮市上欠町に所在する聖山公園遺跡（宇都宮市宮第2霊園墓地造成地）及び根古谷台遺跡（国史跡指定地）の古代に関する報告書である。
- 2 発掘調査は宇都宮市教育委員会が主体となり、次頁に示したとおりの調査組織に基づき実施したものである。
- 3 当初この2つの遺跡は、霊園（聖山公園）造成に伴う記録保存のための調査ということから、第1次調査地区（昭和57年度調査）から第4次調査地区（昭和60年度調査）までは一つの聖山公園遺跡として扱ってきた。ところが最終調査地区の第5次調査地区（昭和61・62年度調査）において、縄文時代前期の大規模な集落跡が確認され、これが国史跡として保存されることになったことから、この第5次調査地区に限っては字名をとって根古谷台遺跡と呼ぶことにしたものである。
- 4 本書の編集は、定岡明義、手塚英男との協議を踏まえ、梁木誠がこれにあたった。
- 5 発掘調査・整理作業・報告書作成の各過程において、次の方々よりご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する。（敬称略、順不同）

大野憲司、富樫泰時、稲野裕介、佐藤信行、阿部正光、村田晃一、目黒吉明、大越道正、吉田秀亨、森 幸彦、長島雄一、根本信孝、斉藤弘道、阿久津久、桜岡正信、石坂 茂、藤巻幸男、原 雅信、松村和男、岩崎泰一、能登 健、赤山容造、坂口 一、小島敦子、宮田 毅、大塚昌彦、小林良光、栗原文蔵、谷井 彪、宮崎朝雄、梅沢太久夫、井上 肇、小川良祐、高橋一夫、金子真土、浅野晴樹、細田 勝、黒坂禎二、大塚孝司、寺内正明、中村誠二、大塚和男、西川 制、奥野麦生、佐々木保俊、荒井幹夫、小出輝雄、新井和之、春成秀爾、西本豊弘、堀越正行、篠原 正、西山太郎、菊地敏記、西村正衛、小林達雄、永峯光一、大塚初重、河原純之、安原啓示、岡村道雄、佐久間豊、松村恵司、原田昌幸、橋本博文、早川 泉、比田井克仁、小島正裕、江里口省三、小坂井孝修、中西 充、可児通宏、小栗一夫、丹野雅人、岩橋陽一、服部敬史、村田文夫、山本暉久、鈴木保彦、戸田哲也、坂本 彰、石井 寛、長谷川厚、小杉 康、笹沢 浩、宮下健司、郷道哲章、渡辺 誠、石野博信、林部 均、小林行雄、千田剛道、宮本長二郎、田中 琢、水野正好、古田武彦、清水信行、川原由典、竹沢 謙、岩淵一夫、岩上照朗、田熊清彦、石橋知明、小森紀男、初山孝行、小森哲也、芹沢清八、田代 隆、塚本師也、鈴木 実、上野修一、三澤正善、福田定信、矢島俊雄、木村 等、海老原郁雄、青木健二、斉藤 弘

■調査団組織 (昭和57～62年度)

団 長	教 育 長	後藤一雄
副 団 長	教 育 次 長	鈴木丈夫 (昭和57年度)、田中敏夫 (昭和58～60年度) 上野 渡 (昭和61・62年度)
指導機関		栃木県教育委員会文化課、栃木県立博物館、栃木県文化振興事業団
指導委員	国士館大学教授	大川 清
	早稲田大学教授	久保哲三
	市文化財保護委員	嶋 静夫、小堀時藏、大金宣亮、橋本澄朗
事務局長	社会教育課長	半田 昭 (昭和57年度)、加藤悦男 (昭和58～60年度) 塚田隆一 (昭和61・62年度)
事務局長補佐	社会教育課長補佐	河越昌司 (昭和61・62年度)
事務局次長	文化振興係長	安達光政 (昭和57・58年度)、小林錦一 (昭和59・60年度)
事務局員	文化振興係	定岡明義、木村光男 (昭和57・58年度)、手塚英男、栗木 誠、 阿部信弘 (昭和59・60年度)、小松俊雄 (昭和61・62年度) 大塚雅之 (昭和61・62年度)、赤石澤亮 (昭和61・62年度) 神野安伸 (昭和61・62年度)
調査員補	市文化財調査員	松本笑悦
	本遺跡調査員	大塚雅之 (昭和57年度)、金田信夫、中田秀幸 (昭和57年度) 富川 努 (昭和58年度)、津布稔一樹 (昭和61・62年度) 矢板真雄 (昭和61・62年度)、河越清美 (昭和61・62年度)
調査補助員	安生ミカ、池田友保、大塚 清、川津ミツエ、小林ミキ、小林マサ、小松寅雄、 斉藤イク、佐藤光子、島崎熊夫、半沢ミネ、福田カネ、福田貴久栄、福田タイ、 福田タエ、堀田一夫、松本恵美子、松本和子、松本トシ、松本トリ、味野和テツ、 味野和紀子、森ヒロ子、谷中一郎、山崎トキ、吉澤良助、吉澤キミイ、渡辺フミ	
整理作業員	上野とも子、金田信夫、中田秀幸、大森八重子、大野節子、鈴木芳子、福田喜久栄、樋口静子、鈴木道子、賀来孝代、横堀 聡、君島朱美、岡田由希子、大澤順子	

凡 例

1. 挿図の縮尺は、竪穴住居跡などの遺構が1/60、カマドが1/30とし、遺物は1/4を基本とした。
また、遺物実測図番号は遺構平・断面図の番号及び図版の遺物番号と一致する。
2. 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は真北を示す。
3. 遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
ローム…L ローム粒…LR ロームブロック…LB 鹿沼パミス…KP 炭化物…C
4. 住居跡平面図の網掛けは焼土を示す。

目 次

- ・巻頭カラー図版
- ・序文
- ・例言、凡例

第1章 経緯と環境

第1節 調査の経緯

- (1) 調査に至るまでの経緯 1
- (2) 調査の方針と方法 1
- (3) 調査の経過 2

第2節 立地と環境

- (1) 遺跡の位置と周辺の地形 6
- (2) 周辺の遺跡 6

第2章 古墳時代

第1節 集落跡

- (1) A区 11
1号住居跡/2号住居跡/3号住居跡/4号住居跡/5号住居跡/6号住居跡/
7号住居跡/8号住居跡/9号住居跡/10号住居跡
- (2) B区 17
11号住居跡/12号住居跡/13号住居跡/14号住居跡/15号住居跡/16号住居跡/
17号住居跡/18号住居跡/19号住居跡/20号住居跡/21号住居跡/22号
住居跡/23号住居跡/32号住居跡/33号住居跡/34号住居跡/35号住居跡/
38号住居跡
- (3) C区 27
24号住居跡/25号住居跡/30号住居跡/31号住居跡/36号住居跡/37号住居跡
- (4) 土坑 31
- (5) グリッド出土遺物 31

第2節 古墳

- (1) 1号墳 132
- (2) 2号墳 134
- (3) 5号墳 136
- (4) 6号墳 136
- (5) 將軍塚古墳 143
- (6) 58号土坑 146

第3章 奈良時代

第1節 集落跡

- (1) 竪穴住居跡 175
26号住居跡／27号住居跡／28号住居跡／29号住居跡／39号住居跡／40号住居跡／41号住居跡／42号住居跡／43号住居跡／44号住居跡／45号住居跡／46号住居跡／47号住居跡／48号住居跡／49号住居跡／50号住居跡
- (2) 掘立柱建物跡 181
1号掘立柱建物跡／2号掘立柱建物跡／3号掘立柱建物跡／4号掘立柱建物跡／5号掘立柱建物跡／6号掘立柱建物跡／7号掘立柱建物跡／8号掘立柱建物跡／9号掘立柱建物跡／10号掘立柱建物跡／11号掘立柱建物跡／12号掘立柱建物跡／13号掘立柱建物跡／14号掘立柱建物跡／15号掘立柱建物跡／16号掘立柱建物跡／17号掘立柱建物跡／18号掘立柱建物跡／19号掘立柱建物跡
- (3) 土坑 184
70号土坑

第4章 中近世

第1節 経塚

- (1) 規模と形状 247
- (2) 出土遺物 247

第5章 まとめ

第1節 古墳時代の集落跡

- (1) 土器の様相と年代 250
- (2) 竪穴住居跡の特徴 250
- (3) 集落の立地と構成 251

第2節 古墳群

- (1) 各古墳の特徴と年代 251
- (2) 古墳群の立地と構成 252

第3節 奈良時代の集落跡

- (1) 土器の様相と年代 252
- (2) 竪穴住居跡・掘立柱建物跡の特徴 253
- (3) 集落の立地と構成 253

挿図目次

第 1 図	全体遺構配置図	3・4	第 50 図	B 区 32 号住居跡カマド平・断面図	67
第 2 図	標準土層図	8	第 51 図	B 区 33 号住居跡平・断面図	68
第 3 図	遺跡の位置と周辺遺跡	9	第 52 図	B 区 33 号住居跡カマド平・断面図	68
第 4 図	聖山公園遺跡 A 区遺構配置図	32	第 53 図	B 区 34 号住居跡平・断面図	69
第 5 図	聖山公園遺跡 B 区遺構配置図	33	第 54 図	B 区 34 号住居跡カマド平・断面図	70
第 6 図	聖山公園遺跡 C 区遺構配置図	34	第 55 図	B 区 35 号住居跡平・断面図	70
第 7 図	A 区 1 号住居跡平・断面図	35	第 56 図	B 区 38 号住居跡平・断面図	71
第 8 図	A 区 1 号住居跡カマド平・断面図	36	第 57 図	B 区 38 号住居跡カマド平・断面図	72
第 9 図	A 区 2 号住居跡平・断面図	37	第 58 図	C 区 24 号住居跡平・断面図	73
第 10 図	A 区 3 号住居跡平・断面図	38	第 59 図	C 区 24 号住居跡カマド平・断面図	74
第 11 図	A 区 3 号住居跡カマド平・断面図	39	第 60 図	C 区 25 号住居跡平・断面図	75
第 12 図	A 区 4 号住居跡平・断面図	40	第 61 図	C 区 25 号住居跡カマド平・断面図	76
第 13 図	A 区 4 号住居跡カマド平・断面図	41	第 62 図	C 区 30 号住居跡平・断面図	77
第 14 図	A 区 5 号住居跡平・断面図	41	第 63 図	C 区 30 号住居跡カマド平・断面図	78
第 15 図	A 区 6 号住居跡平・断面図	42	第 64 図	C 区 31 号住居跡平・断面図	79
第 16 図	A 区 6 号住居跡カマド平・断面図	43	第 65 図	C 区 31 号住居跡カマド平・断面図	79
第 17 図	A 区 7 号住居跡平・断面図	43	第 66 図	C 区 36 号住居跡平・断面図	80
第 18 図	A 区 8 号住居跡平・断面図	44	第 67 図	C 区 36 号住居跡カマド平・断面図	81
第 19 図	A 区 9 号住居跡平・断面図	45	第 68 図	C 区 37 号住居跡平・断面図	82
第 20 図	A 区 10 号住居跡平・断面図	46	第 69 図	1 号住居跡出土遺物実測図	83
第 21 図	A 区 10 号住居跡カマド平・断面図	47	第 70 図	2 号住居跡出土遺物実測図	83
第 22 図	B 区 11 号住居跡平・断面図	48	第 71 図	3 号住居跡出土遺物実測図	84
第 23 図	B 区 11 号住居跡カマド平・断面図	48	第 72 図	4 号住居跡出土遺物実測図 (1)	85
第 24 図	B 区 12 号住居跡平・断面図	49	第 73 図	4 号住居跡出土遺物実測図 (2)	86
第 25 図	B 区 13 号住居跡平断面図	49	第 74 図	5 号住居跡出土遺物実測図	86
第 26 図	B 区 13 号住居跡断面図	50	第 75 図	6 号住居跡出土遺物実測図	87
第 27 図	B 区 13 号住居跡カマド平・断面図	50	第 76 図	7 号住居跡出土遺物実測図	88
第 28 図	B 区 14 号住居跡平・断面図	51	第 77 図	8 号住居跡出土遺物実測図	88
第 29 図	B 区 14 号住居跡カマド平・断面図	52	第 78 図	9 号住居跡出土遺物実測図	89
第 30 図	B 区 15 号住居跡平・断面図	52	第 79 図	10 号住居跡出土遺物実測図	89
第 31 図	B 区 15 号住居跡断面図	53	第 80 図	11 号住居跡出土遺物実測図	90
第 32 図	B 区 15 号住居跡カマド平・断面図	53	第 81 図	13 号住居跡出土遺物実測図	90
第 33 図	B 区 16 号住居跡平・断面図	54	第 82 図	14 号住居跡出土遺物実測図	91
第 34 図	B 区 16 号住居跡カマド平・断面図	54	第 83 図	15 号住居跡出土遺物実測図	92
第 35 図	B 区 17 号住居跡平・断面図	55	第 84 図	16 号住居跡出土遺物実測図	92
第 36 図	B 区 17 号住居跡カマド平・断面図	56	第 85 図	17 号住居跡出土遺物実測図	92
第 37 図	B 区 18 号住居跡平・断面図	56	第 86 図	19 号住居跡出土遺物実測図 (1)	93
第 38 図	B 区 19 号住居跡平・断面図	57	第 87 図	19 号住居跡出土遺物実測図 (2)	94
第 39 図	B 区 19 号住居跡カマド平・断面図	58	第 88 図	19 号住居跡出土遺物実測図 (3)	95
第 40 図	B 区 20 号住居跡平・断面図	59	第 89 図	20 号住居跡出土遺物実測図	95
第 41 図	B 区 20 号住居跡カマド平・断面図	60	第 90 図	21 号住居跡出土遺物実測図	96
第 42 図	B 区 21 号住居跡平・断面図	61	第 91 図	22 号住居跡出土遺物実測図	97
第 43 図	B 区 21 号住居跡カマド平・断面図	62	第 92 図	23 号住居跡出土遺物実測図 (1)	97
第 44 図	B 区 22 号住居跡平・断面図	63	第 93 図	23 号住居跡出土遺物実測図 (2)	98
第 45 図	B 区 22 号住居跡カマド平・断面図	64	第 94 図	32 号住居跡出土遺物実測図	99
第 46 図	B 区 23 号住居跡平・断面図	65	第 95 図	33 号住居跡出土遺物実測図	99
第 47 図	B 区 23 号住居跡カマド平・断面図	66	第 96 図	34 号住居跡出土遺物実測図	100
第 48 図	B 区 32 号住居跡平・断面図	66	第 97 図	35 号住居跡出土遺物実測図	100
第 49 図	B 区 32 号住居跡貯蔵穴遺物出土状況図	67	第 98 図	38 号住居跡出土遺物実測図	101
			第 99 図	24 号住居跡出土遺物実測図	102
			第 100 図	25 号住居跡出土遺物実測図	102

第101図	30号住居跡出土遺物実測図	103	第148図	26号住居跡平・断面図	186
第102図	31号住居跡出土遺物実測図	103	第149図	27号住居跡平・断面図	187
第103図	36号住居跡出土遺物実測図	104	第150図	27号住居跡カマド平・断面図	188
第104図	37号住居跡出土遺物実測図	104	第151図	28号住居跡平・断面図	189
第105図	25・26号土坑平・断面図	124	第152図	29号住居跡平・断面図	190
第106図	A区内土坑平・断面図(1)	125	第153図	29号住居跡カマド平・断面図	191
第107図	A区内土坑平・断面図(2)	126	第154図	39号住居跡平・断面図	192
第108図	B区内土坑平・断面図(1)	127	第155図	39号住居跡カマド平・断面図	193
第109図	B区内土坑平・断面図(2)	128	第156図	40号住居跡平・断面図	194
第110図	C区内土坑平・断面図	129	第157図	40号住居跡カマド平・断面図	195
第111図	A・B区内土坑内出土遺物実測図	129	第158図	41号住居跡平・断面図	196
第112図	B区内グリップ出土子持勾玉実測図	130	第159図	41号住居跡カマド平・断面図	197
第113図	子持勾玉周辺出土土器実測図	130	第160図	42号住居跡平・断面図	198
第114図	1~4号墳位置図	147	第161図	43号住居跡平・断面図	199
第115図	1号墳平・断面図	148	第162図	43号住居跡カマド平・断面図	200
第116図	1号墳石室平・断面図	149	第163図	44号住居跡平・断面図	201
第117図	1号墳出土遺物実測図	150	第164図	44号住居跡カマド平・断面図	202
第118図	2号墳実測図	151	第165図	45号住居跡平・断面図	203
第119図	2号墳平・断面図	152	第166図	46号住居跡平・断面図	204
第120図	2号墳第2主体部平・断面図	153	第167図	46号住居跡遺物出土状態図	205
第121図	2号墳出土遺物実測図(1)	153	第168図	47号住居跡平・断面図	206
第122図	2号墳遺物出土状態実測図	154	第169図	47号住居跡カマド平・断面図	207
第123図	2号墳出土遺物実測図(2)	154	第170図	48号住居跡平・断面図	208
第124図	5号墳平・断面図	155	第171図	48号住居跡カマド平・断面図	209
第125図	5号墳主体部平・断面図	156	第172図	49号住居跡平・断面図	210
第126図	5号墳出土遺物実測図	156	第173図	50号住居跡平・断面図	211
第127図	6号墳墳丘測量図	157	第174図	1号竪立柱建物跡平・断面図	212
第128図	6号墳平・断面図	158	第175図	2号竪立柱建物跡平・断面図	213
第129図	6号墳竪穴式石室平・断面図	159	第176図	3・4号竪立柱建物跡平・断面図	214
第130図	6号墳土坑1平・断面図、鉄器出土状況図	160	第177図	5号竪立柱建物跡平・断面図	215
第131図	6号墳周溝内土器出土状態実測図 (須恵器平載)	161	第178図	6号竪立柱建物跡平・断面図	216
第132図	6号墳周溝内土器出土状態実測図 (須恵器提腹)	162	第179図	7号竪立柱建物跡平・断面図	217
第133図	6号墳周溝内土器出土状態実測図 (土師雲裳16)	163	第180図	8号竪立柱建物跡平・断面図	218
第134図	6号墳周溝内遺物出土状況図	164	第181図	9号竪立柱建物跡平・断面図	219
第135図	6号墳出土遺物実測図(1)	165	第182図	10・11号竪立柱建物跡平・断面図	220
第136図	6号墳出土遺物実測図(2)	166	第183図	12号竪立柱建物跡平・断面図	221
第137図	6号墳出土遺物実測図(3)	167	第184図	13・14号竪立柱建物跡平・断面図	222
第138図	將軍塚古墳墳丘測量図	168	第185図	15・16号竪立柱建物跡平・断面図	223
第139図	將軍塚古墳平・断面図	169	第186図	17・18号竪立柱建物跡平・断面図	224
第140図	將軍塚古墳断面図	170	第187図	19号竪立柱建物跡平・断面図	225
第141図	將軍塚古墳土坑8平・断面図、 土器出土状態図	171	第188図	70号土坑平・断面図	226
第142図	將軍塚古墳土坑5・6・9断面図	172	第189図	70号土坑出土遺物実測図	226
第143図	將軍塚古墳出土遺物実測図	173	第190図	26号住居跡出土遺物実測図	227
第144図	將軍塚古墳盛土内出土遺物実測図	173	第191図	27号住居跡出土遺物実測図	227
第145図	將軍塚古墳南側部溝内出土遺物実測図	173	第192図	28号住居跡出土遺物実測図	228
第146図	58号土坑平・断面図	174	第193図	29号住居跡出土遺物実測図	228
第147図	根古谷台遺跡奈良時代遺構配置図	185	第194図	39号住居跡出土遺物実測図	229
			第195図	40号住居跡出土遺物実測図	230
			第196図	41号住居跡出土遺物実測図	231
			第197図	42号住居跡出土遺物実測図	232
			第198図	43号住居跡出土遺物実測図	232

第199回	44号住居跡出土遺物実測図	233	第205回	49号住居跡出土遺物実測図	238
第200回	45号住居跡出土遺物実測図	233	第206回	50号住居跡出土遺物実測図	238
第201回	46号住居跡出土遺物実測図(1)	234	第207回	篠塚塚丘測景図・断面図	248
第202回	46号住居跡出土遺物実測図(2)	235	第208回	2号経塚出土経筒実測図	249
第203回	47号住居跡出土遺物実測図	236	第209回	3号経塚出土古銭拓影図	249
第204回	48号住居跡出土遺物実測図	237			

表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	10
第2表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(1)	105
第3表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(2)	106
第4表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(3)	107
第5表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(4)	108
第6表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(5)	109
第7表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(6)	110
第8表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(7)	111
第9表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(8)	112
第10表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(9)	113
第11表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(10)	114
第12表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(11)	115
第13表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(12)	116
第14表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(13)	117

第15表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(14)	118
第16表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(15)	119
第17表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(16)	120
第18表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(17)	121
第19表	古墳時代住居跡出土遺物観察表(18)	122
第20表	土坑一覧表	123
第21表	土坑出土遺物観察表	131
第22表	奈良時代住居跡出土遺物観察表(1)	239
第23表	奈良時代住居跡出土遺物観察表(2)	240
第24表	奈良時代住居跡出土遺物観察表(3)	241
第25表	奈良時代住居跡出土遺物観察表(4)	242
第26表	奈良時代住居跡出土遺物観察表(5)	243
第27表	奈良時代住居跡出土遺物観察表(6)	244
第28表	奈良時代住居跡出土遺物観察表(7)	245
第29表	奈良時代住居跡出土遺物観察表(8)	246

写真版目次

PL 1	①1号住居跡(南東から) ②2号住居跡(北西から) ③3号住居跡(東から) ④3号住居跡カマド(東から) ⑤4号住居跡カマド周辺遺物出土状況(西から) ⑥5号住居跡遺物出土状況(南西から) ⑦6号住居跡カマド(南東から) ⑧7号住居跡遺物出土状況(北東から)
PL 2	①8号住居跡遺物出土状況(北東から) ②9号住居跡(南西から) ③10号住居跡(南西から) ④10号住居跡カマド(南西から) ⑤11号住居跡(南から) ⑥11号住居跡カマド(南から) ⑦12号住居跡(西から) ⑧13号住居跡(南から)
PL 3	①13号住居跡カマド遺物出土状況(南東から) ②13号住居跡カマド遺物除去後(南から) ③14号住居跡(西から) ④15号住居跡(南から) ⑤16号住居跡(南から) ⑥17号住居跡(西から) ⑦18号住居跡(南から) ⑧19号住居跡(南から)
PL 4	①19号住居跡カマド(北から) ②20号住居跡(西から) ③20号住居跡カマド(西から) ④21号住居跡(南から) ⑤21号住居跡カマド(南から) ⑥22号住居跡(南から) ⑦23号住居跡(西から) ⑧32号住居跡(西から)
PL 5	①32号住居跡カマド(西から) ②33号住居跡(南西から) ③33号住居跡カマド(南西から) ④34号住居跡(南西から) ⑤34号住居跡カマド(南西から) ⑥35号住居跡(西から) ⑦38号住居跡(南から) ⑧24号住居跡(南東から)
PL 6	①25号住居跡(北西から) ②31号住居跡(西から) ③36号住居跡(南から) ④37号住居跡(南から)
PL 7	①2号土坑(南西から) ②3・4号土坑(北西から) ③20号土坑(南西から) ④24号土坑(南西から) ⑤25・26号土坑(北西から) ⑥26号土坑(北西から) ⑦27号土坑(南東から) ⑧30・31号土坑(西から)
PL 8	①32号土坑 ②39号土坑 ③40号土坑(東から) ④42号土坑(南から) ⑤43号土坑(北東から) ⑥45号土坑(南東から) ⑦46号土坑(東から) ⑧48号土坑(南西から)
PL 9	①50号土坑 ②51号土坑 ③52号土坑(東から) ④53号土坑(北西から) ⑤54号土坑 ⑥55号土坑
PL10	①1号墳石室(南から) ②1号墳石室(西から) ③1号墳石室裏込め断面(南から) ④1号墳石室掘り方全景(南から) ⑤1号墳壊出土状況(東から) ⑥1号墳直刀出土状況(東から) ⑦2号墳調査前風景(南から) ⑧2号墳全景(北東から)
PL11	①2号墳周溝内大型土坑と第2主体部(西から) ②2号墳第2主体部(東から) ③2号墳第2主体部鉄器出土状況(南から) ④2号墳遺物出土状況(東から) ⑤2号墳周溝内土坑1・2(南から) ⑥2号墳周溝内土坑3(南

- 東から) ⑦2号墳周溝内土坑4(東から) ⑧6号墳全景(南から)
- PL12 ①6号墳(南から) ②6号墳(東から) ③6号墳前庭部石敷(南から) ④6号墳主体部(西から) ⑤6号墳提瓶出土状況(西から) ⑥6号墳(北から) ⑦6号墳周溝内土坑1セクション(南西から) ⑧6号墳周溝内土坑1セクション(南西から)
- PL13 ①6号墳周溝内土坑1(北西から) ②6号墳周溝内土坑2セクション(南から) ③6号墳周溝内土坑2(西から) ④6号墳周溝内土坑3(東から) ⑤將軍塚古墳調査前風景 ⑥將軍塚古墳と6号墳 ⑦將軍塚古墳(南東から) ⑧將軍塚古墳周溝内土器出土状況(南西から)
- PL14 ①將軍塚古墳刀子出土状況 ②將軍塚古墳第3トレンチセクション(南西から) ③將軍塚古墳周溝内土坑5(東から) ④將軍塚古墳周溝内土坑6セクション(北から) ⑤將軍塚古墳周溝内土坑8セクション(北西から) ⑥將軍塚古墳周溝内土坑8(北東から) ⑦3号墳 ⑧58号土坑(南から)
- PL15 ①26号住居跡(西から) ②27号住居跡(南から) ③28号住居跡(南から) ④29号住居跡(南から) ⑤39号住居跡セクション(南から) ⑥39号住居跡完掘(南から) ⑦39号住居跡カマド(南から) ⑧40号住居跡遺物出土状況(西から)
- PL16 ①40号住居跡カマド(西から) ②40号住居跡完掘(西から) ③41号住居跡(南から) ④42号住居跡(西から) ⑤43号住居跡(南から) ⑥44号住居跡(南から) ⑦45号住居跡(南から) ⑧46号住居跡(南から)
- PL17 ①47号住居跡(南から) ②47号住居跡カマド(南から) ③48号住居跡(南から) ④48号住居跡カマド(南から) ⑤49号住居跡(西から) ⑥50号住居跡(南東から) ⑦1号竪立柱建物跡(南から) ⑧2号竪立柱建物跡(西から)
- PL18 ①3～5号竪立柱建物跡(北から) ②3～5・17・18号竪立柱建物跡(北西から) ③6号竪立柱建物跡(南から) ④7号竪立柱建物跡(南から) ⑤8号竪立柱建物跡(南から) ⑥9号竪立柱建物跡(南から) ⑦10・11号竪立柱建物跡(南東から) ⑧12号竪立柱建物跡(南から)
- PL19 ①13・14号竪立柱建物跡(南から) ②70号土坑遺物出土状況・セクション(南から) ③70号土坑完掘(南から) ④1～3号経塚全景(南から) ⑤1～3号経塚セクション(南から) ⑥2号経塚経筒出土状況
- PL20 ①1号住居跡出土遺物(1)
- PL21 ①1号住居跡出土遺物(2) ②2号住居跡出土遺物
- PL22 ①3号住居跡出土遺物(1)
- PL23 ①3号住居跡出土遺物(2) ②4号住居跡出土遺物(1)
- PL24 ①4号住居跡出土遺物(2)
- PL25 ①5号住居跡出土遺物 ②6号住居跡出土遺物(1)
- PL26 ①6号住居跡出土遺物(2) ②7号住居跡出土遺物(1)
- PL27 ①7号住居跡出土遺物(2)
- PL28 ①8号住居跡出土遺物 ②9号住居跡出土遺物
- PL29 ①10号住居跡出土遺物
- PL30 ①11号住居跡出土遺物 ②13号住居跡出土遺物(1)
- PL31 ①13号住居跡出土遺物(2)
- PL32 ①14号住居跡出土遺物
- PL33 ①15号住居跡出土遺物 ②16号住居跡出土遺物 ③17号住居跡出土遺物
- PL34 ①19号住居跡出土遺物(1)
- PL35 ①19号住居跡出土遺物(2)
- PL36 ①19号住居跡出土遺物(3)
- PL37 ①19号住居跡出土遺物(4)
- PL38 ①19号住居跡出土遺物(5) ②20号住居跡出土遺物
- PL39 ①21号住居跡出土遺物(1)
- PL40 ①21号住居跡出土遺物(2) ②22号住居跡出土遺物
- PL41 ①23号住居跡出土遺物(1)
- PL42 ①23号住居跡出土遺物(2) ②32号住居跡出土遺物(1)
- PL43 ①32号住居跡出土遺物(2) ②33号住居跡出土遺物(1)
- PL44 ①33号住居跡出土遺物(2) ②34号住居跡出土遺物
- PL45 ①35号住居跡出土遺物 ②38号住居跡出土遺物(1)
- PL46 ①38号住居跡出土遺物(2) ②24号住居跡出土遺物(1)
- PL47 ①24号住居跡出土遺物(2) ②25号住居跡出土遺物 ③30号住居跡出土遺物(1)
- PL48 ①30号住居跡出土遺物(2) ②31号住居跡出土遺物 ③36号住居跡出土遺物(1)

- PL49 ①36号住居跡出土遺物(2) ②37号住居跡出土遺物
- PL50 ①B区内土坑出土遺物 ②B区内グリッド出土子持勾玉 ③子持勾玉周辺出土遺物
- PL51 ①1号墳出土遺物 ②2号墳出土遺物
- PL52 ①6号墳出土遺物(1)
- PL53 ①6号墳出土遺物(2)
- PL54 ①6号墳出土遺物(3)
- PL55 ①將軍塚古墳出土遺物
- PL56 ①將軍塚古墳盛土内出土遺物 ②將軍塚古墳南裾部周溝内出土遺物 ③2号経塚出土経筒 ④70号土坑出土遺物
- PL57 ①26号住居跡出土遺物 ②27号住居跡出土遺物(1)
- PL58 ①27号住居跡出土遺物(2) ②28号住居跡出土遺物
- PL59 ①29号住居跡出土遺物
- PL60 ①39号住居跡出土遺物 ②40号住居跡出土遺物(1)
- PL61 ①40号住居跡出土遺物(2)
- PL62 ①40号住居跡出土遺物(3) ②41号住居跡出土遺物 ③42号住居跡出土遺物(1)
- PL63 ①42号住居跡出土遺物(2) ②43号住居跡出土遺物(1)
- PL64 ①43号住居跡出土遺物(2) ②44号住居跡出土遺物
- PL65 ①45号住居跡出土遺物 ②46号住居跡出土遺物(1)
- PL66 ①46号住居跡出土遺物(2)
- PL67 ①46号住居跡出土遺物(3) ②47号住居跡出土遺物
- PL68 ①48号住居跡出土遺物(1)
- PL69 ①48号住居跡出土遺物(2)
- PL70 ①49号住居跡出土遺物 ②50号住居跡出土遺物

第1章 経緯と環境

第1節 調査の経緯

(1) 調査に至るまでの経緯

宇都宮市は、増大する市民の墓地需要に応えるため、昭和39年3月、市北西端の丘陵部に大規模市営霊園墓地として北山霊園を開設した。しかし、その後の経済発展・人口増加等に伴い、墓地需要はますます拡大し、昭和50年代に入るとこの北山霊園も飽和状態となり、第2霊園墓地造成計画が浮上することとなった。その結果、第2霊園墓地造成地として最終的に選定されたのが、今回報告する「聖山公園遺跡・根古谷台遺跡」を含む上欠町の台地であった。

昭和55年、市建設部局よりこの具体的な造成計画が提示されたのを受け、当教育委員会としては、文化財保護の立場から、以下のような内部協議を進めてきた。

昭和55年8月 霊園墓地造成計画の地元説明会に前後して、市教育委員会は予定地内の遺跡分布調査を改めて実施し、これをもとに遺跡保存のための庁内協議を進めた。

昭和56年8月 造成計画の推進、即ち遺跡の開発が確定的となるなかで、「埋蔵文化財の保護と開発に関する基本方向」（宇都宮市教育委員会）を定め、現状保存のための方策等をさらに検討した。

11月 検討の結果、市教育委員会の直営事業として発掘調査を行うこととなり、発掘調査計画策定のための市教育委員会独自の最終調査を行った。

12月 県教育委員会から遺跡保存及び発掘調査計画策定のための指導を受けた。

昭和57年2月 文化財保護法第57条の3の規定に基づく工事等による埋蔵文化財発掘通知書を提出した。

3月 遺跡保存及び発掘調査計画の検討案について学識経験者の指導を受けた。

4月 ・発掘調査を担当する新規職員を配置するとともに、事務局体制を整備し、詳細実施計画の策定に着手した。

・文化財保護法第98条の2の規定に基づく埋蔵文化財発掘通知書を提出した。

・埋蔵文化財発掘調査に係る危険防止対策要綱を定めた。

・外部の指導委員、指導機関等も含めた発掘調査団を組織した。

以上の経過により、発掘調査による記録保存のやむなきに至ったが、造成計画において、遺跡広場の設置、現状保存地区の拡大などの成果をもって発掘調査実施へと進んでいった。

(2) 調査の方針と方法

A 遺跡の名称

今回の霊園墓地造成計画地は約16haにも及ぶ広大なものであり、その範囲内には、既に峰台遺跡（集落跡）、峰坪古墳、将軍塚古墳、根古屋遺跡（集落跡）及び高塚群等、複数の遺跡の所在が知られていた。その後の発掘調査全体を考えた場合、これらの遺跡を個々に呼称していくことも、一括した名称にすることが、運用上効率的ではないかという検討がなされた。

このような中、第2霊園という仮称から一転して、緑とやすらぎの広場を有した霊園の造成と

いう新しいコンセプトの計画が示され、「聖山公園」という名称に、市・地元とも賛同のもと決定することとなった。これを受けて、宇都宮市教育委員会として、遺跡の地名を表す名称を用いるか、あるいは造成計画の名称を採用するかを検討を行った結果、将来とも場所と名称の混乱が生じない可能性の高い「聖山公園遺跡」と命名することにした。

イ 調査の方針

調査計画策定にあたって、①遺跡は極力保存するために、土の移動は最小限に抑えること、②遺跡の保存状態が良好と考えられる場所は、可能な限り緑地や広場として保存することの方針を定め、造成計画地の遺跡の保存状況調査を行った。

この調査により、①既に関東ローム層まで現状変更が行われ、遺跡の壊滅が確実なところ、②急傾斜地で現状変更を行わないところ等を発掘調査対象区域から除外し、今回の発掘調査対象区域を約6haとした。

さらに、これら発掘調査対象区域の中でも、周知の遺跡でこれまでに手を加えられていないところを遺構良好保存地とし、当初から全面発掘を実施する区域とした。また、過去の開田、植林等で相当手が加えられ、遺構の壊滅が懸念される区域については、トレンチによる確認調査を行い、その結果に基づいて調査方針を決める区域とした。なお、これらに該当しない区域については、できる限り現状保存を行い、造成計画の設計案に対応しながら調査を行うこととした。

以上のような遺跡全体の調査方針に基づき、造成計画10年を先取りする形で、造成年度の前年度までに調査を終了することとして、発掘調査年次を5ヵ年と定めた。

ウ 調査の方法

造成計画地北西部にある円墳群（1～4号墳）を含む一部区域を除き、遺跡地全体にグリッドを設定した。グリッドの主軸方向は、北西から南東へと細長く続く遺跡地の地形に合わせるものとしたために、N-38°-Wをとっている。グリッドは一辺20mの正方形とし、横軸（北西から南東）を1、2、3・・・の算用数字、縦軸（北東から南西）をA、B、C・・・のアルファベットで区切り、各グリッドの呼称基準とした。

確認調査は、各グリッドの直交する2辺に幅1.5mのトレンチを設定して行うことを原則とし、必要に応じて、さらに各グリッドを1/4に区切ってトレンチ調査を行うこととした。なお、墓石地及び公園関係建物建設予定地等、明らかに地下への影響が予想される場合には、当初より全面発掘調査することを原則とした。

(3) 調査の経過

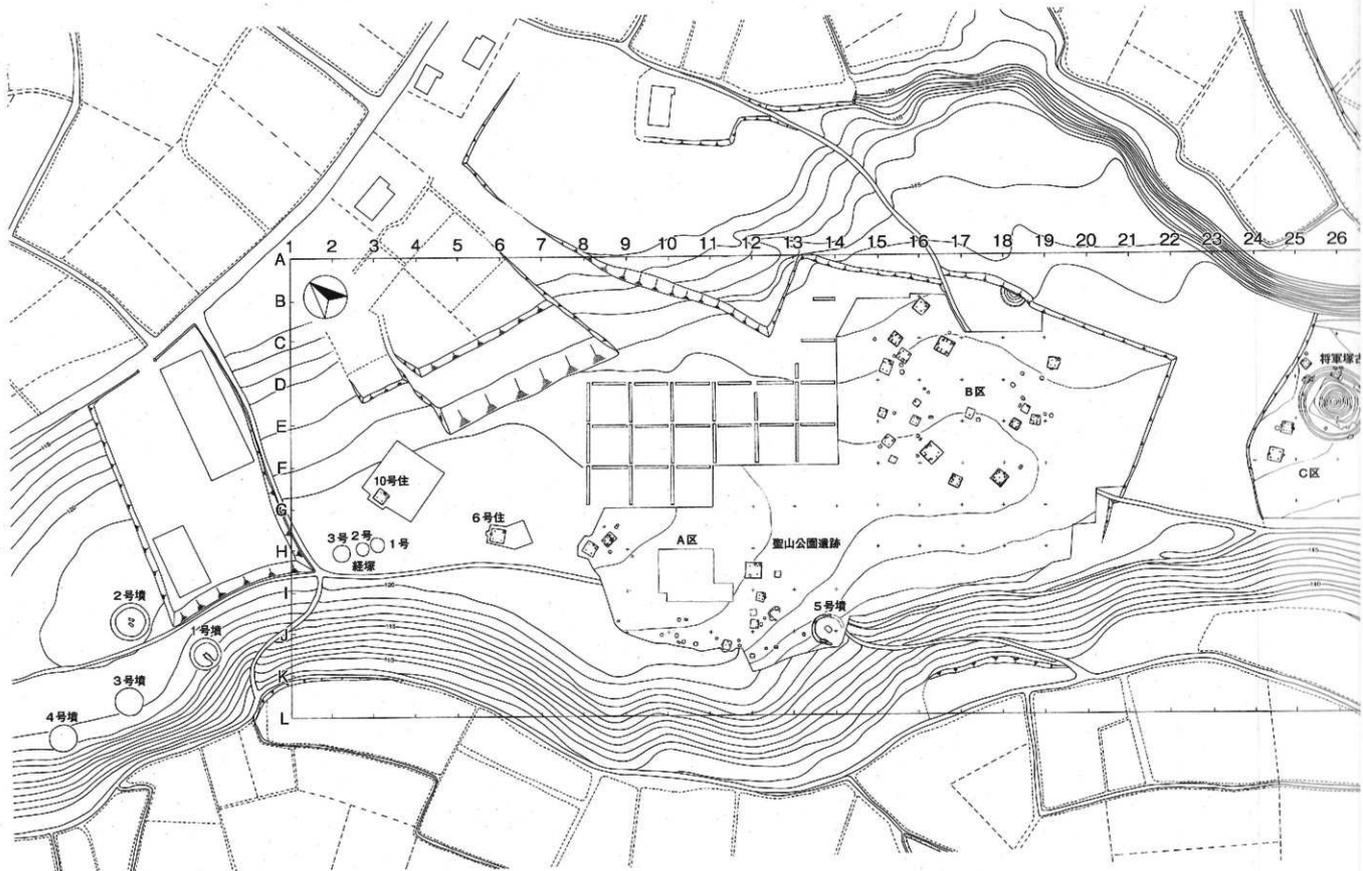
前述したとおり、発掘調査は全体5ヵ年の計画で、昭和57年4月に着手したが、計画最終年度の昭和61年に至って縄文時代前期の大規模集落跡（根古谷台遺跡地区）が確認されたことにより、調査期間を1年間延長した。ここでは年度毎に、調査経過の概要をまとめる。

第1次（昭和57年度）調査

調査対象は第1期墓地造成地区の約1ha、及び北西部の円墳群・経塚群とした。第1期墓地造成地区では、まずトレンチによる確認調査を4～5月に実施し、竪穴住居跡9軒・円形周溝遺構



第1図 全体遺構配置図



第1図 全体遺構配置図

2基・土坑数基等を検出した。その後6月から遺構調査に移り、11月には測量まで完了することができた。北西部の円墳群（1～4号）及び経塚群（1～3号）は、年度内の進入道路造成に間に合わせるため、6～7月の2ヵ月間で調査を実施した。円墳群の3・4号墳については、進入道路予定地から僅かにずれていたため現状保存とした。

第2次（昭和58年度）調査

調査対象は概ね第2期墓地造成予定地の約8,000㎡で、位置的には計画地のほぼ中央部にあたる。4月からの確認調査の結果、竪穴住居跡13軒・土坑5基・溝跡数条等が検出されたが、例年になく天候に恵まれたこともあり、それぞれの遺構調査及び測量調査をほぼ9月いっぱいまで完了することができた。10月以降は、次年度調査予定地区の確認調査に入った。なお、市民向けの現地説明会を5月と8月の2回実施し、多数の参加者があった。

第3次（昭和59年度）調査

調査対象は前年度調査地区から少し離れた南東部の約1haで、遺構の保存状況が良好とみられた地区のため、当初より全面調査を行うこととした。位置的には將軍塚古墳（墳丘部は現状保存）の周囲と台地西斜面沿いの道路建設予定地であり、円墳1基（6号墳）・竪穴住居跡11軒・土坑数基等が検出された。このうち6号墳は、墳丘が非常に低く、雑木林を伐採して初めて気付いたものであったが、発掘してみると周溝や埋葬施設の保存状態が比較的良好で、調査には3ヵ月近い期間を要した。また、竪穴住居跡11軒のうち3軒が縄文時代前期のものであったが、これがその後の大集落の確認につながることは、この時点では予測できなかった。

第4次（昭和60年度）調査

調査対象の中心は昭和58年度調査地区に続く南東部約8,000㎡で、これに加え將軍塚古墳の周溝調査も実施した。検出された遺構は、竪穴住居跡8軒・土坑数基及び將軍塚古墳の周溝である。將軍塚古墳の周溝は、円墳にしては比較規模も大きく、周溝内に埋葬施設がみられたり、竪穴住居跡との重複などもあったりしたことから、調査には約3ヵ月を要した。それでも予定した調査はほぼ9月中に終了し、10月以降は次年度調査地区の準備に充てることができた。

第5次（昭和61・62年度）調査・根古谷台遺跡地区

調査対象は第3次で調査した6号墳の南側約8,500㎡で、墓地造成予定地の最終区画にあたる部分である。結果的には、縄文時代前期の重要集落であることから国指定史跡として保存された地区であり、遺跡名称も聖山公園遺跡から切り離し、小字名から「根古谷台遺跡」としたものである。

昭和61年4月、表土を徐々に除去していくにつれて、奈良時代と縄文時代前期の重複集落跡であることが明らかになり、まずは奈良時代の遺構調査を先行した。奈良時代では竪穴住居跡14軒・掘立柱建物跡17棟・土坑数基が検出されたが、竪穴規模も小型なものも多く、出土遺物も少なめであったことから、ほぼ3ヵ月で調査を終了することができ、この年の夏以降は、本格的に縄文時代前期集落跡の調査に取り組むこととなった。なお、この調査経過については別稿で記すこととした。

第2節 立地と環境

(1) 遺跡の位置と周辺の地形

本遺跡が所在する宇都宮市上欠町は、宇都宮市の中心部から西南西へ約5kmの地点にあり、西は鹿沼市に接している。基本的には水田耕作を主体とした農村地帯であるが、すぐ西には鹿沼工業団地が控え、また近年、同町内に大規模な住宅団地（上欠団地）も造成されている。年々平地林が減少するとともに、町内各所に土取りの跡が露呈するという状況であり、都市化の波は着実に押し寄せてきているものと言える。

栃木県の地形は、大きく北西の山間地帯と南東の平野部に分かれている。県のほぼ中央に位置する宇都宮市は丁度この変換点付近にあたり、北西域が那須・日光連山の裾野からのびる山地及び台地、南東域が関東平野につながる平地という地形になっている。本遺跡が立地するのは、この北西山地帯から平野部に向かってせり出す細長い台地（鹿沼台地）上であり、この南東端部にあたる。

この南東に向かって細長く延びる台地は、本遺跡付近で緩やかにカーブし、南へ約300mで端部となっている。台地の幅は遺跡地北西付近で約300m、南東に向かうに従って狭まり約150mとなり、台地上は幅100～150mの平坦面が続いている。台地の両側は、西が10～20度の緩やかな斜面、東が30～40度のやや急な斜面を形成し、それぞれ沖積低地の水田面へと至っている。台地上平坦面の遺跡地付近の標高は118～120mであり、両側の水田面からは15～16mの比高差がみられる。

本遺跡を載せる台地の両側には、姿川、武子川と呼ばれる小河川がそれぞれ南流している。東側を流れる姿川は、本遺跡付近で大きく蛇行し、台地東側緩斜面の裾野をえぐるような流路をとっている。また、武子川は台地西側緩斜面の裾野から200m前後の距離をおいて、ゆるやかに流れている。この二つの河川は本遺跡を載せる台地の先端を過ぎたところで合流し、一本の姿川として県南の平野部に注いでいる。なお、この姿川は本遺跡より約20km南の国分寺町で思川に合流し、さらに約20km南の藤岡町遊水地で、この思川は渡良瀬川に合流している。

(2) 周辺の遺跡

本遺跡が所在する姿川上流域は、栃木県内でも古くから遺跡の宝庫として知られてきた地域であり、発掘調査によりその内容が明らかにされた遺跡も数多い。ここでは、周辺に所在する遺跡の内から特に本遺跡との関連を考える上で必要となる縄文及び古墳時代関係のものを抽出し、それらの概要をまとめることにしたい。

ア 縄文時代

第3図は本遺跡から半径2～3km以内に所在する遺跡の分布図であるが、姿川右岸、なかでも本遺跡から北西部にかけては、縄文時代集落跡の密度が非常に濃い。これらの遺跡の立地は、本遺跡と同様な細長く延びた台地の先端部付近あるいは縁辺部であり、いずれも姿川に流れ込む小河川に沿っている。時期的には、前期から後・晩期と各時期に渡っているが、やはり中期のものが目立って多く、逆に前期の確実なものは調査された上欠南遺跡（18）一例だけという状況である。ここで、発掘調査された3遺跡について概要をまとめると次のとおりである。

上欠遺跡（17） 竪穴住居跡52軒、配石遺構13基、屋外土器埋設遺構24基、ピット244基等が確

認められた県内でも最大規模の集落跡である。出土土器は縄文時代中～後期の加曾利E式、称名寺式が主体であり、他に776点にも上る打製石斧をはじめ大量の石器類が出土している。

上欠南遺跡(18) 竪穴住居跡1軒、土坑1基が確認され、出土土器から縄文時代前期の黒浜期のものであることが判明している。竪穴住居跡は5.9m×4.4mの隅丸長方形のものであり、4本の支柱穴に棟持柱を持つ形態である。なお、花積下層式の破片も出土しており、周辺にはさらに古い時期の集落があるものと見られている。

高尾神遺跡(21) 竪穴住居跡19軒、袋状土坑11基等が確認されている。出土土器は縄文時代前期の阿玉台式、加曾利E1式が主体であり、他に豊富な石器類も出土している。

以上のように中期に関しては発掘調査されたものも含め豊富な資料がみられるが、その他の時期はやや希薄である。

イ 古墳時代

集落跡に関しては、周辺地域において発掘調査された例がまだない。もちろん分布調査等において土器等の土器片が確認される遺跡は相当数に上っているが、時期や内容の判断となると困難な場合が多い。そこでここでは、古墳そのものの分布状況をみていくとともに、出土遺物や内部主体等から内容を知られるいくつかの古墳または古墳群について触れてみることにしたい。

稲荷古墳群(26) 前方後円墳1基と円墳3基が現存する古墳群である。主墳は相似形の周溝を持つ全長32.7mの前方後円墳であり、葺石と埴輪の存在が確かめられている。円筒埴輪の形状や周溝出土の土器器坪から6世紀後葉のものと考えられる。また、円墳のうち一基は、川原石小口積み横穴式石室であることが確認されている。

深津古墳群(38) かつては十数基からなる古墳群であったが、現在は2基を残すのみである。このうちの一基が主墳とみられる通称愛宕塚古墳である。従来から円墳とされているが、墳丘斜面の状況からすると南側に短い前方部が存在した可能性も考えられる。推定では、30m前後の規模とみられる。かつて出土した須恵器から、7世紀前半代のものと考えられる。

下台原古墳群(29) 前方後円墳1基と円墳11基が現存する古墳群である。主墳である下台原古墳は、基壇状のテラスを有する前方後円墳であり、墳丘長57m、基壇長69m、周溝を含めた全長92mという規模をほころものである。

亀塚古墳(30) 50mを超える前方後円墳とみられるが、前方部は大正年間に土取り工事で削平されている。現在、後円部墳頂近くに削石を小口積みにしたような石室壁の一部を確認することができる。位置的に竪穴式石室の可能性が高いものである。円筒埴輪、須恵器、土器等の出土が知られている。

これら以外にも、凝灰岩切石積みの横穴式石室が開口する下砥上愛宕塚古墳(9)、小規模な前方後円墳を含む下砥上古墳群(11)や大塚古墳群、さらには小規模な円墳だけから構成される亀ヶ窪古墳群(3)、亀岡前古墳群(22)、工業団地東古墳群(39)等、それぞれに特徴的なあり方を示している。

以上のように、本遺跡周辺における古墳の中では、亀塚古墳(30)の主体部にやや古い要素を見ることができるが、大半は古墳時代後期を中心に展開したのものであると考えてよいであろう。

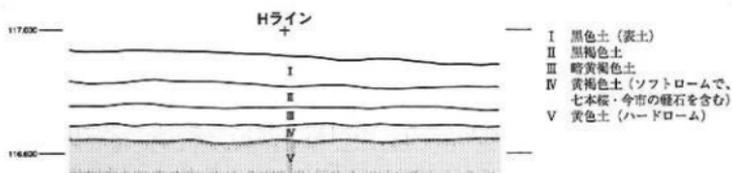
ウ 奈良・平安時代以降

奈良・平安時代以降の遺跡は比較的多くみられるが、発掘調査されたものは少ない。また、中

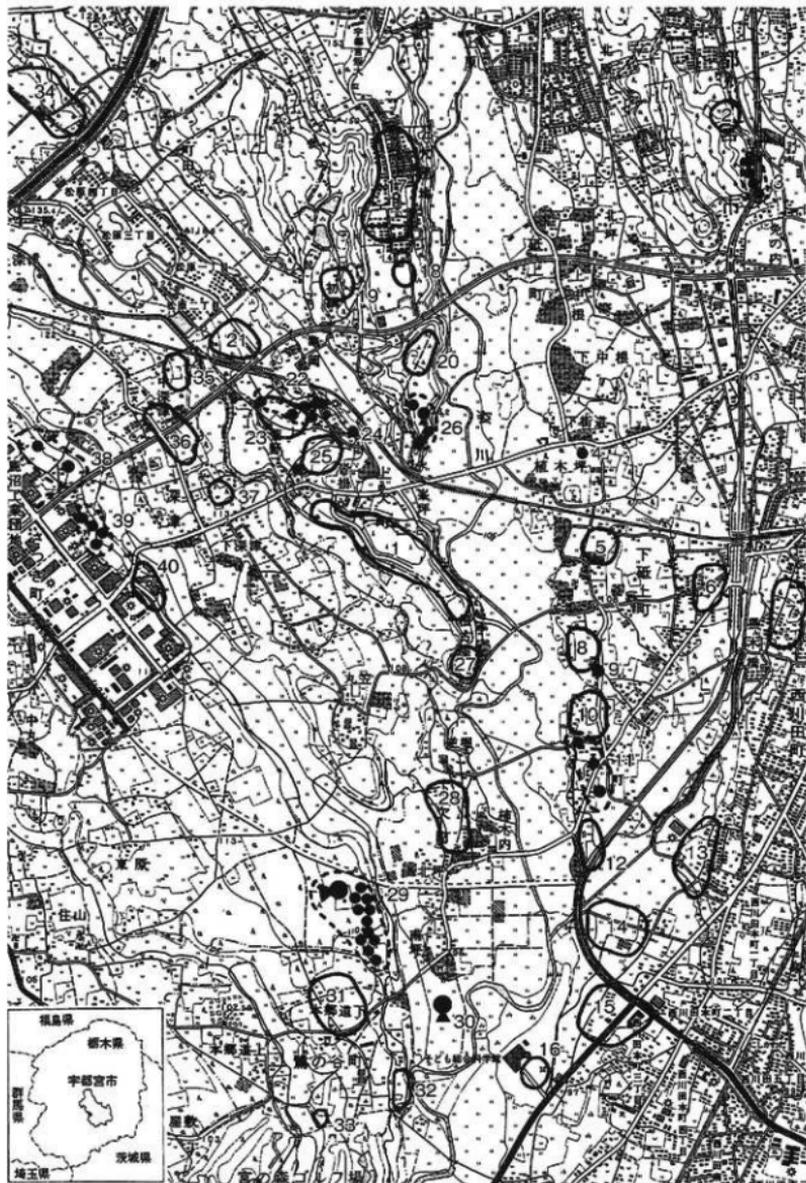
世のものとしては、集落跡以外に城館跡がいくつか見られる。

辻の内遺跡(15) 奈良・平安時代から中世にかけての大規模な集落遺跡である。奈良・平安時代のものとしては多数の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が確認されている。また、中世のものとしては掘立柱建物跡・井戸跡・方形竪穴遺構・土坑等が確認されている。

犬飼城跡(27) 姿川と武子川に挟まれた舌状台地の南端に築かれた平山城で、現在は山林・農地等になっている。本丸と二の丸からなる保存状態の良い城跡であり、堀・土塁・堀切・折・土橋・井戸等の遺構が確認できる。伝承では康暦元年(1379)の築城とされるが、現存する遺構の状況等からすると、戦国期のものと考えられる。



第2図 標準土層図



第3図 遺跡の位置と周辺遺跡 (1 / 25,000)

番号	遺跡名	所在地	時代	種別	備考
1	聖山公園・根古谷台遺跡	宇都宮市上欠町	縄文・古墳・奈良	集落跡・古墳	
2	長峰遺跡	宇都宮市鶴田町	縄文・奈良・平安	集落跡	
3	亀ヶ窪古墳群	宇都宮市鶴田町	古墳後期	古墳群	円墳4
4	植の内古墳	宇都宮市下砥上町	古墳	古墳	円墳
5	宿坪遺跡	宇都宮市下砥上町	古墳	集落跡	
6	岩塚遺跡	宇都宮市下砥上町	古墳	集落跡	
7	ヤジカ遺跡	宇都宮市西川田町	古墳・奈良・平安	集落跡	
8	主計内遺跡	宇都宮市下砥上町	奈良・平安	集落跡	
9	下砥上愛宕塚古墳	宇都宮市下砥上町	古墳後期	古墳	円墳
10	ひのき内遺跡	宇都宮市下砥上町	縄文・古墳・奈良・平安	集落跡	
11	下砥上古墳群	宇都宮市下砥上町	古墳後期	古墳群	
12	下砥上下の内遺跡	宇都宮市下砥上町	縄文・古墳	集落跡	
13	西川内遺跡	宇都宮市西川田町	奈良・平安	集落跡	
14	西の内遺跡	宇都宮市西川田町	縄文・古墳・奈良・平安	集落跡	
15	辻の内遺跡	宇都宮市西川田町	縄文・古墳～中世	集落跡	
16	花の木町遺跡	宇都宮市西川田町	古墳	集落跡	
17	上欠遺跡	宇都宮市上欠町	縄文中期	集落跡	
18	上欠南遺跡	宇都宮市上欠町	縄文前期	集落跡	
19	初網遺跡	宇都宮市上欠町	縄文中～晩期	集落跡	
20	富士山台遺跡	宇都宮市上欠町	縄文・古墳・奈良・平安	集落跡	
21	高尾神遺跡	宇都宮市上欠町	縄文中期	集落跡	
22	亀岡前古墳群	宇都宮市上欠町	古墳後期	古墳群	円墳5
23	亀岡坪遺跡	宇都宮市上欠町	古墳・奈良・平安	集落跡	
24	定使古墳	宇都宮市上欠町	古墳	古墳	円墳
25	香掛遺跡	宇都宮市上欠町	古墳・奈良・平安	集落跡・古墳	円墳
26	種荷古墳群	宇都宮市上欠町	古墳後期	古墳群	前方後円墳1、円墳3
27	大舞城跡	宇都宮市上欠町	中世	城館跡	
28	下欠北原遺跡	宇都宮市下欠町	古墳・奈良・平安	集落跡	
29	下台原古墳群	宇都宮市下欠町	古墳後期	古墳群	前方後円墳1、円墳11
30	亀塚古墳	宇都宮市下欠町	古墳	古墳	前方後円墳
31	大明神遺跡	宇都宮市鷹の谷町	古墳・奈良・平安	集落跡	
32	蔵久保遺跡	宇都宮市鷹の谷町	縄文・弥生・古墳	集落跡	
33	萩山遺跡	宇都宮市鷹の谷町	古墳	集落跡	
34	高田遺跡	宇都宮市飯田町	縄文・古墳	集落跡	
35	京光地遺跡	鹿沼市深津	縄文中期	集落跡	
36	鵜の内遺跡	鹿沼市深津	縄文中～後期・弥生・古墳	集落跡	
37	深津城跡	鹿沼市深津	中世	城館跡	
38	深津古墳群	鹿沼市深津	古墳後期	古墳群	円墳2
39	鹿沼工業団地東古墳群	鹿沼市深津、きつき町	古墳後期	古墳群	円墳4
40	前橋遺跡	鹿沼市深津	縄文中～晩期	集落跡	

第1表 周辺遺跡一覧表

第2章 古墳時代

第1節 集落跡

古墳時代の竪穴住居跡はA区で10軒、B区で18軒、C区で6軒の計34軒と土坑49基が確認された。

(1) A区

1号住居跡

【遺構】(第7・8図)

位置：A区。台地上平坦部の縁辺部付近で、南側に緩斜面を望む場所に位置する。

平面形：7.6×7.7mのほぼ正方形を呈するものであり、大型のものである。

壁：確認面から約60cm(現表土からは約80cm)切り込んで掘られており、約70°の傾斜をもって立ち上がっている。壁から床面へは直接移行し壁下をめぐる周溝のような施設は認められない。

床面：ロームであり、中央部からカマド前面にかけては特によく踏み固められている。また床面のレベルはほぼ一定であるが、壁際は心もち高くなっているようである。

柱穴：主柱穴4本が検出されている。4本ともほぼ対角線上に位置し、柱間は約3.8mを測る。各柱穴の深さは次のとおりである。P1-84cm、P2-87cm、P3-79cm、P4-81cm。

貯蔵穴：住居跡の東隅に位置し、カマド右袖から約1.2mの距離にある。平面形は、横80cm、縦120cmの長方形を呈し、60cmほどの深さがある。覆土は住居跡の覆土に近く住居跡とともに埋没したものと考えられる。

カマド：北東壁の中央よりやや南に寄った位置に付設されている。大きさは、幅95cm、奥行65cmを測る。焚口部には中心よりやや北にずれた位置に深さ10cm程の掘り込みがある。煙道部の壁への切り込みは、確認された範囲では非常に僅かであり、壁立ち上がりの下半部をそのまま残している。袖はロームと粘土を混合したものを材料として構築されている。

覆土：住居跡の覆土は4層に分かれ、ほぼレンズ状の堆積を示している。

【遺物】(第69図)

本住居跡から出土したものは、土師器と須恵器である。床面直上から出土したものは、1、11、13、16、20の5点と少なく、しかも完形品は16ぐらいである。出土位置としては、カマドと貯蔵穴の周辺、および柱穴P2の周辺に多い。8は須恵器の坏であるが、床面直上と覆土中の破片が接合したものである。また7の須恵器蓋は覆土中より出土したものである。

貯蔵穴内からは、4の土師器坏と大小2個の川原石が出土している。いずれも貯蔵穴の底面に着いての出土である。貯蔵穴内からの川原石の出土は、本遺跡内の住居跡においてしばしば確認されている。なお、本住居跡の出土土器数をみると、他の住居跡と比較した場合、大きさのわりには少ないように思われる。

2号住居跡

【遺構】(第9図)

位置：A区。台地縁辺部に位置し、すぐ南西側が緩斜面となっている。

平面形：4.6×3.9mの長方形である。

壁：比較的掘り込みが浅い竪穴住居跡であり、確認面からの深さは17.8cmである。全体に遺存状態は良好でなく、壁面の崩れや線の歪みが目立っている。

床面：ロームで、凹凸が目立ち、踏み固められた様子もあまり認められない。

柱穴：柱穴らしきものは竪穴内にいくつか検出されたが、4柱穴は確認されない。むしろ、竪穴外に柱穴が掘られていたようであるが、整然とは並んでいない。主な柱穴の深さは次のとおりである。P1-39cm、P2-36cm、P3-48cm、P4-50cm、P5-34cm、P6-42cm、P7-35cm、P8-35cm、P9-42cm、P10-33cm、P11-21cm。

貯蔵穴：南東壁近くに位置する。平面形は60×40cmの長方形で深さは25cmを測る。

カマド：付設されておらず、炉跡と思われる浅い掘り込みが北西壁近くに検出されている。掘り込みは径40～50cmの不整円形で深さは4～5cmのものであり、内部からは全体に焼土が検出されている。

覆土：住居跡内の覆土は3層に分かれ、ほぼレンズ状の堆積を示している。

【遺物】(第70図)

本住居跡より出土したものは、全て土師器である。出土位置は東南壁と貯蔵穴の周辺に集中しており、図示した4点はいずれも床面直上で検出されたものである。3と4の環形土器は、南東壁近くに倒れ破砕した状態で検出されたものである。壁際に2個並んで立てられていたものと思われる。

図示した土器は、坏2点(1・2)、甕2点(3・4)の4点である。甕は2点とも二次焼成を強く受けたものとみられ、胴部外面に著しく炭化物が付着し、器壁もかなりもろくなっている。

3号住居跡

【遺構】(第10・11図)

位置：A区。台地上平坦部内でやや南西寄りに位置し、南西緩斜面に至る縁辺部までは約50mの距離がある。

平面形：4.7×6.1mの東西に長い長方形を呈する。本住居跡はある段階で東壁側を拡張した住居跡であると考えられる。その理由としては周溝がほぼ正方形に廻っていること、拡張部と思われる部分の床が1段高くなっていること、さらに拡張部と思われる部分の柱穴が浅いものであり、補助的なものとみられることなどの点が挙げられる。また、2基検出された貯蔵穴の内、貯蔵穴2が人為的に埋められ上層が床面となっているのに対し、貯蔵穴1は住居跡とともに埋没していること、さらに西壁に付設されたカマドの下に周溝が廻っていることなどは、住居跡の拡張時に各施設の造り替えがあったことを示しているものと思われる。拡張前の本住居跡は、4.5×4.7mのほぼ正方形に近い平面形を呈し、確認面からは約35cmの深さをもっている。

柱穴：4柱穴は対角線上に位置するしっかりしたものであるが、P3だけは最初の掘り方が方形となっている。各柱穴の深さは、P1-59cm、P2-49cm、P3-65cm、P4-57cmである。

貯蔵穴：拡張前の段階では東南隅に位置する貯蔵穴2が使用されていたと思われる。拡張に際して西壁にカマドが付設されたようであるが、これに伴って貯蔵穴2が埋められ、新たにカマド左袖の南西隅に貯蔵穴1が設けられたようである。

カマド：カマドは西壁でやや南よりに位置する。袖は粘土とロームを混合したものを使用して構築され、焚口部正面は川原石で補強されている。掛け穴部と思われる部分に甕の頸部が潰れた状態で検出されているが、これは掛け穴を内側から補強する目的で、内部に取り付けられたものの

ようである。東周溝（拡張前の東壁）際に焼土を多量に出土する深さ10cm前後の掘り込みが検出されている。拡張前段階のカマド（あるいは炉か？）跡と思われる。

【遺物】（第71図）

本住居跡より出土した遺物は、土師器と砥石である。床面直上から検出されたものは極めて少なく、8の坏、10の壺、及び11の甕の3点であるが、特に南東隅から貯蔵穴2の周辺に集中している。いずれもかなり破砕された状態であり、いっしょに川原石などの散乱も認められる。ある程度住居跡の埋没が進行した段階で投げ込まれたような印象が強い。

砥石はP2の近くで床面より数cm程浮いたところで検出された。片面だけを使用したものである。

4号住居跡

【遺構】（第12・13図）

位置：A区。3号住居跡のすぐ西側に位置し、南西の台地縁辺部までは40mの距離がある。

平面形：一辺5.8mの正方形である。

壁：確認面からの深さは約40cmあり、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。

床面：ロームで、全体によく踏み固められている。

柱穴：ほぼ対角線上に位置し、柱間は約3.1mである。各柱穴の深さは、P1-65cm、P2-70cm、P3-68cm、P4-66cmである。

貯蔵穴：南東隅で、カマド右袖から約1mの距離にある。平面形は125cm×90cmの隅丸長方形を呈し、深さは55cmである。

カマド：東壁のほぼ中央に付設されている。大きさは幅約90cm、奥行約110cmを測る。煙道部の壁への切り込みは僅かであり、確認された範囲では20cm程である。また、壁の立ち上がり基部もそのまま残している。袖はローム、黒色土、粘土を混合したものを材料に構築されているが、芯は土師器などで補強している。焚口前面には3個の川原石が「コ」の字状に高架されており、両袖をつなぐとともに補強の役割も果たしている。

覆土：住居跡内の覆土は3層に分かれ、レンズ状の堆積を示している。なお、P2の周辺では、床面近くに焼土や炭化物が多く認められている。

【遺物】（第72・73図）

本住居跡からは、多数の土師器が出土した。しかも、床面直上かそれに準ずる位置での検出がほとんどであり、完形品も多い。特に集中して検出された位置は、カマド内とその周辺および貯蔵穴内である。これらの大部分は、当時使用されていた状況をそのまま示しているものと思われる。

カマドでは、13の甕が17の甕を差し込んだまま掛け穴に掛かり、さらに9の高坏が支脚としてこれらを支えている状況が検出されている。また、右袖前部には11の甕が10の鉢を差し込んだ状態で横たわっている。当時は、天井部に立てられていたものと思われる。

カマド右袖のすぐわきには、4個の土器が検出されている。この中で12の甕は15の口縁部を、6の小形甕は21の甕をそれぞれ台に利用している。15は胴部以下を、21は口縁部をそれぞれ欠損した廃物であり、これらをうまく再利用している状況は、非常に興味深い。

貯蔵穴内からは、20の甕と2の坏が底面に付いた状態で検出されている。

土器以外の出土遺物としては、川原石が目立つ。10cm前後のものから20cmぐらいのものとは大

小様々な川原石が、十数個検出されている。特に集中して検出された地点は南壁の近辺であり、床面に密着しているものが多い。

図示し得た土器は21個体であるが、なかでも甕の量が9個と非常に多く、本住居跡の一つの特徴となっている。

5号住居跡

【遺構】(第14図)

位置：A区。1号住居跡の南東に位置する。

平面形：一辺2.7mの正方形。

壁：確認面からの深さは約14cm。

柱穴：未検出。

貯蔵穴：未検出。

カマド：北西隅付近の壁から床面の掘り込みにかけて堆積した焼土が確認された。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第74図)

出土した遺物は全て土師器で、そのうち図示し得たものは坏3、甕1の計4点である。

6号住居跡

【遺構】(第15・16図)

位置：A区の北西、4号住居跡から北西へ約35m離れた地点に位置する。

平面形：一辺6.5mの正方形。

壁：確認面からの深さは約70cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

柱穴：4本の主柱穴は対角線上に位置し、柱間は約3.7mである。各柱穴の深さは、P1-60cm、P2-75cm、P3-56cm、P4-57cmである。

貯蔵穴：南東隅に位置し、100×80cmの東西に長い長方形で、深さは45cm。床面付近に焼けた石があり、壁面には焼土がこびりついた部分があった。

カマド：北壁のほぼ中央に付設される。大きさは幅約120cm、奥行90cmで、煙道部は壁を約50cm切り込んでおり立ち上がりの中途に一段を有する。球胴の内側を袖にあてたり、2個体分くらいの甕を天井に渡すなど天井や袖を押さえるのに甕の破片を使用している。袖部には粘性の強い、ロームと黒色土を混合した土が用いられている。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第75図)

出土した遺物は全て土師器で、うち図示し得たものは坏3、甕7、甌1の計11点である。出土位置はカマド付近と南壁沿いに多く、南壁沿いでは床面より10～30cmの高さに集中している。

7号住居跡

【遺構】(第17図)

位置：A区。台地上平坦部の縁部付近で、8号住居跡に隣接する。

平面形：北東壁が3.7mで他の三辺が4mのほぼ正方形。

壁：確認面からの深さは約15cm。

床面：中央部に焼土有り。

柱穴：未検出。

貯蔵穴：東隅に位置し、80×60cmの長方形で深さは34cm。南隅の土坑は東西100×南北80cmの楕円形で、南西壁と切りあう。

カマド：未検出。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第76図)

出土した遺物は土師器と石製品で、全て覆土中から検出された。図示し得たものは壺2、甕4、甗3、支脚1の計10点である。

8号住居跡

【遺構】(第18図)

位置：A区。台地上平坦部の縁辺部付近で、7号住居跡に隣接する。

平面形：不明。

床面：床面と思われる高さから土師器と川原石が出土した。

柱穴：不明。

【遺物】(第77図)

出土した遺物は全て土師器で、床面直上かその近辺から検出された。図示したものは坏2、甗1、甕3の計6点である。

9号住居跡

【遺構】(第19図)

位置：A区。台地上平坦部の縁辺部に位置する。

平面形：一辺は3.7～4.3mで、南東辺がやや長い方形である。

壁：確認面からの深さは30cmで、やや緩やかに立ち上がる。

床面：住居中央部と、そこから約60cm北西に径30～40cm、厚さ1～2cmの焼土の堆積がみられる。

柱穴：4本の支柱穴は住居平面のほぼ対角線上に位置し、柱間は約1.6mである。各柱穴の深さは、P2-55cm、P3-45cmである。

貯蔵穴：住居跡内に2基の土坑を有する。1基は東隅に位置し、110×65cmの長方形で床面からの深さは約30cm。もう1基は70×60cmの長方形で、南東壁の中央部から張り出している。床面からの深さは約30cm。

カマド：北東壁の東寄りに付設される。大きさは幅100cm、奥行90cmで、煙道部は壁を約30cm切り込んでいる。両袖部の先端からは川原石が検出された。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第78図)

出土した遺物は全て土師器で、そのうち図示し得たものは坏3、甕5、甗1の計9点である。6の甗はカマド脇の床面近くから出土した。

10号住居跡

【遺構】(第20・21図)

位置：A区の北西。1～9号住居跡の中心部から150m程北西へ離れた地点に位置する。部分的な調査地区であったため、他の住居跡とのつながりを確認することができず、あたかも単独であるか

のような状態となっている。

平面形：5.9×6.0mのほぼ正方形であるが、北辺がやや長く若干の歪みが見られる。

壁：ローム層を切り込んで掘られており、確認面からの計測で40cm前後である。南壁及び西壁の崩落が著しく緩やかな傾斜となっているが、カマドの位置する東壁は残りが良く急な立ち上がりとなっている。

床面：4本の支柱穴に囲まれた部分がやや低く壁に行くに従って徐々に高まっている。特にカマド前面から中央部にかけてはよく踏み固められており、堅い床面となっている。

柱穴：4本の支柱穴（P1～P4）がほぼ住居平面の対角線上に検出されている。柱間は約3.0mである。また、南壁沿いにはやや浅めの穴が2個検出されている。各柱穴の深さは、P1-49cm、P2-50cm、P3-52cm、P4-56cm、P5-19cm、P6-9cmである。

周溝：南・西・北壁にかけて廻っているのが検出されたが、カマドの付く東壁には認められない。幅は10～15cm、深さ6～7cm程度であるが、一定はしていない。

貯蔵穴：カマドに向かってすぐ右手、東南隅に位置する。1.15×0.8mの東西に長い長方形で、床面からの深さは45cmである。埋土は住居跡のそれに近く、自然埋没である。

カマド：東壁の中央よりやや南に位置する。幅1.2m、奥行約1mの大きさで、天井部が崩落したものである。袖部の先端には2個の川原石が立てられ、焚口部を補強したものとみられる。さらに2個の川原石の間に横たわって検出された土師器甕は、これらの川原石の上に渡され、焚口の天井部を補強していたものとみられる。両川原石の大きさと甕の大きさから、焚口部は幅、高さともに約30cmの間口をもっていたものとみられる。煙道部は壁を20cm程切り込んで段状にしたものである。また、煙道部の壁下には、60×45cmの不整形で深さ15cm前後の掘り込みが認められる。袖部、天井部とも褐色の粘土が使用されており、川原石などが補強材として使用されたようである。なお、支脚は長さ約20cmの細長い川原石が使用されており、その表面は赤褐色に変色している。

【遺物】（第79図）

本住居跡から検出された遺物は総て土師器である。土師器のほとんどはカマドと貯蔵穴及びその周辺に集中して検出されたものである。

カマドからは甕が2個体検出されているが、このうち6は前記したように焚口部の構築材として使用されたものと考えられる。また、7は天井部と思われる褐色粘土層に密着して出土したものである。

貯蔵穴からは、坏1点（4）、小形甕1点（5）と甕1点（9）が検出されている。4と5は埋土最下層（第20図8層）中より、9は上層（第20図5層）よりの出土であるが、いずれも貯蔵穴際に置かれていたものが転落した可能性が高い。

3の坏と6の小形甕は、カマドの中間付近で床面直上から検出されたものである。また、1の坏は住居跡確認時に検出されたものである。住居跡覆土上層（第20図2層）出土のものであり、他の土器とは層位的な時期差があるものである。

なお、貯蔵穴から出土する例は4号住居跡、14号住居跡等にもみられ、むしろカマドあるいはその周辺からの検出例よりも目立っているのが特徴である。

(2) B区

11号住居跡

【遺構】(第22・23図)

位置：B区。台地上平坦部のほぼ中央に位置し、周辺には12号、13号、16号住居跡等が隣接している。標高は119m前後であり、南西部緩斜面へは約80mの地点にあたる。

平面形：5.15×4.9mのやや東西に長い長方形であるが、西辺に比較して東辺が25cmほど長くなっている。

壁：ローム層を切り込んで掘られたものであるが、全体に浅く、残存状態の良い北・東壁部でも15cm前後、残存状態の悪い南壁部では僅か数cmの深さである。遺構確認時にやや深めに掘り下げたこともあるが、他の竪穴住居と比較して掘り込みが浅いことは確かである。

床面：ほぼ平坦であり、全体に堅く踏み固められたものである。東壁際や、北西隅近くには炭化材が検出され、また、床面上全体にも焼土や炭化粒の分布が多くみられたことより焼失家屋であったことも考えられる。

柱穴：住居平面のほぼ対角線上に4本の主柱穴が検出されている。柱間は東西2.45m、南北2.35mを測り、住居平面同様やや東西に長いものである。床面ではこれら4本の主柱穴以外に柱穴らしきものは検出されていない。なお、各柱穴の深さは次のとおりである。P1-72cm。P2-68cm。P3-64cm。P4-63cm。

貯蔵穴：南東隅より検出されている。壁部の崩落が著しく確認面での形はやや不整形なものであるが、底面ではきちんとした長方形となっている。大きさは105×85cmで東西に長く、深さは底面から52cmである。埋土は自然埋没のものであり、全体に焼土・炭化物の混入が多い。

カマド：北壁の中央よりやや東に付設されている。幅約1m、奥行0.9mであり天井部は崩壊している。両袖部の先端にはそれぞれ20cm前後の細長い川原石が検出されている。いずれも両方へやや傾いた状態であるが、垂直に立てられ焚口部の両脇を支えていたものとみられる。両川原石間の距離は35cmである。煙道部は壁を20cm切り込んでおり、斜めに立ち上がる途中で軽い一段を有している。燃焼部の掘り込みは70×40cmの長方形で深さは10cm前後である。

【遺物】(第80図)

本住居跡より出土した遺物は土師器と砥石である。遺物量は少なく、実測し得たもので土師器7点、砥石1点である。1・3・4の坏、5の塊は床面直上からの出土であるが、7の壺は覆土中(第22図2層)からの出土である。6の高坏は、坏部がカマド中より、脚部が貯蔵穴の埋土中層(第22図5層)より出土し、接合したものである。本例はカマド中で坏部が下向きで出土したものであり、4号住居跡、13号住居跡の例などから支脚として使用されていたものと思われる。

8の砥石はP3中より出土したものである。底面からは50cm程浮いており、柱穴がある程度埋没してから転落したものと考えられる。

12号住居跡

【遺構】(第24図)

位置：B区。台地上平坦部のほぼ中央に位置する。

平面形：3.3×3.5mのやや南北が長い方形。

壁：確認面からの深さは約10cm。

柱穴：未検出。

貯蔵穴：未検出。

カマド：カマドは付設されておらず、覆土に焼土や炭化物を含む深さ10cm程の掘り込みが、東壁沿いのやや南寄りに検出された。

覆土：自然堆積。

【遺物】

図示し得る遺物は検出されなかった。

13号住居跡

【遺構】（第25～27図）

位置：B区。台地平坦面のほぼ中央に位置し、南西部緩斜面までの距離は約80mである。周辺には11号、12号、15号、17号の各住居跡が隣接するが、それらの中心的存在となっている。

平面形：7.97×8.04mのほぼ正方形で、全体的な形状が非常に整っている。

壁：ローム層を切り込んでおり、確認面からの深さは40～50cmを測る。壁の遺存状態もかなり良好であり、80°近い傾斜をもって鋭く立ち上がっている。また、各コーナーも直角に整形されている。

このように本住居跡は非常に良く整備された形状をもったものであり、後述する柱穴、周溝などの状況からみても、ある程度の設計の基に構築されたものであると考えられる。

床面：中央部が心もち低くなっているが、全体的にはほぼ平坦な面となっている。中央部からカマド前面にかけては比較的堅固な床面となっているが、その他、特に壁際はあまり踏み固められた様子が見られず柔らかである。中央部にロームブロックによる貼り床の層（第26図6層）がみられる。竈穴の掘り方は平坦ではなく、鍋底状の浅い凹みとなっていたようである。

柱穴：住居床面のほぼ対角線上に4本の主柱穴が検出されている。柱間は東西、南北とも約4.4mの方形である。各柱穴とも掘り形の底部にさらに径10～15cm、深さ4～5cmの小ピットがみられ、この中から白色粘土が検出されている。各主柱穴の掘り方の大きさは次のとおりである。P1 - 径42cm、深さ55cm。P2 - 径48cm、深さ50cm。P3 - 径48cm、深さ52cm。P4 - 径58cm、深さ54cm。なお、カマドのほぼ正面で南壁から約1mの位置には、径35cm、深さ20cmのピット（P5）がみられる。

周溝：幅15～20cm、深さ5～10cmのものが、四壁を全周する形で検出されている。両壁ではこの周溝から続いた形で、内側へ直角に延びる溝が2本検出されている。いずれも幅25～30cm、深さ11～12cmという周溝よりやや大きめの溝であり、長さは1.5mである。これはちょうどP1とP3の主柱穴を結ぶ線上まで延びた状態となっている。

貯蔵穴：北壁のカマドすぐ東側に位置する。110×80cmの東西に長い長方形であり、深さは68cmである。

カマド：幅90cm、奥行80cmで、天井部の崩落したものである。焚口部には特別な構築材等が検出されず、粘土で整形していたものと思われる。煙道部は壁を約20cm切り込んでおり、立ち上がりの中途には一段を有している。燃焼部には特別な掘り込みはみられず、全体が僅かに5～6cm低くなっているだけである。しかもこの部分は、ロームブロックと黒色土を混ぜた土で7～8cm程埋められている。袖部と天井部は褐色粘土を使用して構築されたものとみられる。なお、支脚としては高坏を倒立させたものが使用されており、これは4号住居跡でみられる例と同じである。

【遺物】(第81図)

本住居跡より検出されたものは全て土師器であり、実測し得たものは坏12点、高坏4点、甕3点である。甕は小型の17を除きいずれも破片であり、坏、高坏の小型品が大部分であるということが本住居跡出土土器の一つの特徴である。

土器の出土はカマド東側の貯蔵穴周辺と西壁沿いに集中してみられる。カマド内からは13の高坏と7の坏が出土している。13は前記したとおり支脚として使用されたものであり、7は狭口部に置かれていたものと思われる。

カマド及び貯蔵穴周辺の土器のうち床面直上より検出されたものは、1・3～6・9・11の坏と17の小型甕である。他は覆土中の出土であり、10は覆土下層(第26図4層)、18は覆土中層(第26図2層)よりの検出である。また、8の坏は貯蔵穴埋土中層からの出土である。

東壁沿いの土器は12の坏が床面直上の出土である以外いずれも覆土中の出土である。2の坏と16の高坏は覆土下層(第26図4層)、14の高坏は覆土中層(第26図2層)よりの出土である。また、15の高坏は床面直上の出土である。

本住居跡の出土土器の場合、覆土中のものに遺存状態が比較的良好であるものが多い。これらの出土状態をみると覆土でも下層に集中している。また、壁際の場合が多いということも特徴であり、あるいは壁の肩部などに置かれていたものが住居の埋没とともに転落したものと考えられる。従って、本住居跡に限って言えば、これら覆土の土器も床面直上のものとそれほど時間的隔たりのもたないものと考えられる。

14号住居跡

【遺構】(第28・29図)

位置：B区。11～13号、15号住居跡の一群から南西に約30m離れた地点に位置する。北東隅が一部後世の溝によって切られている以外は良好な状態で検出されている。本住居跡は、床面上における柱穴の切り合い及び旧周溝、旧カマド跡、旧貯蔵穴等の残存の確認により建て替えのあったことが判明したものである。新旧にわけて説明すると次のとおりである。

(旧住居)

平面形：新住居の南・西・北壁の内側に残る方形に走る溝が旧住居の周溝と考えられる。東辺にはこの残存周溝が検出されていないが、ほぼ方形の住居であったと想定すれば、一边5.7mの規模であったとみられる。残存周溝は幅15cm前後、深さ4～5cmであり、建て替え時に埋め立てられている。

カマド：北壁中央部に付設されていたようであり、90×65cmの長方形で深さ15cm程の掘り込みが検出されている。掘り込みの床面には焼土が残っていたが、建て替えに際しては袖・天井部ともきれいに取り除かれたようである。

貯蔵穴：カマドのすぐ東に位置したものであり、130×85cmの東西に長い長方形で深さ49cmの大きさである。この貯蔵穴も建て替え時にはロームブロックを含んだ土で埋め戻されている。

柱穴：主柱穴はP1～P4の4本であり、やはり埋め戻されるとともにP1～P3では新住居の柱穴により切られている。それぞれの柱穴の深さは次のとおりである。P1-45cm。P2-43cm。P3-58cm。P4-62cm。なお、P9は深さ27cmのピットであり建て替え前のものである。

(新住居)

平面形：6.5×6.55mのほぼ正方形であり、建て替え前より一回り大きくなっている。

壁：ローム層を切り込んで掘られており、確認面からの深さは約50cmである。南・西・北壁は崩落が著しいが、カマドが位置する東壁は遺存状態がよく、鋭い立ち上がりを残している。

カマド：東壁の中央よりやや南に付設されている。幅120cm、奥行90cmの大きさと天井部が崩落したものである。両袖部の先端に立てた川原石とこれらの上に渡した細長い川原石により焚口部を補強したものとみられる。焚口は幅30cm、高さ約20cm程の間口をもっていたものと考えられる。煙道部は壁を30cm程切り込んでおり、立ち上がりの中途に段を有している。燃焼部には60×80cmの長円形で深さ10cm程の掘り込みがみられる。

床面：建て替えにより拡張された部分が心もち高くやや段を成している以外はほぼ平坦である。周溝は南壁下に一部認められるだけであるが、13号住居跡でも検出された内側へ延びる溝がここでは4本検出されている。溝は幅25cm前後、深さ7～8cmのもので、長さはいずれも1m前後である。これらの溝の配置は、北西隅と南西隅を囲む2本が一組となっているようであり、いずれも一本は柱穴へとつながっている。

柱穴：旧住居のやや外側に4本の主柱穴が検出されている。それぞれの柱穴の深さは次のとおりである。P5-73cm、P6-59cm、P7-59cm、P8-63cm。

貯蔵穴：カマドのすぐ南側、南東隅に位置している。130×80cmの南北に長い長方形で、深さは45cmと旧貯蔵穴よりやや小さくなっている。

【遺物】(第82図)

本住居跡から検出された遺物は、ほとんどが土師器である。カマド内からは15・16の甕、8の高環、2の坏が出土している。16は支脚に載った状態で検出であり掛け穴に掛かっていたものとみられる。また15は16に密着して横倒しになっていたものであり、天井部に置かれていた可能性が考えられる。なお、支脚(18)は細長い川原石の上に甕の底部を粘土で固定し、受け部としていたものである。

貯蔵穴内からは5の坏と17の甕が出土している。いずれも埋土下層中からの出土であるが、出土状態から見て貯蔵穴際の床面に置かれていたものが転落したものと考えられる。

その他、床面上からは11の埴と12・14の甕が出土している。11は完形のまま、12は小破片となつての出土である。また、1・4の坏、7の高環などは覆土中からの出土であるが、いずれも最下層(第28図3層)からの出土であり、前記した土器群との時間差はあまりないものと考えられる。特に1と4はカマド右袖際からの出土であり、カマド袖部に置かれていたものが転落した可能性も考えられる。

15号住居跡

【遺構】(第30～32図)

位置：B区。台地平坦面に位置する。

平面形：一辺が約5.3mの正方形。北から南東にかけて走る溝に切られる。

壁：確認面からの深さは約35cmで、北壁の立ち上がりは垂直に近く南壁はやや緩やか。

周溝：溝に切られた東壁以外の三辺には幅15～25cm、深さ10～15cmの周溝が廻る。

床面：北・西・南の壁際に壁溝を有する。

柱穴：主柱穴のうち3本が検出された。柱間はP1-P2が2.9m、P2-P3が2.7m。他に南壁近くのほぼ中央にP4が検出された。床面からの深さは、P1-52cm、P2-64cm、P3-50cm、P4-30cm。

貯蔵穴：北東隅に東西70cm、南北60cmの長方形の平面形を有する穴を1基確認。

カマド：北壁の中央よりわずかに東寄りに付設される。大きさは幅105cm、奥行95cm。煙道部は壁に約10cm切り込んでいる。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第83図)

出土した遺物は全て土師器で、そのうち図示し得たものは坏3、埴2、甕2の7点である。

16号住居跡

【遺構】(第33・34図)

位置：B区。台地平坦面の中央に位置する。

平面形：4.3×3.7mの東西に長い長方形。

壁：確認面からの深さは約25cm。立ち上がりは北・東壁は垂直に近いが南・西壁は緩やか。

柱穴：東西方向の中心線上に、2柱穴が並ぶ。柱間は1.7mで、床面からの深さはP1-70cm、P2-60cm。

貯蔵穴：南東隅に位置し、約70×60cmの東西に長い長方形で、床面からの深さは約35cm。

カマド：北壁の中央よりやや東寄りに付設される。大きさは幅110cm、奥行70cm。煙道部は壁を約15cm切り込んでいる。焚口部の床面から川原石が出土した。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第84図)

出土した遺物は全て土師器で、そのうち図示し得たものは坏2点である。いずれも覆土中から検出された。

17号住居跡

【遺構】(第35・36図)

位置：B区。台地平坦面のほぼ中央に位置し、13号・18号住居跡と隣接する。

平面形：北壁を溝で切られるが、一辺約4mの正方形と思われる。

壁：確認面からの深さは約15cm。

柱穴：4本の主柱穴が住居平面のほぼ対角線上に位置する。柱間は南北方向のP1-P4、P2-P3が1.9m、東西方向のP1-P2、P3-P4が2.1m。各柱穴の床面からの深さは、P1-62cm、P2-62cm、P3-61cm、P4-65cm。

貯蔵穴：南東隅に位置する。一辺約70cmの正方形で、床面からの深さは30cm。

カマド：東壁の中央からわずかに南寄りに付設される。大きさは幅80cm、奥行65cm。煙道部の壁への切り込みはごくわずかである。左袖内側に接して土製支脚が出土した。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第85図)

出土した遺物のうち図示し得たものは土師器6点(坏2、埴1、甕2、甗1)と土製支脚1点である。貯蔵穴の底面から覆土中層にかけて多くの土器片が検出された。

18号住居跡

【遺構】(第37図)

位置：B区。台地平坦面のほぼ中央に位置し、16号・17号住居跡に隣接する。

平面形：一辺3mの正方形。

壁：確認面からの深さは10～15cm。

柱穴：未検出。

貯蔵穴：南西隅に位置し、80×40cmの東西に長い長方形で、床面からの深さは25cm。

カマド：カマドは付設されておらず、焼土が堆積した深さ5cm程の掘り込みが、北壁沿いに検出された。

覆土：自然堆積。

【遺物】

図示し得る遺物は検出されなかった。

19号住居跡

【遺構】(第38・39図)

位置：B区。台地上平坦部の、北側斜面寄りに位置し、20号住居跡に隣接する。

平面形：一辺7.2mの正方形。

壁：確認面からの深さは30～45cm。立ち上がりは垂直に近い。

周溝：幅15～20cm、深さ5～10cmの周溝が南東・南西のコーナーを除いてほぼ全周し、この周溝から続く形で内側へ直角に延びる溝が東西の壁から3本ずつ、南壁から1本検出された。この溝は幅20～45cm、深さは5～10cmで、東西から延びる6本は長さが約1.5mと揃っており、4本は支柱穴、2本は小ピットと先端が接している。

柱穴：支柱穴は住居床面の対角線上に4本検出された。柱間は約4.2mである。壁から延びる溝のうち、中央の2本の先には小ピットP5～P8が検出された。そのほかカマドの右袖から70cmのところまでP9、南壁近くでP10が検出された。各々の深さは、P1-60cm、P2-60cm、P3-64cm、P4-60cm、P5-22cm、P6-14cm、P7-25cm、P8-25cm、P9-32cm、P10-16cm。

貯蔵穴：南西隅に位置し、100×70cmの東西に長い長方形で、底面に一段を有し、床面からの深さは最深部で65cm。

カマド：北壁の中央よりやや西寄りに付設される。大きさは幅110cm、奥行100cm。煙道部の壁への切り込みはわずかである。焚口部では両袖に渡した状態の川原石が出土し、その下からは高坏が、逆さにした坏部に脚部を乗せた状態で出土した。

覆土：中層(第38図2層)に炭化材や炭化物の粒が多く含まれ、炭化材は床面からも検出されている。

【遺物】(第86～88図)

出土した遺物は全て土器器で、そのうち図示し得たものは坏4、高坏1、埴5、鉢2、甕18、小形甕2、甗4の計36点である。出土位置はカマド周辺やP1とP2の間、P3付近が多い。1、2、4、10は床面から、他は覆土中層(第38図2層)から検出された。

20号住居跡

【遺構】(第40・41図)

位置：B区。台地上平坦部の北東側縁辺部付近に位置する。

平面形：南西コーナーが溝に切られているが、一辺約6.1mの正方形であると思われる。

壁：確認面からの深さは25～47cm。ほぼ垂直に立ち上がる。

周溝：カマド周辺を除き、幅15～25cm、深さ5～10cmの周溝が廻る。

柱穴：住居平面のほぼ対角線上で4本の支柱穴が検出された。柱間は南北方向のP1・P2、P3・P4が2.8m、東西方向のP1・P4、P2・P3が3.2m。他には、南壁沿いに小ビット（P5）が検出された。各柱穴の床面からの深さは、P1・70cm、P3・60cm、P4・65cm、P5・5cm。

貯蔵穴：南東隅に位置し、120×80cmの東西に長い長方形の、南東コーナーが広がった形をしている。床面からの深さは43cm。

カマド：東壁の中央よりやや南寄りに付設される。大きさは幅110cm、奥行85cm。煙道部は壁を約25cm切り込み、立ち上がりの中途には一段を有する。燃焼部の壁際には深さ7cmほどの掘り込みがみられ、焼けた川原石が出土した。焚口部の床面からは土器片が出土した。

覆土：自然堆積。

【遺物】（第89図）

出土した遺物は全て土師器で、そのうち図示し得たものは坏2、甕4の計6点である。出土位置はカマド周辺と貯蔵穴内に集中している。

21号住居跡

【遺構】（第42・43図）

位置：B区。台地上平坦部の北東側縁部付近に位置し、22号・23号住居跡と隣接する。

平面形：一辺5.3mの正方形。

壁：確認面からの深さは35～50cm。やや緩やかに立ち上がる。

周溝：南東コーナーの一部を除き幅約15cm、深さ4～6cmの周溝が廻り、その周溝から続く形で東西から内側へ直角に延びる溝が4本検出された。この溝は幅20～30cm、深さ約5cmで長さは1～1.2m。南側の2本は支柱穴P2・P3と、北側の2本は支柱穴と接するビットであるP5・P6とそれぞれつながっている。南壁中央には周溝と接する半円形の掘り込みがあり、深さは15cmである。

柱穴：4本の支柱穴が住居平面のほぼ対角線上に検出された。柱間は南北方向のP1・P2、P3・P4が約2.5m、東西方向のP1・P4、P2・P3が約2.3m。P1にはP5、P4にはP6が接している。床面からの深さは、P1・33cm、P2・62cm、P3・60cm、P4・60cm、P5・36cm、P6・30cm。

貯蔵穴：南東隅に位置し、80×70cmの東西にやや長い長方形で、床面からの深さは50cmであるが、底面の北西隅で直径30cm、深さ12cmほどのビットが検出された。

カマド：北壁のほぼ中央に位置し、大きさは幅110cm、奥行115cm。右袖よりも左袖のほうが20cmほど長く、幅も広い。煙道部は壁を25cmほど切り込み、立ち上がりの中途には一段を有する。両袖の先端には川原石が置かれ、内部からは長さ25cmの石の支脚が出土した。袖の内側に、甕の破片が貼り付けられた部分がある。

覆土：自然堆積。中層（第42図2層）には焼土や炭化物が多く含まれ、床面からは炭化材も検出されている。

【遺物】（第90図）

出土した遺物は全て土師器で、そのうち図示し得たものは坏4、埴1、鉢1、甕6、甗2の計14点である。出土位置はカマド周辺に集中している。10と、13の一部は床面直上で検出された。カマド右脇には20×40cm、高さ20cmの石が床面に置かれ、その上に8の甕と14の甗が重なった状態で乗っていた。

22号住居跡

【遺構】(第44・45図)

位置：B区。台地上平坦部の北東側縁辺部付近に位置し、21号・23号住居跡と隣接する。

平面形：南東コーナーを溝で切られるが、一辺約5.4mの正方形と思われる。

壁：確認面からの深さは10～25cm。立ち上がりは垂直に近い。

柱穴：4本の主柱穴が住居平面のほぼ対角線上に検出されている。柱間はP1-P2が2.8m、P2-P3が3.0m、P3-P4が2.8m、P4-P1が3.2m。床面からの深さは、P1-44cm、P2-52cm、P3-57cm、P4-53cm。カマド脇で検出されたP5は深さ21cm。

貯蔵穴：本住居跡内では2基の土坑が検出されている。1基は南東隅に位置するため溝に切られているが、底部の東西方向は残存しており約50cmである。もう1基は西壁に斜めに接し、150×100cmの長方形で、床面からの深さは20cmである。

カマド：北壁の中央からやや西寄りに位置し、大きさは幅120cm、奥行90cm。煙道部の壁への切り込みは10cmほどである。左袖の先端から川原石が検出された。

覆土：自然堆積。中層(第44図2層)には焼土や炭化物が多く含まれ、炭化材も多数検出されている。

【遺物】(第91図)

出土した遺物は全て土師器で、うち図示し得たものは坏1、壺1、甕2の計4点である。2と4は23号住居跡出土の土器片と接合した。

23号住居跡

【遺構】(第46・47図)

位置：B区。台地上平坦部の北東側縁辺部付近に位置し、21号・22号住居跡と隣接する。

平面形：約6.7×5.0mの東西に長い長方形であるが、東辺より西辺、北辺より南辺がやや長い。

壁：確認面からの深さは30～40cmで、立ち上がりは垂直に近い。

周溝：西壁沿いと北西・南西のコーナー付近、北壁の一部からは幅15cm、深さ5cmほどの周溝が検出された。北壁沿いの周溝から内側へ垂直に延びる溝は、P4と接している。

柱穴：4本の主柱穴が住居平面のほぼ対角線上に検出されている。柱間はP1-P2が3.5m、P2-P3が1.95m、P3-P4が3.3m、P4-P1が2.1m。床面からの深さは、P1-70cm、P2-65cm、P3-65cm、P4-47cm。

貯蔵穴：南東隅から1mほど西寄りに位置する。85×70cmの東西に長い長方形で、床面からの深さは50cm。底面上からは炭化材が検出された。

カマド：東壁の中央よりやや南寄りに付設される。大きさは幅120cm、奥行95cm。煙道部は壁を約20cm切り込み、立ち上がりの中途にゆるい一段を有する。

覆土：中・下層(第46図2・3層)に焼土や炭化物を含む。

【遺物】(第92・93図)

出土した遺物は土師器、須恵器、土製支脚、磨石?の計21点で、そのうち図示し得たものは土師器が甕4、坏8、高坏1、碗2、甕2。他に須恵器蓋1、土製支脚1、石2である。北東コーナー付近の覆土中から多く出土した。

32号住居跡

【遺構】 (第48～50図)

位置: B区。台地上平坦部の中央に位置し、33号・38号住居跡と隣接する。

平面形: 3.8×3.5mのやや東西に長い長方形。

壁: 確認面からの深さは20～25cm。北・東壁の立ち上がりは垂直に近いが南・西壁はやや緩やか。

柱穴: 未検出。

貯蔵穴: 南東隅に位置し、一辺70cmの正方形。覆土中と周辺から多量の土器が出土した。覆土には炭化物と焼土を多く含む。

カマド: 東壁の中央からやや南寄りに付設される。大きさは幅90cm、奥行75cm。煙道部は壁を20cmほど切り込み、立ち上がりの中途に一段を有する。両袖の先端には高さ27cmほどの川原石が立てられている。燃焼部は5～6cmの深さに掘り込まれている。

覆土: 自然堆積。中・下層 (第48図2・3層) に焼土や炭化物、炭化材を多く含む。

【遺物】 (第94図)

出土した遺物は全て土師器で、うち図示し得たものは坏8、小形甕2、甗3の計13点である。6、7、10は床面直上で検出された。

33号住居跡

【遺構】 (第51・52図)

位置: B区。台地上平坦部の中央に位置し、32号・38号住居跡と隣接する。

平面形: 一辺4.4mの正方形であるが、南西コーナーがやや張り出している。

壁: 確認面からの深さは約30cmで、立ち上がりはやや緩やか。

柱穴: 4本の主柱穴が住居平面のほぼ対角線上から検出された。柱穴の並びは平行四辺形気味で、柱間は2.0mであるが、P1・P2間のみ2.2mとやや長い。床面からの深さはP1・50cm、P2・42cm、P3・50cm、P4・45cm。他には西壁近くで深さ25cmのP5と、深さ12～13cmのピット3基が検出された。

貯蔵穴: 南東隅に位置し、80×70cmの東西に長い長方形で、東壁に對しやや傾いている。床面からの深さは34cm。底面から4～5cm浮いた状態で土器片が数点出土した。覆土には焼土や炭化物を含む。

カマド: 東壁の中央からやや北寄りに付設される。大きさは幅95cm、奥行85cm。煙道部の壁への切り込みは10cmほどである。右袖の先端には高さ20cm、左袖には23cm、焚口の奥20cmのところには高さ15cmの川原石がそれぞれ立てられ、焚口部の前には長さ約50cmの石が傾れた状態で検出された。

覆土: 自然堆積。下層 (第51図2層) に焼土や炭化物を多く含み、床面からは炭化材も出土している。

【遺物】 (第95図)

出土した遺物は全て土師器で、そのうち図示し得たものは坏5、甕7の計12点である。いずれも覆土からの出土である。

34号住居跡

【遺構】 (第53・54図)

位置: B区。台地上平坦部の、北側斜面寄りに位置する。

平面形：一辺が5.0～5.5mのやや不整な方形。西壁の中央付近には幅1.8mで50cmほどの張り出し部分がある。

壁：確認面からの深さは50～60cmで、立ち上がりはやや緩やか。

周溝：南東隅の貯蔵穴周辺と北壁・西壁沿いの一部を除き、幅15～20cm、深さ5～8cmの周溝が廻る。

柱穴：4本の主柱穴が住居平面のほぼ対角線上から検出された。柱間はP1-P2が2.3m、P2-P3が2.1m、P3-P4が2.4m、P4-P1が2.0m。床面からの深さはP1-55cm、P2-45cm、P3-45cm、P4-50cm。主柱穴の他、西壁の張り出し部分からは深さ20cmのビット（P5）が検出された。

貯蔵穴：確認面での形はやや不整形であるが、底面は75×55cmの長方形である。床面からの深さは40cm。

カマド：東壁の中央よりやや南寄りに位置し、大きさは幅105cm、奥行90cm。煙道部は壁を10cmほど切り込み、立ち上がりの中途に一段を有する。両袖先端に立てた川原石とこれらの上に渡した長さ約50cmの川原石で焚口部が形成される。

覆土：自然堆積。

【遺物】（第96図）

出土した遺物は全て土師器で、そのうち図示し得たものは坏4、埴1、小形甕1、甕2、甔1の計9点である。3はカマドの中に立つ川原石に被さった形で出土した。

35号住居跡

【遺構】（第55図）

位置：B区。台地上平坦部の中央に位置し、48号土坑が隣接する。

平面形：北辺と南辺は約4.7mで、西辺が3.0mであるのに対し東辺が3.7mと長い台形気味の長方形である。

壁：確認面からの深さは約30cmで、やや緩やかに立ち上がる。

柱穴：未検出。

貯蔵穴：未検出。

カマド：カマドは付設されておらず、住居中央よりやや西よりの地点に、焼土の堆積した深さ8cm、65×50cmの楕円形を呈する炉跡とみられる掘り込みが検出された。

覆土：自然堆積。

【遺物】（第97図）

出土した遺物は全て土師器で、そのうち図示し得たものは坏1、甕3の計4点である。いずれも床面から5～10cm浮いた状態で出土した。

38号住居跡

【遺構】（第56・57図）

位置：B区。台地上平坦部の中央に位置し、32号・33号住居跡と隣接する。

平面形：一辺が約4.7mの正方形。南壁が土坑を切っている。

壁：確認面からの深さは45～50cmで、緩やかに立ち上がる。

周溝：カマドと貯蔵穴周辺を除いて幅15～20cm、深さ3～7cmの周溝が廻り、西壁際からは直角に内側へ延びる溝が2本検出された。この2本の溝は先端が主柱穴（P3・P4）と接している。

柱穴：4本の主柱穴が住居平面の対角線上から検出された。柱間は約2.0m。床面からの深さはP1-55cm、P2-45cm、P3-40cm、P4-43cm。

貯蔵穴：南東隅に位置し、95×55cmの東西に長い長方形で床面からの深さは25cm。

カマド：北壁のほぼ中央に付設される。大きさは幅110cm、奥行100cm。煙道部は壁に30cm切り込み、立ち上がりの中途に一段を有する。両袖の先端と、その上に渡した川原石で焚口部が形成される。

覆土：自然堆積。

【遺物】 (第98図)

出土した遺物は全て土師器で、うち図示し得たものは坏5、高坏1、甕2、甗1の計9点である。3は床面からの出土である。7と9はカマドからの出土で、7の下には支脚となる石が置かれていた。

(3) C区

24号住居跡

【遺構】 (第58・59図)

位置：C区。將軍塚古墳から西へ約5mの地点に位置し、25号住居跡と隣接する。

平面形：一辺5.5mの正方形。

壁：確認面からの深さは35～45cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

周溝：西壁・東壁と、南壁の一部に沿って幅10～15cm、深さ3～7cmの周溝が検出された。

柱穴：主柱穴4本と、それらの中間に4本の柱穴が検出された。主柱穴(P1～P4)は住居平面の対角線上に位置し、柱間は約3.0mである。床面からの深さはP1-77cm、P2-45cm、P3-60cm、P4-60cm。中間にあるP5～P6の深さはこれらの主柱穴よりいずれも浅く、P5-35cm、P6-20cm、P7-10cm、P8-33cmである。

貯蔵穴：南東隅に位置し、約120×60cmの東西に長い長方形で床面からの深さは50cm。カマド近くの北東隅にも80×60cmの土坑があるが、こちらは主柱穴のP1と切り合っている。さらに南壁のほぼ中央から張り出す90×80cmの土坑が検出された。床面からの深さは50cmで、底面のほぼ中央に深さ10cmのピットを有する。

カマド：北壁の中央よりやや東寄りに付設される。大きさは幅125cm、奥行65cm。煙道部は壁を65cm切り込み、立ち上がりの中途に一段を有する。

覆土：自然堆積。下層(第58図2層)に焼土粒や炭化物を多く含む。

【遺物】 (第99図)

出土した遺物は土師器と手づくね土器、須恵器で、そのうち図示し得たものは土師器18点(坏10、甕8)と手づくね土器1点、須恵器壺1点の計20点である。13・14・16は床面から出土した。

25号住居跡

【遺構】 (第60・61図)

位置：C区。將軍塚古墳から西へ15mの地点に位置し、24号住居跡と隣接する。

平面形：一辺約6.5mの正方形。

壁：確認面からの深さは35～45cmで、立ち上がりは垂直に近い。

柱穴：4本の主柱穴が住居平面の対角線上から検出された。柱間は約3.8m。床面からの深さはP1-

54cm、P2 - 42cm、P3 - 30cm。

貯蔵穴：南壁中央付近で100×60cm、深さ40cmの張り出しピットが検出された。

カマド：北壁の中央よりやや西寄りに付設される。大きさは幅140cm、奥行90cmで、燃焼部は10cmほど掘り込まれている。煙道部の壁への切り込みは約25cm。両袖の先端と右袖周辺から川原石が検出された。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第100図)

出土した遺物は全て土師器で、そのうち図示し得たものは坏5点である。4は張り出しピット内から出土した。

30号住居跡

【遺構】(第62・63図)

位置：C区。將軍塚古墳の東南約25mに、1軒孤立した感じで検出されたものである。

平面形：4.3×4.2mのやや東西に長い方形である。

壁：検出面からの掘り込みの深さは45cmと比較的深く、壁の立ち上がり方も鋭く70～80°の傾斜をもっている。

床面：ほぼ平坦であり、支柱穴に囲まれた中央部はかなり堅固に踏み固められている。

柱穴：支柱穴はほぼ対角線上に配された4本であり、それぞれの中心間の長さは、P1 - P2が1.85m、P2 - P3が1.78m、P3 - P4が1.88m、P4 - P1が1.89mである。また、各柱穴の深さはそれぞれ床面から、P1が38cm、P2が44cm、P3が54cm、P4が61cmとまちまちであり、穴の深さで柱の高さをそろえた様子が窺える。

貯蔵穴：東南コーナーに掘り込まれたもので、75×70cmのやや胴張りの方形プランをもち、床面からの深さは28cmである。

カマド：東壁のやや南よりに設けられたものである。煙道は壁の中段から約45°の傾斜をもって登っており、検出面で約20cm壁を切り込んでいる。大きさは奥行が90cm、幅が壁部で105cm、焚口部で55cmである。袖及び天井部には褐色粘土が使用されており、焚口部は川原石で補強されている。この川原石は、長さ25～30cmの小さいものが2個と長さ40cm近い大きなものが1個の計3個であり、小さい2個の川原石を袖の先端部に立て、そこに大きい川原石1個を渡したものである。なお、この大きい川原石は、カマドのすぐ左脇から検出されている。燃焼部は深さ5～6cmの浅いすり鉢状に床面を掘りくぼめたものであり、中心部には支脚に使用された長さ15cm程の川原石が検出されている。

覆土：堆積状況はほぼレンズ状を呈する自然堆積であるが、下層(第62図3層)には炭化物・焼土等が多く含まれ、また南西コーナー近くに焼土が多量に検出されていることから、火災を受けた可能性も考えられる。

【遺物】(第101図)

本住居跡から検出された遺物は、土器と滑石製模造品である。

土器(1～6)

検出されたのは全て土師器であり、そのうち図示し得たのは坏2点(1・2)、甗2点(3・4)、甕2点(5・6)の計6点である。それぞれの出土状態は次のとおりである。2・5・6はカマドから検

出されたものであり、2はカマドの燃焼部に転落したもの、5はカマドの天井部に置かれていたもの、そして6はカマドの掛け穴に掛けられていたものとみられる。1と3は床面からの出土で、1はカマド近くの柱（P1）もとに、3はカマドのすぐ左脇に、それぞれ置かれていたものとみられる。また、4は貯蔵穴の覆土中から出土したものであるが、恐らく貯蔵穴のすぐそばに置かれていたものが、住居の埋没に伴って横転したものと考えられる。このように、土器は全てカマド及び貯蔵穴の周辺に集中しており、しかも、当時の使用状態を比較的良く残した状態で検出されたものである。

滑石製模造品（7・8）

2点とも白玉である。住居跡のほぼ中央部から出土したものであり、いずれも床面から約5cm浮いた褐色土層中からの出土である（第62図A-A'参照）。7は径8mm、孔径2.5mmで、厚さは一定でなく2～3mmである。8は径8mm、孔径2.5mm、厚さ4mmで、断面がやや平行四辺形気味となる。

31号住居跡

【遺構】（第64・65図）

位置：C区。將軍塚古墳の北約5mに位置する。

平面形：一辺約4.0mの正方形。

壁：確認面からの深さは約50cmで、緩やかに立ち上がる。

周溝：西壁全体と北・南壁の一部に沿って幅8cm、深さ5cmほどの周溝が検出された。

柱穴：4本の主柱穴が住居平面の対角線上から検出された。柱間は1.8mで、床面からの深さはP1-45cm、P2-40cm、P4-35cm。

貯蔵穴：南東隅に位置し、95×65cmの楕円形に近い形をしている。床面からの深さは40cm。

カマド：北壁のほぼ中央に付設される。大きさは幅130cm、奥行90cm。煙道部は壁を25cm切り込み、立ち上がり中途に二段を有する。両袖の先端からは川原石が検出された。

【遺物】（第102図）

出土した土器は全て土師器で、坏が3点である。1は貯蔵穴内から出土した。

36号住居跡

【遺構】（第66・67図）

位置：C区。將軍塚古墳のほぼ真北に位置し、その南半分は將軍塚古墳北側の周溝に切られていたものである。幸い將軍塚古墳の周溝中に2本の柱穴と貯蔵穴が検出されたため、本住居跡の形態・規模等は概ね復元することができる。

平面形：方形で、その規模は現存する東西長が4.08m、南北長も東南コーナーに設けたとみられる貯蔵穴の位置から推定して、ほぼ同じ長さと考えられる。

壁：検出面からの深さで55～60cmと深く、立ち上がりが80°前後の急傾斜をもっている。

床面：ほぼ平坦で、カマド前面から中央部にかけて固くなっている。

柱穴：主柱穴はほぼ対角線上に配された4本であり、それぞれの深さは、P1が床面から48cm、P2が周溝底面から35cm、P3が同じく46cm、P4が床面から32cmである。また、各柱穴の中心間の長さは、P1-P2が2.05m、P2-P3が1.93m、P3-P4が1.88m、P4-P1が1.96mであり、P1がやや外にはずれて位置している。

貯蔵穴：南北コーナーに位置し、平面形は65×49cmの東西に長い長方形である。深さは周溝底面から40cmであるから、底面からでは約50cmあったものとみられる。なお、壁下にまわる周溝の存在は確認されていない。

カマド：北壁のほぼ中央に設けられたものであり、その大きさは、奥行が80cm、幅が壁際で95cm、焚口部で55cmである。煙道は、壁の中程から約45°の傾斜をもつてのぼっており、検出面では壁を約40cm切り込む形になっている。袖及び天井部には褐色粘土が使用されており、焚口部は川原石によって補強されている。川原石は両袖部の先端に立てた2個が検出されており、長さは25cmと20cmである。恐らく、この両川原石の上に大きな川原石（検出された2個の川原石の間隔から推定して、長さ40cm強のもの）が渡されていたものと考えられるが、住居内からもそのような石は検出されていない。なお、本カマドに関しては、燃焼部の掘り込みがほとんど認められない。

覆土：堆積状況は、少なくとも北半部はレンズ状の自然埋没を示している（第66図A-A'参照）。なお、西壁寄りの床面に炭化材が少量出土していることや、住居覆土の最下層や貯蔵穴の埋土に焼土・炭化物が大量に含まれていることなどから、火災を受けた可能性が考えられる。

【遺物】（第103図）

土器（1～10）

検出されたものは土師器と手づくね土器であり、そのうち図示し得たものは坏1点（1）、埴1点（2）、鉢2点（3・5）、甕2点（4・6）手づくね土器4点（7～10）の計10点である。9は西壁寄りから床面から約30cm上の覆土中から、また、7もこの少し南で床面から約20cm上の覆土中から、それぞれ出土したものである。ただし、出土層位は、住居覆土の最下層である焼土・炭化物を含む黄褐色土層（第66図A-A'6層）中であるから、床面から浮いてはいても、住居廃絶後間もなく入り込んだものである。8は、北東コーナーの床面直上から出土したものである。3は、貯蔵穴の埋土中に混入していたものである。その他は、いずれもカマド周辺の覆土中からの出土である。

以上のように、本住居跡の出土土器は、手づくね土器を除けば非常に貧弱なものである。南半分が將軍塚古墳の周溝で破壊されていることもあろうが、他の住居跡の出土状況から一般にカマド周辺に土器が集中することを考えれば、やはりこの貧弱さは本住居跡の特徴とみられる。なお、後述する滑石製模造品と手づくね土器の組み合わせは、聖山公園遺跡集落内における本住居跡の性格を考える上で重要なものといえる。

滑石製模造品（11～14）

白玉4個が検出されている。11～13は、西壁寄りの手づくね土器2、5が出土した近くであり、いずれも床面上数cmの黄褐色土層中からの出土である。また、14はやや離れ、カマドの右袖と柱穴P1の中程の位置で、ほぼ床面直上からの出土である。各白玉の大きさは次のとおりである。11は、径8mm、孔径2.5mm、厚さ2～3mm。12は径7.5mm、孔径2mm、厚さ3～4mm。13は、径7.5mm、孔径2.5mm、厚さ2～2.5mm。14は、径8mm、孔径2.5mm、厚さ3～4mm。いずれも、やや緑味をおびた淡い灰色を呈している。

37号住居跡

【遺構】（第68図）

位置：C区。36号住居跡の南東約10m、將軍塚古墳の北東裾部に位置し、その北東部を將軍塚古墳の周溝によって切られているものである。

平面形：北壁の中央部と南東コーナーが破壊されているが、残存する3つのコーナーと貯蔵穴により、その平面形と規模を押さえることができる。平面形は、ほぼ南北に軸をとる方形である。規模は東西長が4.6m、南北長が西半部と東半部でやや異なり、西半部で4.55m、東半部で推定約4.9mである。

壁：検出面からの深さが50～55cmと深く、立ち上がり角度も北東コーナー付近を除けば85°前後と垂直に近い。

床面：東半部が將軍塚古墳の周溝で破壊されているが、残存の状況からほぼ平坦で比較的踏み固められたものであったことが窺える。また、北東コーナー付近と西壁中央部以外には、幅15～20cm、深さ7～8cmの周溝がめぐらされている。

柱穴：主柱穴はほぼ対角線上に配された4本であり、それぞれの深さは、P1が周溝床面から45cm、P2も同じく55cm、P3が床面から60cm、P4も同じく55cmである。また、各柱穴の中心間の長さは、P1-P2が1.83m、P2-P3が2.25m、P3-P4が1.80m、P4-P1が2.21mであり、やや東西に長い方形の配置となっている。

貯蔵穴：南東コーナーに位置し、平面形は71×64cmのやや東西に長い方形である。なお、周溝底面からの深さは底面から55cmの深さをもっていたものとみられる。

覆土：レンズ状の堆積を示しており、自然埋没と考えられるが、床面付近には焼土や炭化物・炭化材が多くみられ、火災を受けた可能性も考えられる。

【遺物】(第104図)

検出された遺物は、全て土器である。1・2・4は貯蔵穴の覆土中層から出土したものであり、1と4は重なり合っていたものである。出土状態からみて、貯蔵穴の縁にあったものが住居埋没とともに流れ込んだものと思われる。3は北壁寄りの床面上から、また、5・6は南西コーナー近くの床面上からそれぞれ破片で出土したものである。このように、貯蔵穴を除けば遺物の出土は非常に少ないわけであるが、やはりカマド（恐らく北壁中央部にあったとみられる）付近が周溝で破壊されていることが大きく影響していると思われる。

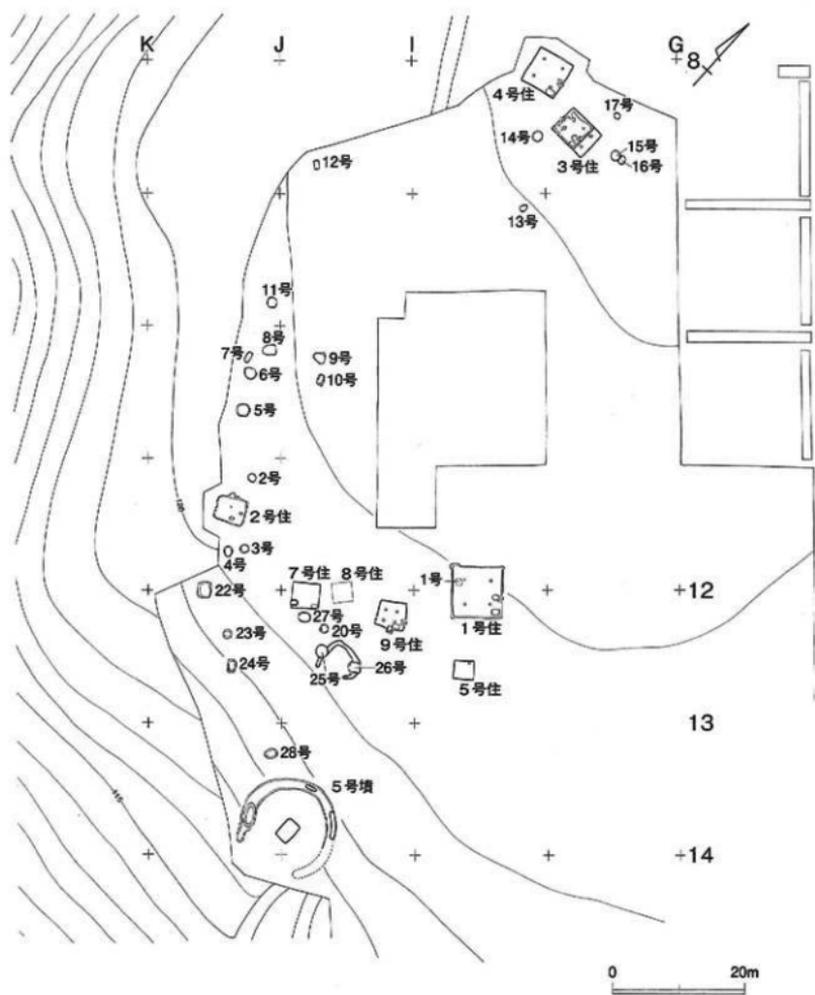
(4) 土坑

A～C区において土坑が49基確認された(第105図～第110図)。詳細については第20表に記載する。

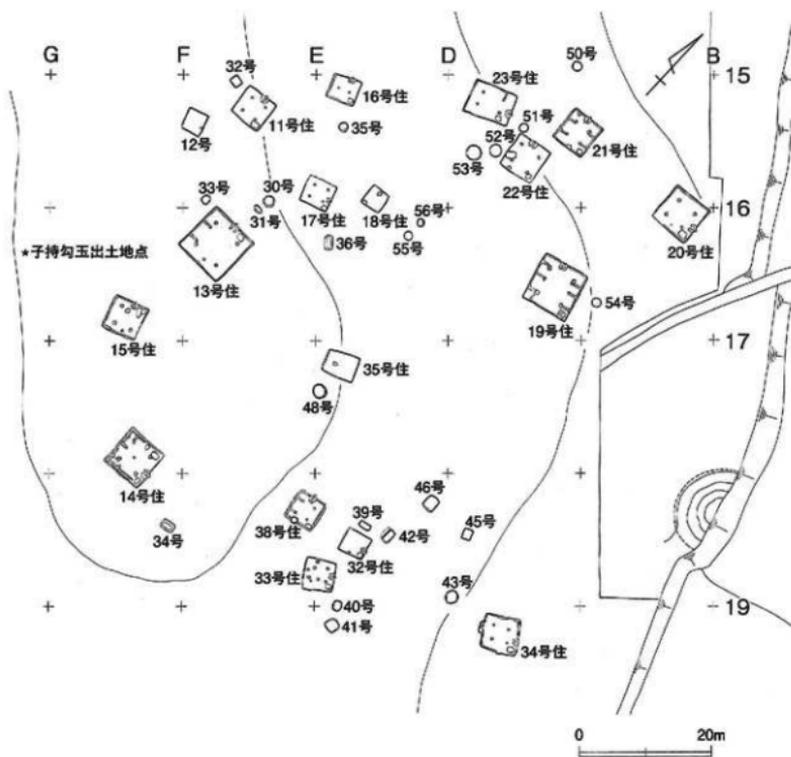
(5) グリッド出土遺物

11～15号住居跡の一群から約20m離れたG-16グリッド内より子持勾玉(第112図)が出土している。出土した層位は表土下約40cmの黒色土層中(ローム漸移層の上層)であり、古墳時代の竪穴住居跡が確認される面に近い。

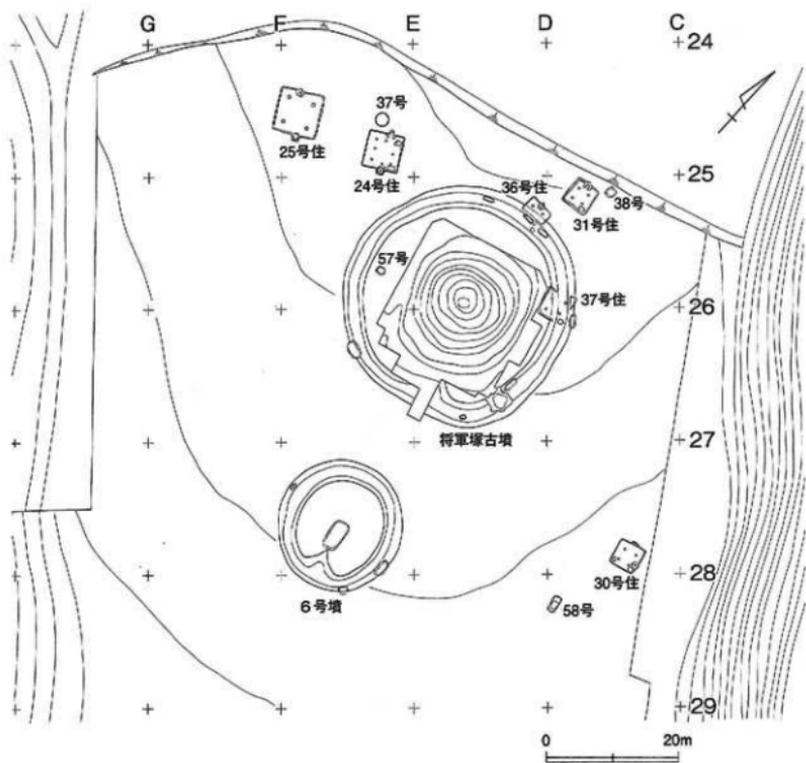
周辺から遺構を検出することはできなかったが、土師器杯や高杯が比較的多く分布しており、これらは層位的に子持勾玉とほぼ同時期のものとみられる。第113図に示したものはこれらの土師器片中より検出された手づくね風の土師器である。1は高杯、2は埴のミニチュア品とも考えられるが、1については2を載せた器台ともみることができる。



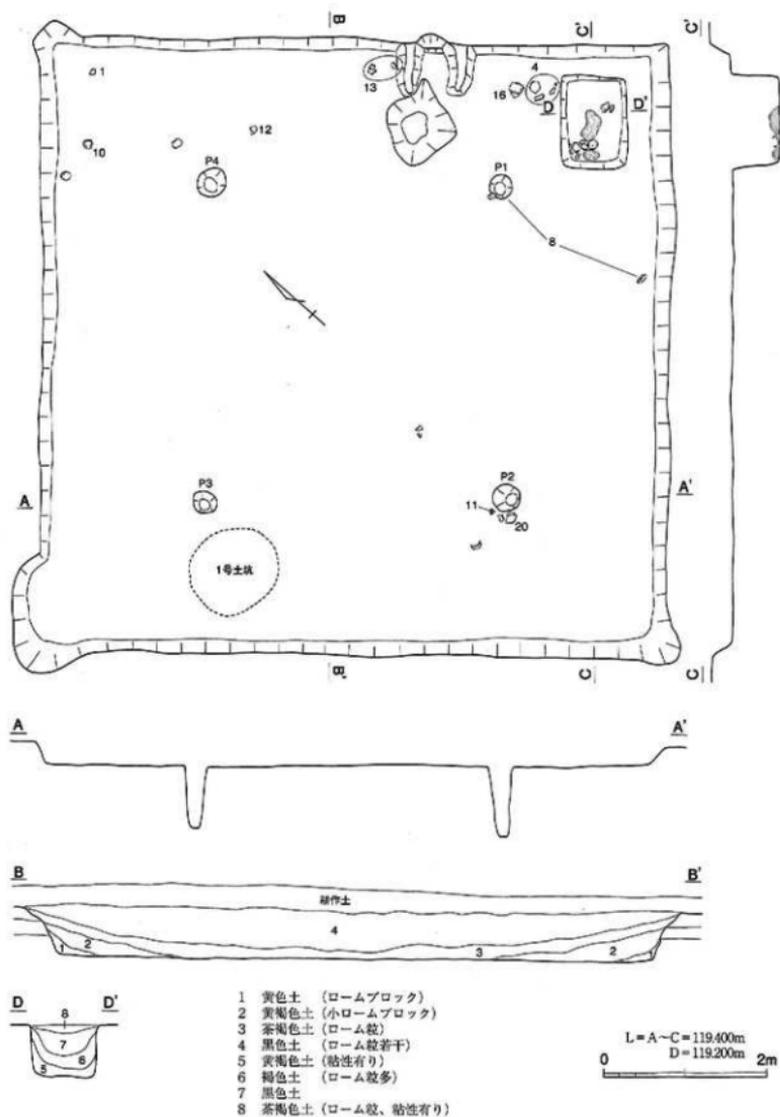
第4図 聖山公園遺跡A区遺構配置図



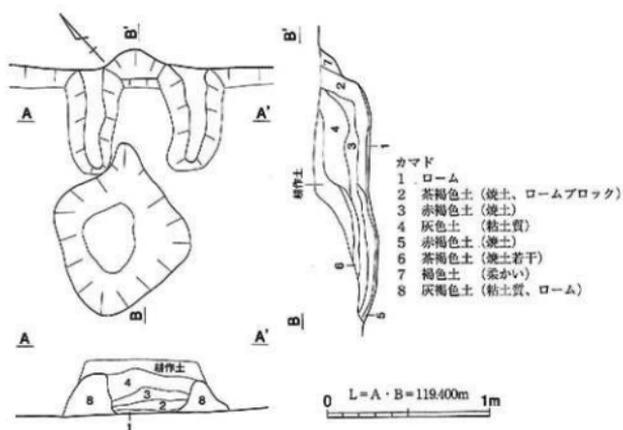
第5图 聖山公園遺跡B区遺構配置図



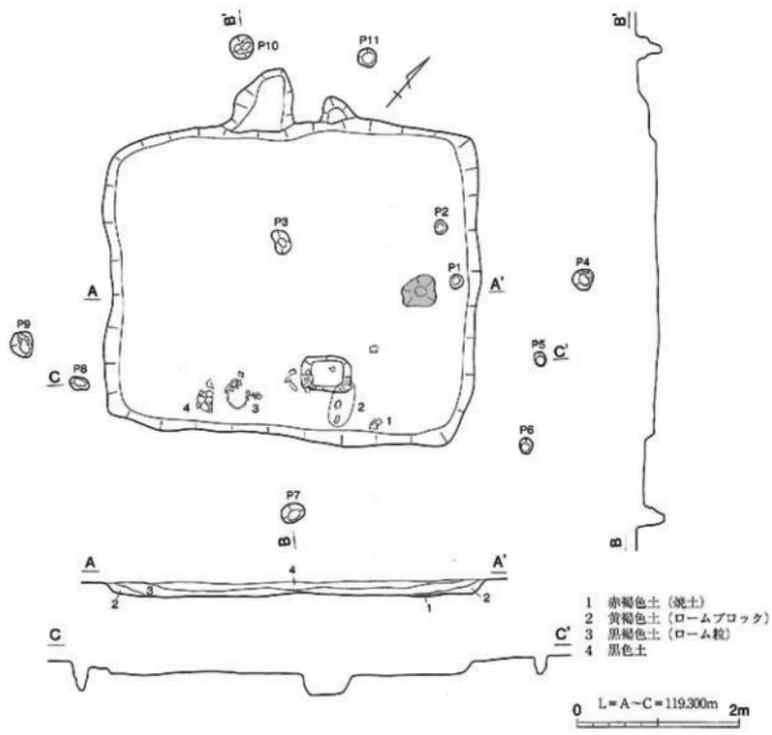
第6图 聖山公園遺跡C区遺構配置図



第7図 A区1号住居跡平・断面図

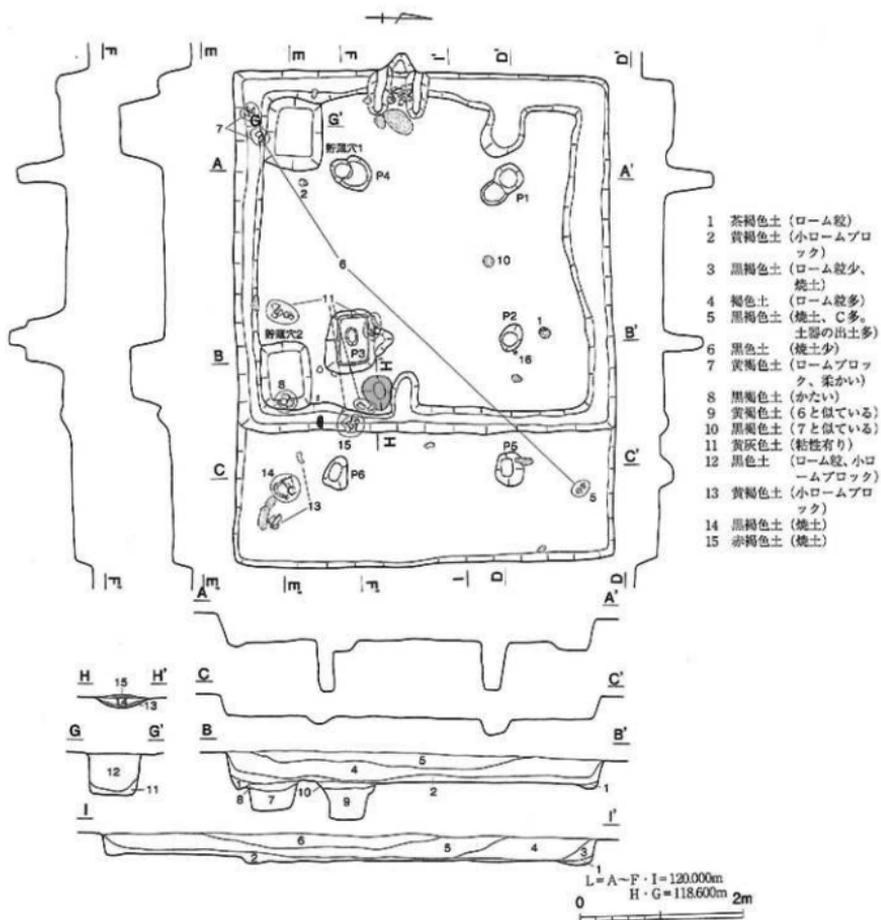


第8図 A区1号住居跡カマド平・断面図

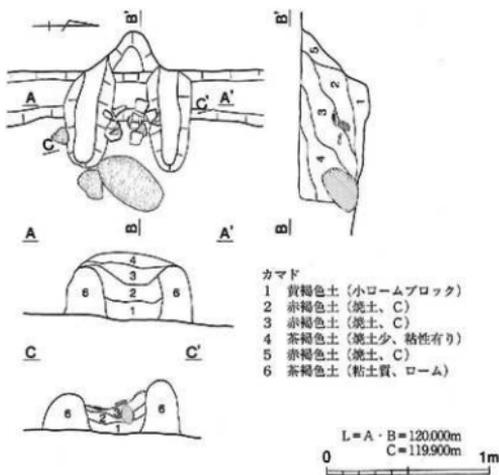


- 1 赤褐色土 (泥土)
- 2 黄褐色土 (ロームブロック)
- 3 黒褐色土 (ローム粒)
- 4 黒色土

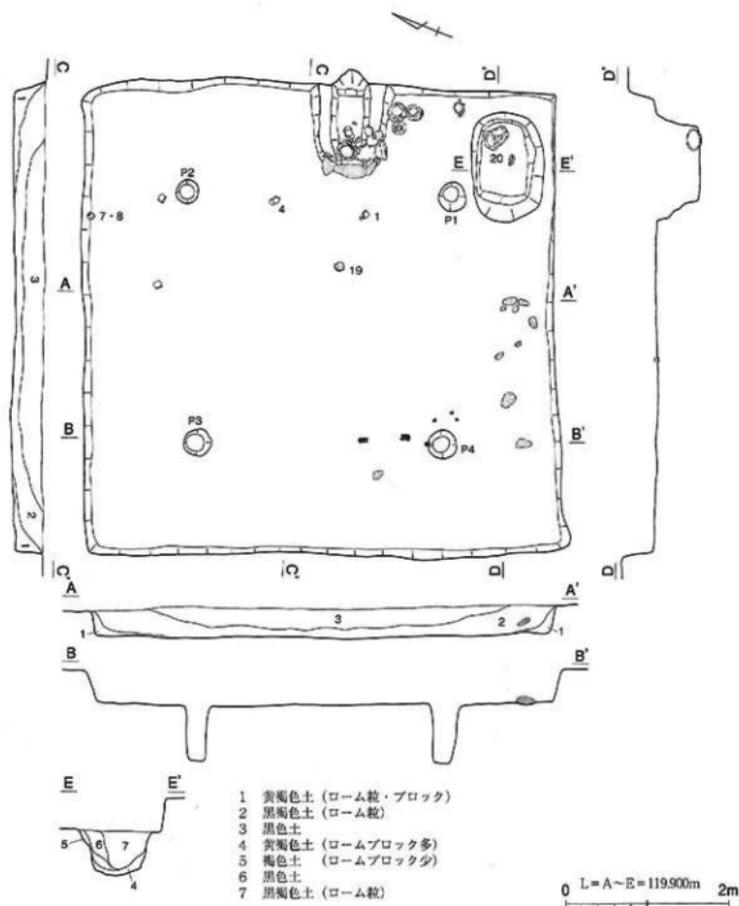
第9図 A区2号住居跡平・断面図



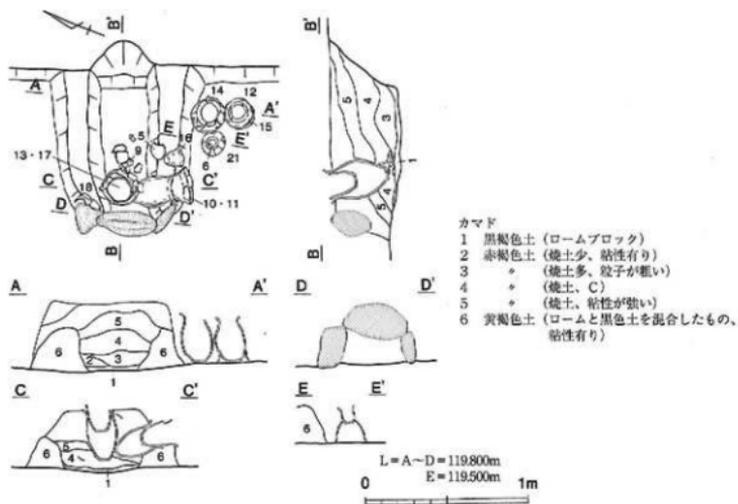
第10図 A区3号住居跡平・断面図



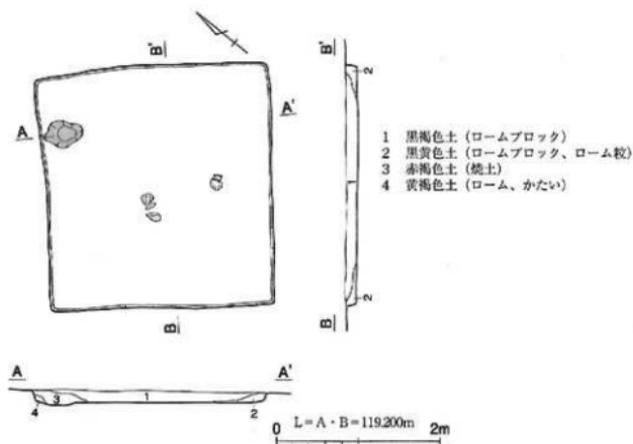
第11図 A区3号住居跡カマド平・断面図



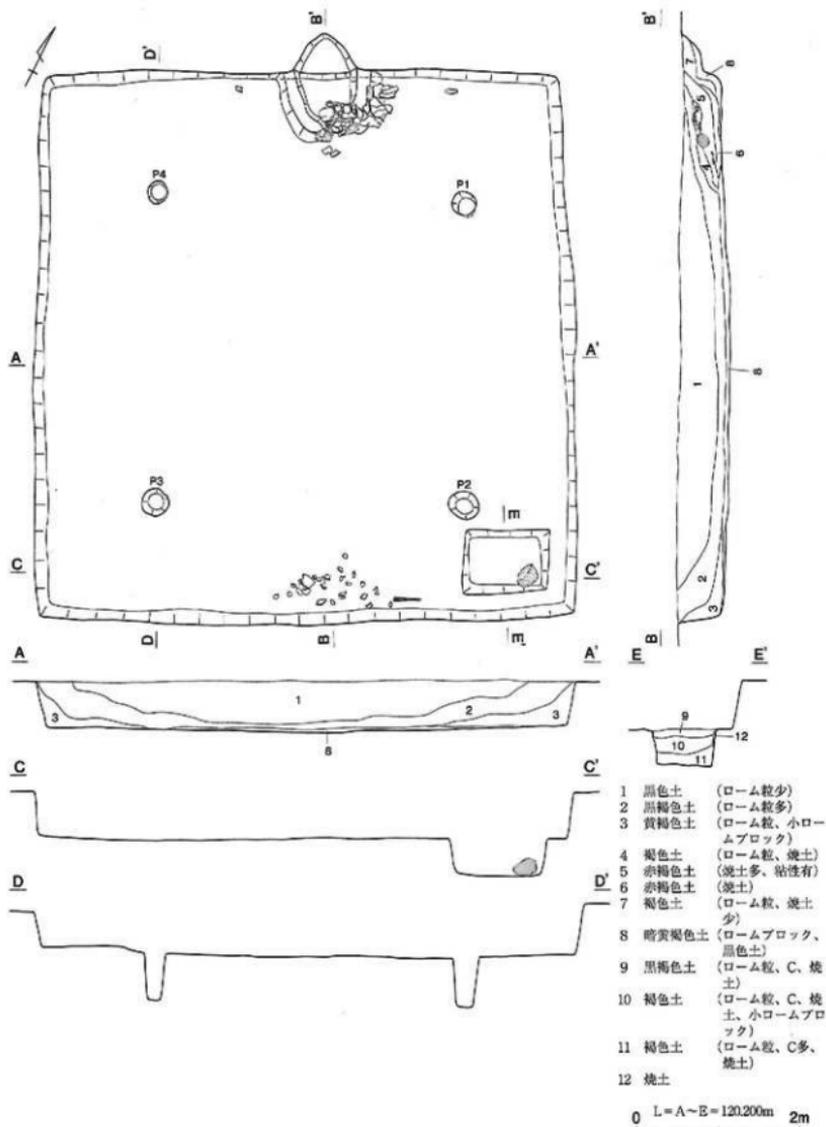
第12図 A区4号住居跡平・断面図



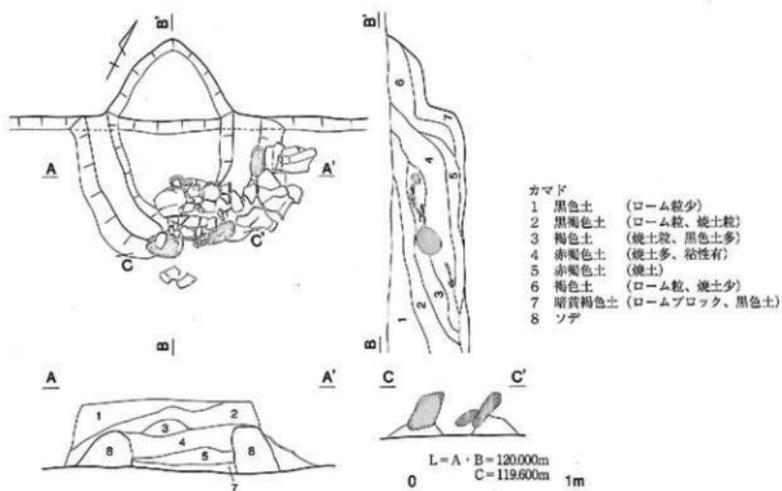
第13図 A区4号住居跡カマド平・断面図



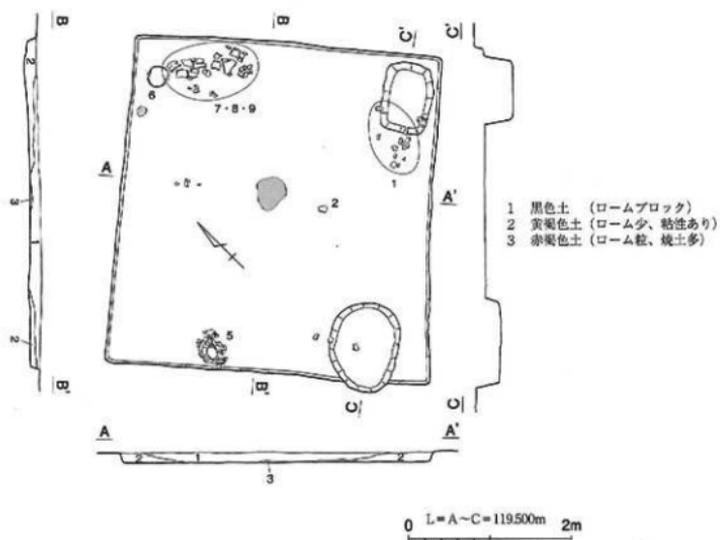
第14図 A区5号住居跡平・断面図



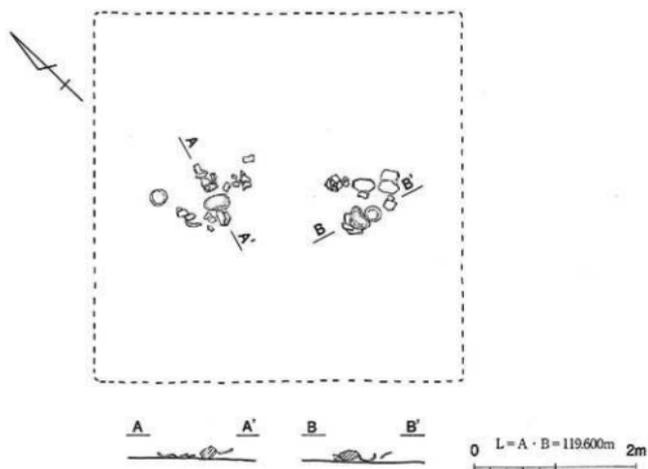
第15図 A区6号住居跡平・断面図



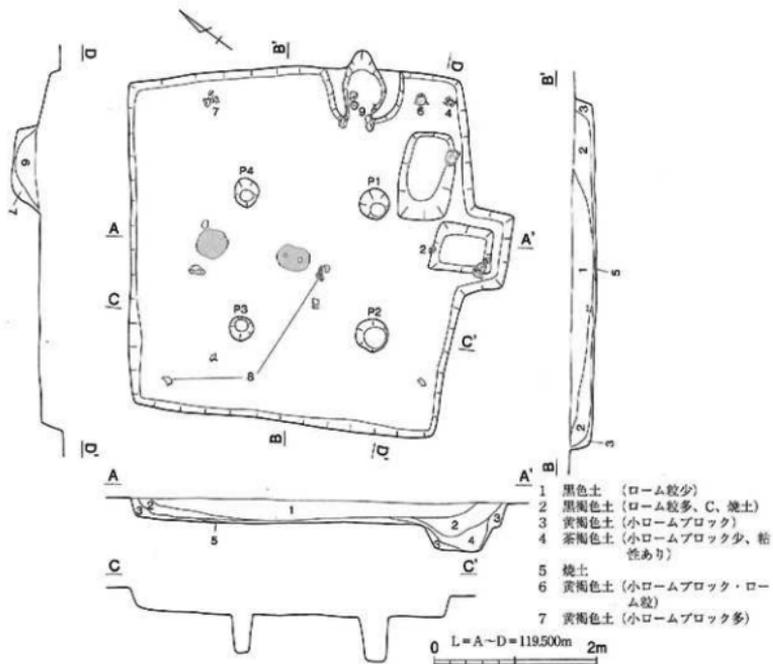
第16図 A区6号住居跡カマド平・断面図



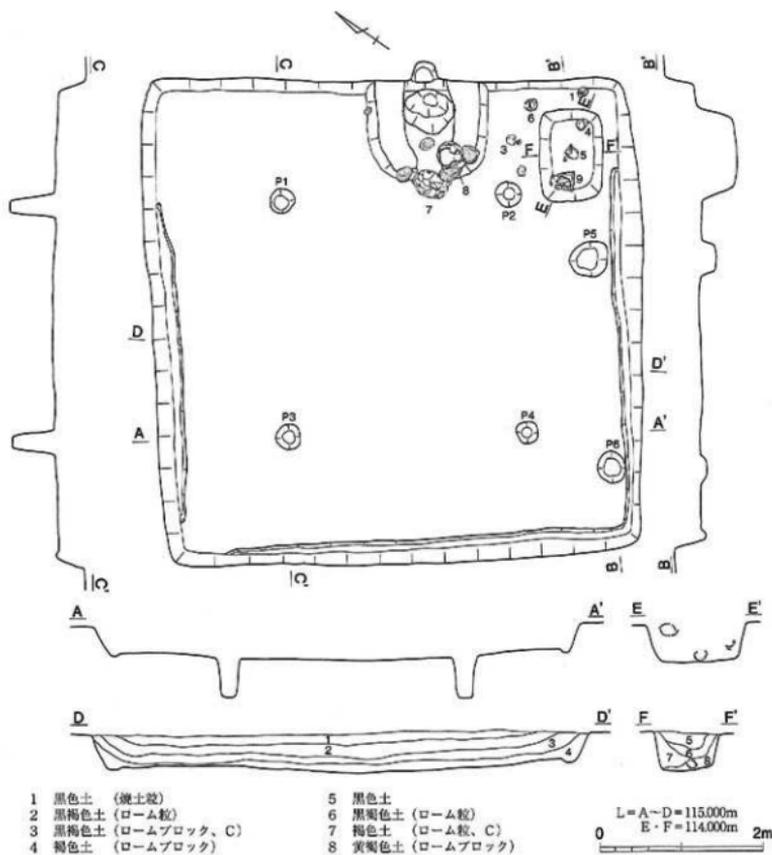
第17図 A区7号住居跡平・断面図



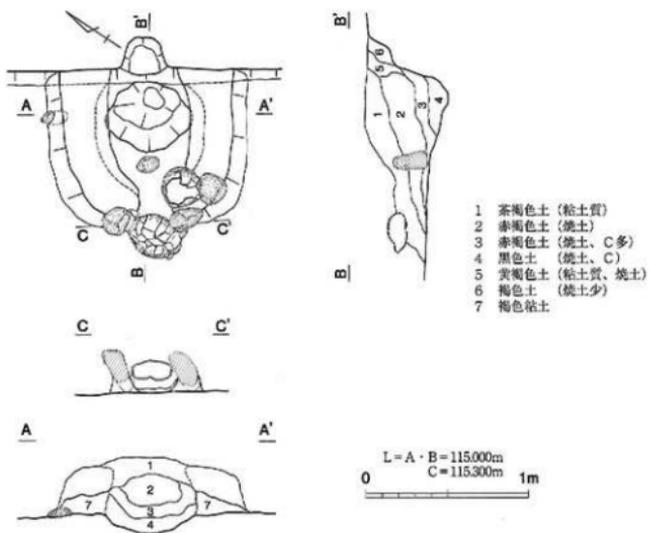
第18图 A区8号住层跡平·断面图



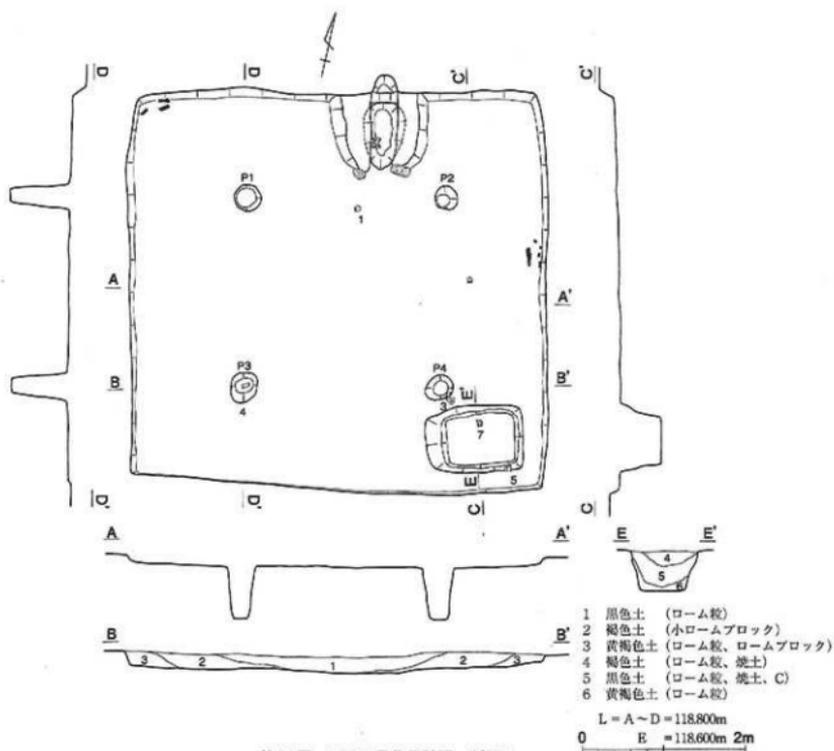
第19図 A区9号住居跡平・断面図



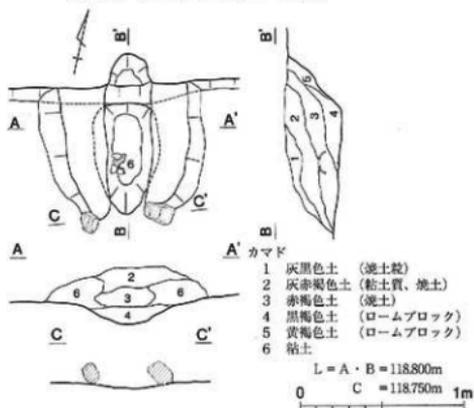
第20図 A区10号住居跡平・断面図



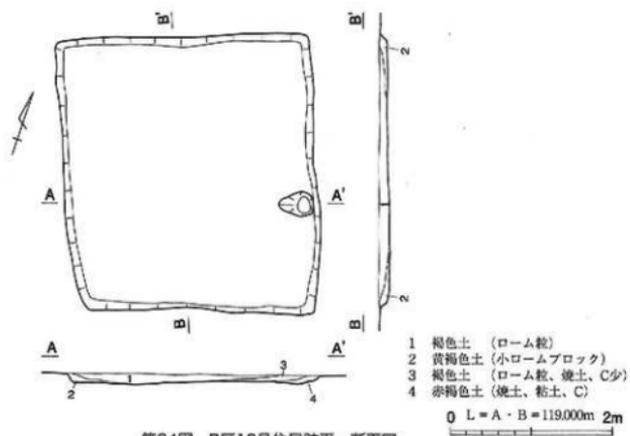
第21図 A区10号住居跡カマド平・断面図



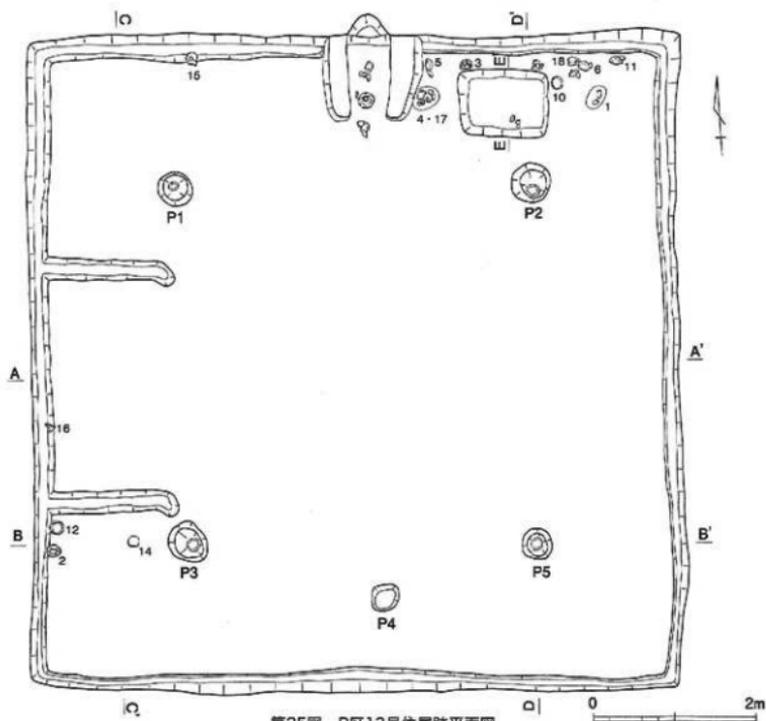
第22図 B区11号住居跡平・断面図



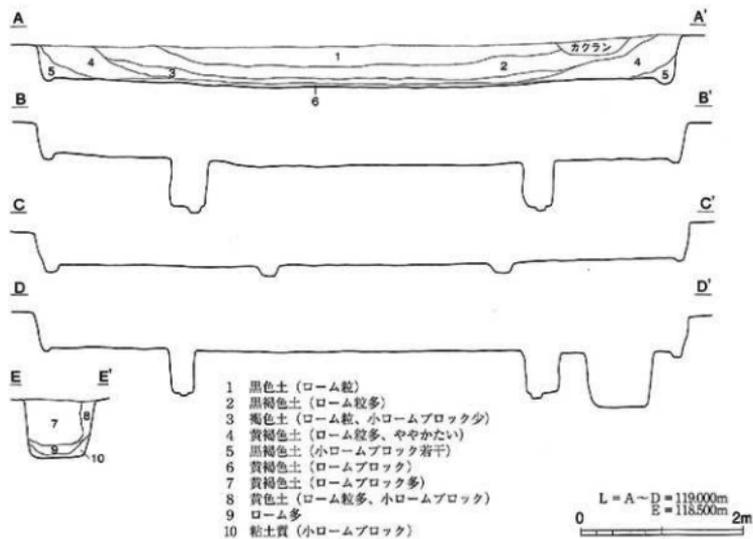
第23図 B区11号住居跡カマド平・断面図



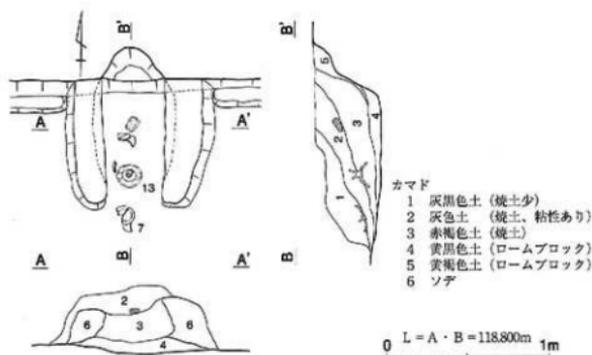
第24図 B区12号住居跡平・断面図



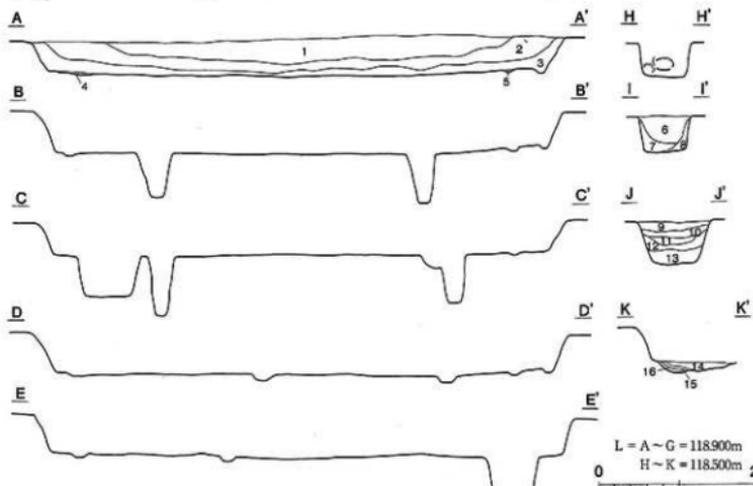
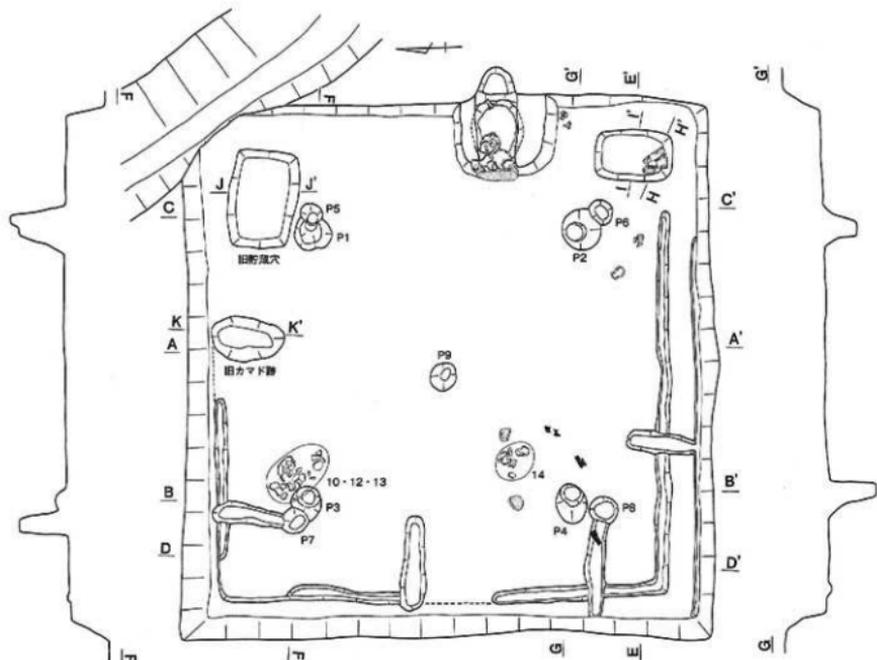
第25図 B区13号住居跡平面图



第26図 B区13号住居跡断面図

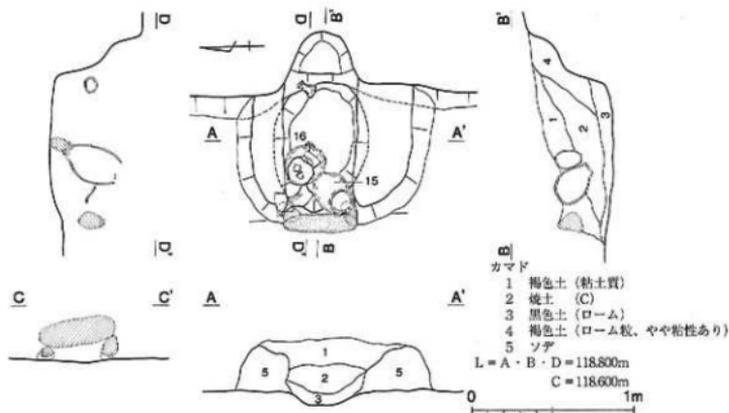


第27図 B区13号住居跡カマド平・断面図

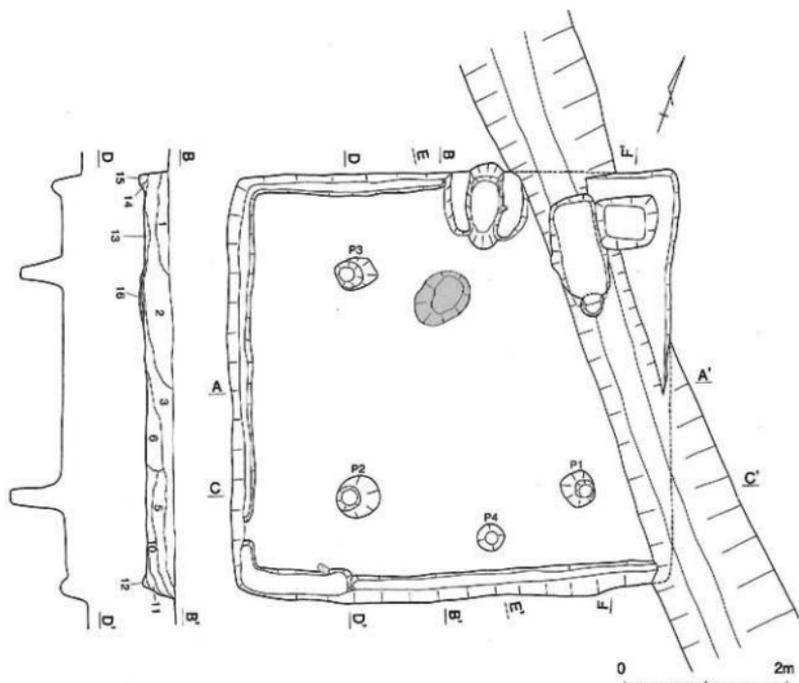


- | | | |
|--------------------------|---------------------|-------------------|
| 1 黒褐色土 (ローム粒) | 7 黒褐色土 (小ロームブロック、C) | 13 黒褐色土 (ロームブロック) |
| 2 褐色土 (ローム粒多) | 8 黄褐色土 (ローム粒) | 14 褐色土 (粘土質) |
| 3 黄褐色土 (ローム粒、小ロームブロック、C) | 9 褐色土 (ローム粒少) | 15 赤褐色土 (黄土) |
| 4 赤褐色土 (黄土) | 10 黄褐色土 (ローム粒) | 16 黒褐色土 (ローム粒) |
| 5 褐色土 | 11 黄褐色土 (ロームブロック) | |
| 6 褐色土 (ロームブロック、ローム粒) | 12 茶褐色土 (ローム粒) | |

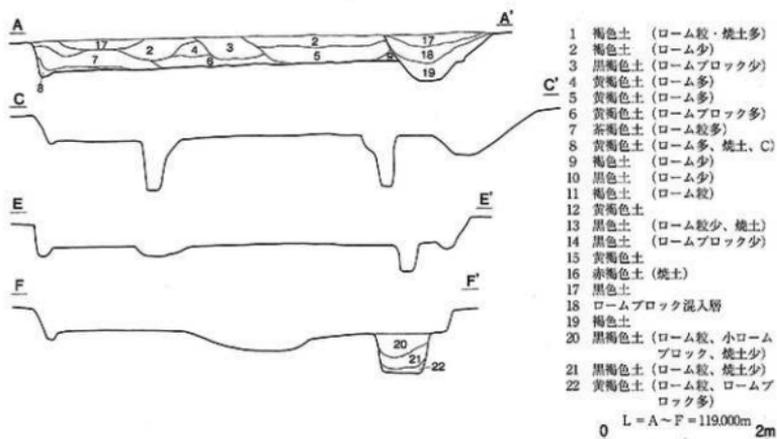
第28図 B区14号住居跡平・断面図



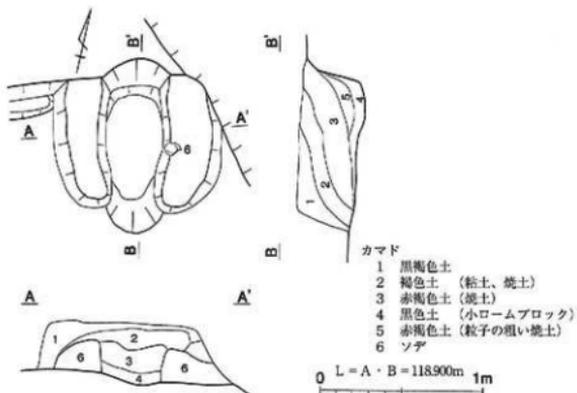
第29図 B区14号住居跡カマド平・断面図



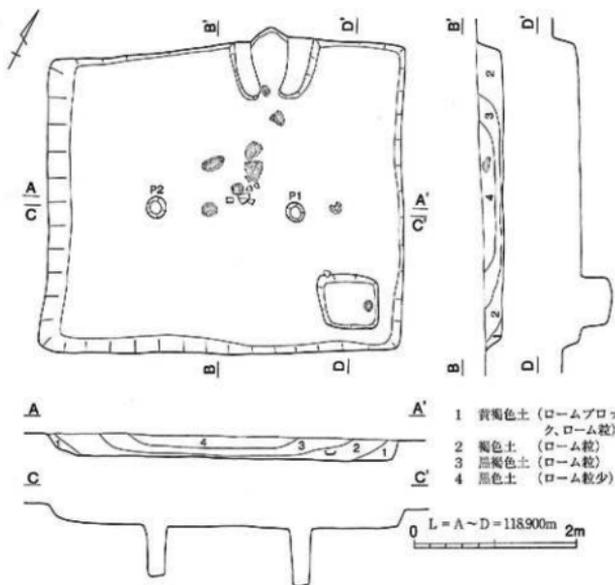
第30図 B区15号住居跡平・断面図



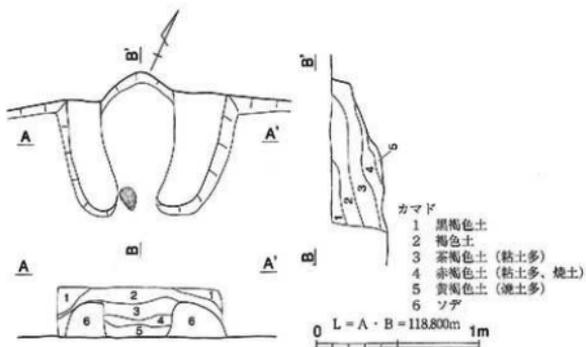
第31図 B区15号住居跡断面図



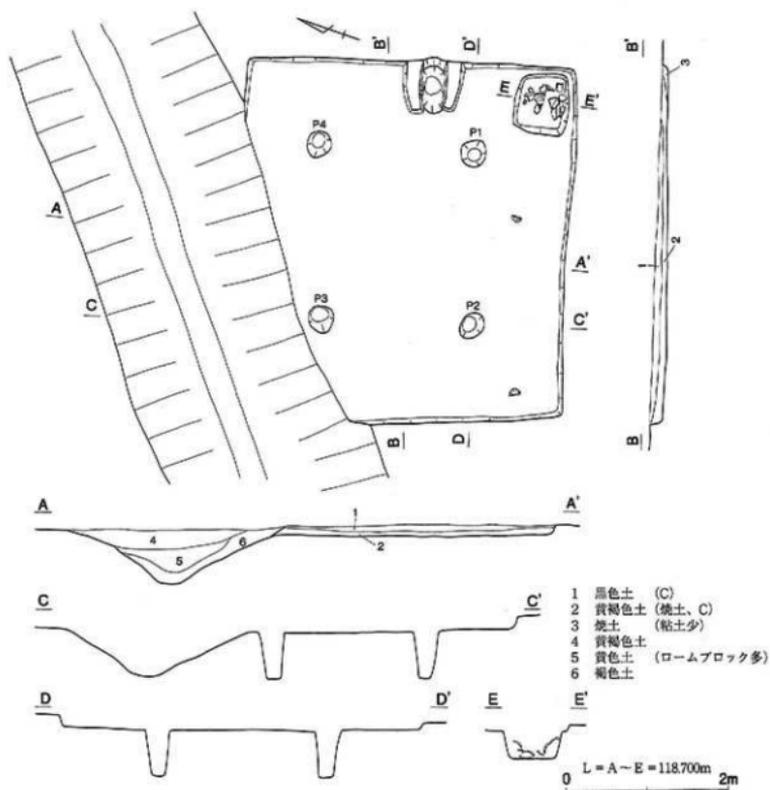
第32図 B区15号住居跡カマド平・断面図



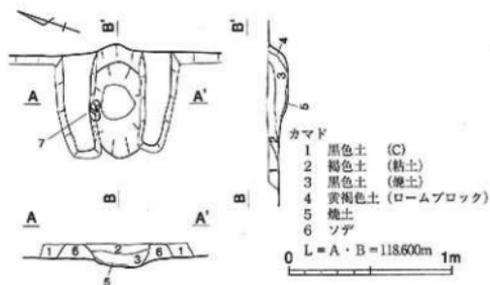
第33図 B区16号住居跡平・断面図



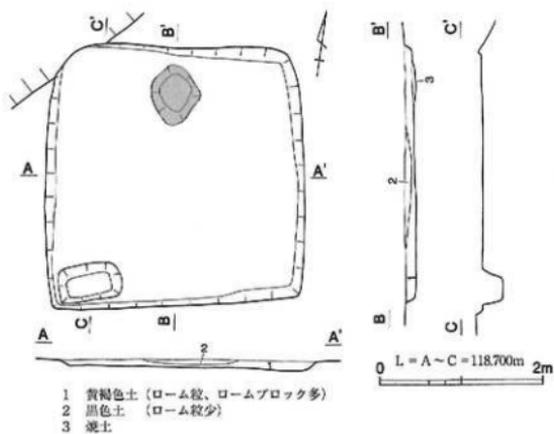
第34図 B区16号住居跡カマド平・断面図



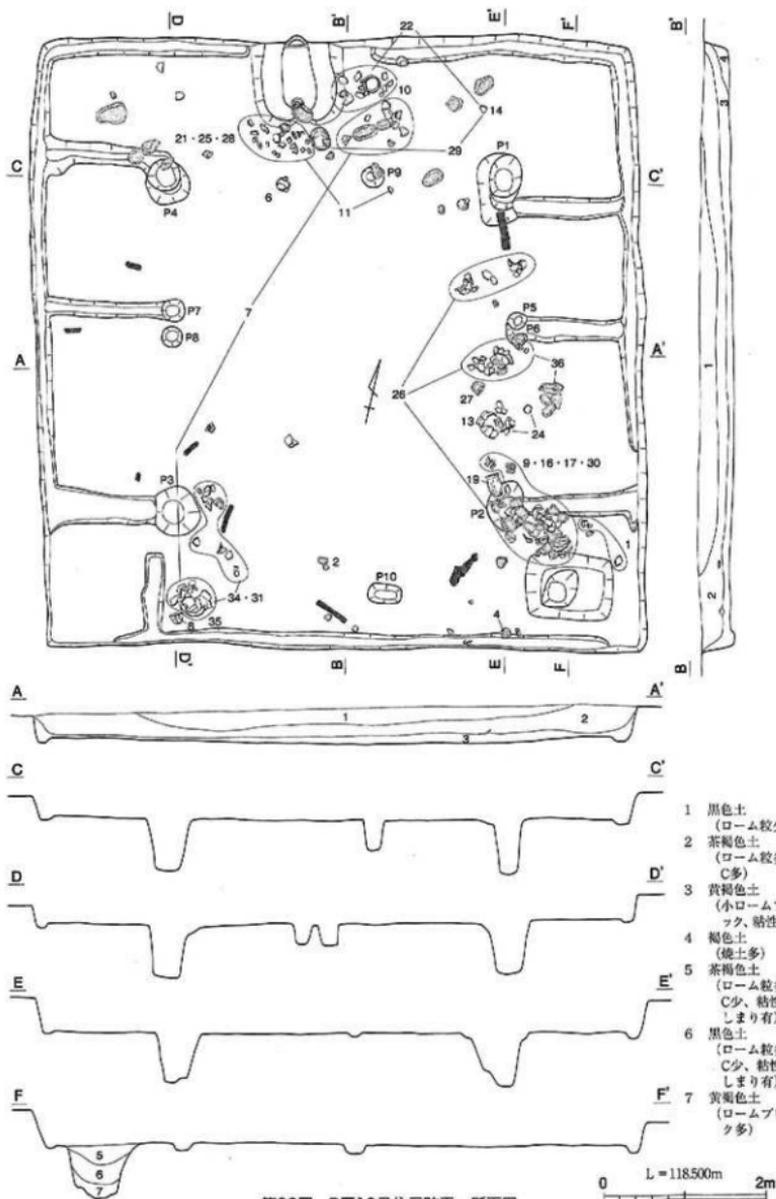
第35図 B区17号住居跡平・断面図



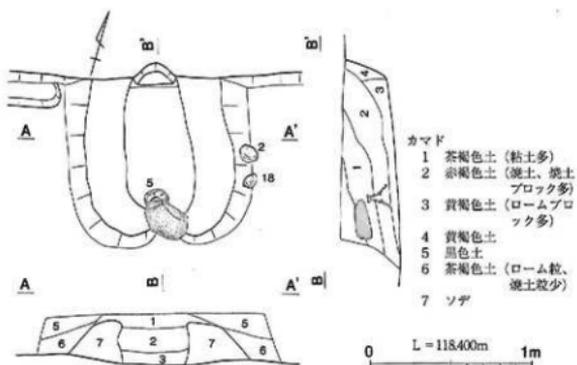
第36図 B区17号住居跡カマド平・断面図



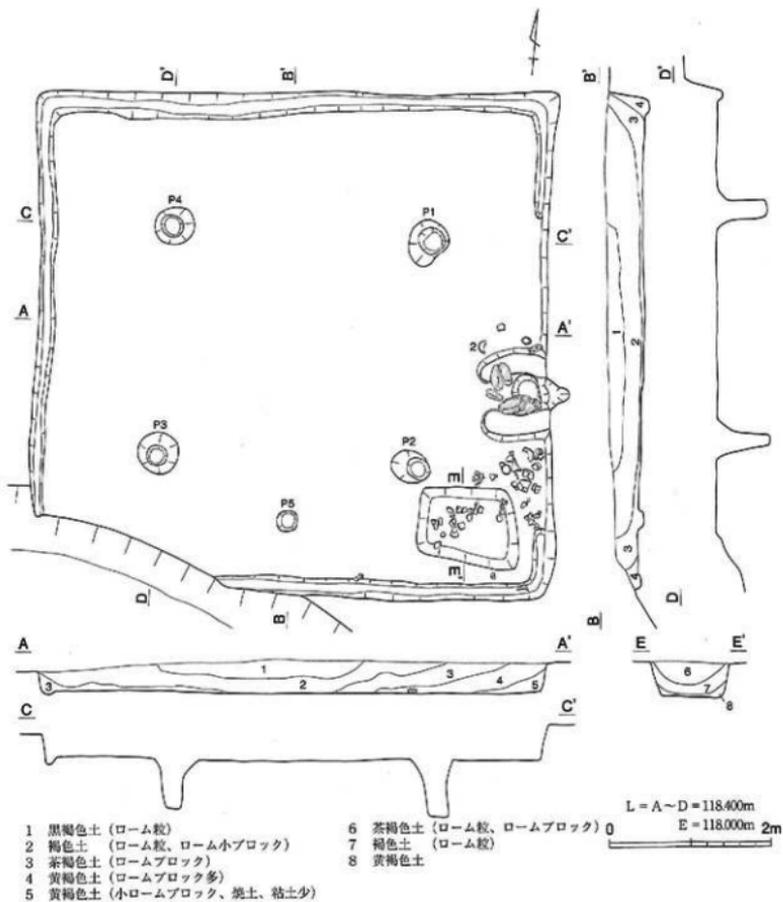
第37図 B区18号住居跡平・断面図



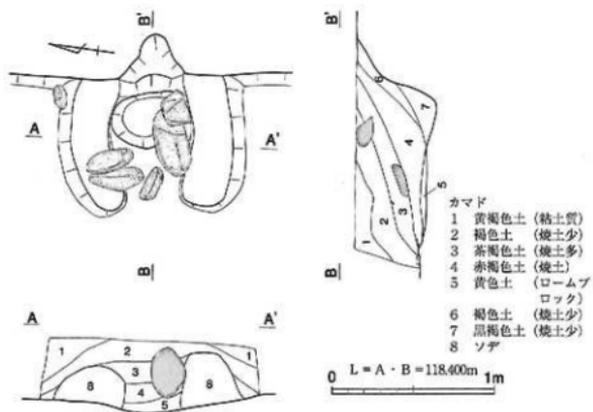
第38図 B区19号住居跡平・断面図



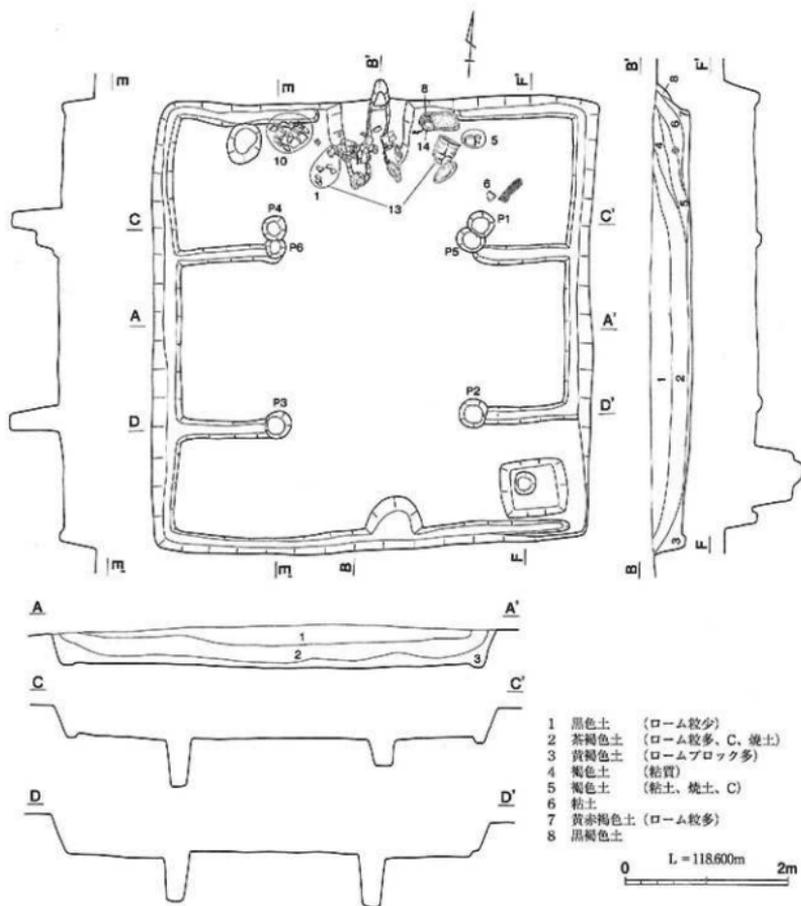
第39図 B区19号住居跡カマド平・断面図



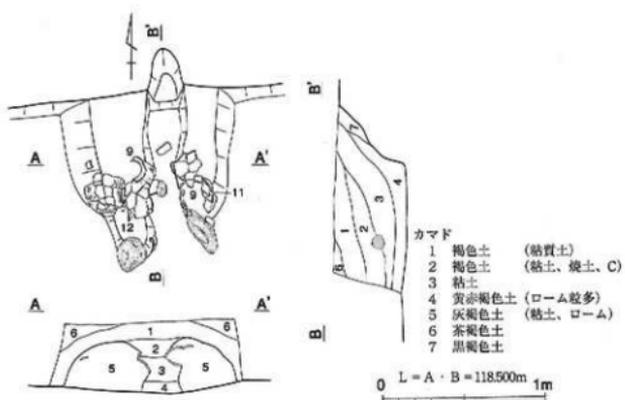
第40図 B区20号住居跡平・断面図



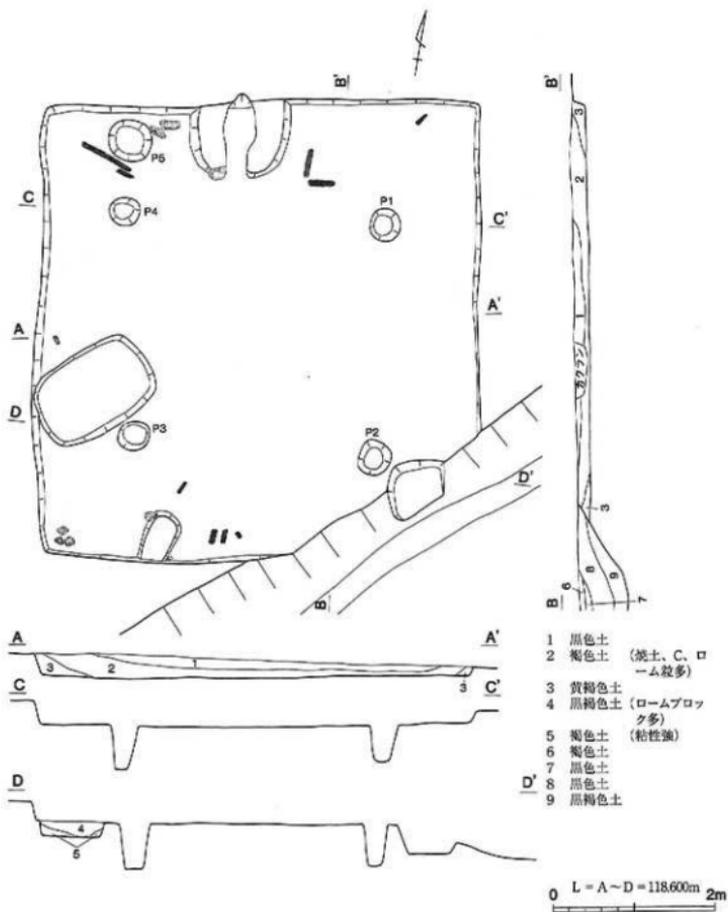
第41図 B区20号住居跡カマド平・断面図



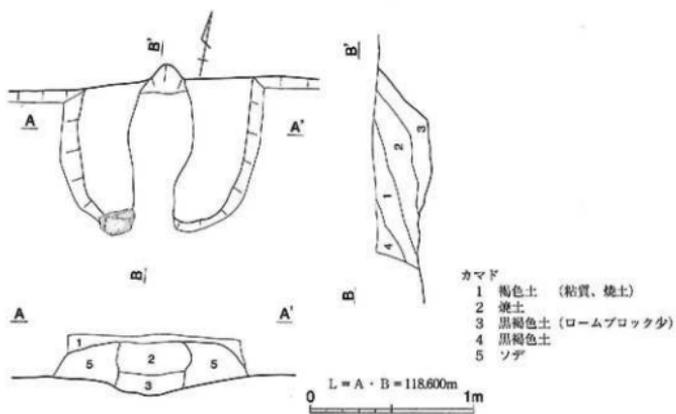
第42図 B区21号住居跡平・断面図



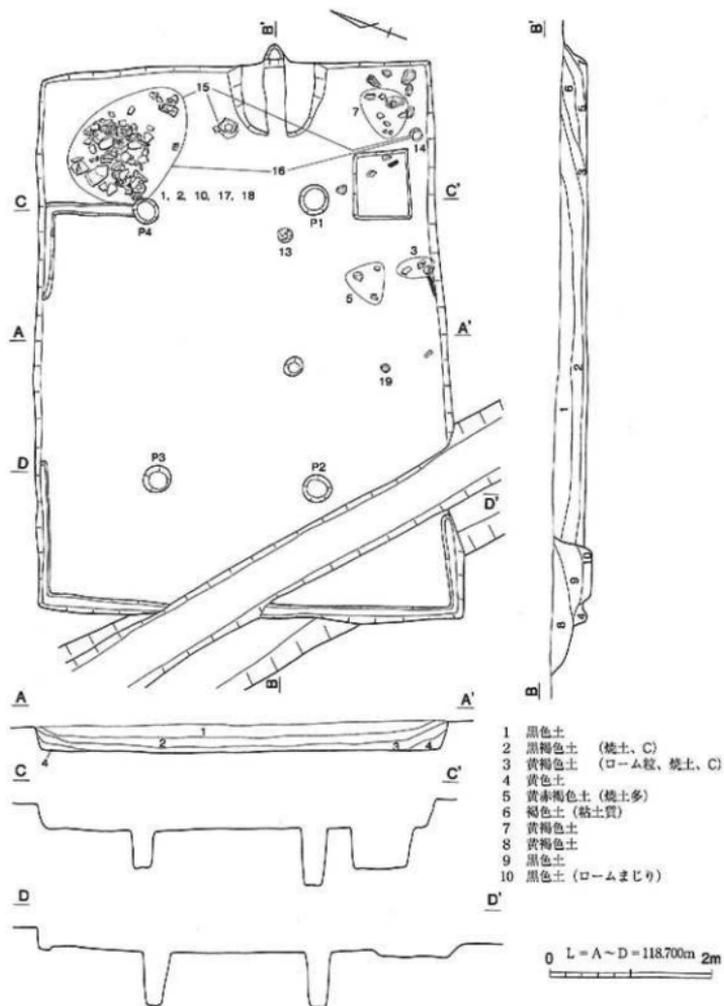
第43図 B区21号住居跡カマド平・断面図



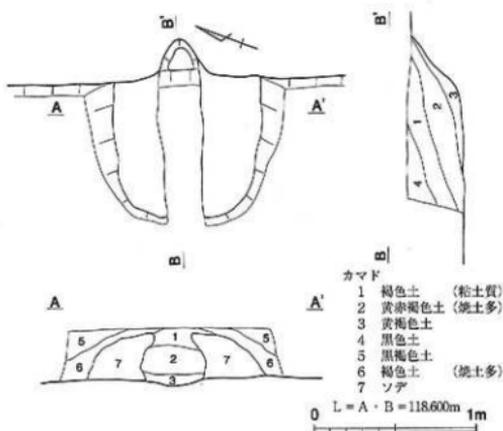
第44図 B区22号住居跡平・断面図



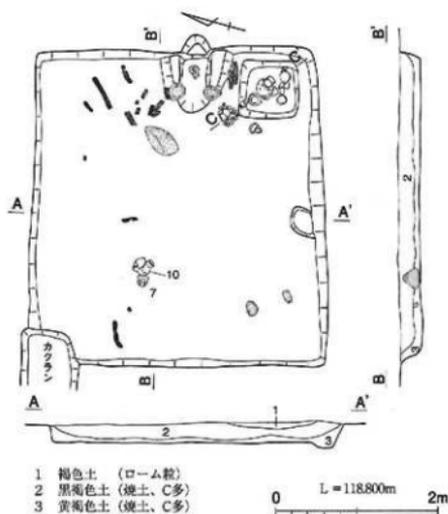
第45図 B区22号住居跡カマド平・断面図



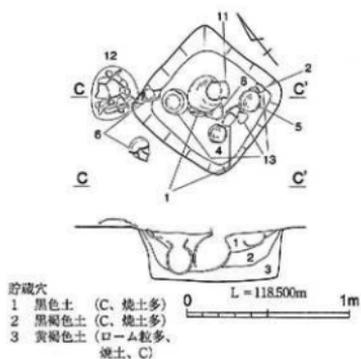
第46図 B区23号住居跡平・断面図



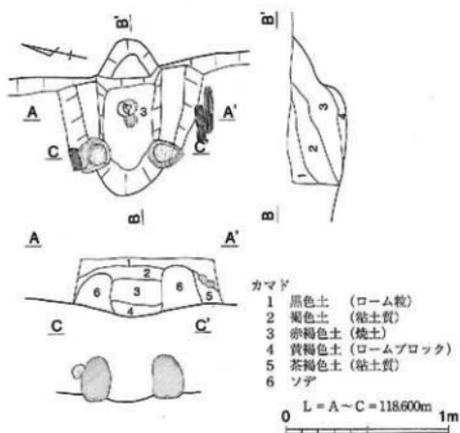
第47図 B区23号住居跡カマド平・断面図



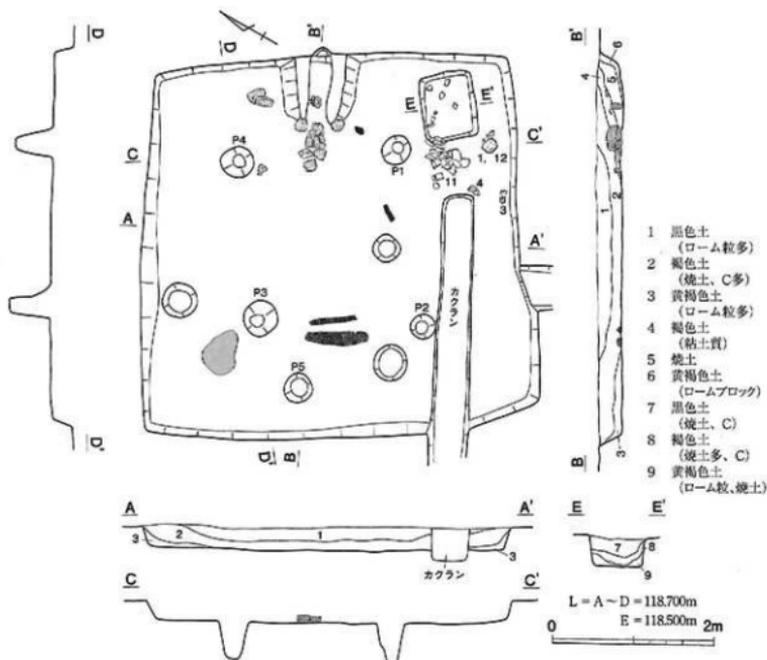
第48図 B区32号住居跡平・断面図



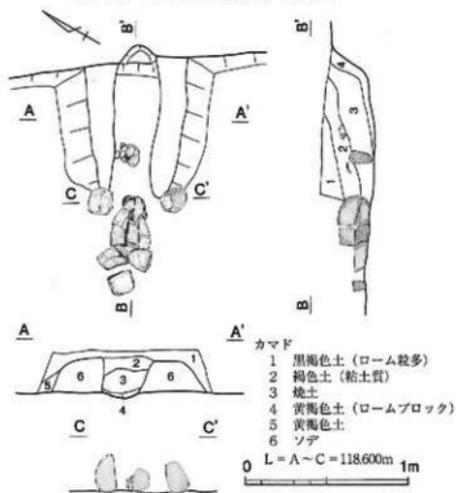
第49図 B区32号住居跡貯蔵穴遺物出土状態図



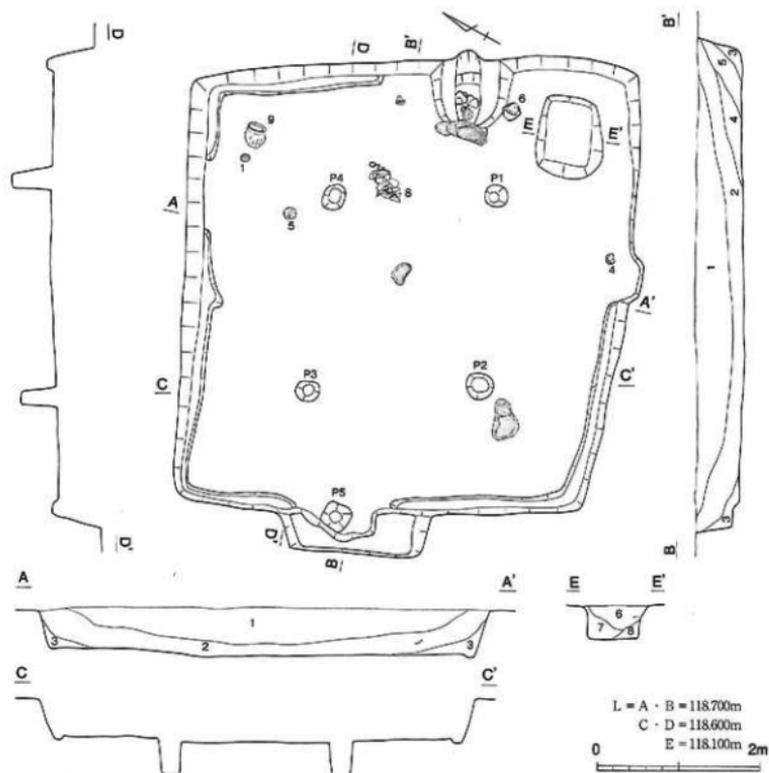
第50図 B区32号住居跡カマド平・断面図



第51図 B区33号住居跡平・断面図

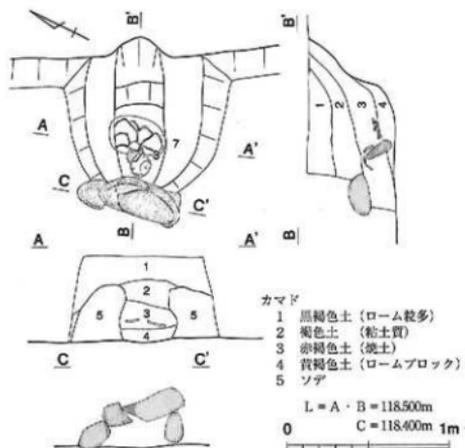


第52図 B区33号住居跡カマド平・断面図

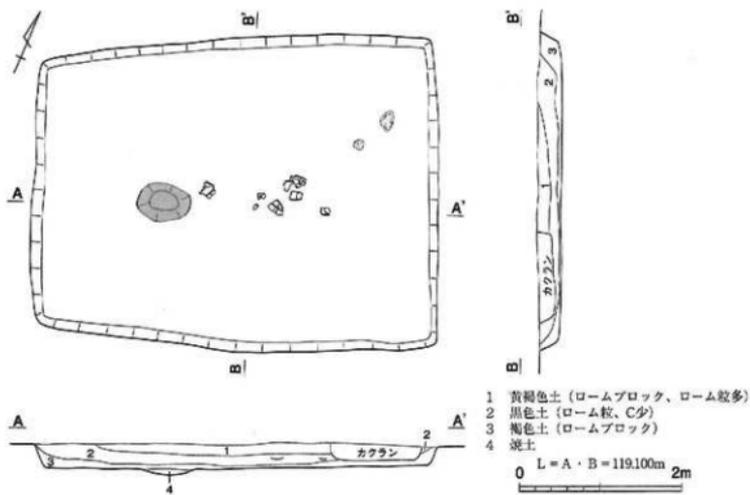


- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 黒色土 (ローム紋) | 6 黒色土 (ローム紋、C) |
| 2 褐色土 (ローム紋多) | 7 褐色土 (ロームブロック、ローム紋) |
| 3 黄褐色土 (小ロームブロック多) | 8 黄褐色土 (ロームブロック、柔らか) |
| 4 茶褐色土 (焼土、ローム紋) | |
| 5 褐色土 (焼土、粘土紋) | |

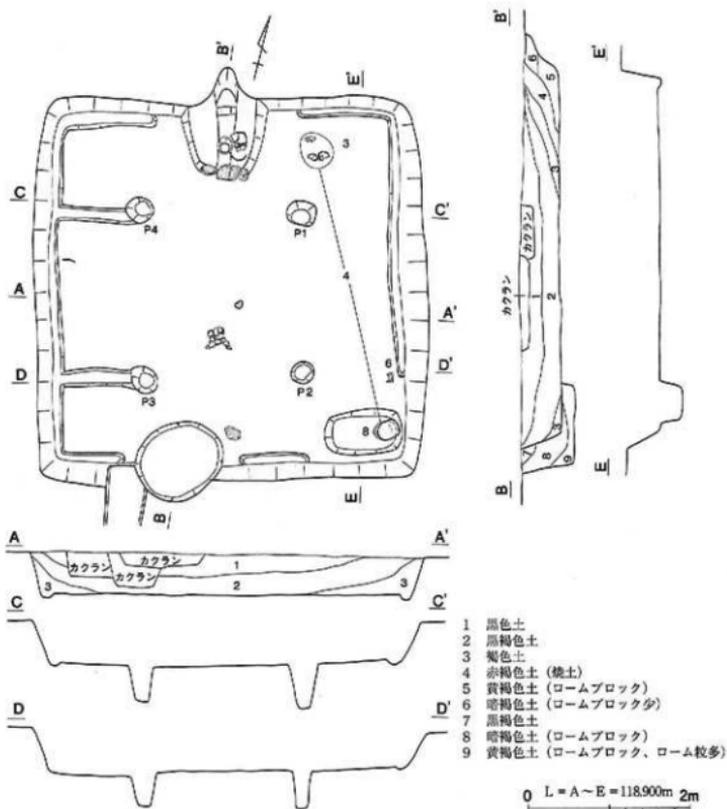
第53図 B区34号住居跡平・断面図



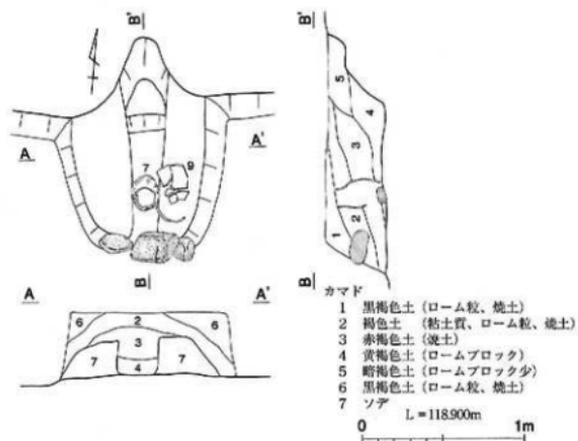
第54図 B区34号住居跡カマド平・断面図



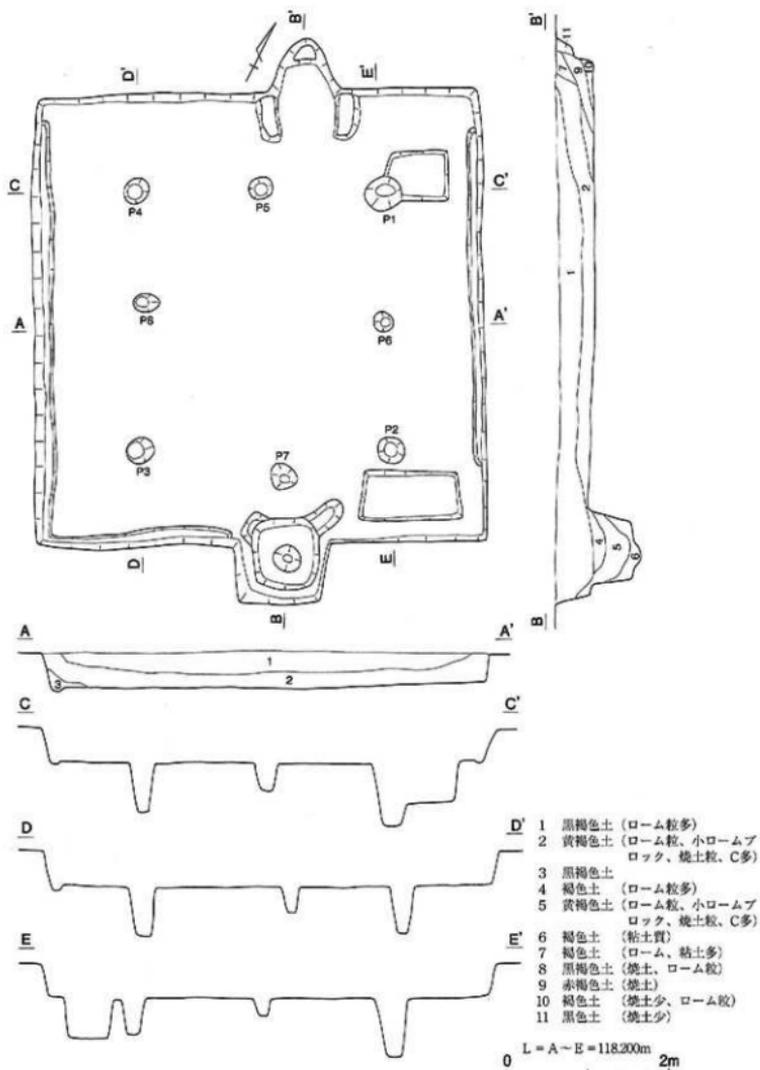
第55図 B区35号住居跡平・断面図



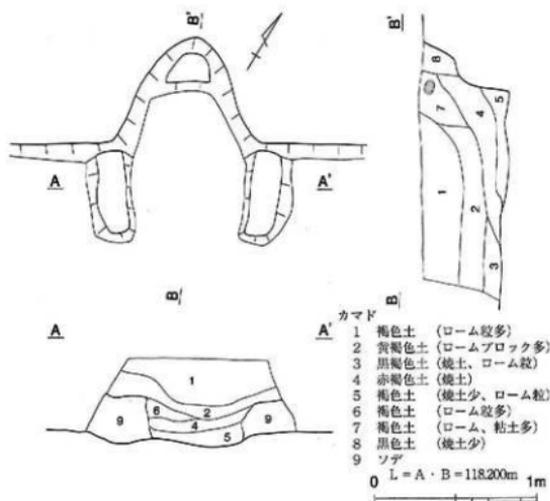
第56図 B区38号住居跡平・断面図



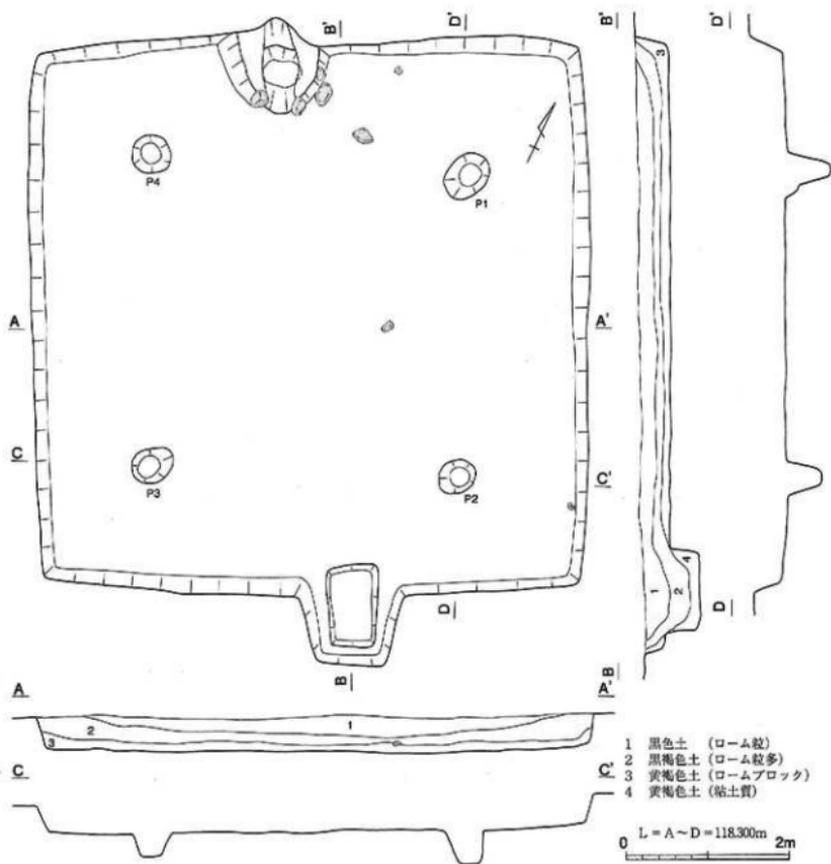
第57図 B区38号住居跡カマド平・断面図



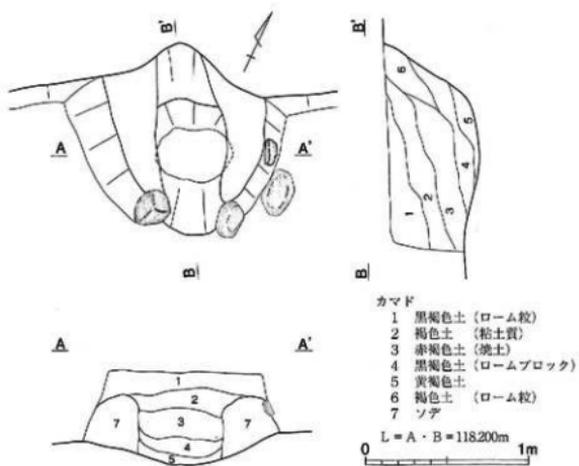
第58図 C区24号住居跡平・断面図



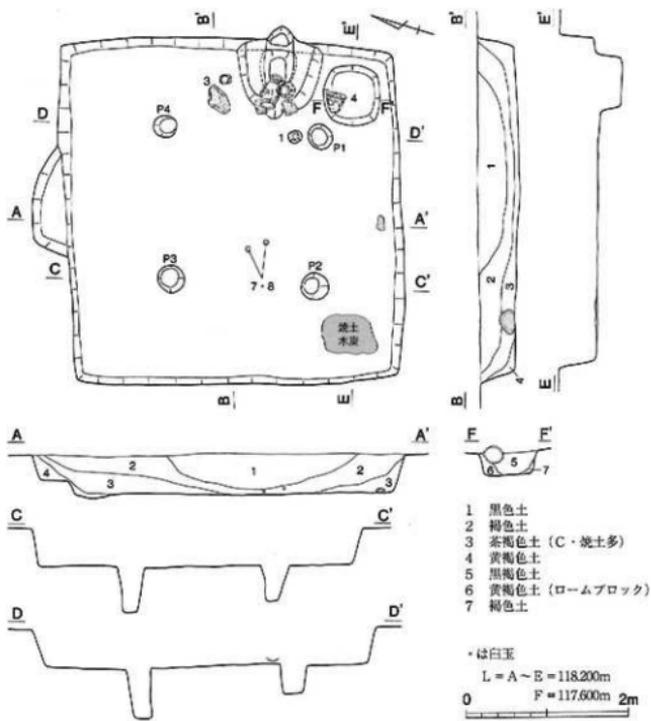
第59図 C区24号住居跡カマド平・断面図



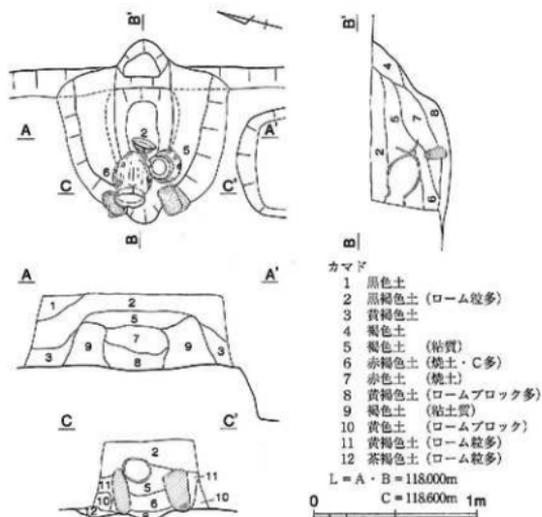
第60図 C区25号住居跡平・断面図



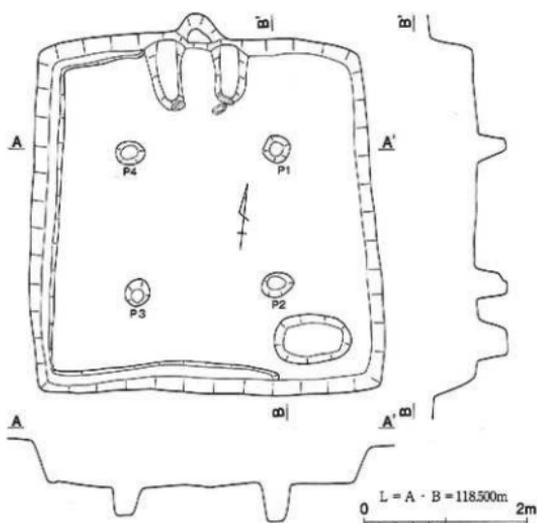
第61図 C区25号住居跡カマド平・断面図



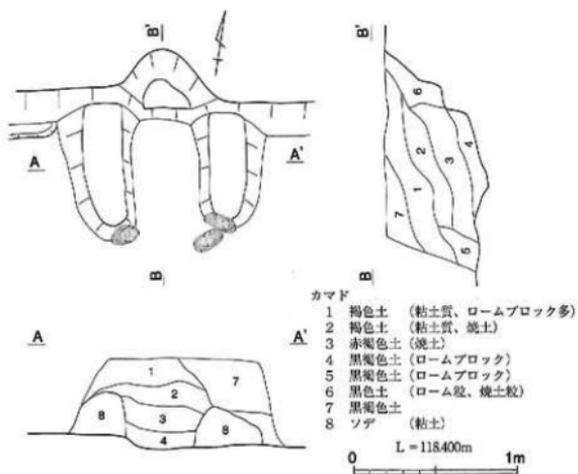
第62図 C区30号住居跡平・断面図



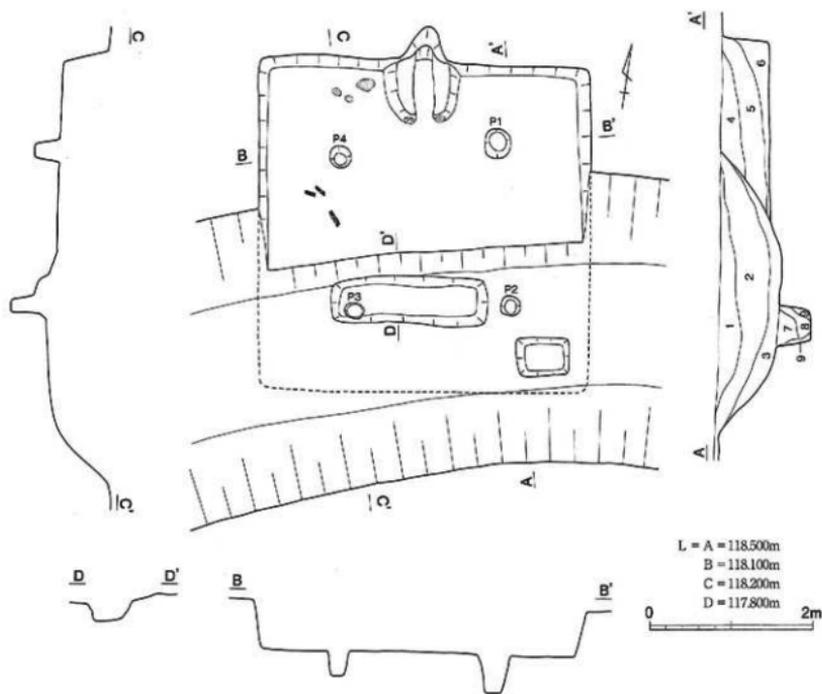
第63図 C区30号住居跡カマド平・断面図



第64図 C区31号住居跡平・断面図



第65図 C区31号住居跡カマド平・断面図



L = A = 118.500m

B = 118.100m

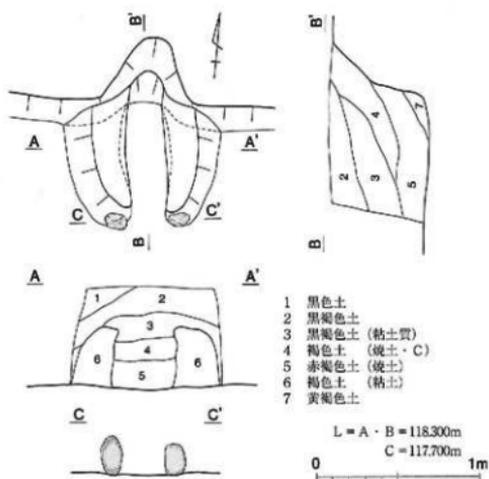
C = 118.200m

D = 117.800m

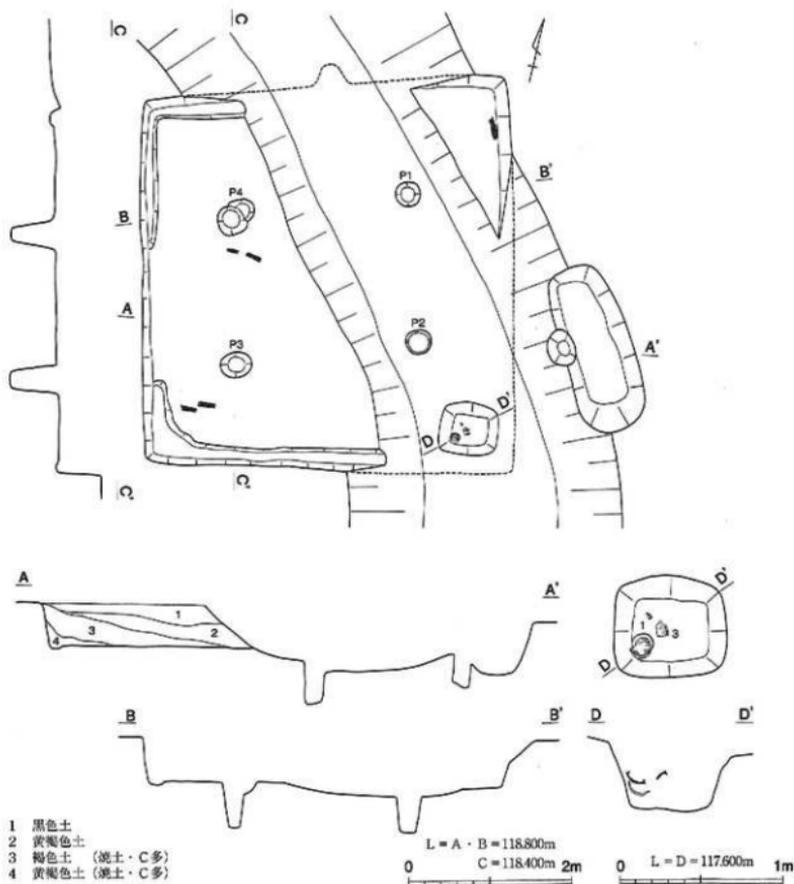
- 1 黑褐色土
- 2 黑色土
- 3 黄褐色土
- 4 黑色土
- 5 黑褐色土

- 6 黄褐色土 (硬土·C多)
- 7 褐色土 (硬土·C多)
- 8 黑褐色土
- 9 黄褐色土

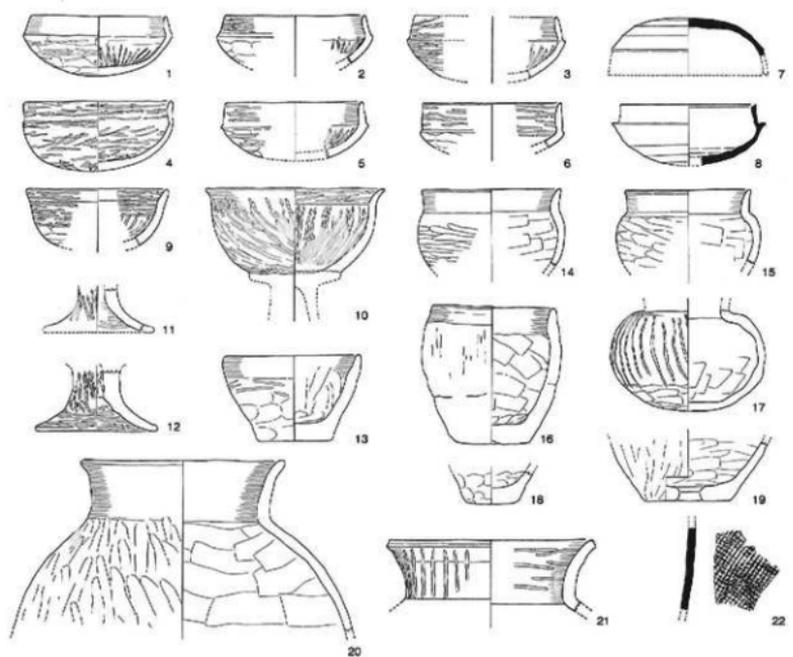
第66图 C区36号住居跡平·断面图



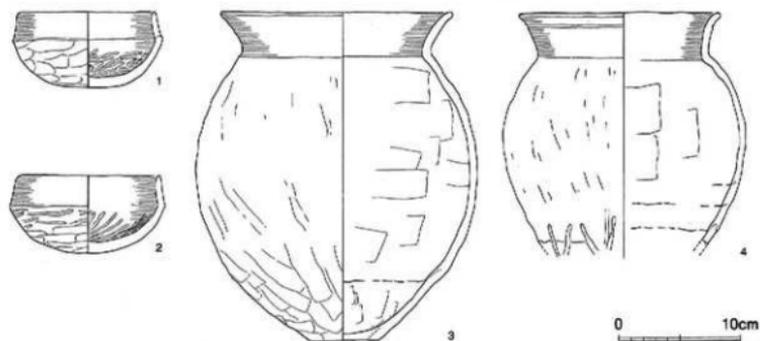
第67図 C区36号住居跡カマド平・断面図



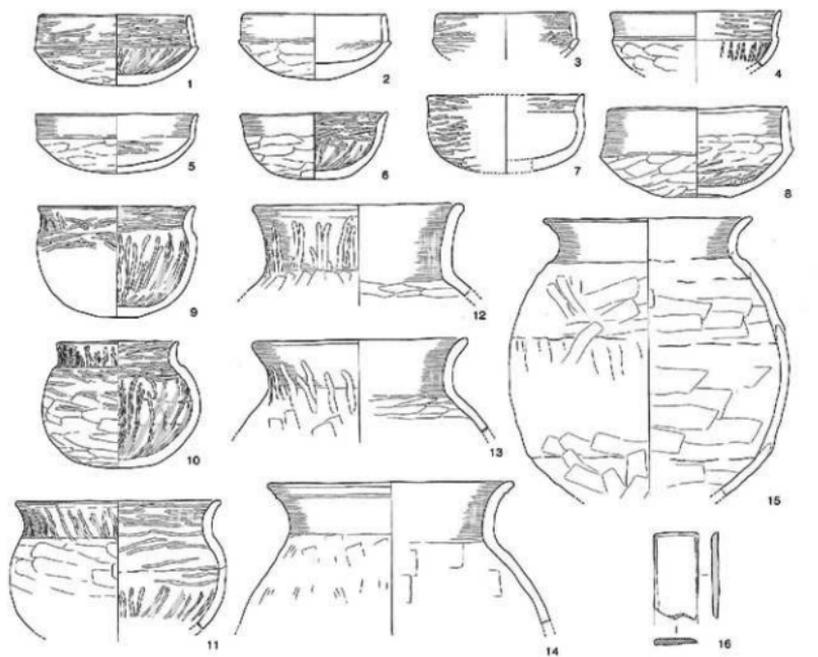
第68图 C区37号住居跡平·断面图



第69图 1号住居跡出土遺物実測図

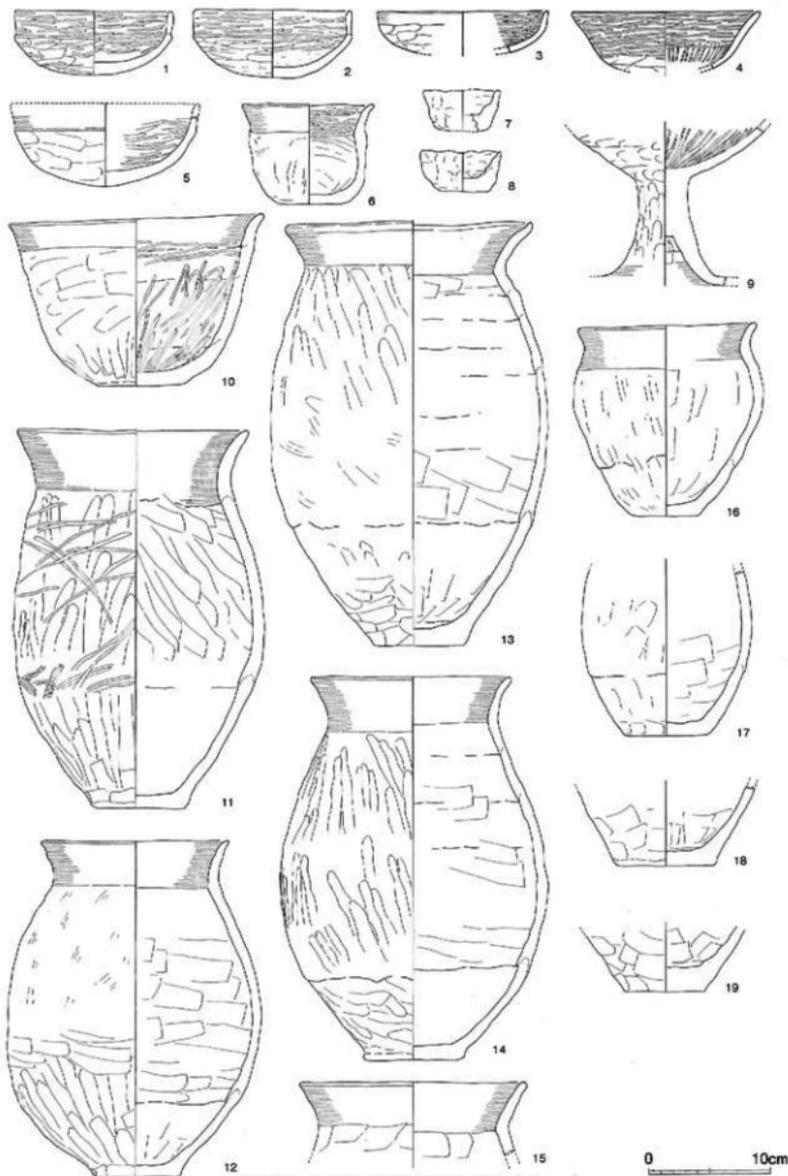


第70图 2号住居跡出土遺物実測図

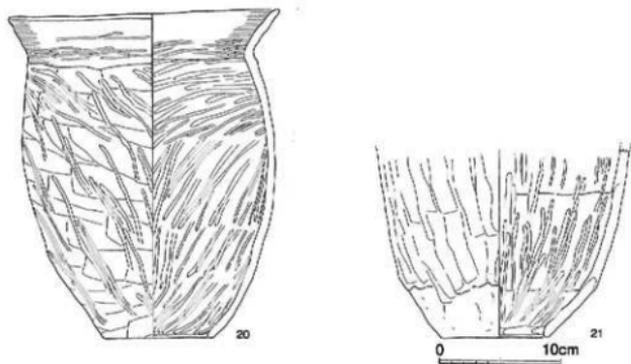


0 10cm

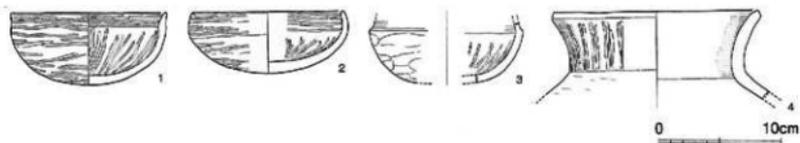
第71圖 3号住居跡出土遺物実測図



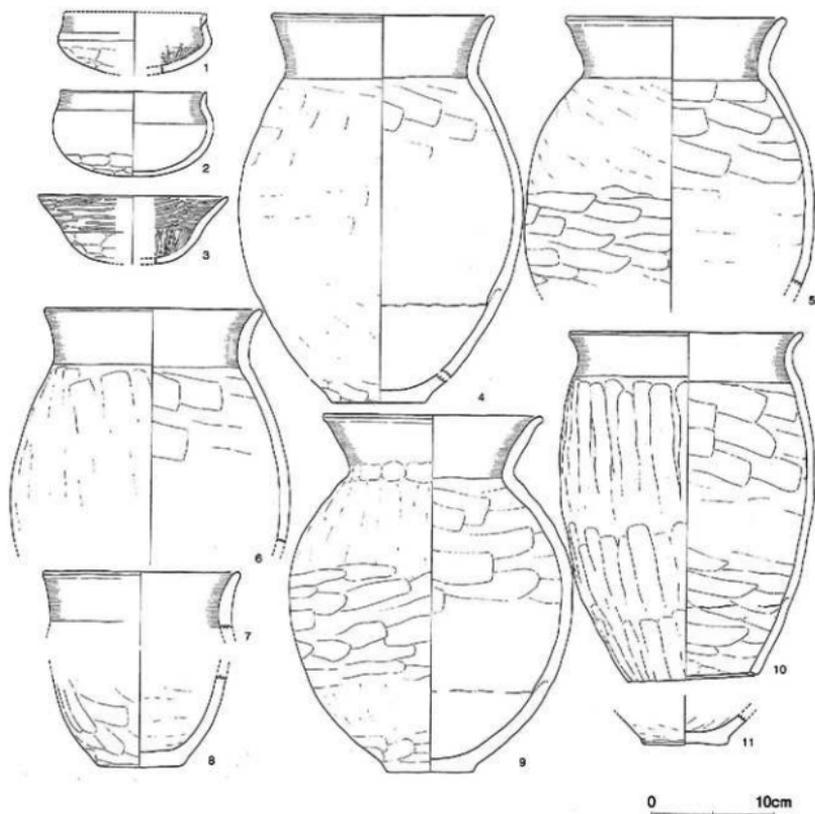
第72图 4号住居跡出土遺物実測図(1)



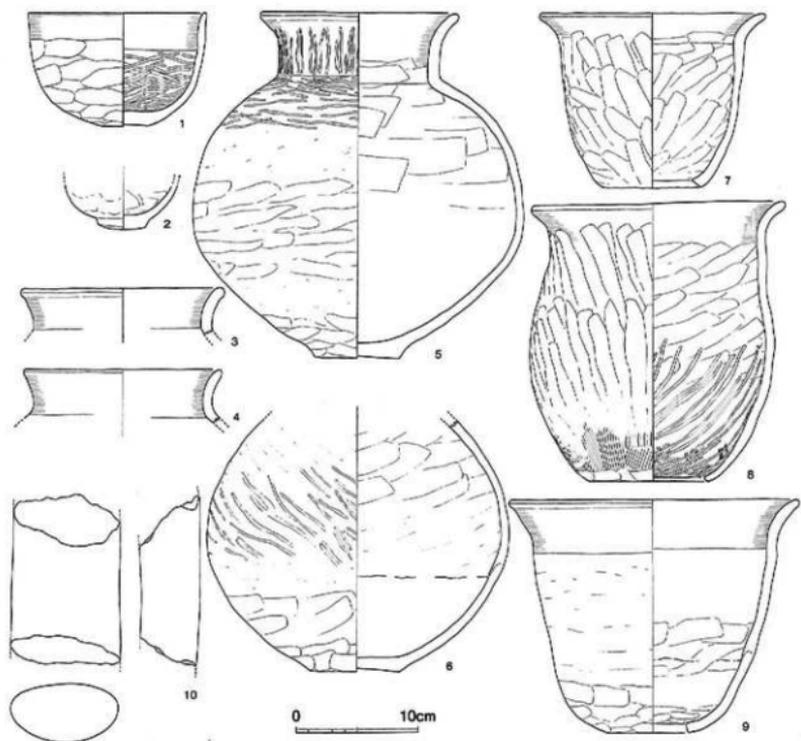
第73图 4号住居跡出土遺物実測図(2)



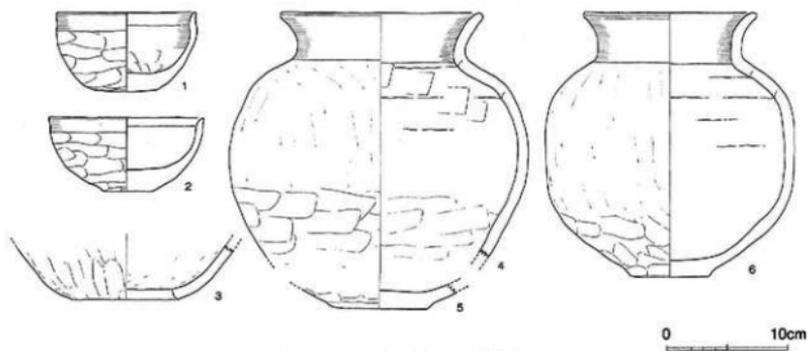
第74图 5号住居跡出土遺物実測図



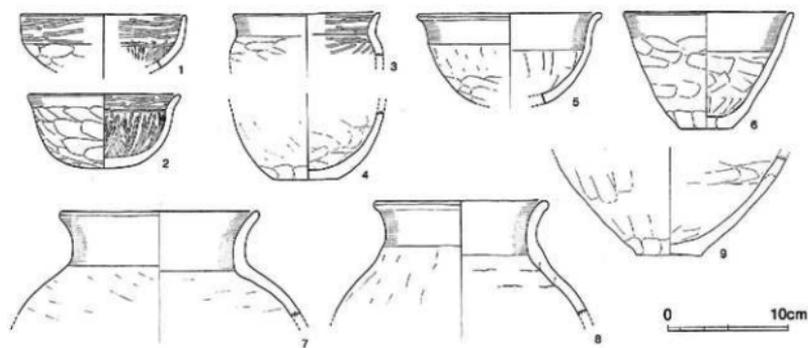
第75圖 6号住居跡出土遺物実測圖



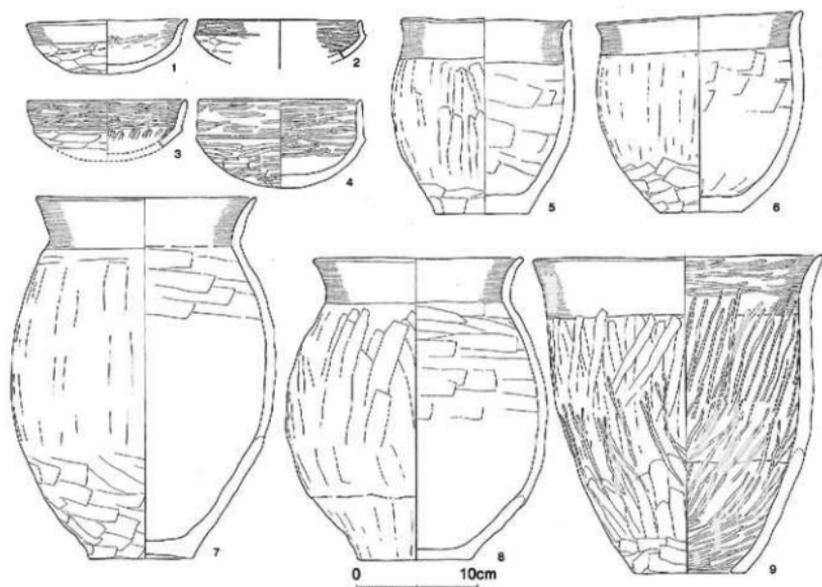
第76图 7号住居跡出土遺物実測図



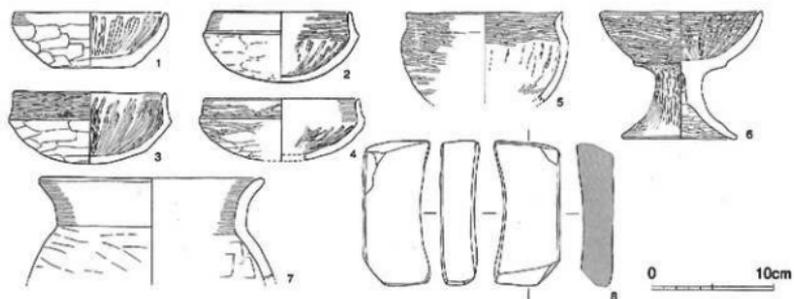
第77图 8号住居跡出土遺物実測図



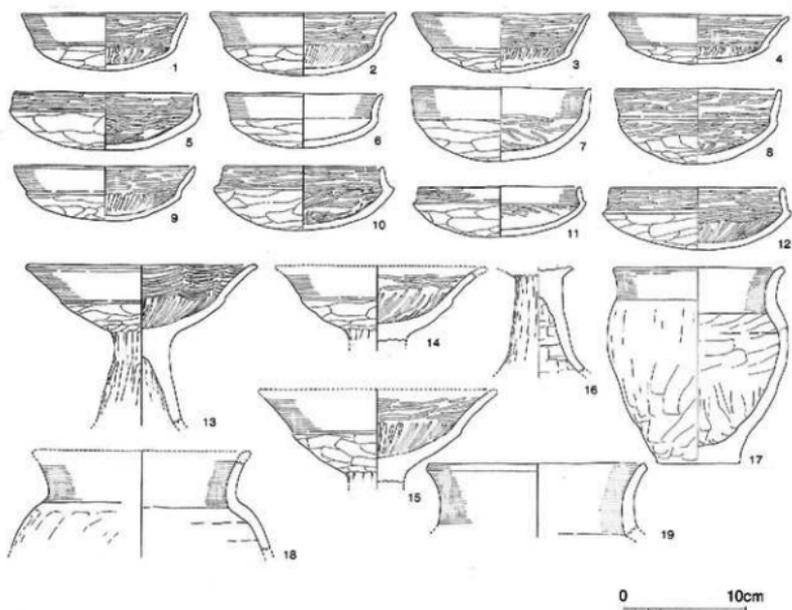
第78图 9号住居跡出土遺物実測図



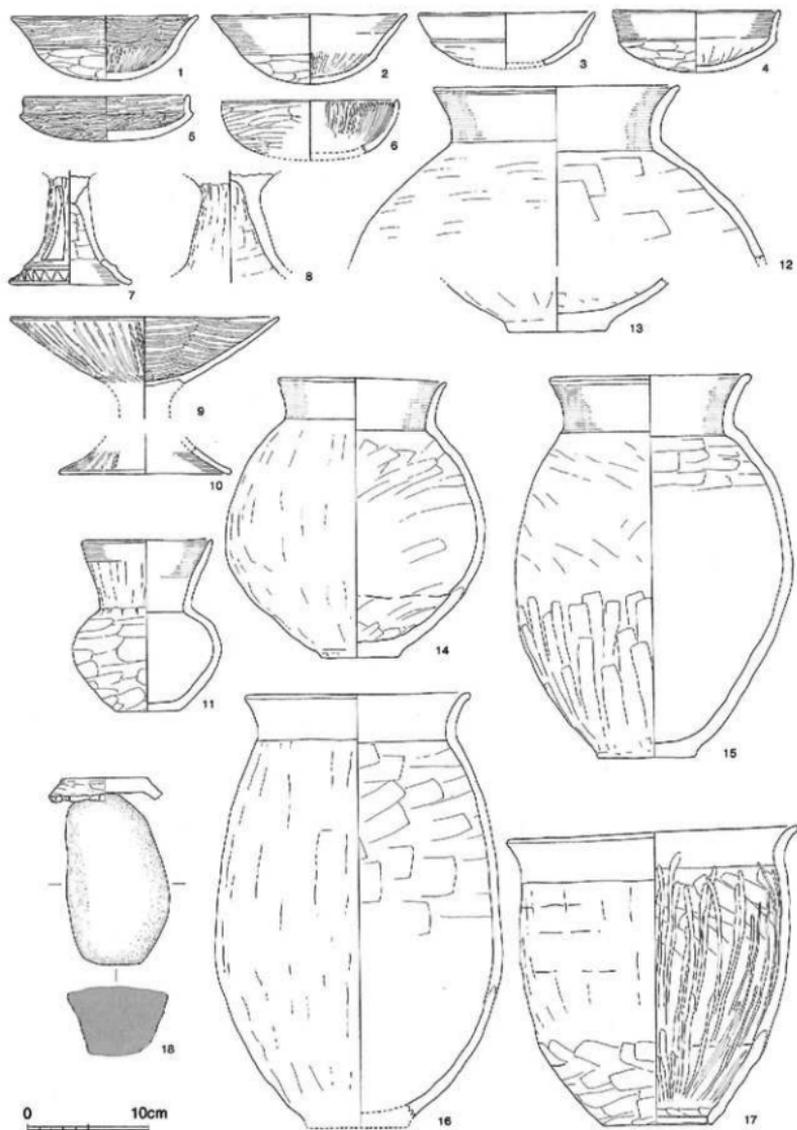
第79图 10号住居跡出土遺物実測図



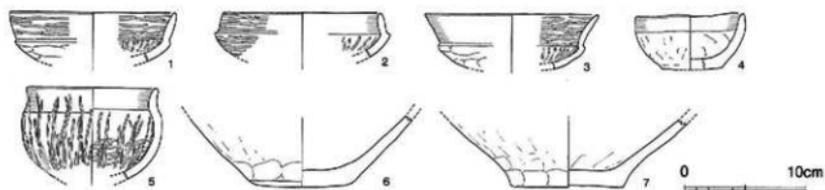
第80图 11号住居跡出土遺物実測図



第81图 13号住居跡出土遺物実測図



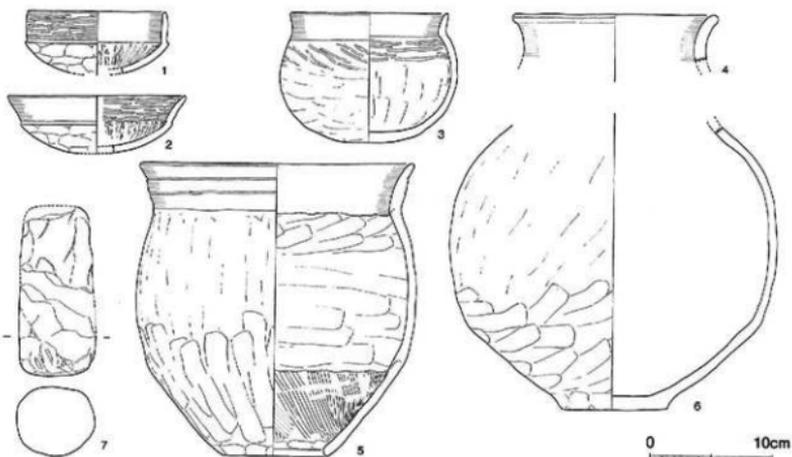
第82图 14号住居跡出土遺物実測図



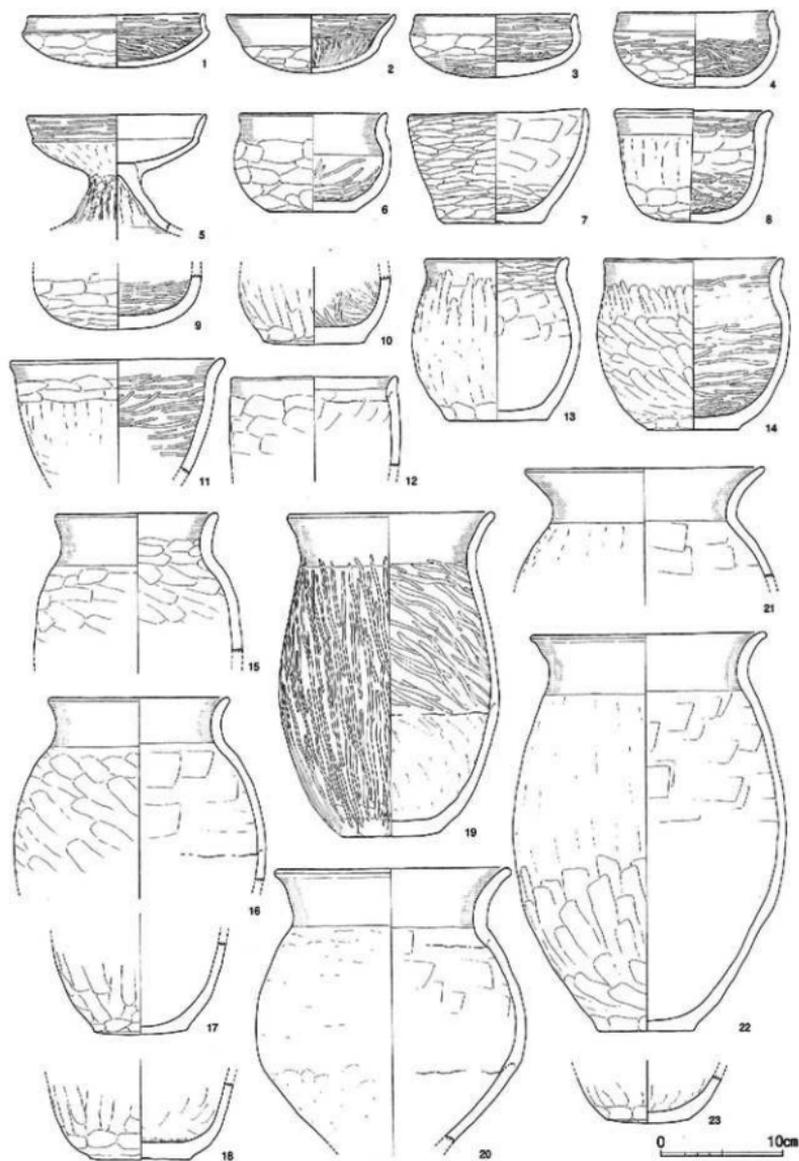
第83图 15号住居跡出土遺物実測図



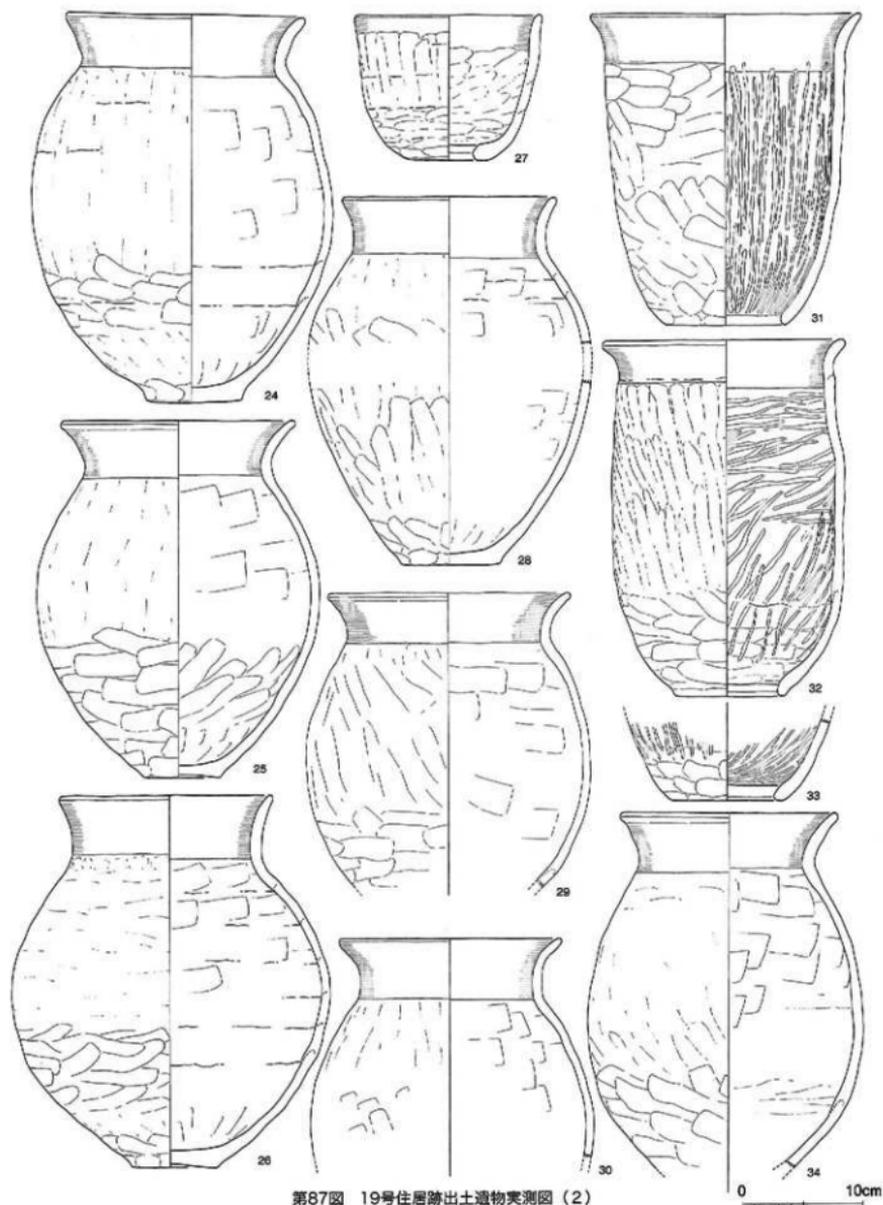
第84图 16号住居跡出土遺物実測図



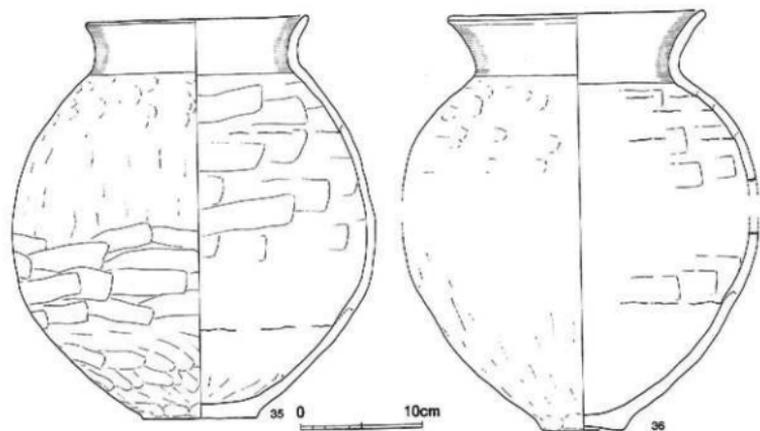
第85图 17号住居跡出土遺物実測図



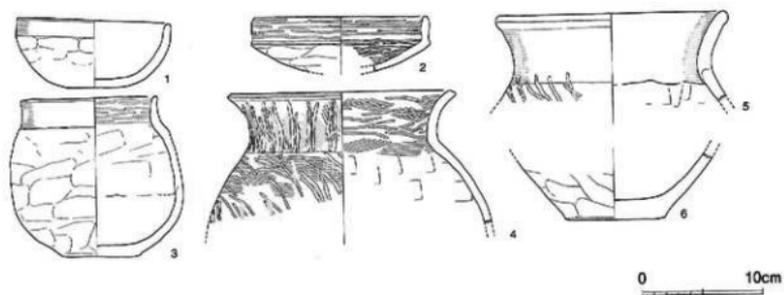
第86圖 19号住居跡出土物実測圖(1)



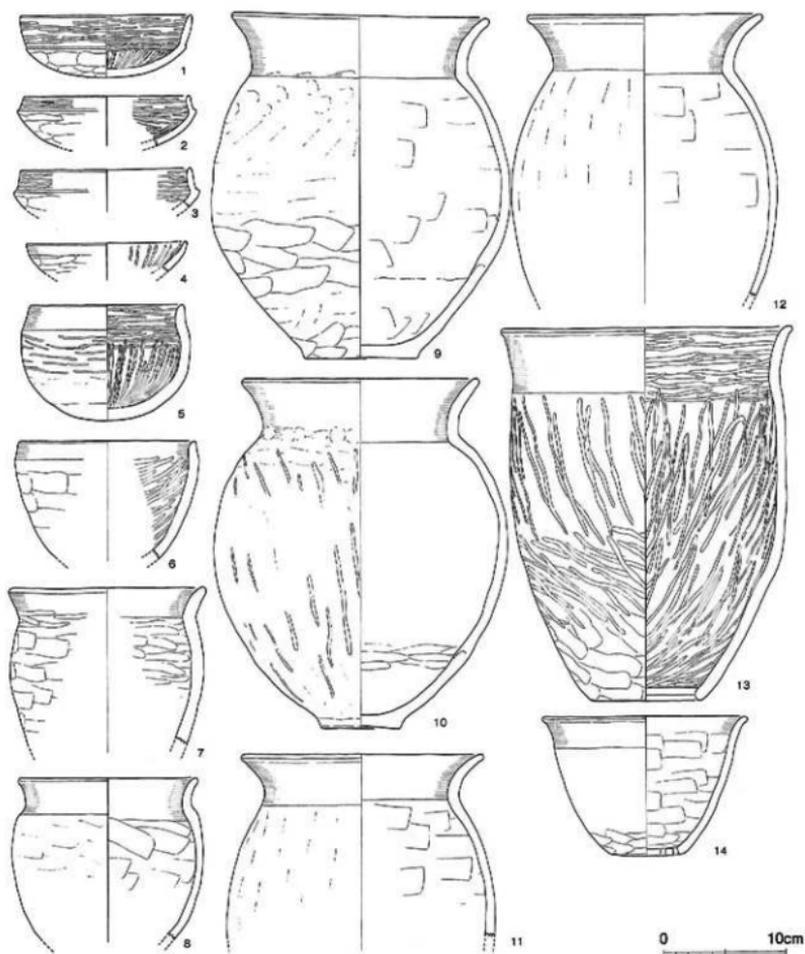
第87圖 19号住居跡出土遺物実測圖(2)



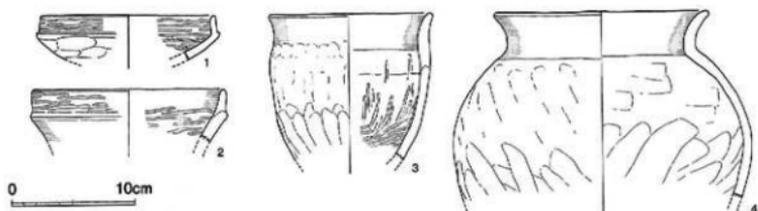
第88図 19号住居跡出土遺物実測図(3)



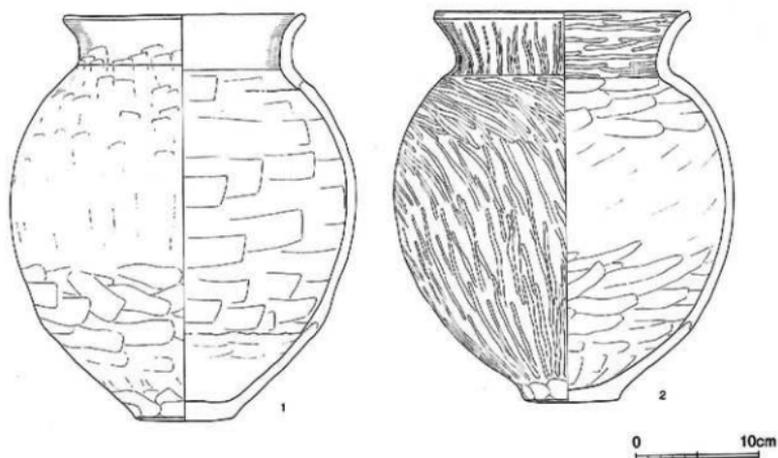
第89図 20号住居跡出土遺物実測図



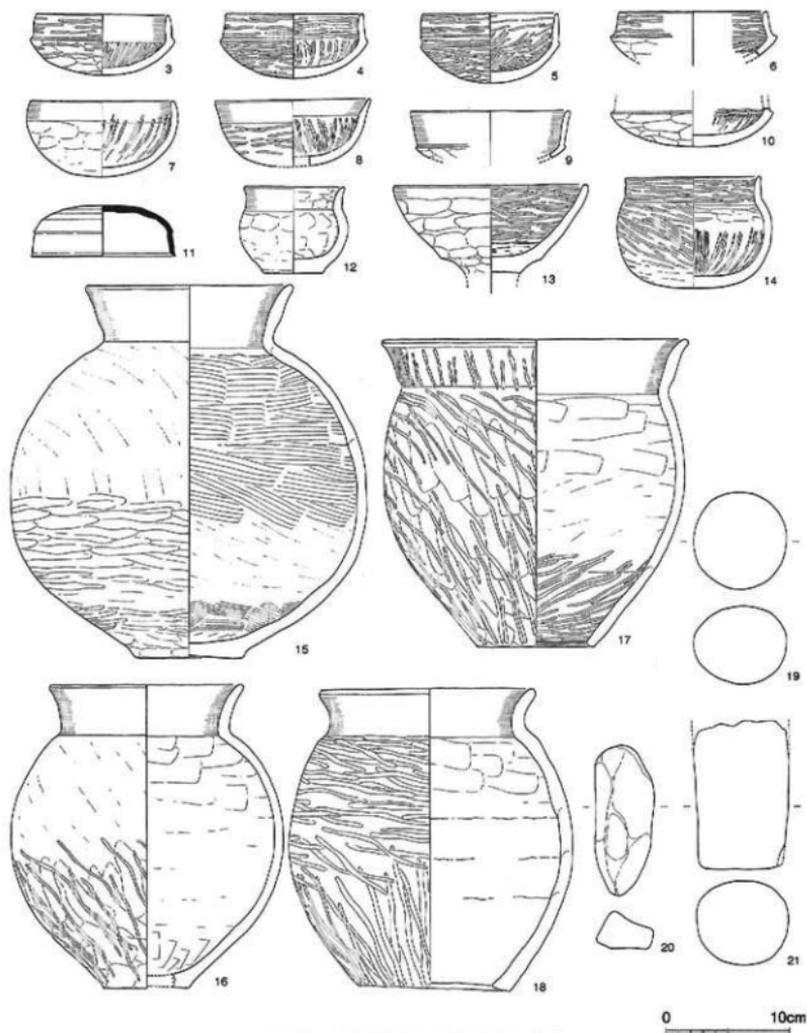
第90图 21号住居跡出土遺物実測図



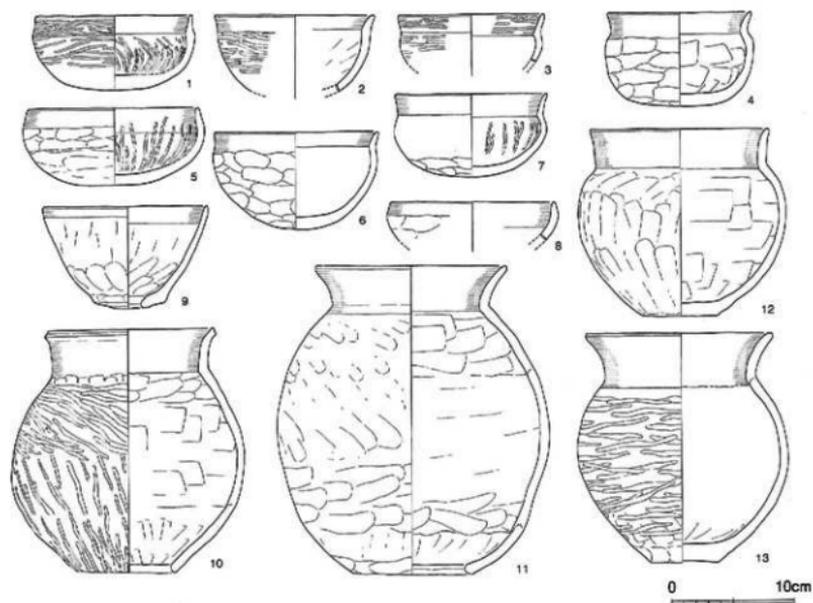
第91圖 22号住居跡出土遺物実測圖



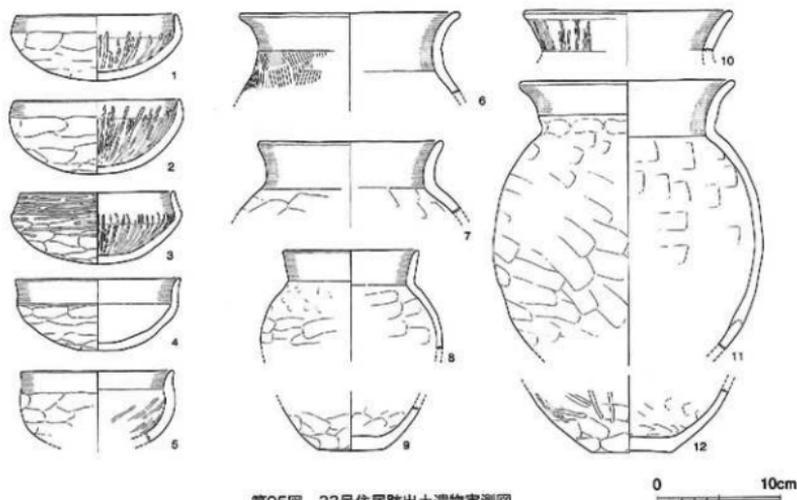
第92圖 23号住居跡出土遺物実測圖(1)



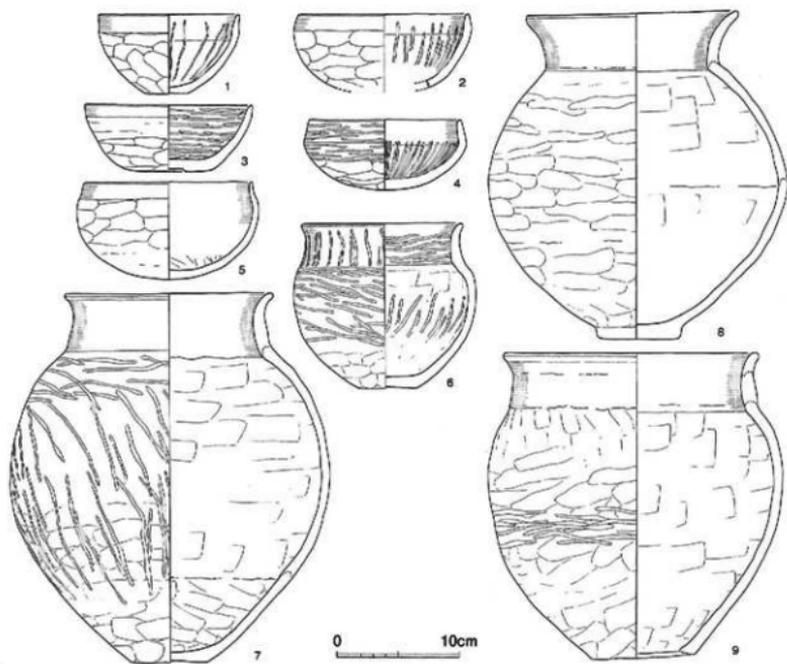
第93圖 23号住居跡出土遺物実測圖(2)



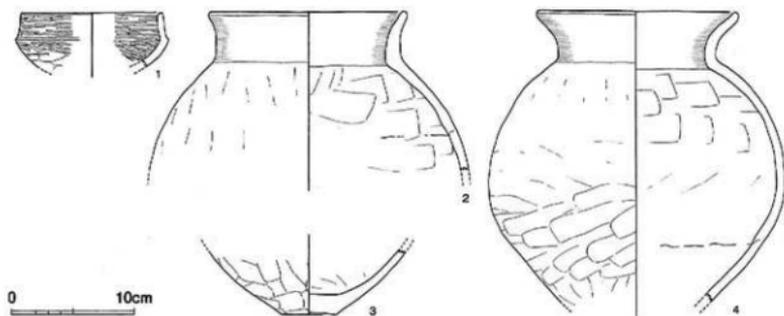
第94图 32号住居跡出土遺物実測図



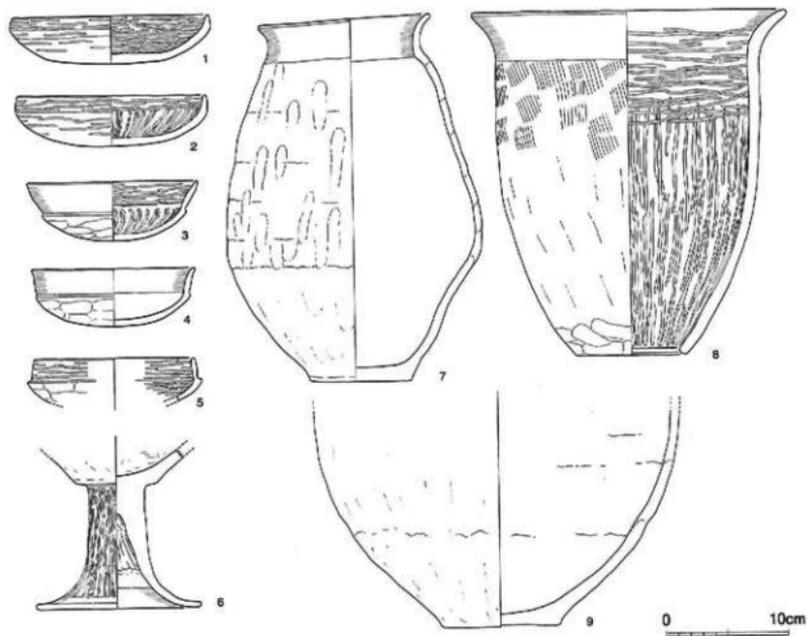
第95图 33号住居跡出土遺物実測図



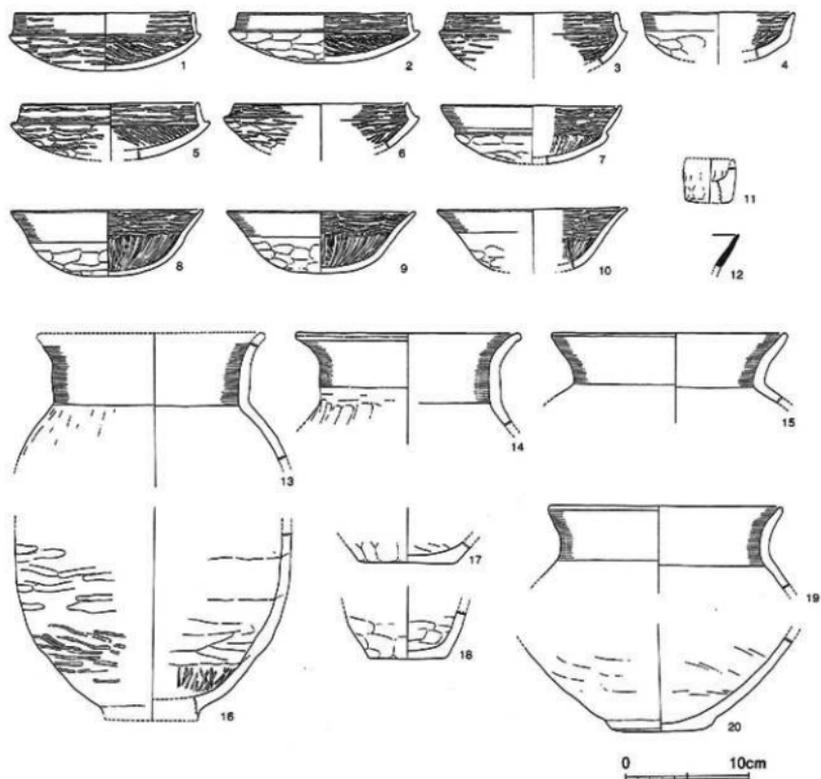
第96圖 34号住居跡出土遺物実測図



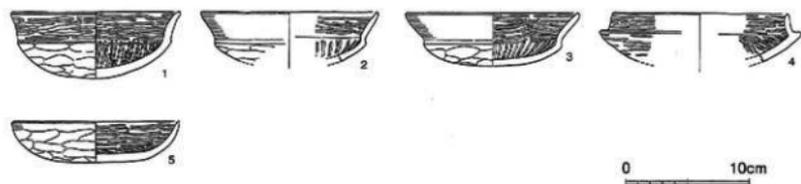
第97圖 35号住居跡出土遺物実測図



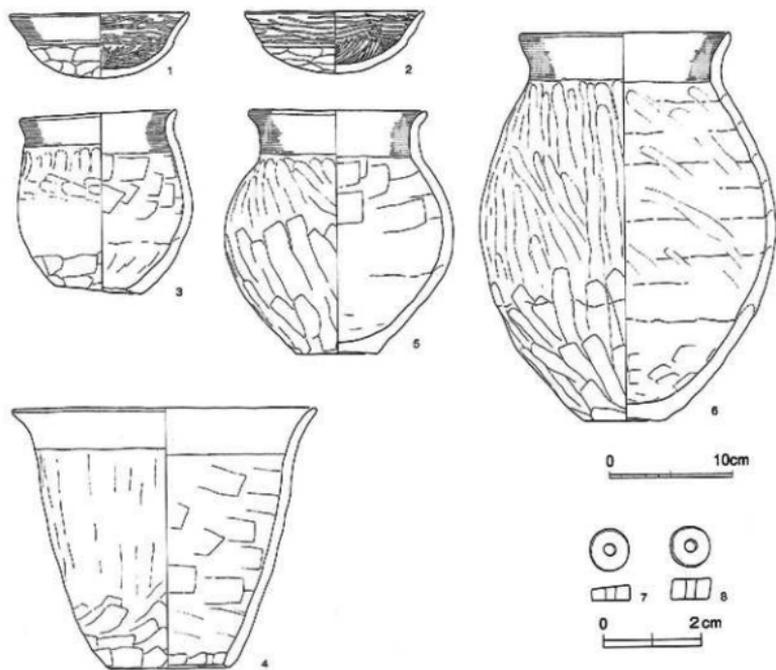
第98图 38号住居跡出土遺物実測図



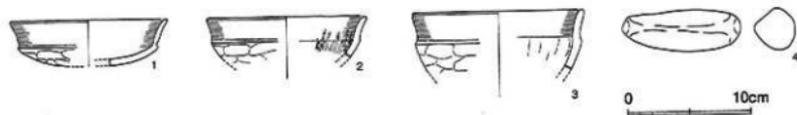
第99图 24号住居跡出土遺物実測図



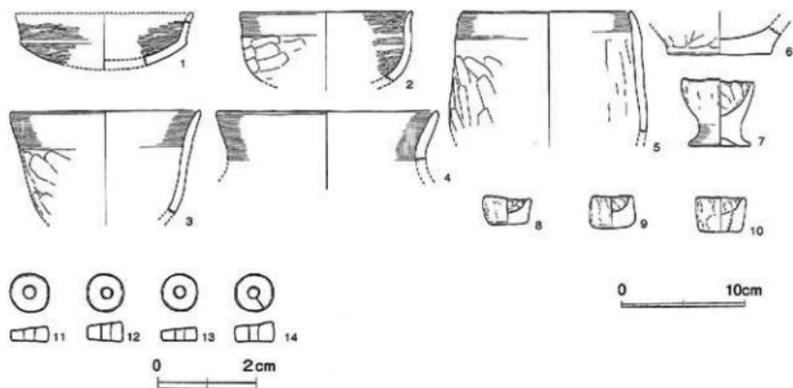
第100图 25号住居跡出土遺物実測図



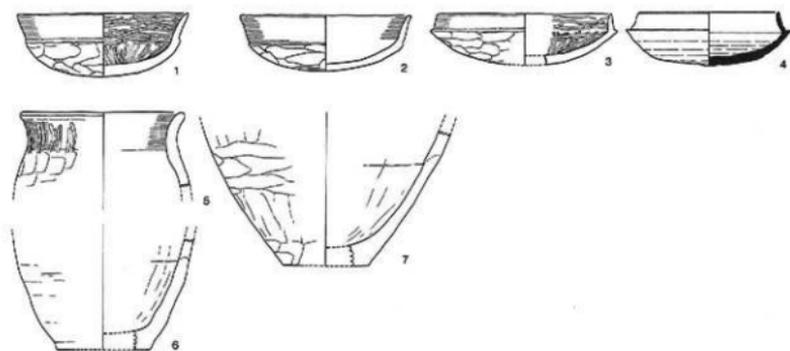
第101图 30号住居跡出土遺物実測図



第102图 31号住居跡出土遺物実測図



第103图 36号住居跡出土遺物実測図



第104图 37号住居跡出土遺物実測図

遺物 番号	器 種	寸法 (cm)		器形の特徴	器底の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考	
		口径	器高								
AIK1号 色足鉢	1 土師器 平	10.8	4.9	丸底で外側に棱を有し、口縁部は内傾する。	内面は口縁部コナナシ、底面は放射状ヘラミガキ。外面は口縁部横位のヘラミガキ。他はヘラケズリ、腰部に粗いヘラミガキ。	淡赤褐色	やや粗い砂粒を含む	良好	床直 Na9	2/3残	
AIK1号 色足鉢	2 土師器 平	11.4	-	丸底で外側に棱を有し、口縁部は内傾する。	内面は口縁部コナナシ、底面は放射状ヘラミガキ。外面は口縁部横位のヘラミガキ。他はヘラケズリ。	淡赤褐色	やや粗、赤色砂粒を含む	良好		1/3残	
AIK1号 色足鉢	3 土師器 平	11.5	5.5	外面に鋭い棱を有す。口縁部は内傾、胎り付け口縁。	内面は口縁部コナナシ、底面は放射状ヘラミガキ。外面は全面横位のヘラミガキ。	淡黄褐色	精製された胎土	良好	甕土中	1/4残	
AIK1号 色足鉢	4 土師器 平	11.8	5.6	丸底で外側に棱を有し、口縁部は直立する。	内面・外面とも全面ヘラミガキ。口縁部は横位。他は不定方向。	赤褐色	精製された胎土	良好	貯蔵穴 完形、赤彩、光沢あり	Na11	
AIK1号 色足鉢	5 土師器 平	10.8	4.8	外面に鋭い棱を有す。口縁部は内傾する。	内面は口縁部コナナシ、底面ヘラミガキ。外面は全面鋭い横位のヘラミガキ。	赤褐色	精製された胎土	良好	甕土中	1/5残	
AIK1号 色足鉢	6 土師器 平	11.3	-	外面に棱を有し、口縁部は直立する。	内面は横位のヘラミガキ。外面は口縁部は横位のヘラミガキ。他はヘラケズリ。	淡褐色	やや粗、微砂粒を含む	良好		1/5残	
AIK1号 色足鉢	7 土師器 平	13.7	4.0	天井部と口縁部を分ける稜の端部に稜が欠ける。	内面は口縁部コナナシ、右側縦口縁部使用。外面は口縁部コナナシ、天井部は約1/2を回転ヘラケズリ調整。	暗灰色	砂粒を多く含む	良好	甕土中 (床直上 15cm)	1/2残	
AIK1号 色足鉢	8 土師器 平	11.0	5.0	外面に鋭い棱を有す。口縁部は内傾する。	内面は口縁部コナナシ、左側縦口縁部使用。外面は口縁部コナナシ、約1/2を回転ヘラケズリ調整。	灰色	精製された胎土	良好	床直と甕土中の破片が混合。	Na3・12	2/3残
AIK1号 色足鉢	9 土師器 平	11.5	-	口縁部内面に棱を有す。	内面は口縁部横位。底面は放射状のヘラミガキ。外面は口縁部～腰部は横位のヘラミガキ。	褐色	密	やや粗		1/3残	
AIK1号 色足鉢	10 土師器 高 平	14.4	-	口縁部は無く内側に鋭い棱をつける。脚部は欠損。	内面は口縁部が横位。腰部が放射状のヘラミガキ。外面は口縁部コナナシ。他は斜位のヘラミガキ。	赤褐色	砂粒を少し含む	良好	甕土中 (床直上 50cm) Na0	1/2残 赤彩	
AIK1号 色足鉢	11 土師器 高 平	-	9.0	脚部は「ハ」の字状に固く。	内面はコナナシ。胎部近くは横位のヘラミガキ。外面は縦位のヘラミガキ。	暗赤褐色	精製された胎土	良好	床直 Na5	1/4残	
AIK1号 色足鉢	12 土師器 高 平	-	9.5	脚部は「ハ」の字状に固く。	内面は全面横位のヘラミガキ。外面は脚部は横位。胎部は横位のヘラミガキ。	淡赤褐色	精製された胎土	良好	甕土中 (床直上 15cm) Na2	1/3残	
AIK1号 色足鉢	13 土師器 高 平	10.6	7.0	底面は平底で、腰部は丸腰的に固く。	内面は口縁部コナナシ。他はヘラケズリ。外面は口縁部コナナシ、腰部は平づくね、底面は平底。	灰褐色	小砂粒を多く含む	不良	床直 Na15	4/5残	
AIK1号 色足鉢	14 土師器 高 平	22.3	-	口縁部はやや外反し、胎部は球部。	内面は口縁部コナナシ。他はヘラナデ。外面は口縁部コナナシ。他は横位のヘラミガキ。	外側暗赤褐色。内側暗褐色	やや粗、微砂粒を含む	普通		1/4残	
AIK1号 色足鉢	15 土師器 高 平	10.3	-	口縁部はやや外反し、胎部は球部。	内外面とも口縁部コナナシ。他はヘラナデ。	暗褐色	やや粗、2～3mmの砂粒を多く含む	良好		1/5残	
AIK1号 色足鉢	16 土師器 高 平	9.6	11.2	5.4 底面中央部に凹有り。胎部は球部。	内面は口縁部コナナシ、腰部ヘラケズリ。底面平ナデ。外面は口縁部コナナシ、胎部は球部。	黄褐色	粗い砂粒を多く含む	不良	床直 Na10	完形	
AIK1号 色足鉢	17 土師器 高 平	12.9	-	口縁部欠損。	内面は胎部近くは横位のヘラナデ。外面は斜向上半縦位の粗文風ヘラミガキ。他はヘラケズリ。	外側暗褐色。内側暗褐色	粗い砂粒を含む	良好	甕土中	1/2残	
AIK1号 色足鉢	18 土師器 高 平	-	4.2	底面は平底。胎部に凹有り。	平づくね。	茶褐色	砂粒を多く含む	良好	甕土中	1/2残	
AIK1号 色足鉢	19 土師器 高 平	-	6.5	底面中央に径2cmの円孔有り。	内面は横位のヘラナデ。外面は横位のヘラナデ。	外側暗褐色。内側暗褐色	粗い砂粒を含む	良好	甕土中	1/4残	
AIK1号 色足鉢	20 土師器 高 平	16.2	-	口縁部4等分直立気味に固く。胎部は球部。	内面は口縁部コナナシ、胎部横位のヘラナデ。外面は口縁部コナナシ、胎部横位のヘラナデ。	黄褐色	砂粒を多く含む	良好	床直 Na8	1/3残	
AIK1号 色足鉢	21 土師器 高 平	10.5	-	口縁部は外反する。	内面は口縁部コナナシ、横位のヘラミガキ。外面は口縁部コナナシ、胎部は球部。	暗赤褐色	やや粗。1～2mmの砂粒を含む	やや粗		口縁部 1/5残	

第2表 古墳時代住居跡出土遺物観察表(1)

遺物 番号	番号	種類	寸法 (cm)			器形の特徴	図案の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
			口径	器高	底径							
AIC1号 住居跡	22	須恵器						灰色	割製された 胎土	良好		破片
AIC2号 住居跡	1	土師器杯	10.8	6.2		外面に深い線を有し、 口縁部は内傾する。	内面は口縁部～体部ヨコナデ、底面 ヘラミダギ。外面は口縁部ヨコナ デ。体部はヘラケズリ。	茶褐色	微砂粒を含 む	良好	床直 №4	完形
AIC2号 住居跡	2	土師器杯	11.2	6.4		外面に軽い線を有し、 口縁部は内傾する。	内面は口縁部ヨコナデ。体部は放 射状ヘラミダギ。外面は口縁部ヨ コナデ。体部はヘラケズリ後、頂 位のヘラミダギ。	灰赤褐色	微砂粒を含 む	良好	床直 №1・2	4/5残
AIC2号 住居跡	3	土師器壺	18.5	20.7	5.4	口縁部は「く」の字に 外反。胴部最大径(22.0) はやや上位。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部縦位 のヘラナデ。外面は口縁部ヨコナ デ。胴部下半に縦位の軽いヘラナ デ。	暗褐色	砂粒を多く 含む	良好	床直 №2	2/3残 胴部外面 に灰化物 付着
AIC2号 住居跡	4	土師器壺	16.2			胴部はやや直立気味。 胴部最大径(19.7)は同 部近く。口縁部外面に 1条の筋線。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部縦位 のヘラナデ。外面は口縁部ヨコナ デ。胴部下半に縦位の軽いヘラナ デ。	暗褐色	砂粒を多く 含む	良好	床直 №4	2/3残 胴部外面 に灰化物 付着
AIC3号 住居跡	1	土師器杯	12.2	5.8		外面に線を有す。口縁 部は内傾。口縁は厚 付け。底部が厚手。	内面は口縁部が横位。底面が放射 状の密なヘラミダギ。外面は口縁 部から体部上半横位のヘラミダギ。	茶褐色	小砂粒を含 む	良好	覆土中 (深直上 10cm) №28	完形
AIC3号 住居跡	2	土師器杯	11.2	5.4		外面に深い線を有す。 口縁部は内傾。口縁は 厚付け。底部が厚手。	内面は口縁部ヨコナデ。底面はヘ ラミダギ。外面は口縁部ヨコナ デ。体部はヘラケズリ。	茶褐色	小砂粒を含 む	不良	覆土中 (深直上 43cm) №3	1/3残
AIC3号 住居跡	3	土師器杯	10.8			外面に深い線を有す。 口縁部はやや内傾。口 縁は厚付け。	内面は全面ヘラミダギ。外面は口 縁部縦位のヘラミダギ。	赤褐色	割製された 胎土	良好	割製口 の覆土中	1/5残
AIC3号 住居跡	4	土師器杯	13.0			外面に線を有す。口縁 部はやや外反。	内面は口縁部縦位。体部は縦位の ヘラミダギ。外面は口縁部ヨコ ナデ。体部はヘラケズリ。	明褐色	やや粗。微 砂粒を含む	良好		1/4残
AIC3号 住居跡	5	土師器杯	13.0	4.9		外面に線を有す。口縁 部は外傾。	内面は口縁部ヨコナデ。底面はヘ ラミダギ。外面は口縁部ヨコナ デ。体部はヘラケズリ。	褐色	砂粒を含む	不良	覆土中 (深直上 10cm) №25	1/3残
AIC3号 住居跡	6	土師器杯	11.9	5.5		内傾口縁。	内面は口縁部～体部が横位。底面 が放射状のヘラミダギ。外面は口 縁部ヨコナデ。体部はヘラケズリ。	暗赤褐色	割製された 胎土	良好	覆土中 (深直上 30cm)の 破片同士 が接合 №2・25	完形
AIC3号 住居跡	7	土師器杯	12.5	6.5		内傾口縁。	内面は口縁部縦位のヘラミダギ。 外面は全面縦位のヘラミダギ。	茶褐色	割製された 胎土	良好	覆土中 (深直上 40cm)の 破片同士 が接合 №1・2	1/5残
AIC3号 住居跡	8	土師器杯	14.4	7.4	5.1	外面に線を有す。口縁 部は内傾する。	内面は口縁部ヨコナデ。底面はヘ ラミダギ。口唇部へうで取あり。 外面は口縁部ヨコナデ。体部はヘ ラケズリ。	暗褐色	小砂粒を多 く含む	良好	床直 №13	完形
AIC3号 住居跡	9	土師器壺	12.5	9.0		口縁部がやや外反。	内面は口縁部が横位。体部～底面 が放射状のヘラミダギ。外面は口 縁部～体部上位をヘラミダギ。	茶褐色	割製された 胎土	良好	覆土中 (深直上 30cm)の 破片同士 が接合 №5・ 12・23	3/4残
AIC3号 住居跡	10	土師器壺	9.6	10.3		口縁部がやや外反。 胴部は球形。	内面は口縁部が横位。胴部～底面 が放射状のヘラミダギ。外面は口 縁部縦位。胴部上半横位のヘラミ ダギ。胴部下半はヘラケズリ。	赤褐色	割製された 胎土	良好	床直に 直立 №20	完形
AIC3号 住居跡	11	土師器鉢	16.8	25.0		口縁部は外傾。胴部は 球形で中心に最大径を 有す。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部は縦 位のヘラナデ。外面は口縁部ヨコ ナデ。胴部と胴下半ヘラケズリ。 他はナデ。	暗赤褐色	微・砂粒を 含む	良好	床直 №5・6・ 10・19	2/3残 胴部外面 下半に灰 化物付着
AIC3号 住居跡	12	土師器壺	16.5			口縁部は直立気味に立 ち上がる。	内面は口縁部ヨコナデ。外面は口 縁部ヨコナデ。胴部に縦位のヘ ラミダギ。	暗褐色	砂粒を含む	良好	コマダ 層の埋 積層	1/5残 二次焼成 を受ける

第3表 古墳時代住居跡出土遺物観察表(2)

遺物番号	番号	品名	寸法 (cm)		形状の特徴	装束の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
			口径	高さ							
AEK3号 住居跡	13	土師器鉢	17.2	-	口縁部は外反。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は口縁部のヘラナデ、胴部はヘラケズリ。	褐色	砂殻を多く含む	良好	覆土中(床面上30cm)の縦方向土中層合No14・16	1/5残
A区3号 住居跡	14	土師器鉢	19.5	-	口縁部は外反。口縁部外面に1条の瓦眼を施す。	内面・外面とも口縁部ヨコナデ、胴部はナデ。	赤褐色	強い砂殻を含む	良好	覆土中(床面上30cm)No15	1/5残
AEK3号 住居跡	15	土師器鉢	16.3	-	口縁部は外反し、胴部は球形。	内面は口縁部へ胴部上半積成、胴下半が碗位の軽いヘラミガキ。外面は口縁部碗位の軽いヘラミガキ、胴部は斜位のヘラケズリ。	赤褐色	割製された胎土	良好	覆土中(床面上10cm)の縦方向土中層合No18	1/2残一部灰化跡付
AEK3号 住居跡	16	細石	残存長7.0	最大厚0.6	最大幅3.5		灰色			No27	
AEK4号 住居跡	1	土師器杯	12.1	5.3	外面に線を有し、口縁部は直立する。	内面は口縁部へ体部碗位のヘラミガキ。外面は口縁部へ体部碗位のヘラミガキ。	明褐色	小砂殻を多く含む	良好	床直No6	2/3残
A区4号 住居跡	2	土師器杯	12.6	5.5	外面に線を有し、口縁部は直立する。	内面は口縁部へ体部碗位のヘラミガキ。外面は口縁部碗位のヘラミガキ。	明褐色	小砂殻を多く含む	やや不良	床直No5	3/4残
AEK4号 住居跡	3	土師器杯	13.9	-	口縁部はやや外転する。	内面は碗位のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラケズリ。	内面褐色、色は暗褐色	やや硬。1～2mmの砂殻を含む	良好	No4 好穴穴内	1/4残 褐色処理
A区4号 住居跡	4	土師器杯	15.4	-	口縁部は外反する。	内面は口縁部碗位、胴部は放射状のヘラミガキ。外面は碗位のヘラミガキ、胴部はヘラケズリ。	内面と口縁部赤褐色、他は明褐色	密、幾分砂殻を含む	良好	No4	赤彩
AEK4号 住居跡	5	土師器杯	15.0	6.8	外面に線を有し、口縁部は外転する。	内面は全部碗位のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ、体部はヘラケズリ。	赤褐色	幾分砂殻を多く含む	良好	カマド右側の壁面用No4	1/3残
A区4号 住居跡	6	土師器碗	10.5	8.2	4.9	平底で、口縁部が外反する。	内面は口縁部碗位のヘラミガキ、胴部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデ。	明褐色	割製された胎土	床直の21の上のNo1	完形
AEK4号 住居跡	7	手づくね	6.0	3.3	4.0	平底で、器面の凹凸が著しい。	手づくね成形。	赤褐色	幾分砂殻を含む	床直No1	1/4残
AEK4号 住居跡	8	手づくね	6.4	3.3	3.0	平底で、器面の凹凸が著しい。	手づくね成形。	赤褐色	幾分砂殻を含む	床直	完形
A区4号 住居跡	9	土師器杯	残存高13.1			長脚で、杯部の口縁部と胴部の頸部が欠損している。	内面は杯部放射状ヘラミガキ、胴部はヨコナデ。外面は胴部ヨコナデ、他はナデ。	赤褐色	小砂殻を含む	カマドの北端、倒立して使用No7	2/3残
A区4号 住居跡	10	土師器鉢	20.4	13.7	7.0	平底で、口縁部がやや外反。全体に器面が厚手。	内面は口縁部ヨコナデ、他はヘラミガキで大部分が碗位。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上部が碗位、下部が碗位のヘラケズリ。	外面褐色、内面褐色	幾分砂殻を多く含む	カマド右側に直した11に塗布品とされるNo2	完形
AEK4号 住居跡	11	土師器鉢	18.2	31.0	7.1	口縁部外反。長脚で最大径を中央に有する。全体に器面が厚手。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部上半積成のヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は全部碗位のヘラケズリの後上半に軽いヘラミガキ。	褐色	砂殻を多く含む	カマド右側に直した長脚No2	完形 胴部外面に灰化物付
A区4号 住居跡	12	土師器鉢	14.6	27.3	6.7	口縁部は強く外反。胴部最大径はほぼ中央に有する。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部は碗位のヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は上半がナデ、下半がヘラケズリ。	外面褐色、内面赤褐色	砂殻を多く含む	床直の15を台にするNo5	完形 胴部外面に灰化物付
AEK4号 住居跡	13	土師器鉢	20.0	34.5	6.0	口縁部は大きく外反し、胴部最大径はほぼ中央に有する。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部は碗位のヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は下半が碗位の、上半から中間が碗位の粗先ナデ。	褐色	砂殻を多く含む	カマドの床付穴に掛けられた器No3	完形 胴部外面に灰化物付
A区4号 住居跡	14	土師器鉢	15.7	31.4	7.8	口縁部は軽く外反し、長脚で最大径はほぼ中央に有する。胴部やや凹凸気味。中央部が厚手。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部は碗位のヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は下半が碗位の、上半から中間が碗位の粗先ナデ。	暗赤褐色	砂殻を多く含む	床直No9	完形

第4表 古墳時代住居跡出土遺物観察表(3)

遺跡 番号	番 号	種 類	寸法 (cm)			器形の特徴	胴部の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
			口径	高さ	底径							
A区4号 住居跡	15	土師器類	17.7	-	-	反胴で、口縁部は「く」の字状に外反する。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラケズリ。	褐色	砂粒を多く含む	不貞	床直 部立さきで 12の台に 利用 No12	1/5残
A区4号 住居跡	16	土師器類	14.2	15.5	4.8	口縁部は短く外反し、胴部に最大径を有する。胴部の凸出が著しい。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は短先ナデ。	明褐色	微砂粒を含む	やや不貞	ホマド右 袖の袖部 No65	完形
A区4号 住居跡	17	土師器類	-	残存高 13.5	6.4	口縁部欠損。胴部最大径は中央に有する。	内面は横位のヘラナデ。外面はナデ。	灰褐色	小砂粒を含む	不貞	ホマド茶 け穴に事 かつた 13に差 し込まれ る No63	4/5残
A区4号 住居跡	18	土師器類	-	-	7.9	平底。	内面は横位のヘラナデ。外面は横位のヘラケズリ。	赤褐色	砂粒を多く含む	不貞	ホマド左 袖の先端 部に付着 No61	1/5残
A区4号 住居跡	19	土師器類	-	-	6.2	平底。	内面は横位のヘラナデ。外面は横位のヘラケズリ。	暗褐色	砂粒を多く含む	不貞	床直 No5	1/5残
A区4号 住居跡	20	土師器類	21.6	20.5	8.7	口縁部は「く」の字に外反し、反胴で最大径はほぼ中央に有する。大形穿孔。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部は上部が横位、下部が斜位のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラケズリの幾何状の粗いヘラミガキ。	黄褐色	砂粒を多量に含む	良好	貯蔵穴床 直 No6	完形
A区4号 住居跡	21	土師器類	-	残存高 15.3	8.3	胴上半部欠損。大形穿孔。	内面は全面横位のヘラミガキ。孔部は断面取戻状のヘラケズリ。外面は横位のヘラケズリ。	内面暗褐色、外面黄褐色	砂粒を多く含む	不貞	床直 部立さきで 5の台に 利用 No11	1/2残
A区5号 住居跡	1	土師器類	12.7	5.9	-	丸底で、内側口縁。	内面は口縁部横位、体部は放射状のヘラミガキ。外面は全体に横位のヘラミガキ。	赤褐色、口縁部外面黄褐色	小砂粒を多く含む	良好	完形	
A区5号 住居跡	2	土師器類	12.2	5.0	-	丸底で、口縁部は内側する。	内面は口縁部が横位、外面は不明な放射状のヘラミガキ。外面は横位のヘラミガキ。	暗褐色(底面)	横位の砂粒を含む	良好	1/2残	
A区5号 住居跡	3	土師器類	-	-	-	外面に縦を有す。	内面は口縁部ヨコナデ、体部は放射状のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ、体部はヘラケズリ。	内面赤褐色、内面暗褐色	やや密、1～2mmの砂粒を含む	良好	1/5残	
A区5号 住居跡	4	土師器類	16.7	-	-	口縁部が外反する。	内面は口縁部ヨコナデ。外面は口縁部横位のヘラミガキ。胴部はナデ。	黄褐色	やや粗、4～5mmの砂粒を少し含む	良好	1/5残	
A区6号 住居跡	1	土師器類	-	-	-	丸底で、口縁部は内側。	内面は口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。体部はヘラケズリ。	内面赤褐色、外面黄褐色	やや密、赤色の砂粒を含む	良好	1/4残	
A区6号 住居跡	2	土師器類	11.9	6.9	-	丸底で、口縁部は短く直立する。	内面は口縁部ヨコナデ、体部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底面ヘラケズリ。	内面褐色、外面暗褐色	やや密、2～3mmの砂粒を若干含む	やや不貞	7号住居 7と接合	完形
A区6号 住居跡	3	土師器類	13.4	5.5	-	丸底で、口縁部は外側する。	内面は口縁部横位のヘラミガキ。体部は放射状のヘラミガキ。外面は口縁部は横位のヘラミガキ、体部はヘラケズリ。	口縁部外面と内面赤褐色、他は黄褐色	赤、微砂粒を少し含む	良好	1/4残	
A区6号 住居跡	4	土師器類	18.1	31.4	7.6	口縁部は外反、胴部最大径は中央に有する。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部上半はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。	暗赤褐色	粗、4～5mmの砂粒を含む	普通	2/3残	
A区6号 住居跡	5	土師器類	18.0	-	-	口縁部は外反、胴部最大径は中央に有する。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上半はヘラナデ。下半はヘラケズリ。	暗褐色	やや粗、3～5mmの砂粒を少し含む	普通	カマド	1/2残
A区6号 住居跡	6	土師器類	17.7	-	-	口縁部は外反、胴部最大径は中央に有する。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のナデとヘラケズリ。	黄褐色	やや粗、3～5mmの砂粒を少し含む	やや不貞	1/2残	

第5表 古墳時代住居跡出土遺物観察表(4)

遺構番号	番号	品名	寸法 (cm)			器形の特徴	器皿の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
			口径	器高	器径							
AIK62 住居跡	7	土師器甕	16.0	-	-	口縁部は外反する。	内外面とも口縁部ヨコナデ。	暗褐色	やや粗。2～3mmの砂粒を含む	普通		口縁部2/3残
AIK62 住居跡	8	土師器甕	-	-	6.9	平底。	内外面ともヘラナデ。	暗褐色	粗。4～5mmの砂粒を含む	やや不良		底部2/3残
AIK61 住居跡	9	土師器甕	17.8	29.0	7.0	口縁部は外反。胴部最大径は中位に有する。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部は横位のヘラナデと横位のヘラナデ。	灰赤褐色(混濁あり)	やや粗。4～5mmの砂粒を少し含む	やや不良		2/3残
AIK62 住居跡	10	土師器甕	10.1	28.3	10.7	口縁部は外反。胴部最大径は中位に有する。大形穿孔。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部は横位のヘラナデ。	暗赤褐色	やや粗。3～4mmの砂粒を含む	やや不良		完形
AIK62 住居跡	11	土師器甕	-	-	6.7	平底で、外面中央がやや凹む。	内外面ともヘラナデ。底部外面はヘラナデ。	褐色	やや粗。4～5mmの砂粒を含む	普通		
AIK72 住居跡	1	土師器碗	14.4	9.2	3.6	平底で、口縁部は直立する。	内面は口縁部ヨコナデ。体部はヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。体部は横位のヘラナデ。	灰赤褐色。内面の2/3は混濁色	やや粗。2～3mmの砂粒を多く含む	良好	No6+貯蔵穴	完形
AIK72 住居跡	2	土師器碗	-	-	3.8	口縁部欠損。	内面はヘラナデ。	外面は灰赤褐色、内面は暗褐色	やや粗。2mmの砂粒を含む	やや不良	No5	
AIK71 住居跡	3	土師器甕	16.6	-	-	口縁部は外反。	内外面とも口縁部ヨコナデ。	暗赤褐色	やや粗。2～3mmの砂粒を含む	普通		1/5残
AIK71 住居跡	4	土師器甕	16.0	-	-	口縁部は外反。	内外面とも口縁部ヨコナデ。	褐色	やや粗。3～4mmの砂粒を含む	やや不良	No1	3/4残
AIK71 住居跡	5	土師器甕	16.1	28.0	6.8	口縁部は直立後外反する。胴部は胴部最大径は中位に有する。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部は横位のヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部は横位のヘラミガキと胴部上半は横位のヘラミガキとナデ。下半はヘラナデとナデ。	暗褐色	粗。4～5mmの砂粒を多く含む	やや不良	No9+10	2/3残 外面全体に炭化物付着
AIK71 住居跡	6	土師器甕	-	-	7.3	口縁部欠損。胴部は基底。	内面は胴部上半は横位のヘラナデ。下半は胴部。外面は上半はヘラミガキ。下半はヘラナデ。	暗褐色	やや粗。2～3mmの砂粒を含む	普通		1/6残 輪郭面
AIK71 住居跡	7	土師器甕	18.4	14.2	8.1	外反する口縁部から底部にかけて徐々にすぼまる。穿孔。	内外面とも口縁部ヨコナデ。他はヘラナデ。	暗褐色	やや粗。2～3mmの砂粒を多く含む	やや不良	No10	2/3残
AIK71 住居跡	8	土師器甕	20.6	22.5	9.6	口縁部は外反し。胴部最大径は中位に有する。穿孔。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部上半はヘラナデ。下半はヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部は横位のヘラナデ。下部はハケメとヘラナデ。	灰赤褐色	やや粗。3～4mmの砂粒を含む	やや不良	No10	完形
AIK71 住居跡	9	土師器甕	23.7	19.0	6.5	外反する口縁部から底部にかけて徐々にすぼまる。穿孔。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。中位と下位にヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部上半位はヘラナデ。下位にヘラナデ。	灰褐色	やや粗。2～3mmの砂粒を含む	普通	No10	完形 輪郭面
AIK72 住居跡	10	支脚	幅 8.7	高さ 4.8								
AIK82 住居跡	1	土師器杯	11.0	6.4		内斜口縁。底部が凹む。	内面は口縁部～体部ヨコナデ。底部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。体部はヘラナデ。	暗褐色	砂粒多量混入	やや不良	NoA	4/5残
AIK82 住居跡	2	土師器杯	12.4	6.0	4.2	内斜口縁。底部が凹む。	外面は口縁部ヨコナデ。体部はヘラナデ。	暗褐色	砂粒多量混入	やや不良	NoB	1/3残
AIK81 住居跡	3	土師器甕	-	-	8.4	穿孔。	内外面ともヘラナデ。底部は蛇腹状穿孔。	灰褐色(混濁有り)	3～4mmの砂粒を少し含む	普通		1/3残
AIK81 住居跡	4	土師器甕	16.0	-	-	口縁部は外反し。胴部は基底。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部上半はヘラナデ。下半はヘラナデ。	暗赤褐色	2～3mmの砂粒多し	やや不良	NoA	輪郭面
AIK82 住居跡	5	土師器甕	-	-	7.8	平底。	底部外面ヘラナデ。	褐色	2～3mmの砂粒多し	普通	NoA	

第6表 古墳時代住居跡出土土物観察表(5)

遺構 番号	番 号	形 状	寸法 (cm)			形状の特徴	築造の特徴	色調	粘土	構成	出土位置	備考
			口徑	高さ	底径							
B区11号 住居跡	1	土師器平 鉢	12.1	4.6	6.5	平底で、口縁部が傾か に直立する。	内面は全面放射状のヘラミガキ。 外面は口縁部はヨコナデ、底部は ヘラケズリ。	褐色	1~2mm の砂粒混入	良好	床直 №2	1/2枚
B区11号 住居跡	2	土師器平 鉢	11.2	5.7		外面に線を有し、口縁 部は内傾する。	内面は口縁部積位のヘラミガキ、 底部は放射状のヘラミガキ。外面 は口縁部ヨコナデ、底部はヘラケ ズリの上ヒミガキ。	内外両面赤 褐色	やや中。1 ~2mmの 砂粒を含む	良好		1/4枚
B区11号 住居跡	3	土師器平 鉢	12.1	5.9		外面に線を有し、口縁 部は内傾する。	内面は全面放射状のヘラミガキ。 外面は口縁部は積位のヘラミガ キ、底部はヘラケズリ。	暗褐色	2~3mm の砂粒を含 む	良好	床直 №3	完整
B区11号 住居跡	4	土師器平 鉢	12.5	5.0		外面に線を有し、口縁 部は内傾する。	内面は口縁部ヨコナデ、底部は放 射状のヘラミガキ。外面は口縁部 と底部は積位のヘラミガキ、底部 はヘラケズリ。	赤褐色	微砂粒混入	良好	床直 №1	1/3枚 赤影か?
B区11号 住居跡	5	土師器平 鉢	12.5	-		口縁部は傾く外反する。	内面は口縁部が積位のヘラミガ キ、底部はナデ。外面は全面放射 状のヘラミガキ。	内面赤褐 色、外面暗 褐色	微砂粒混入	良好	床直 №6	1/3枚
B区11号 住居跡	6	土師器高 杯	13.9	10.3	9.1	杯部外面の下唇に線を 有し、胴部は「ハ」の 字状に開く。	内面は杯部が全面放射状の積位の ヘラミガキ、胴部は横ヘラナデ。 外面は杯部が全面放射状のヘラミ ガキ、胴部は積位のヘラミガキ。新 部はヨコナデ。	淡赤褐色	結晶された 粘土	良好	マッド中 (3割)の 貯蔵穴 土中の線 合 マッド№ 1	2/3枚 赤影か?
B区11号 住居跡	7	土師器高 杯	18.0	-		胴部が傾かに直立して 口縁が外反する。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部上位 は積位のヘラナデ。外面は口縁部 ヨコナデ、胴部上位は積位のナデ。	褐色	4~5mm の砂粒混入		覆土中位 層 №4	1/5枚
B区11号 住居跡	8	碓石	長さ 11.5	最大厚 3.2	最大幅 5.2			灰オーブ			柱穴	
B区13号 住居跡	1	土師器平 鉢	13.5	4.7		丸底で、外部外面に線 を有し、口縁部は外傾 する。	内面は口縁部積位のヘラミガキ、 底部は放射状のヘラミガキ。外面 は口縁部ヨコナデ、底部はヘラケ ズリ。	赤褐色	微砂粒混入	良好	床直 №25	赤影
B区13号 住居跡	2	土師器平 鉢	15.1	5.1		丸底で、外部外面に線 を有し、口縁部は外反 する。	内面は口縁部積位のヘラミガキ、 底部は放射状のヘラミガキ。外面 は口縁部ヨコナデ、底部はヘラケ ズリ。	赤褐色	微砂粒混入	良好	覆土下層 (4割)中 №18	完整
B区13号 住居跡	3	土師器平 鉢	14.3	4.8		丸底で、外部外面に線 を有し、口縁部は外傾 する。	内面は口縁部積位のヘラミガキ、 底部は放射状のヘラミガキ。外面 は口縁部ヨコナデ、底部はヘラケ ズリ。	赤褐色	微砂粒混入	良好	床直 №6	4/5枚
B区13号 住居跡	4	土師器平 鉢	14.6	4.0		丸底で、外部外面に線 を有し、口縁部は外傾 する。	内面は口縁部積位のヘラミガキ、 底部は放射状のヘラミガキ。外面 は口縁部ヨコナデ、底部はヘラケ ズリ。	赤褐色	微砂粒混入		床直 №12	4/5枚
B区13号 住居跡	5	土師器平 鉢	14.7	4.7		丸底で、外部外面に線 を有し、口縁部は内傾 する。	内面は全面ヘラミガキ。外面は口 縁部積位のヘラミガキ、底部は ヘラケズリ。	内外両色	微砂粒混入	良好	床直 №10	2/3枚 内外ウレ シ仕上げ
B区13号 住居跡	6	土師器平 鉢	12.8	4.4		丸底で、外部外面に線 を有し、口縁部は外反 する。	内面は口縁部ヨコナデ、底部もナ デ。外面は口縁部ヨコナデ、底部 はヘラケズリ。	暗褐色	微砂粒混入		床直 №2	完整
B区13号 住居跡	7	土師器平 鉢	14.5	5.0		丸底で、外部外面に線 を有し、口縁部は直立 する。	内面は口縁部ヨコナデ、底部はヘ ラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ、 底部はヘラケズリ。	褐色	微砂粒多量 混入		マッド炭 口部 マッド№ 2	2/3枚
B区13号 住居跡	8	土師器平 鉢	13.2	6.1		丸底で、外部外面に線 を有し、口縁部は直立 する。	内面は全面ヘラミガキ。外面は口 縁部と底部はヘラミガキ、底部は ヘラケズリ。	内外両色	微砂粒混入	良好	貯蔵穴 土中	4/5枚 内外ウレ シ仕上げ
B区13号 住居跡	9	土師器平 鉢	14.5	4.5		丸底で、外部外面に線 を有し、口縁部は内傾 する。	内面は口縁部積位のヘラミガキ、 底部は放射状のヘラミガキ。外面 はヨコナデ、底部はヘラケズリ。	内外及び口 縁部外面赤 褐色	微砂粒混入	良好	床直 №24	1/2枚 赤影
B区13号 住居跡	10	土師器平 鉢	12.9	5.2		丸底で、外部外面に線 を有し、口縁部は内傾 する。	内面は全面ヘラミガキ。外面は口 縁部積位のヘラミガキ、底部は ヘラケズリ。	暗褐色	微砂粒混入	良好	覆土下層 (4割)中 №5	完整 外部外面 に「メ」の ヘラミガ キ
B区13号 住居跡	11	土師器平 鉢	12.9	4.2		丸底で、外部外面に線 を有し、口縁部は内傾 する。	内面は口縁部ヨコナデ、底部はヘ ラミガキ。外面は口縁部積位のヘ ラミガキ、底部はヘラケズリ。	内外両色	微砂粒混入	良好	床直 №1	完整 内外ウレ シ仕上げ

第8表 古墳時代住居跡出土遺物観察表(7)

遺物 番号	番 号	器 種	寸法 (cm)			器形の特徴	装飾の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
			口径	器高	底径							
地区13号 住居跡	12	土師器杯	14.1	5.1	-	丸底で、体部外面に線を有し、口縁部は内嵌する。	内面は口縁部が稜位のヘラミガキ、体部は放射状のヘラミガキ、外面は口縁部が稜位のヘラミガキ、体部はヘラケズリ。	暗赤褐色	微砂粒混入	良好	床直 №17	完形 ウレン仕 上げ
地区13号 住居跡	13	土師器高 杯	18.5	-	-	杯部は外面に線を有し、口縁部は外反する。胴部は長脚。	内面は口縁部が稜位(2線状)、底面放射状のヘラミガキ、胴部はナゲツク。外面は口縁部ヨコナデ、体部はヘラケズリ、胴部は稜位のヘラミガキ。	淡赤褐色	微砂粒多量 混入	良好	オマド内 段文まで 4/5残 二次焼成 を受ける オマド№ 1	
地区13号 住居跡	14	土師器高 杯	17.0	-	-	杯部は外面に線を有す、胴部は欠損。	内面は口縁部が稜位のヘラミガキ、底面は放射状のヘラミガキ、外面は口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリ。	暗赤褐色	1~2mm の砂粒混入	良好	甌土中層 (2区)中 №20	1/3残
地区13号 住居跡	15	土師器高 杯	19.0	-	-	杯部は外面に線を有し、口縁部は外反。胴部は欠損。	内面は口縁部が稜位のヘラミガキ、底面は放射状のヘラミガキ、外面は口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリ。	黄褐色	1~2mm の砂粒混入	良好	床直 №15	1/2残
地区13号 住居跡	16	土師器高 杯	-	-	-	杯部欠損、長脚。	内面は稜位のヘラミガキ、外面は稜位のヘラミガキ。	黄褐色	1~2mm の砂粒混入	良好	甌土中4 層 №16	1/3残
地区13号 住居跡	17	土師器盃	13.5	16.0	6.8	口縁部は横かに外反する。胴部最大径は上段に有する。	内面は口縁部ヨコナデ、以下はヘラミガキ、外面は口縁部ヨコナデ、胴部は上半がナゲツク下半がヘラケズリ、底面はヘラケズリ。	暗褐色	2~3mm の砂粒混入	良好	床直 №12	2/3残
地区13号 住居跡	18	土師器盃	17.5	-	-	口縁部は横かに外反。	内面・外面とも口縁部ヨコナデ。	褐色	3~4mm の砂粒混入	良好	甌土中2 層 №3	
地区13号 住居跡	19	土師器盃	17.5	-	-	口縁部は外反。	内面・外面とも口縁部ヨコナデ。	褐色	3~4mm の砂粒混入	良好	床直	4/3残 口縁
地区14号 住居跡	1	土師器杯	15.0	3.3	-	丸底で、体部外面に線を有し、口縁部は外反する。	内面は口縁部が稜位のヘラミガキ、底面は放射状のヘラミガキ、外面は口縁部が稜位のヘラミガキ、体部はヘラケズリ。	内面及び口 縁外面赤褐色	微砂粒混入	良好	甌土下層 3区の中	4/5残
地区14号 住居跡	2	土師器杯	15.6	3.8	-	丸底で、体部外面に線を有し、口縁部は外反する。	内面は口縁部ヨコナデ、底面は放射状のヘラミガキ、外面は口縁部ヨコナデ、体部はヘラケズリ。	淡赤褐色	微砂粒混入	良好	オマド内 段部中	二次焼成 を受ける 赤彩か?
地区14号 住居跡	3	土師器杯	14.0	4.5	-	丸底で、体部外面に線を有し、口縁部は外嵌する。	外面は口縁部ヨコナデ、体部はナゲツク。	暗赤褐色	微砂粒混入	良好	甌土下層 3区の中	1/3残
地区14号 住居跡	4	土師器杯	13.4	5.1	-	丸底で、体部外面に線を有し、口縁部は直立する。	内面は口縁部ヨコナデ、体部はヘラミガキ、外面は口縁部ヨコナデ、体部はヘラケズリ。	黄褐色	微砂粒混入	良好	甌土下層 3区の中 №6	2/3残
地区14号 住居跡	5	土師器杯	13.2	3.8	-	丸底で、体部外面に線を有し、口縁部は直立する。	内面・外面ともヘラミガキ。	黄褐色	微砂粒混入	良好	段文2区 土下層中	完形 内外両面 土処理
地区14号 住居跡	6	土師器杯	14.0	5.0	-	平底形。	内面は放射状のヘラミガキ、外面は稜位のヘラケズリ。	赤褐色	微砂粒混入	良好	甌土下層 3区の中	1/5残 赤彩
地区14号 住居跡	7	土師器高 杯	-	-	9.8	長脚で、三方に長方形の透かし孔を穿つ。胴部は長脚。	内面は胴部はヨコナデ、横柱部は稜位のヘラミガキ、外面は稜位のヘラミガキ、胴部はヨコナデの後ヘラミガキの縦文。	淡赤褐色	微砂粒混入	良好	甌土下層 3区の中 №4	1/2残 赤彩か?
地区14号 住居跡	8	土師器高 杯	-	-	-	長脚。	内面は稜位のヘラミガキ、外面は稜位のヘラミガキ。	黄褐色	1~2mm の砂粒混入	良好	オマド内 道直上土	1/3残
地区14号 住居跡	9	土師器高 杯	21.5	-	-	杯部は「ハ」の字状に開く。	内面は稜位のヘラミガキ、外面は稜位のヘラミガキ。	赤褐色	微砂粒混入	良好	甌土下層 3区の中	1/5残
地区14号 住居跡	10	土師器高 杯	-	-	13.5	脚部部のみが残存。	内面はヨコナデ、外面はヘラミガキ。	黄褐色	微砂粒混入	良好	甌土下層 3区の中 №1	1/4残
地区14号 住居跡	11	土師器盃	10.5	14.0	5.0	口縁部は長く外反する。胴部最大径は中や上段に有する。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラミガキ、外面は口縁部ヨコナデ、胴部は稜位、胴部は稜位のヘラケズリ、底面はヘラケズリ。	暗褐色	1~2mm の砂粒混入	良好	床直 №3	完形
地区14号 住居跡	12	土師器盃	20.0	-	-	口縁部は外反する。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部は稜位のヘラミガキ、外面は口縁部ヨコナデ、胴部はナゲツク。	褐色	3~4mm の砂粒混入	良好	床直 №1	1/5残 1.3の胴 部は同一 個体

第9表 古墳時代住居跡出土遺物観察表(8)

遺物 番号	番 号	種 類	寸法 (cm)			器形の特徴	製造の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考	
			口徑	器高	底径								
B区14号 住居跡	13	土師器蓋	-	-	8.1	底面やや突出する。	内面は横位のヘラナゲ、外面はナゲ。	褐色	3～4mm の砂粒混入	床直 №1			
B区14号 住居跡	14	土師器蓋	13.5	22.8	6.4	口縁部は僅かに外反する。胴部最大径はやや下位に有する。	内面は口縁部ヨコナゲ、胴部はヘラナゲ。外面は口縁部ヨコナゲ、胴部はナゲ。底面はヘラナゲ。	瓶上半口 縁部淡赤褐色、 以下は 明褐色	2～3mm の砂粒混入	床直 №2		定形 東上半部 と口縁部 赤彩が?	
B区14号 住居跡	15	土師器蓋	16.1	31.3	7.9	口縁部は外反する。長胴。	内面は口縁部ヨコナゲ、胴部は横位のヘラナゲ。外面は口縁部ヨコナゲ、胴部は上半がナゲ、下半がヘラナゲ。底面はヘラナゲ。	暗褐色(底 面有り)	3～4mm の砂粒混入	良好	カマド №1		定形
B区14号 住居跡	16	土師器蓋	17.8	35.5	8.1	口縁部は外反する。長胴。	内面は口縁部ヨコナゲ、胴部は横位のヘラナゲ。外面は口縁部ヨコナゲ、胴部はナゲ。	暗褐色	3～4mm の砂粒混入	カマド支 脚上			定形 二次焼成 を受ける
B区14号 住居跡	17	土師器蓋	23.4	24.2	8.6	口縁部は外反する。単孔。	内面は口縁部ヨコナゲ、胴部は横位のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナゲ、胴部は中・上位がナゲ、下位がヘラナゲ。	赤褐色	3～4mm の砂粒混入	良好	野塚穴 土下層中 カマド №2		定形
B区14号 住居跡	18	石製支脚	長さ 14.0	最大幅 8.2	厚さ 5.5								
B区15号 住居跡	1	土師器環	13.3	4.0	-	体部外面に稜を有し、口縁部は外反する。	内面は口縁部横位のヘラミガキ、体部は放射状のヘラミガキ。外面は口縁部横位のヘラミガキ、体部はヘラナゲ。	暗褐色	やや密、 1mm前後 の砂粒を 含む	良好			1/4残
B区15号 住居跡	2	土師器環	12.8	3.6	-	体部外面に稜を有し、口縁部は内反する。	内面は口縁部ヨコナゲ、体部はヘラミガキ。外面は全面横位のヘラミガキ。	淡赤褐色	やや密、 1mm前後 の砂粒を 含む	良好	カマド 近く		
B区15号 住居跡	3	土師器環	14.2	4.3	-	体部外面に稜を有し、口縁部は外反する。	内面は口縁部横位のヘラミガキ、底面放射状のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナゲ、体部はヘラナゲ。	赤褐色	密、赤色・ 白色粒子 を含む	良好	床直		1/4残
B区15号 住居跡	4	土師器輪	8.7	4.4	4.9	口縁部は短く直立する。体部は丸みを帯び、平底。	内外面とも口縁部ヨコナゲ、体部はヘラナゲ。	暗褐色	やや密、赤 色・白色 粒子を含む	やや不 良	床直		1/2残
B区15号 住居跡	5	土師器輪	10.5	7.3	-	縁部で、口縁部はわずかに外反する。	内面は口縁部ヨコナゲ、胴部は横位の横位のヘラミガキ。外面は縦位のヘラミガキ。	内面暗褐色、 外面赤褐色	やや密、 1mm前後 の砂粒、赤 色粒子を含む	良好	床直		1/2残 内面赤色 処理
B区15号 住居跡	6	土師器蓋	-	-	7.8	平底。	外面は縦部付足にヘラナゲ。他はヘラナゲ。	暗褐色	粗、3～ 4mmの砂 粒を多く含む	やや不 良	№1		
B区15号 住居跡	7	土師器蓋	-	-	9.0	平底。	内面はヘラナゲ。外面は縦部付足にヘラナゲ。他はヘラナゲ。	暗褐色	やや粗、3 ～4mmの 砂粒を少し 含む	やや不 良			
B区16号 住居跡	1	土師器環	14.2	7.1	5.4	体部外面に稜を有し、口縁部は直立する。	内面は口縁部ヨコナゲ、体部はヘラナゲ。外面は口縁部ヨコナゲ、体部はナゲ。底面はヘラナゲ。	暗褐色、暗 赤褐色	粗、2～ 3mmの砂 粒を多く含む	普通	床直		定形
B区16号 住居跡	2	土師器環	13.8	4.7	-	体部外面に稜を有し、口縁部はやや外反する。	内面は口縁部ヨコナゲ。外面は口縁部ヨコナゲ、体部はヘラナゲ。	明褐色	やや密、1 ～2mmの 砂粒をやや 多く含む	普通	床直+カ マド		1/4残
B区17号 住居跡	1	土師器環	11.0	5.0	-	体部外面に稜を有し、口縁部は直立する。	内面は口縁部ヨコナゲ、体部は放射状のヘラミガキ。外面は口縁部横位のヘラミガキ、体部はヘラナゲ。	淡赤褐色	やや密、 1mm前後 の砂粒、赤 色粒子を含む	やや不 良	カマド内		1/2残
B区17号 住居跡	2	土師器環	14.2	4.7	-	体部外面に稜を有し、口縁部は外反する。	内面は口縁部横位のヘラミガキ。底面は放射状のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナゲ、体部はヘラナゲ。	淡赤褐色	やや密、赤 色粒子を含む	やや不 良	野塚穴+ カマド		1/3残
B区17号 住居跡	3	土師器輪	12.8	10.5	-	口縁部は中やや内傾し、内面に稜をつける。	内外面とも口縁部ヨコナゲ、胴部上位はヘラミガキ、他はヘラナゲ。	暗褐色	やや密、2 ～3mmの 砂粒を多く 含む	やや不 良	野塚穴+ カマド		4/5残

第10表 古墳時代住居跡出土遺物観察表 (9)

遺物 番号	番 号	器 種	寸法 (cm)			器形の特徴	装束の特徴	色調	粘土	焼成	出土位置	備考
			口径	器高	底径							
B区17号 住居跡	4	土器器蓋	16.7	-	-	口縁部は外反する。	内外面とも口縁部ヨコナデ。	暗茶褐色	粗。5～7mmの砂粒を多く含む	不良	貯蔵穴	
B区17号 住居跡	5	土器器蓋	22.2	23.2	8.4	口縁部は外反し、外面は2条の筋線がめぐる。手孔。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部上段はヘラケズリ、中位はナデ、下位はハケミガキ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上半ヘラケズリ、下半はケズリ。	暗褐色	やや粗。2～3mmの砂粒を多く含む	やや良	貯蔵穴	完形 輪研削
B区17号 住居跡	6	土器器蓋	-	-	8.6	球割。	内面は満高、外面は胴部上へ中位はヘラケズリ、下位から底面にかけてヘラケズリ。	暗茶褐色	粗。5～7mmの砂粒を多く含む	不良		
B区17号 住居跡	7	土製支脚	最大幅 6.2	高さ 5.7				暗茶褐色	やや粗。1～2mmの砂粒を多く含む	やや良	土割	
B区19号 住居跡	1	土器器杯	14.3	4.3		外面に線を有す。口縁部は内傾。	内面は全面ヘラミガキ、外面は口縁部ヨコナデ、他はヘラケズリ。	内外黒色	やや粗。1mm前後の砂粒を多く含む	やや良	輪18段 +下研	完形 外面に溝 彫有
B区19号 住居跡	2	土器器杯	13.9	4.7		外面に線を有す。口縁部は外傾。	内面は口縁部傾位、底面は放射状のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ、他はヘラケズリ。	内面黒褐色、外面褐色	粗。1mm前後の砂粒を多く含む	良好	輪14段 +下研	1/3残
B区19号 住居跡	3	土器器杯	13.3	3.1		外面に線を有す。口縁部は内傾。	内面は全面ヘラミガキ、外面は口縁部ヨコナデ、胴部上半はヘラケズリ、下半から底面はヘラミガキ。	やや粗、褐色(黒味あり)	やや粗。1mm前後の砂粒を含む	やや良	カマド輪 3+No.27	完形
B区19号 住居跡	4	土器器杯	12.8	6.1	6.3	外面に線を有す。口縁部はやや内傾。	内面は口縁部～胴部上半ヨコナデ、他はヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上半ヘラミガキ、下半から底面はヘラケズリ。	灰黒褐色	やや粗、微砂粒を多く含む	やや良	No.8	4/5残
B区19号 住居跡	5	土器器蓋 杯	14.7	-	-	杯部は口縁が外傾し、外面に線を有す。胴部は断面を欠く。	杯部は内面が満高、外面は口縁部傾位のヘラミガキ、胴部は縦位のヘラケズリ、外面はさらにヘラミガキ。	淡茶褐色	やや粗。1mm前後の砂粒を含む	やや良	カマド	4/5残
B区19号 住居跡	6	土器器碗	12.1	8.0	7.2	外面に線を有す。口縁部はやや外傾。	内面は口縁部～胴部上半ヨコナデ、他はヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ、他はヘラケズリ。	明褐色	やや粗。1～2mmの砂粒を含む	普通	No.3	2/3残
B区19号 住居跡	7	土器器碗	14.6	9.0	8.0	杯部から口縁部に丸みをもって立ち上がる。底面は平底で中央に3底有り。	内面は全面ヘラケズリ、外面は縦位の縞いヘラケズリ。	暗褐色	やや粗、微砂粒を含む	普通	No.10+ 24+下研	
B区19号 住居跡	8	土器器碗	13.0	9.2	5.0	口縁部はやや外反。底面外面に圧痕有り。	内面は口縁部と底面はヘラミガキ、杯部はヘラケズリ。外面は口縁部ヨコナデ、杯部はナデ、他はヘラケズリ。	内面暗茶褐色、外面淡褐色	やや粗、微砂粒を含む	やや不良	No.9	完形
B区19号 住居跡	9	土器器碗	-	-	-	丸底で杯部は直立する。	内面はヘラミガキ、外面はヘラケズリ。	内面黒色、外面褐色	やや粗。1mm前後の砂粒を含む	やや良	No.17	口縁部欠 損 内面黒色 処理
B区19号 住居跡	10	土器器碗	-	-	8.2	胴部は丸みを持つ。	内面はヘラミガキ、外面はヘラケズリ。	褐色	やや粗、微砂粒を多く含む	やや良	No.1	
B区19号 住居跡	11	土器器鉢	17.6	-	-	外傾す口縁部を最大径とし、胴部は狭らすにすばまる。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上段は縦位のヘラケズリ、他は縦位のヘラケズリ。	内面暗褐色、外面褐色	2～3mmの砂粒を多く含む	やや不良	No.23- 25+カ マド	口縁部完 形
B区19号 住居跡	12	土器器鉢	13.6	-	-	胴部から口縁部にかけては直立。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラケズリ、外面はヘラケズリ。	暗褐色	やや粗。1～2mmの砂粒を含む	やや不良	カマド内	1/4残
B区19号 住居跡	13	土器器 小形壺	11.8	13.2	8.0	口縁部は外傾し、最大径は胴部中段。	内面は傾位のヘラミガキ、胴部上半はヘラケズリ、下半は満高。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位のナデで下段はヘラケズリ、底面はヘラケズリ。	暗茶褐色	やや粗、微砂粒を多く含む	不良	No.6目研 +上研	
B区19号 住居跡	14	土器器 小形壺	14.8	13.9	7.5	口縁部はわずかに外傾。最大径は胴部中位。	内面は傾位のヘラミガキとナデ、外面は口縁部ヨコナデ、胴部～底面はヘラケズリ。	内面黒褐色、外面褐色	やや粗、微砂粒を多く含む	普通	No.22+ 貯蔵穴内	ほぼ完形

第11表 古墳時代住居跡出土遺物観察表 (10)

遺跡番号	番号	器種	寸法 (cm)		器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
			口徑	器高							
B区19号住居跡	15	土師器壺	13.2	-	口縁部は外反する。	内外面とも口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデ。	明褐色	やや粗、1～2mmの砂粒を多く含む	普通	貯蔵穴内	口縁部外周にスス付着
B区19号住居跡	16	土師器壺	14.7	-	口縁部は外反する。最大径は胴部中位。	内外面とも口縁部ヨコナデ、胴部はヘラケズリ。	淡赤褐色	やや粗、1～2mmの砂粒を含む	やや良	No17	1/3残 輪郭破
B区19号住居跡	17	土師器壺	-	-	7.3 底部のみ。	内面は漉滑、外面はヘラケズリ。	褐色	やや粗、1～2mmの砂粒を多く含む	普通	No17	
B区19号住居跡	18	土師器壺	-	-	8.2 底部のみ。	内面は胴部ヘラナデ、底面はヘラミガキ。外面はヘラケズリ。	褐色	やや粗、1～2mmの砂粒を含む	やや良	カマドNo2	底部に圧痕有り
B区19号住居跡	19	土師器壺	16.8	20.4	8.0 口縁部は外反、長頸で最大径は胴部中位。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部上半はヘラミガキ、下半はミガキの織ナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部はケズリの後腹にヘラミガキ、底部は筋ナデ。	明褐色	やや粗、2～3mmの砂粒を含む	やや良	No7	定形 外周下半部にスス付着 輪郭破
B区19号住居跡	20	土師器壺	19.2	-	口縁部は外反。胴部中に最大径をもち、底部へ向けて広腹的にすぼまる。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデ。	褐色	やや粗、3～4mmの砂粒を含む	普通	カマド内	2/3残
B区19号住居跡	21	土師器壺	19.6	-	口縁部は「く」の字状に外反する。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位のヘラナデ。	淡褐色	やや粗、1～2mmの砂粒を含む	普通	No25	1/2残
B区19号住居跡	22	土師器壺	19.4	32.3	7.8 口縁部は直立後外傾する。最大径は胴部中位。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上半はナデ、下半～底部はヘラケズリ。	淡赤褐色	粗、5～6mmの砂粒を含む	やや良	No22→25+カマド	ほぼ定形
B区19号住居跡	23	土師器壺	-	-	6.7 底部のみ。	内面はヘラナデ。外面はヘラナデ、胴部下腹～底部はヘラケズリ。	淡褐色	やや粗、1～2mmの砂粒を多く含む	やや不良		
B区19号住居跡	24	土師器壺	10.4	31.5	7.7 口縁部は外反。最大径は胴部中位。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部はナデとヘラケズリ。	褐色と藍褐色赤	粗、3～4mmの砂粒を多く含む	普通	No6+19	定形 輪郭破
B区19号住居跡	25	土師器壺	10.0	29.0	6.2 口縁部は「く」の字状に外反。最大径は胴部中位。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上半はナデ、下半～底部はヘラケズリ。	淡褐色	やや粗、1～2mmの砂粒を含む	普通	No25+カマド内	2/3残
B区19号住居跡	26	土師器壺	17.7	30.2	6.8 口縁部は外反し、胴部は縦位。	内面は口縁部ヨコナデ、底はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上半はナデ、下半～底部はヘラケズリ。	褐色(肌理あり)	やや粗、2～4mmの砂粒を含む	やや良	No4+17+20	ほぼ定形 輪郭破
B区19号住居跡	27	土師器壺	15.2	11.8	6.2 口縁部はやや外反する。	内面は口縁部ヨコナデ、底はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上半は縦位、下半は縦位のヘラナデ。	青灰褐色	やや粗、2～3mmの砂粒を含む	普通	No5	定形 輪郭破
B区19号住居跡	28	土師器壺	17.4	29.9	8.0 口縁部は外反し、胴部やや上位に最大径をもつ。	内面は口縁部ヨコナデ、底はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデとヘラケズリ。	橙赤褐色	粗、2～3mmの砂粒を多く含む	やや不良	No25+カマド内	1/2残 輪郭破
B区19号住居跡	29	土師器壺	19.6	-	口縁部は外反し、最大径は胴部中位。	内外面とも口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデ。	淡褐色	やや粗、1～2mmの砂粒を含む	普通	No2+22	2/3残、 底面欠損
B区19号住居跡	30	土師器壺	18.1	-	口縁部は外反し、最大径は胴部中位。	内外面とも口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデ。	明灰褐色	やや粗、2～3mmの砂粒を少し含む	普通	No17	口縁部定形、下半部欠損
B区19号住居跡	31	土師器壺	22.1	25.3	9.6 口縁部は外反し、最大径は口腹。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラケズリ。	灰褐色	やや粗、2～3mmの砂粒を含む	やや良	No11 前	1/2残
B区19号住居跡	32	土師器壺	19.8	28.9	18.8 口縁部は外反し、最大径は口腹。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上～中位は縦位、下半は縦位のヘラナデ。	明褐色	やや粗、2～3mmの砂粒を含む	やや良	No1+24	2/3残 輪郭破

第12表 古墳時代住居跡出土土物観察表 (11)

遺物 番号	番 号	種 類	寸法 (cm)		器形の特徴	胴部の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
			口径	器高							
図K19号 住居跡	33	土師器甕	-	-	9.0	底部のみ、	内面はヘラミガキ、外面は底面付近はヘラケズリ、他はヘラミガキ	内外黒色	やや密、1mm前後の砂粒を多く含む	Ⅲ24+下層	底部1/2 残部欠損
図K19号 住居跡	34	土師器甕	17.7	-	-	口縁部は外傾し、最大径は胴部中位。	内外面とも口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデ。	暗茶褐色	やや粗、3～4mmの砂粒を多く含む	Ⅲ10+11	底部欠損
図K19号 住居跡	35	土師器甕	18.1	32.5	9.2	口縁部は外反、胴部は球形。	内面は口縁部ヨコナデ、他はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上段はナデ、中段は粗いケズリ、下段は細かいかケズリ。	茶褐色	やや粗、3～4mmの砂粒を少し含む	Ⅲ10II層	完形 輪郭線
図K19号 住居跡	36	土師器甕	21.1	-	6.4	口縁部は外傾し、最大径は胴部中位。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上段はヘラナデ、下中～底面はケズリで磨滅部分あり。	暗褐色	やや粗、3～4mmの砂粒を含む	Ⅲ20+27II層	1/3残 輪郭線
図K20号 住居跡	1	土師器杯	12.2	5.5	4.0	口縁部は直立し、外面に弱い稜を有す。	内面は厚縁、外面は口縁部ヨコナデ、体部はヘラケズリが明瞭。	明褐色	細砂粒多し	ⅢB・D	完形
図K20号 住居跡	2	土師器杯	12.8	4.7	-	口縁部は直立し、外面に稜を有す。	内面は全面積位のヘラミガキ、外面は口縁部ヘラミガキ、体部はヘラケズリ。	内面黒褐色、外面褐色	1mm位の砂粒を含む	ⅢG	1/3残 輪郭線
図K20号 住居跡	3	土師器鉢	10.4	12.9	6.2	口縁部は直立し、体部は球形。	内面は口縁部積位のヘラミガキ、体部はヘラナデで下段が明瞭、外面は口縁部ヨコナデ、体部～底面ヘラケズリ。	淡赤褐色	1～2mmの砂粒を含む	ⅢB	完形
図K20号 住居跡	4	土師器甕	18.0	-	-	口縁部は外反し、最大径は胴部。	内面は口縁部がハケメの上からヘラミガキ、胴部はヘラナデ。外面はハケメの上から口縁部積位、胴部積位のヘラミガキ。	内外赤褐色	3～4mmの砂粒少しを含む	ⅢB	口縁部完形
図K20号 住居跡	5	土師器甕	18.0	-	-	口縁部は外反。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ。	淡褐色(器底有り)	2～3mmの砂粒少しを含む	ⅢK	口縁部1/4残 輪郭線
図K20号 住居跡	6	土師器甕	-	-	8.2	底部のみ、	内面は薄縁、外面はヘラケズリ。	暗茶褐色	4～5mmの砂粒多し	ⅢF	
図K21号 住居跡	1	土師器杯	13.8	5.1	-	口縁部は外傾し、外面に稜を有す。	内面は口縁部積位、底面は放射状のヘラミガキ。外面は口縁部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ。	暗茶褐色	やや粗、2～3mmの砂粒を含む	Ⅲ6+Ⅶ土中	2/3残
図K21号 住居跡	2	土師器杯	13.4	-	-	口縁部は内傾し、外面に稜を有す。	内面はヘラミガキ、外面は口縁部ヘラミガキ、体部はヘラケズリ。	内外黒色	やや粗、1mm前後の砂粒を含む	Ⅲ土中	
図K21号 住居跡	3	土師器杯	13.8	-	-	口縁部は内傾し、外面に稜を有す。	内面はヘラミガキ、外面は口縁部ヘラミガキ、体部はヘラケズリ。	内外黒色	やや密、1mm前後の砂粒を含む	Ⅲ土中	
図K21号 住居跡	4	土師器杯	13.0	-	-	口縁部は外傾する。	内面はヘラミガキ、外面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。				
図K21号 住居跡	5	土師器碗	12.4	9.4	-	口縁部は内傾し、外面に弱い稜を有す。	内面は口縁部～体部上段は積位、中～底面は放射状のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ、体部はヘラミガキ。	茶褐色、内面暗褐色	やや粗、1～2mmの砂粒を含む	Ⅲ4	完形
図K21号 住居跡	6	土師器鉢	14.2	-	-	口縁部は内傾する。	内面は口縁部ヨコナデ、他はヘラミガキ。口縁部ヨコナデ、他はヘラナデ。	内面暗褐色、外面褐色	やや密、微砂粒を含む	Ⅲ5	
図K21号 住居跡	7	土師器小形甕	15.9	-	-	口縁部は外傾する。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部は細かいヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラケズリ。	内面暗褐色、外面暗灰褐色	やや密、微砂粒を含む	Ⅲ4	1/4残
図K21号 住居跡	8	土師器小形甕	14.5	-	-	口縁部は外反。最大径は胴部上段。	内外面とも口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	暗褐色	やや粗、1～2mmの砂粒を含む	Ⅲ3	1/2残
図K21号 住居跡	9	土師器甕	20.8	27.9	9.0	口縁部は外反。最大径は胴部中位。	内面は口縁部ヨコナデ、他はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上段ヘラナデ、下中～ヘラケズリ。	暗茶褐色	粗、5～6mmの砂粒を含む	Ⅲ4下Ⅲ1+4	ほぼ完形
図K21号 住居跡	10	土師器甕	19.2	28.4	6.3	口縁部は外反。最大径は胴部中位。	内面は口縁部ヨコナデ、他はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部はナデの粗いヘラミガキ、底面はケズリ。	暗褐色	やや粗、1～2mmの砂粒を含む	Ⅲ4	ほぼ完形

第13表 古墳時代住居跡出土遺物観察表 (12)

遺構 番号	番 号	形 状	寸法 (cm)			形状の特徴	調整の特徴	色調	粘土	焼成	出土位置	備考
			口徑	高さ	底径							
Ⅷ区21号 住居跡	11	土師器甕	19.0	-	-	口縁部は外反。最大径は胴部。	内外面とも口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	灰褐色	やや粗。1～2mmの砂粒を多く含む	良好	カマド1	上半2/3残
Ⅷ区21号 住居跡	12	土師器甕	19.2	-	-	口縁部は外反。最大径は胴部中位。	内外面とも口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。外面の一部は押流。	灰褐色	やや粗。1～2mmの砂粒を含む	やや不良	カマド3	2/3残
Ⅷ区21号 住居跡	13	土師器甕	23.8	30.2	8.8	口縁部はやや外反。最大径は口径。	内面は全面ヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部上へ中位はヘラミガキ。下位ヘラケズリ。	暗茶褐色	やや粗。4～5mmの砂粒を若干含む	やや不良	No1+6 +カマド内	完全 上半外面 にスズ付着
Ⅷ区21号 住居跡	14	土師器甕	16.6	11.4	5.4	口縁部はやや外反。最大径は口径。	内面は口縁部ヨコナデ。他はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部上へ中位はヘラナデ。底部付近はヘラケズリ。底部内面から2割の空孔。	茶褐色	やや粗。3～5mmの砂粒を少し含む	普通	No2	完全
Ⅷ区22号 住居跡	1	土師器杯	14.1	-	-	口縁部は内反。外面に深い稜を有す。	内面はヘラミガキ。外面は口縁部ヘラミガキ。体部はヘラケズリ。	内外黒色	やや密。微砂粒を含む	良好	甕中	内外面黒色 色地
Ⅷ区22号 住居跡	2	土師器卓	15.0	-	-	口縁部は直立。外面に稜を有す。	内面は口縁部ヨコナデ。体部はヘラミガキ。外面は口縁部ヘラミガキ。体部ヨコナデ。	茶褐色	やや粗。1～2mmの砂粒を含む	やや不良	23号住居跡出土の 取片と 接合	1/5残
Ⅷ区22号 住居跡	3	土師器甕	13.3	-	-	口縁部はやや外反。最大径は口径。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラナデとヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラナデとヘラケズリ。	暗灰褐色	やや密。1～2mmの砂粒を含む	普通	甕上中	2/3残 輪縁部
Ⅷ区22号 住居跡	4	土師器甕	17.5	-	-	口縁部は短く直立した鋭外縁。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラナデとヘラケズリ。	暗茶褐色	粗。2～4mmの砂粒を多く含む	普通	23号住居跡 No10と 接合	2/3残
Ⅷ区23号 住居跡	1	土師器甕	19.6	33.1	7.9	口縁部は外反。最大径は胴部中位。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部上半はヘラナデ。下半はヘラケズリ。	暗褐色	粗。4～5mmの砂粒を含む	普通	No11-2 4-5	1/2残 輪縁部
Ⅷ区23号 住居跡	2	土師器甕	20.6	31.7	7.6	口縁部は外反。最大径は胴部やや上反。	内面は口縁部ヘラミガキ。胴部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。後ヘラミガキ。胴部はヘラミガキ。胴部下部～底部はヘラケズリ。	茶褐色(色 環あり)	やや粗。2mm前後の砂粒を含む	やや不良	No11-2 4	ほぼ完全
Ⅷ区23号 住居跡	3	土師器杯	10.5	4.9	-	口縁部はやや内反。外面に深い稜を有す。	内面は口縁部ヨコナデ。底面は放射状のヘラミガキ。外面は口縁部ヘラミガキ。体部はヘラケズリ後ヘラミガキ。	暗茶褐色	やや密。1～2mmの砂粒を含む	良好	No7+下層	3/5残 内面ウレシ シ取 りか?
Ⅷ区23号 住居跡	4	土師器杯	11.0	5.2	-	口縁部はやや内反。外面に稜を有す。	内面は口縁部斜位。底面は放射状のヘラミガキ。外面は全面ヘラミガキ。	暗褐色	やや粗。1～2mmの砂粒を多く含む	普通	No5	1/2残
Ⅷ区23号 住居跡	5	土師器杯	10.9	5.7	-	口縁部は直立。外面に稜を有す。	内外面とも全面ヘラミガキ。	淡茶褐色	やや密。1～2mmの砂粒を含む	良好	No1+ 中+下層	完全
Ⅷ区23号 住居跡	6	土師器杯	11.8	-	-	口縁部は内反。外面に深い稜を有す。	内面はヘラミガキ。外面は口縁部はヘラミガキ。体部ヘラケズリ。	内面・口縁部外面は黒色。その他灰褐色	やや密。微砂粒を少し含む	良好	中層	1/5残 黒色地
Ⅷ区23号 住居跡	7	土師器杯	11.3	6.2	-	口縁部は内反し。体部は半球形。外面の稜は不明瞭。	内面は口縁部ヨコナデ。体部～底面はヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。体部はナデのようなケズリ。	淡赤褐色	やや密。1～2mmの砂粒を含む	やや不良	No2+下層	4/5残
Ⅷ区23号 住居跡	8	土師器杯	12.5	5.4	-	口縁部はやや外反。	内外面とも口縁部ヨコナデ。他はヘラミガキ。	淡茶褐色	やや粗。1～2mmの砂粒を含む	普通	No4	1/3残
Ⅷ区23号 住居跡	9	土師器杯	12.8	3.8	-	口縁部は外反。外面に稜を有す。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ。体部はヘラケズリ。	暗茶褐色 (断面淡赤褐色)	やや密。微砂粒を含む	やや不良	No8+下層	1/4残
Ⅷ区23号 住居跡	10	土師器杯	-	-	-	口縁部は内反。外面に深い稜を有す。	内面はヘラミガキ。外面はヘラケズリ。	内外黒色	やや密。1～2mmの砂粒を含む	やや不良	No11-1 +22号 住居上中	内外面黒色 色地
Ⅷ区23号 住居跡	11	須恵器甕	11.5	4.2	-	外面に稜を有す。	外面は回稜ヘラケズリ。	青灰色	やや密。1～2mmの砂粒を少し含む	良好	下層	1/4残

第14表 古墳時代住居跡出土遺物観察表 (13)

遺物 番号	番号	器 種	寸法 (cm)			器形の特徴	装束の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
			口径	器高	底径							
B区23号 住居跡	12	土師器碗	8.1	7.0	5.0	口縁部は直立後外反する。	内面はヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。底部はヘラケズリ。	褐色	やや粗。1 ～2mmの 砂粒を多く 含む	やや中 良	下層	1/3塊
B区23号 住居跡	13	土師器高 杯	15.6	-	-	一 杯部外面に線を有す。	内面はヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。底部はヘラケズリ。	暗茶褐色	やや粗。3 ～5mmの 砂粒を含む	普通	No9	割部欠片
B区23号 住居跡	14	土師器碗	10.9	9.1	-	口縁部は直立。	内面は口縁部と杯部下半部まで直削ヘラミガキ。外面上半部はヘラナデ。外面は全面ヘラミガキ。	暗茶褐色	やや粗。2 ～2mmの 砂粒を含む	やや良	No1	完形
B区23号 住居跡	15	土師器碗	16.8	30.3	8.6	口縁部は外反。胴部は中腹に最大径を持つ球形。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部はハケメミナデ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部上半部はヘラナデ。下半部はヘラケズリ後ヘラミガキ。	褐色	やや粗。2 ～4mmの 砂粒を含む	やや良	No1+10	1/2塊
B区23号 住居跡	16	土師器碗	15.6	24.6	6.6	口縁部は外反。最大径は胴部中腹。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部上半部はヘラナデ。下半部はヘラケズリ後ヘラミガキ。	赤褐色。外 面上半部は暗 赤褐色	粗。3～ 4mmの砂 粒を多く含 む	普通	No1+11- 4	底部1/2 塊
B区23号 住居跡	17	土師器碗	24.9	25.0	9.4	口縁部は外反。最大径は口径。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラナデの上にヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。胴部はヘラケズリ後ヘラミガキ。	暗褐色	やや粗。3 ～4mmの 砂粒を含む	やや中	No11-3- 4・5	ほぼ完形
B区23号 住居跡	18	土師器碗	17.4	24.3	12.6	口縁部は外反。最大径は胴部中腹。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部上半部はヘラナデ。下半部は淨灰。外面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラミガキ。	暗褐色	粗。2～ 4mmの砂 粒を多く含 む	やや良	No11-5	ほぼ完形 輪破面
B区23号 住居跡	19	石	腹 7.9	縦 7.5	-	-	-	-	-	-	-	-
B区23号 住居跡	20	石	腹 12.7	縦 4.8	-	-	-	-	-	-	-	-
B区23号 住居跡	21	土製支脚	腹 12.0	縦 7.4	-	-	-	-	-	-	-	-
B区32号 住居跡	1	土師器杯	12.5	6.1	-	口縁部はやや内傾し、内面と外面に線を有す。	内面は口縁部ヨコナデ。底部に放射状のヘラミガキ。外面はヘラミガキで底面は淨灰。	赤褐色。一 部黒灰	やや粗。2 ～3mmの 砂粒を含む	良好	No8+ 11	完形
B区32号 住居跡	2	土師器杯	13.0	-	-	口縁部は外反。内面に線を有す。	内面は口縁部ヨコナデ。他はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。他はヘラミガキとヘラナデ。	灰褐色	やや粗。微 砂粒を含む	良好	No13	1/4塊
B区32号 住居跡	3	土師器杯	11.9	-	-	口縁部は外反。内面に線を有す。	内外面ともヘラミガキ。	赤褐色	やや粗。赤 色粒子を含む	やや良	カマドNo 1	1/2塊
B区32号 住居跡	4	土師器杯	11.8	7.6	6.6	口縁部は外反。内面に線を有す。	内面は口縁部ヨコナデ。他はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。他はヘラケズリ。	暗茶褐色	やや粗。2 ～3mmの 砂粒を多く 含む	やや良	No10	完形
B区32号 住居跡	5	土師器杯	13.7	6.2	4.5	口縁部は内傾。	内面は口縁部ヨコナデ後底面にかけてヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。	赤褐色	やや粗。微 砂粒を含む	やや良	No12	完形
B区32号 住居跡	6	土師器杯	13.3	7.9	-	口縁部はやや内傾。内面に線を有す。	内面は口縁部ヨコナデ。他はミガキが剥落。外面は口縁部ヨコナデ。他はヘラケズリの後少しミガキを加える。	赤褐色	やや粗。微 砂粒を含む	良好	No4+5	ほぼ完形
B区32号 住居跡	7	土師器杯	12.4	6.8	-	口縁部は外反。内面に線を有す。	内面は口縁部ヨコナデから杯部にかけてヨコナデ。杯部にヘラミガキ。底部は剥落。外面は口縁部ヨコナデ。杯部はヘラナデで底部ヘラケズリ。	赤褐色(玉取あり)。	やや粗。微 砂粒を含む	やや良	No1	完形
B区32号 住居跡	8	土師器杯	13.2	-	-	口縁部は内傾。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ。杯部はヘラケズリ。	暗褐色	やや粗。微 砂粒を含む	良好	置土中	1/6塊
B区32号 住居跡	9	土師器碗	13.4	8.3	5.7	杯部から口縁部にかけて外傾する。	内外面とも口縁部ヨコナデ。他はヘラナデ。	赤褐色	やや粗。2 ～3mmの 砂粒を含む	普通	No9	完形
B区32号 住居跡	10	土師器碗	13.4	19.7	7.9	口縁部は直立後外反。胴部は球形で最大径は中腹。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラミガキ。底部は放射状穿孔。	褐色(黒灰あり)。内 面暗褐色	やや粗。1 ～2mmの 砂粒を多く 含む	やや良	No2	完形 輪破面

第15表 古墳時代住居跡出土遺物観察表 (14)

遺物 番号	番 号	器 種	寸法 (cm)			器形の特徴	装束の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
			口径	器高	底径							
BFC34号 住居跡	6	土師器 小形甕	13.1	13.4	4.0	口縁部は外反。最大径は胴部上位。	内面は口縁部ヨコナデ装束位のヘラミガキ。胴部ヘラナデ装束位のヘラミガキ。外面は口縁部はヨコナデ装束位のヘラミガキ。胴部上半は装束位のヘラミガキ。下半〜底部はヘラケズリ。	褐色	やや密、1〜2mmの砂粒を含む	やや良	カマド	ほぼ完成
BFC34号 住居跡	7	土師器甕	16.9	30.0	6.0	口縁部は内傾装束位。最大径は胴部中位。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部上〜中位ヘラナデ後ヘラミガキ。胴部下位〜底部ヘラケズリ。	青褐色	粗。3〜5mmの砂粒を含む	普通	カマド内	2/3段 輪破板
BFC34号 住居跡	8	土師器甕	17.3	26.5	6.5	口縁部は外反。最大径は胴部中位。	内外面とも口縁部ヨコナデ。胴部はヘラナデ。底面外面はヘラケズリ。	青褐色	やや粗。2〜3mmの砂粒を多く含む	普通	№4	ほぼ完成 輪破板
BFC34号 住居跡	9	土師器甕	20.8	24.8	8.4	口縁部はやや内傾。外反。最大径は胴部中〜中上位。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部は全面ヘラナデとヘラケズリ。中位にヘラミガキ。底面は装束位穴孔。	茶褐色	やや粗。2〜3mmの砂粒を含む	やや良	№3	完成 輪破板
BFC35号 住居跡	1	土師器杯	11.4	-	-	口縁部は内傾。外面に装束を有す。	内面はヘラミガキ。外面は口縁部〜体部上半ヘラミガキ。他はヘラナデ。	内外灰色	密。微砂粒を含む	良好		1/4段 黄色処理
BFC35号 住居跡	2	土師器甕	16.0	-	-	口縁部は直立装束位。最大径は胴部。	内外面とも口縁部ヨコナデ。胴部はヘラナデ。	褐色。内面一部黒褐色	やや粗。2〜3mmの砂粒を含む	普通	№1	1/3段 輪破板
BFC35号 住居跡	3	土師器甕	-	-	4.4	底面のみ。	内面はヘラナデ。外面はヘラケズリ。	褐色。内面青褐色	やや粗。2〜3mmの砂粒を含む	普通	№1	
BFC35号 住居跡	4	土師器甕	16.4	-	-	口縁部は外反。最大径は胴部中位。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデで下位は滑面。外面は口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデとヘラケズリ。	茶褐色。外一部黒褐色	やや粗。2〜3mmの砂粒を含む	普通	№1	底面欠損
BFC38号 住居跡	1	土師器杯	15.8	3.9	-	口縁部は短く立ち、外面に装束を有す。	内面は全面ヘラミガキ。外面は粗いヘラミガキ。	内外灰色	やや密。微砂粒を含む	良好		完成 黄色処理
BFC38号 住居跡	2	土師器杯	15.2	4.2	-	口縁部は直立する。外面に装束を有す。	内面は口縁部装束位。底面装束位のヘラミガキ。外面は装束位の粗いヘラミガキ。	赤褐色	やや密。微砂粒を含む	良好		4/5段
BFC38号 住居跡	3	土師器杯	13.9	4.8	-	口縁部は外傾。外面に装束を有す。	内面は口縁部装束位。底面装束位のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。体部はヘラケズリ。	褐色	微密	良好	№1+2 +3	
BFC38号 住居跡	4	土師器杯	13.3	4.7	-	口縁部は外傾。外面に装束を有す。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部部分多し。外面は口縁部ヨコナデ。体部はヘラナデ。	青褐色	微密	不良	№3+6	
BFC38号 住居跡	5	土師器杯	13.0	-	-	口縁部はやや内傾。外面に粗い装束を有す。	内面は装束位のヘラミガキ。外面は口縁部装束位のヘラミガキ。体部はヘラケズリ。	内外灰褐色	微密	良好		1/4段 黄色処理
BFC38号 住居跡	6	土師器高 杯	-	-	13.4	杯部外面の下位に装束を有す。	内面は杯部ヘラミガキ。胴部は裾がヨコナデ。他はヘラミガキ。外面は杯部がヘラナデ。胴部は裾がヨコナデ。他はヘラミガキ。	赤褐色	やや密。2〜3mmの砂色粒子を含む	良好	№5	杯部口縁 部欠損
BFC38号 住居跡	7	土師器甕	14.0	29.4	8.2	口縁部は外反。最大径は胴部中〜中上位。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部は滑面。外面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラナデ。底面に注痕有り。	青茶褐色	粗。3〜4mmの砂粒を多く含む	良好	カマド内	ほぼ完成 二次化成 受けもろい 輪破板
BFC38号 住居跡	8	土師器甕	25.7	28.0	9.0	口縁部は外反。最大径は口位。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部上位は横位。中〜下位は装束位のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部上位ヘラケミ。中位ヘラナデ。下位ヘラケズリ。	青褐色	やや粗。2〜3mmの砂粒を含む	良好	№6	2/3段
BFC38号 住居跡	9	土師器甕	-	-	9.4	丸みをもち胴部下位から底面のみ残存。	内面は滑面。外面は胴部ヘラナデ。底面はヘラケズリ。	赤褐色	粗。3〜5mmの砂粒を多く含む	普通	カマド内	底面1/2 段 輪破板
CR24号 住居跡	1	土師器杯	14.5	4.7	-	口縁部はやや内傾。外面に粗い装束を有す。	内面は全面ヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリの後粗いヘラケズリ。	内外灰褐色	やや密	良好		長方形土 坑内 黄色処理

第17表 古墳時代住居跡出土遺物観察表 (16)

遺跡番号	番号	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	製造の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
			口径	器高	底径							
C区24号住居跡	2	土師器杯	14.2	4.0		口縁部はやや内傾。外面に深い稜を有す。	内面は全面ヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナガ。体部ヘラケズリ。	内面・口縁部外周は黒色、外周部褐色	1mm前後の砂粒多し	良好	集出ピット内	馬色処理
C区24号住居跡	3	土師器杯	13.8	4.2		口縁部は内傾。外面に深い稜を有す。	内外面とも全面ヘラミガキ。	内外黒褐色	密	良好		1/5残 /5残焼
C区24号住居跡	4	土師器杯	12.4	3.8		口縁部はやや外傾。外面に稜を有す。	内面は全面ヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナガ。体部ヘラケズリ。	内面黒色、外周部褐色	やや密	普通		1/3残
C区24号住居跡	5	土師器杯	14.4	4.6		口縁部はやや内傾。外面に深い稜を有す。	内面は口縁部ヨコナガ状。全面にヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナガ。体部ヘラケズリ後全面に深いヘラミガキ。	内外黒褐色	やや密	良好		1/2残
C区24号住居跡	6	土師器杯	14.0	3.7		口縁部は内傾。外面に深い稜を有す。	内面は全面ヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナガのヘラミガキ。体部はヘラケズリ後全面に深いヘラミガキ。	内外黒褐色	やや密	良好		1/3残
C区24号住居跡	7	土師器杯	14.7	4.7		口縁部は外傾。外面に深い稜を有す。	内面は口縁部傾伏。底面放射状のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナガ。体部はヘラケズリ。	黄赤褐色	2~3mmの赤色粒子含む	良好	底近く	1/4残
C区24号住居跡	8	土師器杯	15.4	5.3		口縁部は外傾。外面に稜を有す。	内面は口縁部傾伏。底面放射状のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナガ。体部はヘラケズリ。	褐色、内面及び口縁部外周部赤褐色	緻密	良好		2/3残 赤影
C区24号住居跡	9	土師器杯	15.3	5.0		口縁部は外傾。外面に深い稜を有す。	内面は口縁部傾伏。底面放射状のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナガ。体部はヘラケズリ。	褐色、内面及び口縁部外周部赤褐色	密	良好	集出ピット内	2/3残 赤影・ウエルン
C区24号住居跡	10	土師器杯	15.4	5.0		口縁部は外傾。外面に深い稜を有す。	内面は口縁部傾伏。底面放射状のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナガ。体部はヘラケズリ。	明褐色、内面及び口縁部外周部赤褐色	密	良好	底近く	1/5残 赤影
C区24号住居跡	11	手づくね杯形	3.4	3.6	3.6		手づくね。	淡褐色	やや密	やや不良		
C区24号住居跡	12	須恵器碗					ロクロ成形。	褐色	密	良好	覆土	口縁部破片
C区24号住居跡	13	土師器盃	17.4	-	-	口縁部は直立後外反。最大径は胴部。	内外面とも口縁部ヨコナガ。胴部はヘラナダ。内面一筆滑面。	暗赤褐色	3~5mmの砂粒多し	やや不良	床	口縁部1/3残
C区24号住居跡	14	土師器盃	18.0	-	-	口縁部は直立後外反。	口縁部は内外面ともヨコナガ。胴部外面にヘラナダ。	暗赤褐色	2~3mmの砂粒含む	やや不良	床	口縁部1/2残
C区24号住居跡	15	土師器盃	17.8	-	-	口縁部は外傾。	内外面とも口縁部ヨコナガ。	褐色	2~3mmの砂粒多く含む	やや不良	ピット内	口縁部1/3残
C区24号住居跡	16	土師器盃	-	-	7.0	胴下半部のみ。	内面はヘラナダ。底面付近はヘラミガキ。外面は傾伏のヘラミガキ。	外周部褐色、内面黒褐色	2~3mmの砂粒少し含む	やや不良	床	輪破片
C区24号住居跡	17	土師器盃	-	-	8.0	底部のみ。	内面はヘラナダ。外面はヘラケズリ。	内面褐色、外周部褐色	2~3mmの砂粒含む	やや不良		底部1/2残
C区24号住居跡	18	土師器盃	-	-	6.0	底部のみ。	内外面ともヘラナダ。底部外面はヘラケズリ。	褐色	やや粗	やや不良	ピット	
C区24号住居跡	19	土師器盃	10.8	-	-	口縁部は外反。最大径は胴部。	内外面とも口縁部ヨコナガ。胴部ヘラナダ。	暗赤褐色	3~4mmの砂粒若干含む	やや不良	カマド	口縁部1/2残
C区24号住居跡	20	土師器盃	-	-	6.8	底部のみ。	内外面ともヘラナダ。	暗赤褐色	4~5mmの砂粒少し含む	普通	貯蔵穴	底部1/2残
C区25号住居跡	1	土師器杯	13.6	5.3		口縁部はやや外反。外面に稜を有す。	内面は口縁部傾伏。底面は一方への平行なヘラミガキ。外面は口縁部傾伏のヘラミガキ。体部はヘラケズリ。	内面褐色、外周部褐色	密、微砂粒含む	良好		宛形 底面外周に十字のヘラ面
C区25号住居跡	2	土師器杯	14.3	4.0		口縁部は外傾。外面に稜を有す。	内面は口縁部傾伏。底面放射状のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナガ。体部はヘラケズリ。	赤褐色	緻密、赤色粒子含む	良好		1/3残
C区25号住居跡	3	土師器杯	13.8	4.3		口縁部は外傾。外面に稜を有す。	内面は口縁部傾伏。底面放射状のヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナガ。体部はヘラケズリ。	赤褐色	緻密、赤色粒子含む	良好	底近く	4/5残
C区25号住居跡	4	土師器杯	14.1	3.9		口縁部はやや内傾。外面に深い稜を有す。	内外面とも全面ヘラミガキ。	内外黒褐色	やや密	良好	集出ピット内	1/4残
C区25号住居跡	5	土師器杯	13.3	3.3	5.8	口縁部は外傾。	内面は全面ヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナガ。胴部はヘラケズリ。	褐色	密、赤色粒子含む	良好	カマド	1/2残 宛形
C区30号住居跡	1	土師器杯	14.5	5.3		胴部外周に稜を有す。口縁部は外反。	内面は全面ヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナガ。胴部はヘラケズリ。	暗赤褐色	緻密	良好	カマド 底	宛形

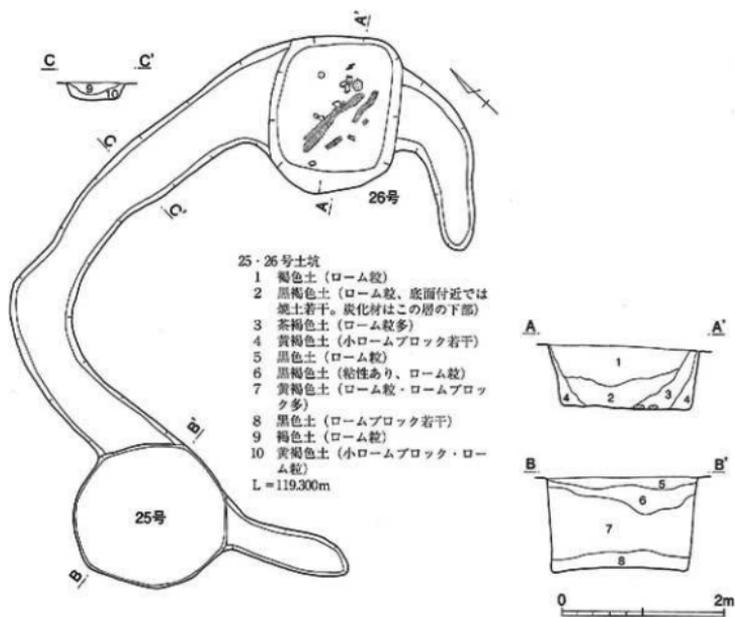
第18表 古墳時代住居跡出土遺物観察表 (17)

遺物 番号	番号	種類	寸法 (cm)			器形の特徴	器底の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
			口径	器高	底径							
CEK30号 住居跡	2	土師器杯	14.5	5.0	-	体部外面に横を有す。 口縁部中段がやや内収 りとなる。	内面は全面ヘラミガキ、 外面は口縁部はヘラミガキ、 底面はヘラミガキ。	暗褐色	緻密	良好	カマド内	完形 内径約7.5 cm上付
CEK30号 住居跡	3	土師器瓶	12.6	14.5	6.9	胴部は卵形。底面は浅 凹後に穿孔。	内面は口縁部はヨコナデ、 胴部はヘラミガキ。外面は口 縁部はヨコナデ、胴部はヘ ラミガキ。	赤褐色	砂吹き	良好		完形 小型瓶の 瓶用瓶
CEK30号 住居跡	4	土師器瓶	24.6	21.1	9.7	胴部は袋形。大形。底 面に穿孔。口縁部は外反。	内面は口縁部ヨコナデ、 胴部ヘラミガキ。外面は口 縁部ヨコナデ、胴部はナ デとヘラミガキ。	褐色	砂吹き	良好		完形
CEK30号 住居跡	5	土師器壺	14.4	19.8	6.6	胴部は袋形で最大径は やや上位の18.5。口縁 部は直立。	内面は口縁部ヨコナデ、 胴部ヘラミガキ。外面は口 縁部ヨコナデ、胴部は ナデとヘラミガキ。	暗褐色	砂吹き	良好		完形
CEK30号 住居跡	6	土師器壺	17.0	31.4	6.6	胴部最大径は中位で 24.3。口縁部は外反。	内面は口縁部ヨコナデ、 胴部はナデとヘラミガキ。 外面は口縁部ヨコナデ、 胴部はナデとヘラミガキ。	暗褐色	粗い砂吹き			完形 胴下部に ニス付着
CEK31号 住居跡	1	土師器杯	12.6	3.7	-	口縁部はやや外反。外 面に横を有す。	内面は口縁部ヨコナデ、 外面は口縁部ヨコナデ、 体部はヘラミガキ。	外面暗褐色、 内面及 口縁部 赤褐色	やや密、 微砂吹き	やや良	芳蔵穴	1/3残
CEK31号 住居跡	2	土師器杯	12.0	-	-	口縁部はやや外反。外 面に横を有す。	内面は口縁部ヨコナデ、 体部はヘラミガキ。外面は口 縁部ヨコナデ、体部はヘ ラミガキ。	暗褐色	密、 微砂吹き	普通		1/4残
CEK31号 住居跡	3	土師器杯	13.4	-	-	口縁部はやや外反。外 面に横を有す。	内面は口縁部ヨコナデ、 体部はヘラミガキ。外面は口 縁部ヨコナデ、体部はヘ ラミガキ。	淡赤褐色	やや密、 1~2mmの 砂吹き	普通		1/4残
CEK31号 住居跡	4	-	長さ 9.6	幅 2.4	-	-	-	-	-	-	-	-
CEK36号 住居跡	1	土師器杯	14.3	4.6	-	体部外面に横を有す。	内面・外面とも全面ヘ ラミガキ。	暗赤褐色	緻密	良好		1/5残
CEK36号 住居跡	2	土師器壺	13.7	-	-	体部は深く、口縁部は 短く外反する。	内面は全面ヘラミガキ、 外面は口縁部ヨコナデ、 体部はヘラミガキ。	暗赤褐色	緻密			1/4残
CEK36号 住居跡	3	土師器鉢	15.0	-	-	口縁部はゆるく外反す る。	内面は口縁部ヨコナデ、 他は不明。外面は口縁部 ヨコナデ、体部はヘラミ ガキ。	暗褐色	砂吹き			1/5残
CEK36号 住居跡	4	土師器壺	17.7	-	-	口縁部はやや外反。	内面・外面とも口縁部 ヨコナデ。	暗褐色	粗い砂吹き			
CEK36号 住居跡	5	土師器鉢	13.7	-	-	口縁部はやや内反。胴 部は直線的。	内面は口縁部ヨコナデ、 胴部ヘラミガキ。外面は口 縁部ヨコナデ、胴部ヘ ラミガキ。	暗褐色	砂吹き			1/5残
CEK36号 住居跡	6	土師器壺	-	-	8.3	底面のみ。	底面外面ヘラミガキ。	暗褐色	粗い砂吹き			
CEK36号 住居跡	7	手づくね 高杯形	5.7	3.5	4.0	胴部は深く、杯部はや や深め。	内面・外面とも杯部は手 づくねとナデ、胴部は ヨコナデ。	暗褐色	砂質			完形
CEK36号 住居跡	8	手づくね 杯形	3.7	2.2	3.0	平底で口縁部は外反。	内面・外面とも手づく ねとナデ。	暗褐色	砂質	良好	№3	完形
CEK36号 住居跡	9	手づくね 杯形	3.3	2.6	3.5	平底で口縁部はやや内 反。	内面・外面とも手づく ねとナデ。	淡赤褐色	砂質	良好	№2	完形
CEK36号 住居跡	10	手づくね 杯形	3.8	2.9	3.3	平底で口縁部はやや外 反。	内面・外面とも手づく ねとナデ。	褐色	砂質	良好	№1	1/3残
CEK37号 住居跡	1	土師器杯	13.6	5.1	-	体部外面に横をもって 口縁部は外反。	内面は全面ヘラミガキ、 外面は口縁部ヨコナデ、 体部はヘラミガキ。	褐色	緻密	良好	貯蔵穴№2	完形
CEK37号 住居跡	2	土師器杯	13.8	4.5	-	体部外面に横をもって 口縁部は外反。	内面は口縁部ヨコナデ、 底面不明。外面は口縁部 ヨコナデ、体部はヘラ ミガキ。	淡赤褐色	緻密	普通	№2	1/2残
CEK37号 住居跡	3	土師器杯	14.0	4.1	-	体部外面に横をもって 口縁部はやや内反。	内面は全面ヘラミガキ、 外面は口縁部ヨコナデ、 体部はヘラミガキ。	内外とも黒色	緻密	良好	貯蔵穴№3	1/2残
CEK37号 住居跡	4	須恵器杯	11.2	4.3	-	受部は外上方へ張り出 し、前部は三角。口縁 部は内傾し、底面は丸い。	内面は口縁部ヨコナデ、 外面は口縁部ヨコナデ、 体部はヘラミガキ。	青灰色	白色砂吹き を含む	良好		2/3残
CEK37号 住居跡	5	土師器壺	12.7	-	-	口縁部はゆるく外反。	内面は口縁部ヨコナデ、 胴部ヘラミガキ。外面は口 縁部ヨコナデ、体部はヘ ラミガキ。	暗褐色	やや粗い砂 吹きを含む			
CEK37号 住居跡	6	土師器壺	-	-	7.5	胴部はややふくらむ。	内面はヘラミガキ、外面 はヘラミガキ。	暗褐色	やや粗い砂 吹きを含む			
CEK37号 住居跡	7	土師器壺	-	-	7.0	胴部はふくらむ。	内面はヘラミガキ、外面 はヘラミガキ。	暗褐色	やや粗い砂 吹きを含む			1/3残

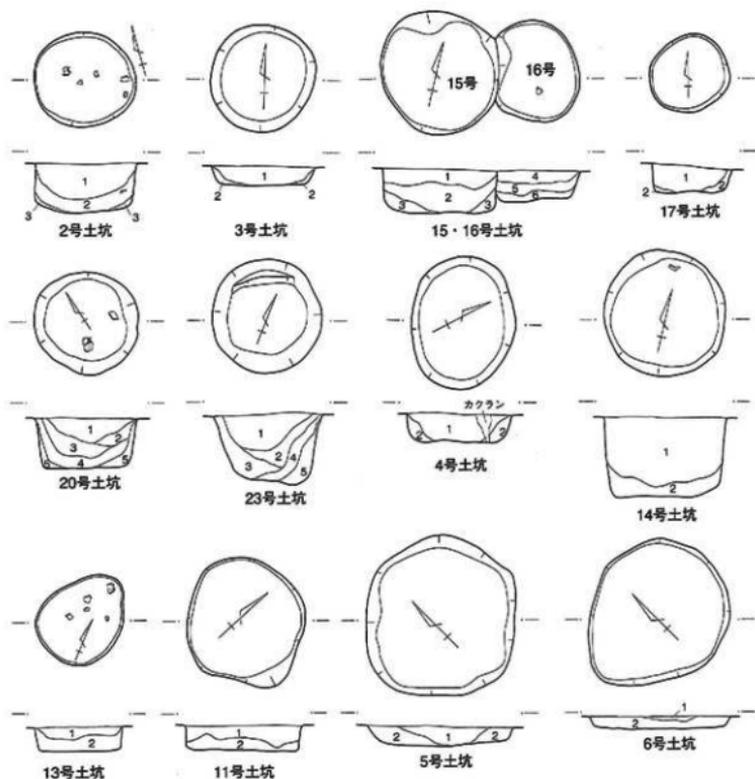
第19表 古墳時代住居跡出土遺物観察表 (18)

遺構名	位置	グリッド	形状	規模 (cm)			遺物	備考
				長軸	短軸	深さ		
2号土坑	A区	J-11	円形	125	120	60	土器(須恵器)	
3号土坑	A区	J-11	円形	130	130	23		
4号土坑	A区	J-11	楕円形	165	130	35		
5号土坑	A区	J-10	方形	200	180	25		
6号土坑	A区	J-10	円形	195	170	15		
7号土坑	A区	J-10	長方形	155	70	68		
8号土坑	A区	J-10	長方形	200	150	35		
9号土坑	A区	I-10	不整形	185	160	45		
10号土坑	A区	I-10	長方形	160	103	80		
11号土坑	A区	J-9	円形	165	150	30		
12号土坑	A区	I-8	長方形	125	70	55		
13号土坑	A区	H-9	楕円形	120	95	30	土器	
14号土坑	A区	H-8	円形	155	150	100	土器	
15号土坑	A区	G-8	円形	155	145	55		16号土坑を切る
16号土坑	A区	G-8	円形	125	110	40		15号土坑に切られる
17号土坑	A区	G-8	円形	100	90	35		
20号土坑	A区	I-12	円形	130	125	60	土器、石	
22号土坑	A区	J-11・12	長方形	245	200	88		
23号土坑	A区	J-12	円形	140	135	85		北側の壁に1段を有する
24号土坑	A区	J-12	長方形	205	125	105	土器(第111図1)	
25号土坑	A区	I-12	楕円形	180	170	110		
26号土坑	A区	I-12	長方形	190	160	75	土器	床面直上に石と炭化材
27号土坑	A区	I-12	楕円形	185	150	45	石	
28号土坑	A区	J-13	隅丸長方形	190	145	63		
30号土坑	B区	E-15	円形	170	170	60	土器(第111図2~5)	
31号土坑	B区	E-15・16	長方形	140	77	26		
32号土坑	B区	E-15	方形	150	140	80		
33号土坑	B区	E-15	円形	135	120	30		
34号土坑	B区	F-18	長方形	210	140	125		
35号土坑	B区	D-15	円形	140	135	40		
36号土坑	B区	D-16	隅丸長方形	210	125	95		
37号土坑	C区	E-24	円形	195	195	75		
38号土坑	C区	C-25	円形	155	150	50		
39号土坑	B区	D-18	長方形	180	95	55		
40号土坑	B区	D-18・19	楕円形	155	135	75	土器(第111図6・7)	
41号土坑	B区	D-19	方形	183	180	35		
42号土坑	B区	D-18	長方形	215	120	85		
43号土坑	B区	C-18	円形	200	190	85		
45号土坑	B区	C-18	方形	160	140	53		
46号土坑	B区	D-18	方形	220	190	70	土器(第111図8~10)	
48号土坑	B区	D-17	円形	200	195	55		壁際に深さ10cmの溝が 廻る
50号土坑	B区	C-14	円形	145	145	50		
51号土坑	B区	C-15	円形	130	130	34		
52号土坑	B区	C-15	円形	170	165	45		
53号土坑	B区	C-15	円形	230	220	68		
54号土坑	B区	B-16	円形	135	125	48		
55号土坑	B区	D-16	円形	125	120	35		
56号土坑	B区	D-16	隅丸長方形	125	105	105		底面に深さ10cmの小 ビット2
57号土坑	C区	E-25	隅丸長方形	135	110	70		

第20表 土坑一覧表

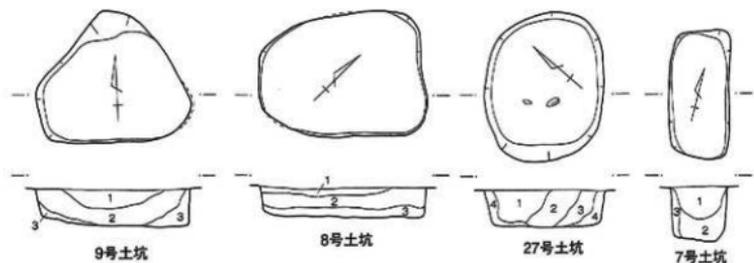


第105図 25・26号土坑平・断面図



- 2号土坑
 1 黒色土 (雜にローム粒混入)
 2 黒褐色土 (ロームブロック)
 3 黄褐色土 (ロームに黒色土混入)
 L = 119.700m
- 3号土坑
 1 黒色土 (ローム粒)
 2 黒褐色土 (黒色土にローム粒、ロームブロック多量に混入)
 L = 119.300m
- 4号土坑
 1 黒色土 (ローム粒)
 2 黒褐色土 (黒色土にローム粒、ロームブロック多量混入)
 L = 119.300m
- 5号土坑
 1 黒色土 (ローム)
 2 黄褐色土
 L = 119.600m
- 6号土坑
 1 黒色土
 2 黄褐色土
 L = 119.600m
- 11号土坑
 1 黒黄色土 (黒色土にローム粒混入、一部にKPB)
 2 黄褐色土 (総風ロームに黒色土混入)
 L = 119.900m
- 13号土坑
 1 黒色土
 2 黄褐色土 (ロームブロック・ローム粒多)
 L = 119.800m
- 14号土坑
 1 黒色土 (ローム粒混入)
 2 黄褐色土 (ロームブロック・ローム粒多)
 L = 119.900m
- 15・16号土坑
 1 黄褐色土 (ロームブロック)
 2 黄褐色土 (ロームブロック多)
 3 黄色土 (ロームに黒色土が少し混じる)
 4 黒色土 (ローム粒少)
 5 黒褐色土 (小ロームブロック)
 6 黄褐色土 (ロームに黒色土が少し混じる)
 L = 120.000m
- 17号土坑
 1 黒褐色土 (ローム粒・ロームブロック多)
 2 黄褐色土 (ロームブロック多)
 3 黒色土 (ローム粒少)
 4 茶褐色土 (粘性あり、ロームブロック少)
 5 黄褐色土 (ローム粒・ロームブロック)
 L = 119.500m
- 20号土坑
 1 黒褐色土 (ローム粒)
 2 茶褐色土 (ローム粒・小ロームブロック少)
 3 黒色土 (ローム粒少)
 4 茶褐色土 (粘性あり、ロームブロック少)
 5 黄褐色土 (ローム粒・ロームブロック)
 L = 119.500m
- 23号土坑
 1 黒褐色土 (粘性あり)
 2 黒色土 (粘性強)
 3 黒褐色土 (ローム粒少)
 4 茶褐色土 (ローム粒少)
 5 黄褐色土 (小ロームブロック)
 L = 119.100m
- 0 2m

第106図 A区内土坑平・断面図(1)

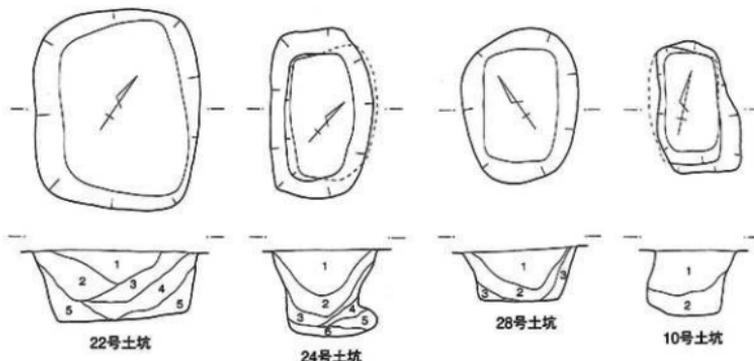


9号土坑

8号土坑

27号土坑

7号土坑



22号土坑

24号土坑

28号土坑

10号土坑

7号土坑

- 1 黒褐色土 (ローム粒)
- 2 暗褐色土 (小ローム)
- 3 黄褐色土 (ロームブロック)

L = 119.700m

8号土坑

- 1 黒色土
- 2 黄褐色土
- 3 黄土

L = 119.600m

9号土坑

- 1 黒色土
- 2 黄褐色土 (ローム)
- 3 黄土

L = 119.800m

10号土坑

- 1 黒色土 (ローム)
- 2 黄褐色土 (ローム)

L = 119.800m

12号土坑

- 1 黒褐色土 (ローム粒)
- 2 褐色土 (ローム粒、小ロームブロック)
- 3 黄褐色土 (ロームブロック)

L = 120.000m

22号土坑

- 1 黒色土 (褐色土ブロック)
- 2 黒色土 (ローム粒)
- 3 黒褐色土 (ローム粒)
- 4 褐色土 (粘性強)
- 5 黄褐色土 (小ロームブロック)

L = 119.400m

24号土坑

- 1 黒色土 (ローム較若干)
- 2 黒褐色土 (やや粘性あり)
- 3 茶褐色土 (小ロームブロック)
- 4 黄褐色土 (粘性強)
- 5 黄土 (ローム、KP)
- 6 黒色土 (KPブロック)

L = 118.700m

27号土坑

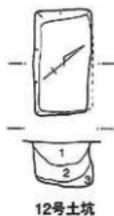
- 1 黒色土 (ローム較若干)
- 2 黒褐色土 (ローム較多)
- 3 茶褐色土 (粘性あり、ローム粒)
- 4 黄褐色土 (小ロームブロック)

L = 119.500m

28号土坑

- 1 黒色土 (ロームブロック少)
- 2 黒褐色土 (ローム粒)
- 3 黄褐色土 (ロームブロック多)

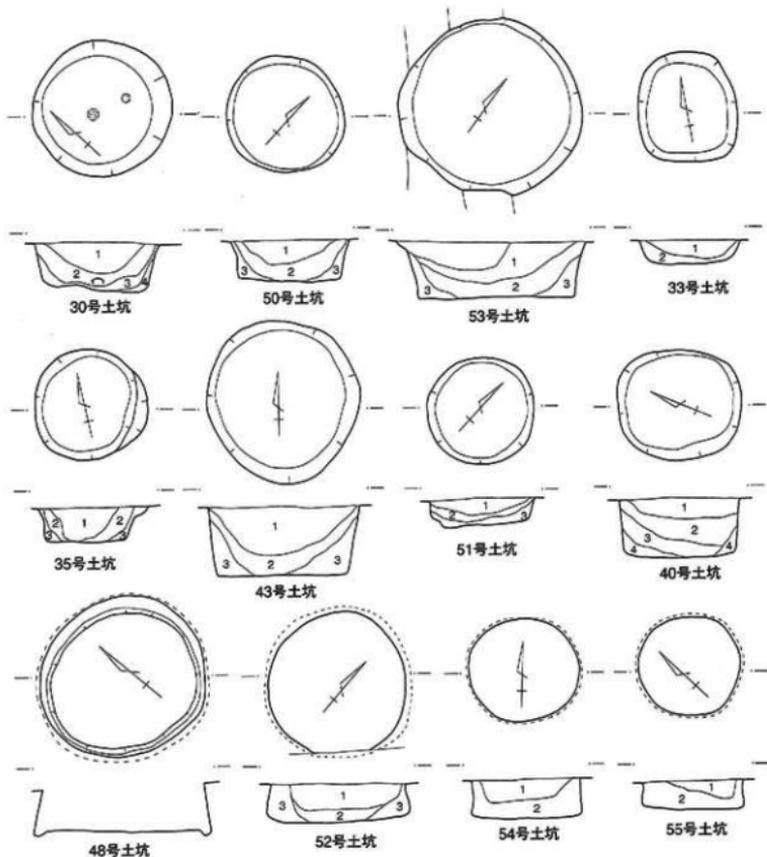
L = 117.600m



12号土坑



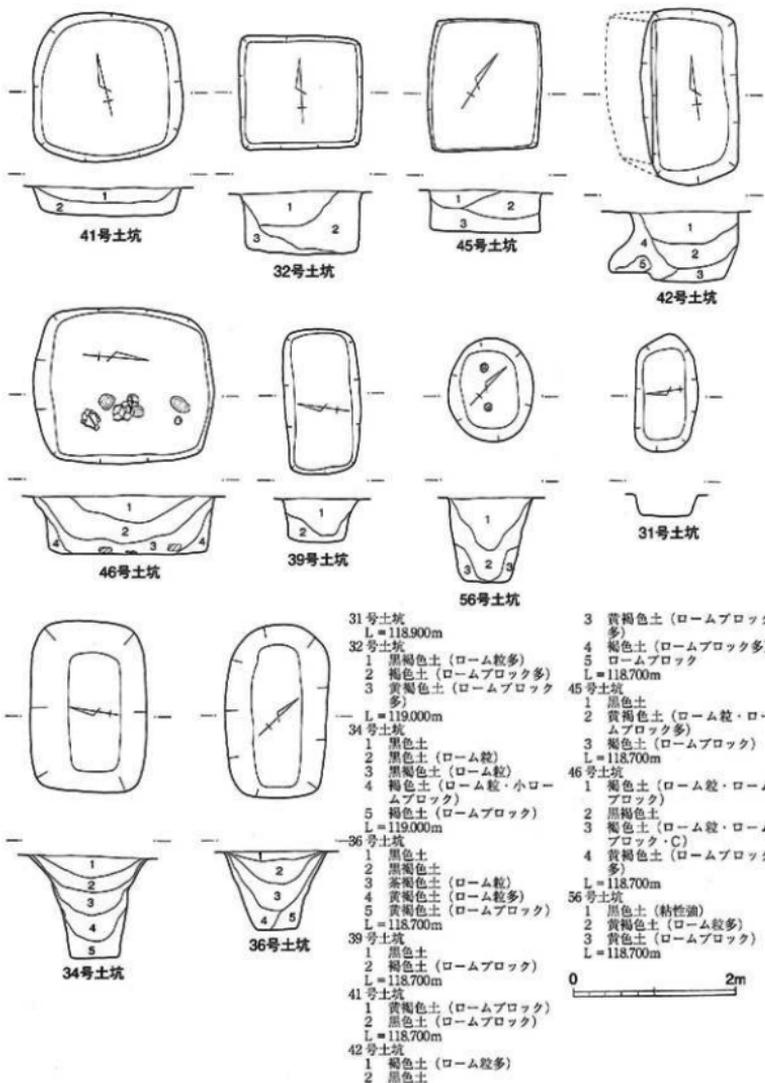
第107図 A区内土坑平・断面図(2)



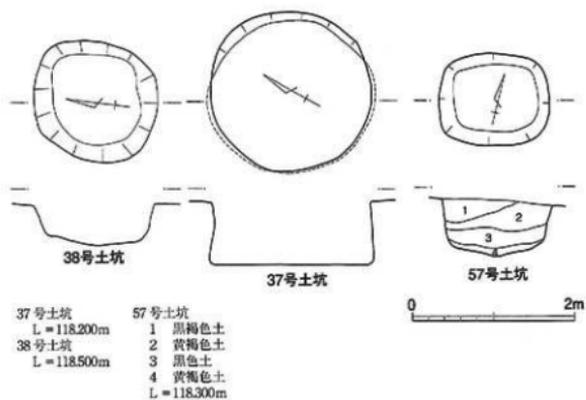
- | | | | | | | | | | |
|---|---|--|---|---|---|--|---|---|--|
| 30号土坑
1 黒色土
2 黒色土 (ローム粒)
3 黒褐色土 (ローム)
4 黄褐色土
L=118900m | 35号土坑
1 黒褐色土 (ローム粒多)
2 黄褐色土 (ローム粒)
L=118900m | 40号土坑
1 黒色土 (ローム粒)
2 褐色土 (ロームブロック) | 43号土坑
1 黒色土 (ローム粒多)
2 褐色土
3 黄褐色土 (小ローム)
L=118700m | 48号土坑
1 黒色土
2 黒褐色土
3 黄褐色土
L=118800m | 50号土坑
1 黒色土 (ローム粒多)
2 黒褐色土 (ローム粒多)
3 黄褐色土 (ローム粒・小ローム)
L=118500m | 52号土坑
1 黒色土
2 褐色土
3 黄褐色土 (ローム粒・ロームブロック) | 53号土坑
1 黒色土 (粘性強)
2 褐色土 (ロームブロック多)
3 褐色土 (ローム粒多、やや柔らか) | 54号土坑
1 黒色土
2 褐色土 (ローム粒・小ローム多)
L=118500m | 55号土坑
1 黒色土
2 黄褐色土 (ロームブロック多)
L=118700m |
|---|---|--|---|---|---|--|---|---|--|

2m

第108図 B区内土坑平・断面図 (1)



第109図 B区内土坑平・断面図(2)

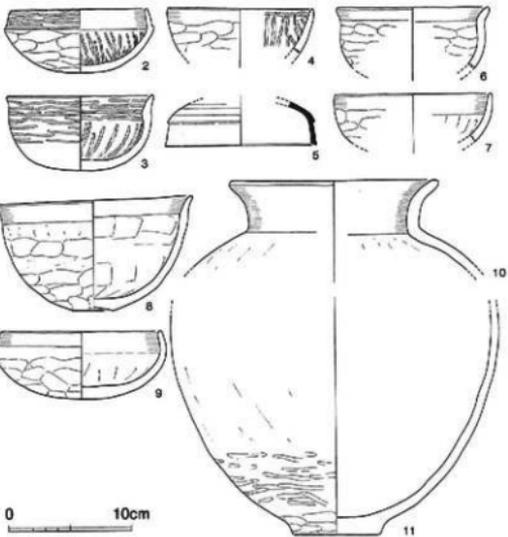


第110图 C区内土坑平·断面图

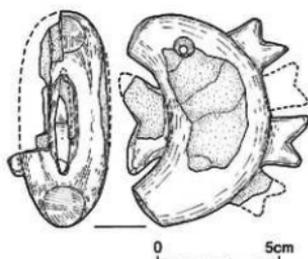
A区土坑



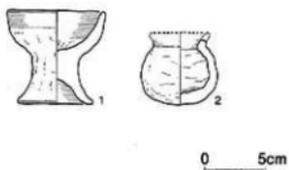
B区土坑



第111图 A·B区内土坑出土遗物实测图



第112図 B区内グリッド出土子持勾玉実測図



第113図 子持勾玉周辺出土土器実測図

遺物 番号	番 号	器 種	寸法 (cm)			器形の特徴	調査の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
			口径	器高	底径							
A区土坑	1	土師器杯	12.8	4.8	-	口縁部は外反。外面に 稜を有す。	内面はヨコナデ、外面は口縁部ヨ コナデ、底部ヘラケズリ。	黄褐色	やや粗	やや不 良	24号土 坑	1/3残
B区土坑	2	土師器杯	11.0	5.2	-	口縁部は内反。外面に 稜を有す。	内面は口縁部ヨコナデ、底部はヘラ ミガキ。外面は口縁部稜位のヘラミ ガキ、他はヘラケズリ。	内面と口縁 部外面は赤 褐色。他は 灰赤褐色	やや粗、 1mm前後 の砂粒少し 含む	良好	30号土 坑	赤砂か
B区土坑	3	土師器杯	11.8	6.1	-	口縁部は直立後やや外 反。内面に稜を有す。	内面は口縁部順位、断面放射状のヘ ラミガキ、外面は稜位のヘラミガキ。	内面黒色、 外面灰赤褐 色	やや粗、1 ～2mmの 砂粒含む	普通	30号土 坑	褐色色理
B区土坑	4	土師器杯	11.8	3.7	-	口縁部は短く立つ。	内面はヘラミガキ、外面はヘラケズ リ。	暗赤褐色、 外面暗褐色 気味	微砂粒含む	やや良	30号土 坑	1/3残
B区土坑	5	須磨器蓋	12.2	3.6	-	外面に稜を有す。	ロクロナデ。天井部外面は放射ヘラ ケズリ。	青灰色	やや粗、 2mm前後 の砂粒含む	良好	30号土 坑→17 住居竈穴	
B区土坑	6	土師器杯	12.5	-	-	口縁部は外反。内面に 稜を有す。	内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナ デ。外面は口縁部ヨコナデ、体部ヘ ラケズリ。	明赤褐色	密、微砂粒 含む	良好	40号土 坑	1/5残
B区土坑	7	土師器杯	12.7	-	-	口縁部は短く立つ。	内面は口縁部ヨコナデ、体部はヘラ ナデ。外面は口縁部ヨコナデ、体部 ヘラケズリ。	明赤褐色	密	良好	40号土 坑	1/5残
B区土坑	8	土師器体	16.0	8.9	3.4	口縁部は直立後やや外 反し。内面に強い稜を 有す。体部は半球形。	内面は口縁部ヨコナデ、体部はヘラ ナデ。外面は口縁部ヨコナデ、他は ヘラケズリ。	灰褐色	やや粗、2 ～4mmの 砂粒含む	普通	46号土 坑	完形
B区土坑	9	土師器杯	12.8	5.5	-	口縁部は内湾する。	内面は口縁部ヨコナデ、体部はヘラ ナデ。外面は口縁部ヨコナデ、他は ヘラケズリ。	密、微砂粒・ 赤色粒子含 む	良好		46号土 坑	
B区土坑	10	土師器盃	17.0	-	-	口縁部は外反。	内外面とも口縁部ヨコナデ、胴部は ヘラナデ。	褐色	やや粗、2 ～4mmの 砂粒を含む	やや良	46号土 坑	1/5残
B区土坑	11	土師器盃	-	-	6.8	胴部は球形で、平底。	内面は滑潤。外面は胴部中位ヘラナ デ。下位はヘラミガキ、底部ヘラケ ズリ。	赤褐色	やや粗、1 ～2mmの 砂粒多く含 む	やや不 良	46号土 坑	

第21表 土坑出土遺物観察表

第2節 古墳

本遺跡内には7基の円墳が確認されている。1基は30m近い将軍塚古墳であり、遺跡東部の台地中央部に立地し、その南側に6号墳が位置している。他の5基は、将軍塚古墳から200m北西に5号墳が、600m北西の地点に1～4号墳が集中して立地している。発掘調査に先だつての分布調査の際、この4基を群として捕らえ南より1～4号墳と名付けた。

本遺跡をのせる台地は、北西から南東に向かって狭長に延びるものであり、北東側に姿川、南西側に武子川がそれぞれ流れている。台地両側にはそれぞれの河川によって開析された水田低地面が広がるが、台地上部との比高は15.6mをはかる。

古墳群が立地するのは、この台地の南西側縁辺部にあたり、南方約150mに武子川を望む地点である。この地点はちょうど台地縁辺部がいったん西方へくびれ込む部分であり、斜面はほぼ南向きとなっている。1、3、4号墳はこの南斜面を登りきった位置に、また2号墳はこれよりやや奥まった平坦部に、それぞれ立地している。尚、3、4号墳は調査区外となり、そのまま保存された。

(1) 1号墳

本墳は傾斜15°ほどの南緩斜面に立地している。このため発掘調査前における墳丘測量調査では、山崩にこぶし状のせり出し部があるというような状態であった。この時点における見かけの墳丘は、径12m、高さ1.2m程の、かなり小規模なものであった。

【墳丘】

墳丘径は第2トレンチと第6トレンチにおいて検出された墳端部間の距離からすると、12.5mであるが、第4トレンチにおいて検出された墳端部から石室前庭部と思われるあたりまででは14m前後を測る。やや南北に長い円墳であったようである。

本墳の場合斜面上に築くということから、石室構築部を中心にかなり大きく地山を削平し、平坦面を造り出している。削平は大きく2段階に分かれ、最初は現墳丘面の半分程の面積に渡って行われ、次に石室掘り方を1段低く削り込んでいる。この削平は、特に山寄り部においてはローム層までおよんでいる。

盛土は、石室築造後ほぼ奥壁を中心として行われている。周溝や石室掘り方から出されたローム土や鹿沼土をふんだんに混ぜて1層1層固くたたきしめられている。墳丘中心部あたりでは、6～7層の盛土が確認されており、表土までの高さは約2mとなる。

【周溝】

トレンチによって確認調査を行ったが、第1・第7トレンチ、すなわち石室が開口する墳丘南側部分では、周溝が確認されておらず、北側の山寄り部だけに確認できる周溝の幅は各トレンチによって若干異なるが4m前後である。ただし第2トレンチにおいてはやや狭くなり、2.5m程になっている。南側になるとともに徐々に取東して行くものと思われる。一方、周溝の深さは差が大きく、各トレンチにおける現表土からの深さは次のとおりである。第2トレンチ-60cm。第3トレンチ-90cm。第4トレンチ-105cm。第5トレンチ-95cm。第6トレンチ-110cm。以上のように墳丘北側が深く掘られている。

斜面上への築造ということから、墳丘盛土に直接関係してくる周溝の堀削も、技術的に容易な

北側山寄り部分に集中したものと考えられる。

【石室】

主体部は、主軸方位がN-12°-Eで南に開口する袖無型横式石室である。天井部および側壁南部から羨門部に至る部分がかなり倒壊している。後世に盗掘を受けたようである。天井石は盗掘の際かなり抜き取られてしまったようであるが、石室内の埋土中に崩れ落ちたと思われる3個の天井石が検出されている。大きさは3個ともほぼ同じであり、長さ85cm前後、幅40～50cm、厚さ25cm前後である。流紋岩の割り石である。

奥壁は3枚の凝灰岩を横積みしている。大きさは下段が幅105cm、高さ60cm、厚さ25cm、中段が幅95cm、高さ35cm、厚さ20cm、上段が幅80cm、高さ33cm、厚さ21cmである。3枚の石は、石室内方向へ10°程傾斜して積み上げられている。各石の内側は、工具によって表面が平滑に仕上げられているが、他の面には工具痕が認められない。内面だけを意識的に整形したものと思われる。

側壁は川原石を小口積みしている。川原石は、厚さが15cm程度で長さ30cm前後のものを使用し、間げきにこぶし大の石を詰め込んでいる。盗掘のために、側壁上部は倒壊しているが、奥壁上段の石幅あるいは天井石の幅などから推定すると、20～30cmぐらいの持ち送りがあったものと思われる。また奥壁への移行部はゆるやかにカーブを持たせており、それは根石の並べ方にもよく示されている。

床面は大小さまざまな平石を敷きつめているが、奥壁から約2.8mの地点でこの敷石が認められなくなる。ちょうどこの地点では側壁も抜き取られたような状態になっており、おそらくここで玄室と羨道が仕切られていたものと思われる。また羨門部床面には、小礫が土手状に積み上げられている。

各部位の計測値は、次のとおりである。石室全長3.9m。玄室長2.8m。羨道長1.1m。玄室幅は奥壁部で1m、中央部で1.35m、玄門手前で1.15mであり、胴張り型の平面形となる。羨門部幅0.85m。奥壁高1.3m。

【掘り方】

斜面地山を整形し、東西幅2.7m、南北長約5m、深さ0.8m前後の掘り方をつくっている。さらに掘り方底面と肩部上面には、7～8cmの厚さでロームを敷きつめている。奥壁下段の石および側壁の根石は、このローム敷き層にくい込むような形で並べられている。なお、石室内にはこの上にもう一層ローム混りの層が敷かれている。

裏込めには、こぶし大の川原石、ローム、粘土、黒色土などが使用されている。裏込めは、側壁の石を1段か2段積むごとに、しっかりとたたきしめるように行われている。

奥壁のすぐ北側には、掘り方に続く形で半円形の平坦部が認められる。広さは約3.5m²で、高さは奥壁下段の石と同じ高さである。この付近で側壁に使用されているような大きめの川原石が何個か検出されたことにより、石材置き場として使用されたものと推定している。

【出土遺物】(第117図)

直刀(1)

石室内床面敷石上より検出される。位置は西側壁から15cmの地点であり、切っ先は南向きである。

切っ先は端部を欠損するが、やや脹をもつものようである。両区とも短く切り込まれる型で、

茎は先へ狭くなる。各部位の計測値は次のとおりである。現存刀身長59.2cm。刀身幅は元で2.9cm。棟は元で0.7cm。鋒で0.5cm。棟区0.2cm。刃区0.2cm。茎長8.8cm。茎幅は元で2.4cm。先端で1.5cm。目釘は茎の先端近くに1個つき、長さは2.5cm。径0.5cm。さらに片方の端部が0.5cm程屈曲する。

土師器坏 (2)

出土位置は羨門の南1.2mの地点で、レベルは石室掘り方底面のローム敷き層の上面である。前底部のプランは明確でなかったが、おそらくこの範囲内と思われる。

口径14.5cm、器高5.5cmを測る丸底の坏である。体部外面に稜を有し、内面にも軽い段をつくっている。口縁部は内湾気味に開いている。成形は紐積みであり、底部がかなり厚手になっている。内面は全面へら磨きされ、外面は口縁部横など底部へら削りの後粗いへら磨きを施している。内外面とも黒色処理された、たいへん焼成の良い土器である。

ガラス小玉 (3~6)

石室床面の土をふるった際に4個が検出される。各ガラス小玉の色調は、次のとおりである。3-緑色。4-黄色。5-青色。6-淡青色。

(2) 2号墳

本墳は1号墳の北約25mの台地上平坦部に立地する円墳である。発掘調査前における墳丘測量調査では、直径15m、高さ1.3mほどの小円墳であったが、発掘調査の結果では、周溝を含めた直径が約24mであることが判明した。

【墳丘】

規模は、周溝内側の立ち上がり部を基準にすると直径18.9m前後、中心部での高さ1.35mを測る。ただし、周溝内側の立ち上がり部から内方へ約2mの幅で平坦部が認められ、この部分には盛土がなされていない。したがって、実際に盛土された範囲の直径は、ほぼ15mである。

盛土の一つの技術として、最初に外縁部を土手状に積み上げたいことが、南北の断面図によく表れている。墳丘築造過程での盛土の流出を防ぐための配慮と思われる。

【周溝】

周溝の幅は、墳丘北側でやや広く3m前後、逆に南側では狭くなり2m余りとなる。底面レベルではほぼ一定であり、現表土からの深さは90cm前後である。周溝底面の形は、鍋底状を呈し平坦な面は形成しない。墳丘北東側の周溝内には、長さ6.1m、幅2.3m、現表土からの深さ2.2mの土坑がある。平面形は、ちょうど周溝のカーブに合った長方形形状である。覆土はレンズ状の堆積を示しており、周溝とともに埋没したようである。また底面を見ると、ローム層を掘り抜き、鹿沼軽石層に達したところで意識的に止めている様子が窺える。以上の点から、墳丘盛土に使用するロームを採掘した土坑であったことが推定される。

墳丘北側から北西側の周溝には、4基の土坑と多数の柱穴状ビットが検出されている。土坑1と土坑2はほとんど接しているが、土坑3、土坑4は一定の間隔(約5m)をおいて周溝内に並んでいるように思える。しかも、4基とも周溝外側の立ち上がり部に位置しているのは、何か意味のあることを感じさせる。また、平面形は4基とも隅丸長方形ということで一致している。各土坑の計測値は、次のとおりである。土坑1は、長さ1.8m、幅0.5m、確認面からの深さ0.2m。土坑2は、長さ1.8m、幅0.45m、確認面からの深さ0.5m。土坑3は、長さ1.7m、幅0.6m、確認面からの深さ0.6

mで、周溝内方へやや傾斜させた掘り方である。土坑4は、長さ1.7m、幅0.7m、確認面からの深さ0.45m。なお、各土坑とも遺物は全く検出されていない。柱穴状ピットは、土坑3、土坑4に集中して検出されている。深さはまちまちであるが、60~70cmのかなり深めのものも認められる。また2個1組で、片方に補助的な役割をさせたのではないかと思われるものも、何組かみとめられる。おそらく、相当数は柱穴として使用されたものと考えられる。並び方に規則性はないようであるが、中にはP5・P6のように、周溝に渡したような形で一列に並ぶものもみられる。

【墳丘下整地面】

盛土と旧表土整地面（黒色土）の間には、全面に厚さ数cmの薄い層がみられる。色は非常に鮮やかな黒色を呈し、炭化物が多量に混入している。この層の範囲は、盛土がされている部分全体にわたっている。

また、この面から4個の柱穴状ピットが検出されている。4個ともかなり傾斜をもたせた掘り方であるが、それらの方向は一定していない。確認面からの深さは、最も深いものの場合1m近くもある。位置的にみれば、4個とも盛土下の炭化物を含む層の範囲内という特徴がある。

【主体部】

埋葬主体部は、2基の隅丸長方形を呈する土坑である。

第2主体部は、長さ2.56m、幅0.9m、確認面からの深さ0.25mの大きさで、主軸方位をN-10°-Wにとる。墳丘が3層（高さにして0.9m）ほど盛土された段階でほられたものと思われる。因に旧表土面から土坑底面までの高さは0.6mである。土坑内の覆土は、大きく周縁部と中央部に分かれる。周縁部の土は茶褐色を呈する非常に柔らかい腐食したような土である。これに対し中央部の土は、非常に固い。

第1主体部は、発掘調査の手順がまず、断ち割りトレンチによって破壊してしまい、僅かに東側の一部が残ったものである。大きさは推定で、長さ2.9m、幅0.9m、深さ0.28mで、主軸方位をN-12°-Eにとる。確認面は、第2主体部とほぼ同じレベルである。残存していた土坑内の覆土は、第2主体部の周縁部のものと同じである。また覆土の上層には炭化物の混入がみられ、中央部よりやや南よりのところには、焼土が数cmの層をなして確認されている。

【出土遺物】

鉄器（第121図）

第2主体部土坑の北東コーナー近くより出土したものである。出土位置は、周縁部の柔らかい土層中であり、底面より約10cm浮いた状態で検出されている。所謂、スキ・クワ先状鉄製品と思われる。大きさは、幅4.6cm、長さ3.2cmで、厚さは2~3cmである。上端部両側に幅1cmの先端が丸い爪状の突起があり、これが内側へ曲り込んでいる。

土器（第123図）

墳丘南東で中心部から約5mの地点で出土したものである。出土位置は、墳丘盛土の掘部にあたり、周溝との間にある平坦部の直前である。現表土層を除去した段階で検出されたものであり、層的には墳丘盛土の直上である。土器の検出された範囲は、南北3.5m、東西2mほどの広さであり、この部分内より土師器環9個体、須恵器甕1個体の計10個体が出土している。土師器環は、まとまって出土しており、2個体重ねになっているものもある。これに対し、須恵器甕はやや南にはずれた位置にある。なお、9個体ある土師器環のうち6と9の2個体は、焼成後の底部穿孔がなされてい

る。

土師器環 1～6は半球状を呈するものであり、口径は14cm前後から15cm、器高は5.5cm前後である。全て同じつくりであり、内面に丁寧な放射状のヘラ磨きがほどこされ、外面は口縁部が横ナデ、底部がヘラ削りである。色調は褐色または暗褐色を呈し、黒斑を持つものもみられる。7～8は体部に張り出す稜を有し、口縁部が内傾または直立するものである。内外面の調整は、1～6と同じであり、内面はやはり丁寧な放射状のヘラ磨きが施されている。なお、9は内面に黒色処理がなされている。

須恵器壺 大きさは口径13.9cm、器高17.4cm、胴部最大径9.7cmである。頸部には、12本1組の波状文が、5段にわたって施されている。胴部文様帯は、上下が波線で区画され、間に櫛状工具による刺突文が配されている。底部外面は指頭によるナデ調整がなされている。胎土には2mm前後の白色砂粒が多く含まれている。焼成は良好で、青灰色を呈する。

(3) 5号墳

【墳丘】

規模は、周溝内側の立ち上がり部を基準にすると直径13m前後で、墳丘部分はすでに掘削されている。また、南東部が調査区外となるため、全体像がわからないが円墳と考えられる。

【周溝】

周溝の幅は1.75～2.5mで、深さは20～75cmである。周溝内には比較的浅い土坑が3基確認されているが、南西部の土坑が深さも深く、周辺から川原石が出土している。

【主体部】

埋葬主体部の掘り方は、長さ4.5m、幅2.75m、確認面からの深さ1mの大きさで、主軸方位をN-3°-Eにとる。主体部の石室の石はほとんど抜かれており、床面に敷かれたと思われる川原石が、南面と北面に一部残っていたのみである。

【出土遺物】

土器 (第126図)

須恵器平瓶が1点出土した。口縁部を欠損しており、現存高が11.5cmである。平底で、胴部上半に最大径を有する。また、肩部には2条の沈線がめぐる。

(4) 6号墳

本墳は將軍塚古墳の南13mに位置するものであり、昭和59年4月中旬～6月上旬にかけて発掘調査したものである。本墳の存在が確認されたのは昭和58年の10月である。これは後述するが本墳が高さ0.5mに満たないという非常に低いものであったため、周辺の雑木を伐採して初めてその存在に気が付いたというものである。つまり、本遺跡の発掘が開始された昭和57年の段階では確認することができなかったものである。

【発掘前の墳丘】

発掘前の墳丘の状態は第127図で示すとおり高さ40cm前後、径10m前後の円墳であり、肉眼ではわずかな地膨れが感じられる程度の極めて小規模なものであった。前述したように発掘前は雑木林であり、下草や低木のためまったく確認することができない状態であった。なお、地元の方

の話では、戦時中の食糧増産に伴いこの辺が開墾されたということであり、その際に本墳の墳丘も削平された可能性が高いと考えられる。伐採後、本墳南西の一角に積み重ねられた川原石が検出されたが、開墾時に片付けられたものとみられる。

発掘調査は、墳丘の中心を通る十文字のベルトを残す形で進め、周溝が確認された段階でさらに4本のベルトを放射状に設定することとした。

【周溝】

周溝は20～30cmの表土を排除した段階で確認することができた。確認状況は、周溝埋没土層の黒色土の範囲が露呈したものであり、その形状は現墳丘をとり巻くほぼ正円形のものであった。

周溝の形状は底面が平坦となる逆台形状のものであるが、内側の立ち上がり外側のそれに対して急であることが特徴である。周溝の幅は最も広い西側で3.4m、最も狭くなる南東側で2.3m、また深さは最も深い西側で現表土から1.1m、最も浅くなる東側で現表土から1.0mとほぼ一定である。なお、周溝を含めた本墳の大きさは東西で19.2m、南北で19.6mである。

【墳丘】

前述したように墳丘はかなり削平されていたわけであるが、中心部近くでわずかに盛土の状況が確認されている。確認された盛土は旧表土整地面上に載ったロームブロックを含む褐色土層であり、中心部で約20cmの厚さを確認できたものである。盛土の端部は周溝内側立ち上がり上端から約2m内側であり、この間は地山を整形し緩やかな斜面としている。したがって、盛土の範囲は周溝よりかなり狭い部分に行われたものであり、径8～9m程度のものであったとみられる。なお、墳丘径は東西で14.5m、南北で15.5mであり、やや南北に長い楕円形状を呈している。

【主体部】(第129図)

主体部はほぼ南北に主軸をとる横穴式石室であるが、ほとんどが破壊され、わずかに西壁の一部が残っていただけのものである。掘り方は南北4.8m、東西2.6mの隅丸長方形で、南壁に墓道状の溝が付く羽子板状のものとはならない。掘り方の深さは現表土から60cmであり、地山の旧表土を約40cm掘り込んだものである。掘り方の中央部には、ロームブロックを突き固めて床面状にした黄褐色土の範囲があり、残存する側壁の線と一致することからこれが玄室の床面を示すものとみられる。これから判断すると玄室の規模は長さ3.1m、幅1.3～1.4mで、胴張りのない長方形プランであったとみられる。側壁は川原石の小口積みであるが、奥壁についても残存するものや石を据えたとみられるくぼみから判断して同様に川原石の小口積みであった可能性が強いものと考えられる。なお、前庭部には川原石と削り石が敷かれたような状態で検出されたが、周溝がある程度埋没した後に行われたものである。

【土坑】

周溝内より3基の土坑が検出されている。いずれも外側立ち上がり部に斜めに掘られているのが特徴である。土坑1は周溝が中位まで埋没した段階で掘り込まれたものであり、形状は1.45×0.75mの長方形で深さが確認面から0.8mを測る。土坑2もやはり周溝がある程度埋没した段階で掘り込まれたものであり、形状は2.6×1.15mの隅丸長方形で深さが確認面から1.15mを測る。土坑3は1.5×0.6mの隅丸長方形で周溝の外壁側を0.6mほど掘り込んだものであり、周溝埋土を最下層まで掘りあげた段階で確認したものである。

【遺物の出土状態】

鉄器（第130図）

周溝南東部外側に掘り込まれた土坑1の直上より、鉄刀2振、刀子1振、櫛一式が出土している。前述したように本土坑は周溝埋土中位の黒褐色土層から掘り込まれたものであり、本墳築造後ある程度の期間をおいてから掘られたものである。土坑内にはロームブロックを多く含んだ土が層状に堆積し、底面最奥部からは黄褐色粘土が検出されている。埋没の状態から判断すると、短時間に埋め込まれたような状況であり、鉄器が検出されたのはこの最上層である。鉄刀2振は土坑の長軸方向に合わせて切先が揃い、刀子と櫛がこれらに重ねたような状態で検出されたものである。恐らく、これらの鉄器は本土坑を埋め立てた後に、置かれたか簡単に埋められたかしたものと考えられる。

なお、本土坑周辺の周溝内及び横穴式石室南の周溝内より刀装具が散乱した状態で検出されている。これらはいずれも周溝埋土中位の黒色土層より出土したものであり、本土坑直上より出土した鉄刀あるいは刀子の刀装具とみられる。

須恵器平瓶（第131図）

須恵器平瓶は南部周溝内、横穴式石室前庭部に敷かれた石群のすぐ南から検出されたものである。幅0.5m、長さ1.5mの範囲に細片で分布していたものであり、出土層位は周溝埋土中位の黒色土層中で、刀装具やガラス小玉などの出土層位と同じである。なお、この土層は前庭部石群のすぐ上層である。

本土器の破片が散布する中心からは25cm程度の川原石が1個検出されている。出土層位は破片群と同じであり、胴部片の一つが川原石の上面に密着していたという状況である。また、本土器は周溝東部で検出された須恵器提瓶とは異なり、接合した結果ほとんど完形品となっている。このような状況から、本土器は破碎された跡に投棄されたというよりはこの場で割れて飛び散ったと考えられるものである。破片の散布状態からみると、恐らく周溝に置かれた川原石に向かって本土器をぶつけたものとみられる。

須恵器提瓶（第132図）

須恵器提瓶は東部周溝内から検出されたものである。幅30cm、長さ1.2mの範囲に散布したものであり、出土層位は周溝埋土中位のローム粒、ロームブロックを多く含む黄褐色土層上面である。この土層は土坑2の周辺から本土器検出部分の南半部まで分布していたものであり、土坑2掘削の際に掘り上げられたものと考えられる。土坑2は周溝埋土下位の黒褐色土層から掘り込まれたものであり、土坑1よりやや古い段階のものと思われる。なお、本土器の破片は全て接合されたが、背面が全く欠損している。周辺には破片もみあたらなかったことからみると、本土器は背面欠損後に破碎され、周溝に投棄されたものと考えられる。

土師器甕（第133図）

土師器甕（第135図16）は北東部周溝内より検出されたものである。幅1m、長さ2.5mの範囲から細片で出土したものであり、出土層位は周溝埋土中位の黒褐色土層中である。破片はほぼ一個体分揃っているが、底部の大部分が欠損している。底部穿孔の後に破碎されて周溝内に投棄されたものとも考えられる。

玉（第134図）

切子玉とガラス小玉がそれぞれ1個検出されている。切子玉は横穴式石室西側の墳丘裾部近くから出土したものである。墳丘部の表土排除作業中に出土したものであり、ほぼ墳丘面に密着した状態で検出されたものである。ガラス小玉は横穴式石室南の周溝内より出土したものである。出土層位は刀装具や須恵器平瓶の出土した層と同様であり、周溝埋土中位の黒色土中である。

須恵器甕 (第134図)

須恵器甕は胎土、焼成の異なる2個体(第136図63・64)が検出されている。両者ともかなりの破片となって広範囲に散布した状況で出土したものである。破片の散布は墳端部から周溝の内側にかけて東部を除くほぼ全域にわたっているが、特に集中する部分は横穴式石室南部の前庭部付近から南西部にかけてである。周溝内より検出された破片をみると、出土層位は埋土の中位～上位の黒色土層中であり、周溝がかなり埋没した段階である。なお、両者には出土位置及び層位による差異は認められない。

これらのことから、須恵器甕63・64の2個体は、恐らく前庭部付近で破砕された後、ほぼ墳端部全体にばらまかれたものと想定できる。そしてその時期は、周溝がかなり埋没した段階であることから、本墳築造後かなり時間が経っていたものとみられる。なお、破片の散布が墳丘上まで広がっていたかどうかは、本墳墳丘がかなり削平されていたことから不明である。

土師器高坏 (第134図)

土師器高坏は横穴式石室の東側墳端部より3～4個体、同じく南西部の墳端部より1個体が出土している。いずれも破砕されたものであり、出土層位は須恵器甕と同様である。

手づくね土器と土師器群 (第134図)

西部周溝外側の一隅より手づくね土器約50個体とそれに付随して多量の細片となった土師器群が集中して検出されている。出土位置は周溝の外側立ち上がり面に片寄っており、手づくね土器が約2m四方の範囲に、土師器群を合わせた約3m四方の範囲に集中している。出土層位は周溝埋土の下層であり、本墳築造時かそれに近い時期のものと考えられる。なお、手づくね土器は完形品での出土がほとんどであるが、土師器群はかなりの細片に砕かれ投棄されたと思われる状況である。

【遺物】

土師器群 (第135図1～11)

甕、小形甕、碗、坏などが細片となってかなり出土しているが、器形の復元できるものだけを図面化した。接合不可能な破片が多いため、推定の個体数を示すと、甕4～5個体、小形甕4～5個体、碗5～6個体、坏10個体前後である。

坏(1～6) 1～3はほぼ同形で、外面に稜を有して口縁部が外反するものである。いずれも外面へう削り、内面へう磨きで仕上げている。1は口径13.8cm、器高4.7cm。胎土は緻密で焼成良く、茶褐色を呈する。2は口径15.3cm。胎土は緻密で、焼成良く、内面が赤彩されている。3は口径14.2cm。胎土は緻密で、焼成良く、茶褐色を呈する。4・5は口縁部がやや短めで、直立気味なものである。4は口径14.2cm。胎土は緻密で、茶褐色を呈する。5は口径13.7cm。胎土は緻密で、焼成良く、淡い褐色を呈する。いずれも外面へう削りで、内面はへう磨きされている。なお、6は墳丘表土を排除しているときに地表近くから出土したものである。外面に鋭い稜を有して口縁部が内傾するものである。底部外面がへう削りで、他は全てへう磨きされている。胎土は緻

密で、焼成は非常に良く、内面が黒色処理されている。推定口径13.3cm。

埴 (7) 口径12.2cm。外面はヘラ削り、内面はヘラ磨きで仕上げている。胎土は砂粒を若干含み、焼成はあまい。暗褐色を呈する。

小形甕 (8・9) 8は口径12.0cm。内面をヘラナデ後粗くヘラ磨きするのが特徴である。胎土に砂粒を若干含み、焼成はあまい。暗褐色を呈する。9は口径13.7cm、底径6.7cm、推定器高19.6cm。外面は縦位のヘラ削り後胴中～下部を粗いヘラ磨きで仕上げている。内面はヘラナデ。胎土にはやや粗い砂粒を含み、淡褐色を呈する。

甕 (10・11) 口縁部と底部の破片を図化した。他に接合不可能の胴部片が何片か出土している。10は口径24.5cm、底径8.5cm。内外ともヘラナデで、外面はさらに粗いヘラ磨きで仕上げている。胎土には粗い砂粒を含み、焼成良好で、淡褐色を呈する。11は口径18.0cm、底径8.8cmで、胎土は粗く焼成もあまい。赤褐色を呈する。

土師器高坏 (第135図12～15)

12は口径15.9cm、器高6.9cm、脚裾径12.2cm。坏部は外面にわずかな稜を有して口縁部が外方へ開き、脚部は中程でわずかな膨らみを有して裾部が大きく開くものである。坏部の内面は丁寧なヘラ磨きで仕上げられ黒色処理が施されている。また脚部の内面はヘラ削りされている。胎土には微砂粒を含み、焼成は良好である。坏部内面黒色で、他は暗褐色を呈する。13・14とも12とほぼ同じつくりであり、胎土・焼成・色調も類似したものである。13は口径15.0cm、器高6.6cm、脚裾部径10.8cm。14は脚裾部径11.5cmである。

15は脚部のみであるが、12～14とは異なるものである。残存高5.7cm。脚裾部径10.5cm。胎土は緻密であり、淡い褐色を呈し、内面は黒色処理されない。

土師器甕 (第135図16)

口径20.2cm、器高32.7cm。胴部最大径29.9cm。ほぼ中位に最大径を有する球胴で、口縁部は外反気味に立つ。頸部外面に横ナデによってできた稜を残すのが特徴である。胴部外面は上半及び最下半が縦位、中位から下半が横位のヘラ削りであり、さらに下半部は横位の粗いヘラ磨きで仕上げられている。内面は全面ナデ調整である。胎土には2～3mmの小砂粒を多く含み、焼成は良好である。色調は明るい褐色で、胴部に黒斑がみられる。

手づくね土器 (第135図17～62)

器形は、大形で口縁部が外へ開くもの (17～19)、口縁部がほぼ直立するぐい呑み形のもの (20～60)、高環形のもの (61・62) の3種に分かれる。大きさは大小さまざまで、最も大きい17で口径9.6cm、器高4.5cm、底径5.5cm。また、最も小さいもので口径2.4cm、器高1.4cm、底径2.6cmである。胎土は小砂粒を少し含むものと、微砂粒を多く含む砂質のものとの2種類あり、色調は茶褐色のものも多く、まれに暗褐色のくすんだものもみられる。焼成は総じて良好である。

須恵器甕 (第136図63・64)

63は口径22.2cm、推定器高46.0cm、推定胴部最大径44.5cm。口縁部は大きく外反し、口唇部外面に稜を有する。胴部は胴部に最大径がくる球形で、底部も丸くなるものと思われる。胴部外面は平行タタキの後、頸部直下から底部近くまで、2～3本一組の横線が施されている。タタキ方向は、横線が施されている部分は左下がりであるが、横線がなくなる底部付近では右下がりとなっている。胴部内面には同心円文が残る。口縁部は内外面ともロクロナデである。胎土には2～3mm

の白色砂粒を特徴的に含み、焼成はややあまく、暗青灰色を呈する。

64は口径22.5cm、推定器高46.5cm、推定胴部最大径45.5cm。口縁部は大きく外反し、口唇部が折り返される。胴部は肩部に最大径を有する球胴で、底部も丸くなるものと思われる。胴部外面は格子タタキで、その後上半部にはカキ目風のヘラ描き横線が施される。胴部内面には同心円文を残すが、底部付近はナデ消している。口縁部は内外ともロクロナデ、胎土は緻密で、1mm前後の黒色粒子が特徴的に含まれている。焼成は極めて良好で、黒青灰色を呈する。また、肩部には自然軸が付着する。

須恵器提瓶 (第136図65)

口径5.2cm、器高19.4cm、胴部最大径14.9cm。口縁部はわずかに外反して立ち、端部は丸くおさまる。胴部前面は球形、背面は欠損するが扁平になるものと思われる。側面にはボタン状の把手がつけられている。胴部前面はカキ目で、他はロクロナデである。なお、胴部前面の内面には、成形時に蓋をした接合部が残っている。胎土には3mm前後の白色砂粒をまばらに含んでいる。焼成は良好で、淡青灰色を呈する。

須恵器平瓶 (第136図66)

口径4.8cm、器高15.1cm、胴部最大径13.5cm。口縁部は比較的長めで、わずかに外反しながら立つ。口唇部はやや尖り気味となる。胴部は肩部に一条の沈線がめぐり、丸みのある底部へと至っている。底部外面は回転ヘラ削り調整され、他は全てロクロナデ。胎土は緻密であり、1mm前後の黒色粒子を特徴的に含むものである。焼成良好で、灰白色を呈する。胴部外面の上半には自然軸が薄く付着している。

須恵器甕 (第136図67・68)

67・68とも須恵器平瓶が検出された部分の近くから出土したものであり、同一個体の口縁部と胴部下半の破片である。推定口径12.5cm、胴部最大径10.1cm、円孔径1.3cm。口縁部は頸部から段を有してのび、外面には丸みのある稜がつく。胴部は球形で円孔のすぐ上に一条の沈線がめぐるとされる。底部外面は手持ちヘラ削り調整で、他はロクロナデである。胎土は2~3mmの白色砂粒を含む。焼成良好で青灰色を呈する。

なお、本古墳で検出された須恵器は胎土により、緻密で黒色粒子を特徴的に含むもの(甕64、平瓶)とこれに対してやや粗く白色砂粒を含むもの(甕63、提瓶、甕)の2種類に分かれる。また、焼成は総じて前者のほうが良好である。

刀子 (第137図69)

69は刀子で、鉄刀や轡と共に、土坑1から出土した。鋒は欠損している。刃は19.8cmを残す。茎長は8.3cm、身幅は1.6~2.5cmを測る。刃は平棟平造りで、棟肉は薄い。木質の付着はみられない。関は両関で、錆化のため観察が困難ではあるが、刃関は曲線となって切れ込むようである。茎には木質が残存している。目釘穴は茎の先端近くにあり、鉄製の目釘が通っている。

鐏 (第137図70)

70は鐏で、69の刀子を茎穴に通した状態で出土した。轡や刀子と錆着している。茎孔の周辺は欠損しており、他の部分も錆化が著しい。楕円形に近い卵形を呈する。長径8.1cm、短径7.3cmを測り、薄手の造りで、耳にやや厚みがある。八窓もしくは六窓の透かしを有するが、錆化のためどちらとも断定はできない。刀子の鍔金具と思われる金属片が錆着している。

責金具 (第137図71)

71は鉄地銀張の責金具である。周溝内で出土した。長さ4.3cm、短径3.2cmを測る。断面は隅丸方形で、微かな稜線が巡る。銀は、方形断面の三方のみを覆っており、内側(鞘木に接する面)は鉄地のままである。

鞘金具 (第137図72・73)

72は鉄製鞘金具である。周溝内で出土した。長さ4.3cm、断面長径2.8cm、短径1.9cmを測る。内部にはやや木質が残る。73も同じく周溝内で出土した鞘金具である。長さ2.3cm。推定で、断面長径3.4cm程となろう。折損面に緑青が付着しており、鉄地金銅張の可能性はある。

鞘尻金具 (第137図74)

74は鞘尻金具で、同じく周溝内で出土した。長さ5.4cm、断面長径3.3cm、短径1.8cmを測る。先端には若干丸みがある。折損面に緑青が付着する。

轡 (第137図75)

75は鉄製の轡である。刀子・鐔・鉄刀とともに、土坑1内に折り畳んだ状態で置かれていた。欠損部はないが、刀子などと錆着している。特に銜や鏡板は錆化が激しく、細部の観察は不可能であった。鏡板は長径9.0cm、短径6.4cm程とやや小型である。鉸金を有する立間を造り付ける。環部は楕円形を呈する。立間の環は円形に近く、刺金とともに細身である。環部との接合部分は平坦である。引手には、軽く振り加えられている。長さ15.9cmを測る。先端の環をくの字に屈曲させ、引手壺としている。環は鉄棒の先端を丸め、環の基部に接合する技法で造られている。接合部分にやや段差があり、やや省力化した造りであると言える。銜は二連式で、全長17.5cmを測る。先端の環は大型である。右側の金具は、くみに近い部分で90°振っている。細部は錆化のため観察不可能である。銜先の環に、鏡板と引手を通すという連結方法をとっている。

足金具 (第137図76)

76は、雲珠または辻金具に接合する足金具であると考えられる。鉄製で、鉾が2ヶ所に打たれている。幅2.1cmを測る。周溝内からの出土である。土坑1から、鉄製の轡が出土していること、杏葉などが発見されていないこと、本資料も鉄製であることなどから、土坑1出土轡に伴う、面繫の辻金具の一部と考えたほうがよからう。

鉸具破片 (第137図77)

77は周溝内から出土の鉄製品である。L字形に屈曲している。足金具と同様の理由から、面繫に用いた鉸具の破片であると考えられる。

鉄刀 (第137図78・79)

土坑1には刀子や轡と共に、2振の鉄刀が鋒を揃えて置かれていた。どちらも錆化が著しく、形態の不明な部分が多い。78は刃長72.4cm、身幅は2.8～3.1cmを測る。茎先端が欠損している可能性もあるが、現状で茎長9.3cmである。刃は平棟平造りで、棟肉は薄手である。鋒は、現状での観察から、鉾鋒であると判断した。関は両関で、刃関・棟関ともに浅く切れ込む。茎はやや幅広く、中央に目釘穴がある。鉄製の目釘が残存している。関に近い刃の部分に棒状の鉄の付着物がある。刀装具の一部かもしれない。錆化のため、木質の残存は確認できない。79は刃長79.8cm、茎長13.6cm、身幅は3.0～3.3cmを測る。刃は平棟平造り。薄手の棟肉で、鉾鋒である。関の部分は錆化が著しいが、両関と判断した。茎は幅狭で、目釘穴は不明である。錆化のため、木質の残存

も確認できない。

切子玉 (第137図80)

80は墳丘西裾部で採取した切子玉である。長さ1.8cmを測る。片側からの穿孔である。透明な水晶製である。

ガラス小玉 (第137図81)

81はガラス小玉である。周溝内から出土した。径0.4cmを測る。明青色を呈している。

(5) 将軍塚古墳

本古墳は第138図に示すとおりの整美な円墳である。墳頂部に氏神を祠る社が置かれていたこともあり、ほとんど破壊を受けずに保存されてきたものと思われる。今回の霊園造成にあっても、本墳及びこの周辺は「遺跡の広場」として保存される計画である。従って発掘調査も、正確な規模を確認することを目的とし、周溝部分だけを対象にしたものである。

【墳丘】

墳丘は低平な円錐形状を呈し、墳頂の平端部がほとんどみられない円墳である。東西の墳裾部が一部浅い溝によって変更されている以外は、ほぼ原形を残しているものとみられる。この現状での墳丘規模は、径が東西で20.5m、南北で21.5m、高さが2.4mである。なお、葺石・埴輪等の外部施設は認めることができないが、墳丘南側斜面には石室の石材と思われる石が一部露呈している。

墳丘内の主体部についての調査は実施しなかったわけであるが、その構造を窺がわせる何点かの所見がみられる。一つは、前述した南側周溝部の状況であり、恐らくこれを前庭部とした横穴式石室であることは間違いないものと考えられる。また、その石材を考える上で、前庭部周溝の中程の層から多く出土した凝灰岩の礫(第140図H・H'参照)が参考となる。さらに、墳丘部に入れた第1・2トレンチからは、中心部近くの旧表土上面の粉礫を多量に含む層が検出されている(第140図19層)。恐らく、石材加工に伴って出された削り屑や割れ屑をばらまいたものとみられる。以上のようなことから、凝灰岩のしかも切り石を使用した可能性のある横穴式石室であると推定できる。

【周溝】

検出面は他の古墳時代後期の竪穴式住居等とほぼ同じであり、表土下黒褐色土層の上面である。覆土は部分的に特異なもの(第140図G・G')もあるが、基本的には上から黒色土、黒褐色土、黄褐色土の3層に分かれている。

平面形と規模

平面形は、整った円形をなさない。特に東南部から南部にかけての形状は、円弧を描かず、鈍角に屈曲しているかの感を呈している。このため全体からみると、南東部がやや張り出した円形となっている。周溝を含めた平面規模は、南北径が34.6m、東西径が34.7m、そして張り出した部分を通る径が36.6mである。また、周溝の内側を墳端部としてみた場合の平面規模は、南北径が29.9m、東西径が30.0mそして張り出した部分を通る径が31.1mである。

幅と深さ

幅は西側に対し東側が全般にやや広くなっている。最も狭くなるのは、南西部から前庭部にか

けてであり、確認面での幅が2.7m前後である。また、最も広くなるのは、南東部から前庭部にかけての部分であり、確認面での幅が3.8m前後となっている。深さは、この幅の広さにほぼ相関し、南東部から前庭部にかけてが最も浅くなり50～60cm、東側が全体に深く80cm前後となっている。なお、溝の掘り方は、幅が広く深さもある東側では底面が平坦に近くなり断面が逆台形型となるが、逆に幅が狭く深い西南部では、鍋底状の丸い底面である。

前庭部

内部主体の調査は実施していないため、正確には前庭部に向かう周溝部分である。位置的には、ほぼ南にあたる周溝部分が20～30cm程深まり、内側が墳丘中心部に向かって折れ曲っているものである。恐らく、徐々に浅くなるとともに幅を減じながら横穴式石室の入口へと通じる溝状の遺構と考えられる。なお、この溝の周溝との取り付け部での幅では、推定で8～9mである。

【周溝内土坑】

周溝内からは、8つの土坑が検出されている。各土坑の大きさと特徴をまとめると次のとおりである。

土坑1 北側周溝の外壁寄りから検出された、175×63cmの長方形土坑である。周溝底面からの深さは約10cmであり、黄褐色土の覆土中より滑石製の白玉1個が検出されている。

土坑2 やはり北側周溝の外壁寄りから検出された。185×58cmの長方形土坑である。周溝底面からの深さは13cmであり、出土遺物はみられない。

土坑3 土坑2のすぐ東から検出された、172×75cmの長方形土坑である。周溝底面からの深さは13cmであり、出土遺物はみられない。

土坑4 東側周溝の外縁から検出された、205×83cmの長方形土坑である。周溝外縁部確認面からの深さは65cmであり、出土遺物はみられない。なお、土坑西壁の中央部に径40×30cm、深さ30cmのピットが検出されている。土坑に関連したものと考えられる。

土坑5 東側周溝の内壁から検出された、225×75cmの長方形土坑である。断面（第142図L-L'）で判るとおり内壁方向に斜めに掘られたものであり、周溝底面からの深さは約40cmである。確認面は周溝底面より上層であり、周溝がある程度埋ってから掘り込まれたものと考えられる。なお、出土遺物はみられない。

土坑6 土坑5のすぐ南側で周溝のほぼ中央より検出された、3.5×4m程の不整形な大形土坑である。周溝底面からの深さは70～80cmであり、底面、側面とも凸凹が著しい。断面（第142図K-K'）から、この土坑は埋め戻され周溝の底面として整形されたことが窺える。恐らくローム土採掘のための坑と考えられる。

土坑7 東南部周溝の外壁寄りから検出された、95×55cmの長方形土坑である。周溝底面からの深さは15cmであり、出土遺物はみられない。

土坑8 南西部周溝の外縁から検出された、275×173cmの長方形土坑である。断面（第141図N-N'）からも判るように、周溝の外側に向かって斜め（横穴式）に掘り込まれたものであり、周溝底面からの深さは85cm、周溝検出面からの深さは115cmである。土坑検出面での平面形は、やや楕円形気味であるが、底面は252×142cmの長方形となっている。確認面は周溝覆土の中層であり、周溝がある程度埋没してから掘り込まれたものである。このことから、この土坑の北側に恐らく土坑を掘った時のものと思われるロームブロックを含む層（第140図G-G'の4層）

が残されていたことから判断できることである。なお、断面に現れた第3層は、ロームブロックを非常に多く含む層であり、肩部が崩落したものとみられる。従って、ある程度天井部と言えるものを彫り残した横穴状のものが、本来の形であったのかも知れない。

土坑9 西側墳丘裾部から検出された、140×115cmの隅丸長方形土坑である。検出面からの深さは70cmであり、出土遺物はみられない。確認面の状況から古墳以前の住居群に関連する土坑と考えられる。

以上のように土坑6と9を除けば、いくつかの共通点が認められる。まず、その平面形をみれば、土坑7がやや小型であるが、いずれも等身大以上の長さをもつ長方形である。また、これらは周溝範囲内に位置し、その長軸（主軸）方向は周溝方向に沿っている。時期については、確認面が不明確な場合が多いことから決定し難いが、土坑5や8の状況からみれば、そのほとんどは周溝がある程度埋没した後、すなわち古墳築造後しばらくたってから掘り込まれたものと判断できる。土坑5や8にみられる斜めに掘り込んで横穴状にするという構造的な特徴は、これが、たまたま周溝壁のロームを切り込んだため残りが良かったと考えれば、他の底面近くのみしか検出し得なかった土坑についても共通したものであったとも推定できる。

【出土遺物】

土器（第143図1～13）

1～3は、土坑8の北東約1mの周溝内側寄りから、3点まとまって検出された土師器である（第141図参照）。出土層位は周溝底面上15cmの黄褐色土層上面であり、土坑8の設置に関連して使用されたものである可能性がたかいものである。1・2は体部外面に稜をもって口縁部が内湾気味に開く坏であり、底部外面がヘラ削りされる以外は総て横ナデ仕上げである。3は口縁部が短く内傾する短頸壺であるが、調整技法は2点の坏と全く同一である。

4～7は、周溝覆土中から検出された手づくね土器である。5は土坑4の南西約2.5mの黒褐色土層中（周溝底面から約20cm上）より、7は土坑8の北東2mの黄褐色土層中、また4・6の破片は7の周辺より、出土したものである。4・5の口縁部に横ナデがみられる以外は、いずれも手づくねのみによる仕上げである。

8～13は、須恵器である。8は、墳丘の西側斜面から表探した坏底部であり、蓋受部と短く内傾する口縁部を欠損したものとみられる。底部外面は不定方向のヘラ削り仕上げである。9は、前庭部前面の周溝内覆土中から出土したフラスコ形の長頸瓶である。出土状態は、周溝底面上約30cmの黒褐色土層中に小片となって散乱したものである。頸部に一条の線縁が配され、胴部は回転ヘラ削り調整が施される。焼成は良好で、胴部の上半には自然軸の付着がみられる。10～13は壺の破片であり、いずれも南側周溝の覆土中から検出されたものである。12・13は、内面に同心円の疋痕、外面に格子タタキ目を残すもので、胎土、焼成等から同一個体とみられる。なお、10・11・12はそれぞれ別個体である。

鉄器（第143図14）

位置・層位とも9のフラスコ形長頸瓶のすぐ近くから出土したものである。切先部の欠損した、残存長17.5cmの刀子である。莖長9.2cm、残存刃長8.3cm、身幅1.5～2.3cmを測り、両側で茎尻が幅狭となる。刃は平棟平造りて、棟肉も薄く、磨減りが著しい。

滑石製模造品（第143図15・16）

いずれも滑石製の白玉である。15は土坑1の覆土・黄褐色土層中（土坑底面上5cm）から出土したものであり、径8mm、孔径2.5mm、厚さ1mmである。16は土坑8の北約3mの周溝覆土・黒褐色土層中（周溝底面上20cm）から出土したものであり、径7.5mm、孔径2mm、厚さ2.5mmである。15は土坑1の中から、また、16も土坑8に近い位置からの出土ということで、土坑に関連して使用されたものであることが考えられる。

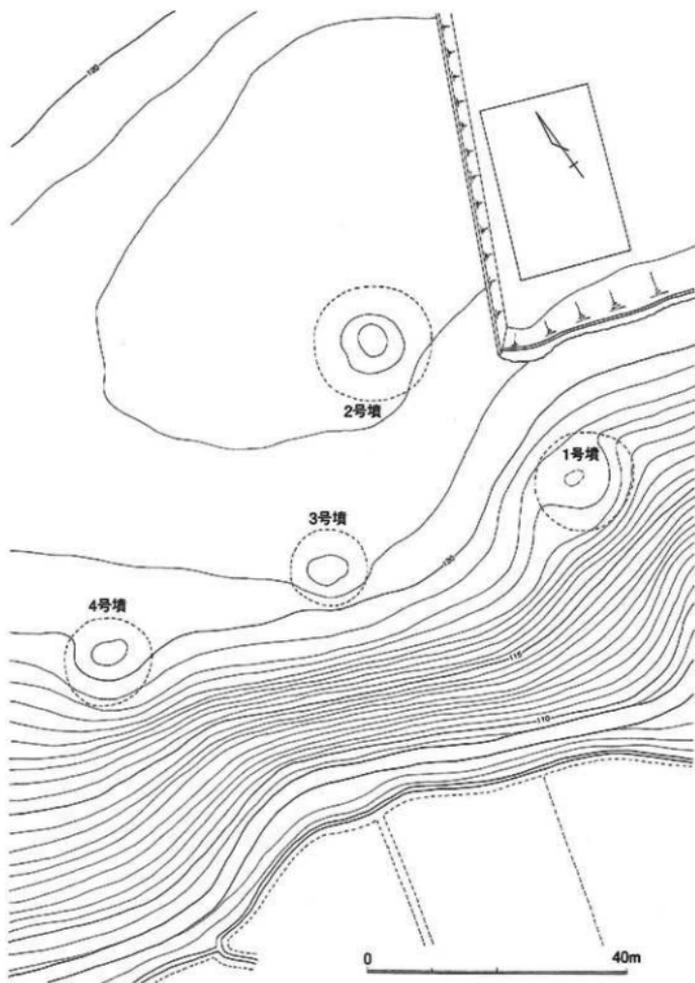
その他の遺物

第144図1・2は、東側墳丘に入れた第2トレンチにおいて、盛土中より検出された土器器坏片である。1は体部外面に稜をもって口縁部が外に開くものである。底部外面にヘラ削り調整を残す以外は、全て丁寧なヘラミガキで仕上げられたものである。また、胎土も緻密であり、焼成も良好である。2は体部外面をヘラ削り、底部内面をヘラミガキで仕上げたものであり、やはり緻密な胎土で、焼成の良い土器である。これらは、本墳築造の際に破壊を受けたとみられる前代の遺構に伴うものと考えられる。

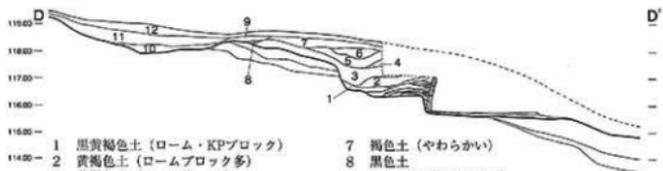
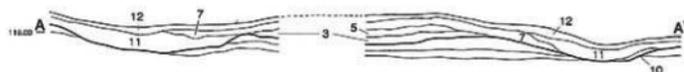
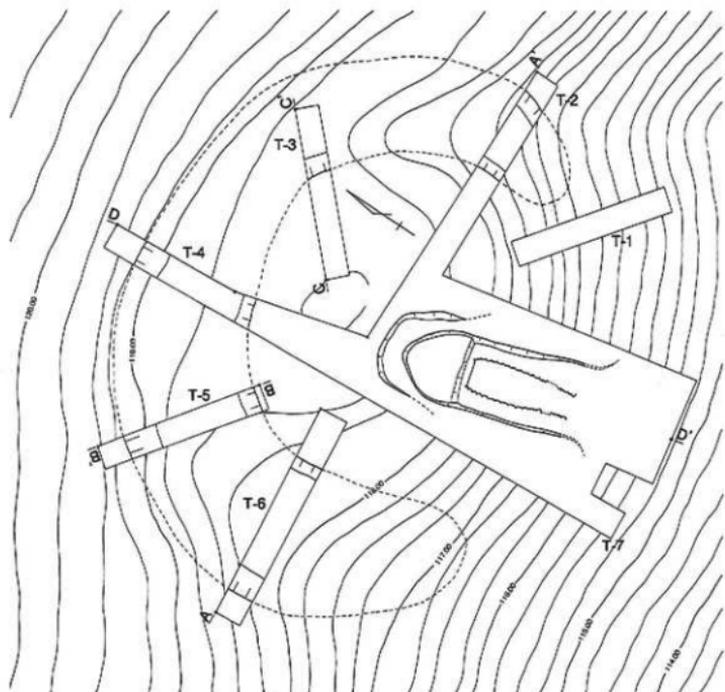
第145図1・2は、本墳の南裾部をほぼ東西に走る溝の覆土中から出土したかわらけ土器である。いずれも、ほぼ同形同大の皿形土器であり、小さな底部と大きく直線的に外へ開く体部が特徴的である。整形にはロクロを使用しており、底部外面には糸切り痕がそのまま残されている。胎土はやや砂質であり、明褐色を呈し、焼成はやや甘い感がある。

(6) 58号土坑

6号墳の30m東に58号土坑が位置する（第6図）。周溝が周辺で確認されないことから、周溝を伴わない竪穴系小石室と考えられる。長さ2.45m、幅1.1～1.3m、深さ0.36mの長方形の掘り方が掘られ、さらに中央部に一辺0.9mの方形の穴が掘られている。まず、この方形の穴がロームB（9層）で埋め戻され、6層が敷かれた後で床面近くに小ぶりの石を敷き、壁際には大きめの川原石を置いている。敷石の範囲は、長さ1.6m、幅0.4mの長方形である。出土遺物は、特にない。

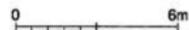


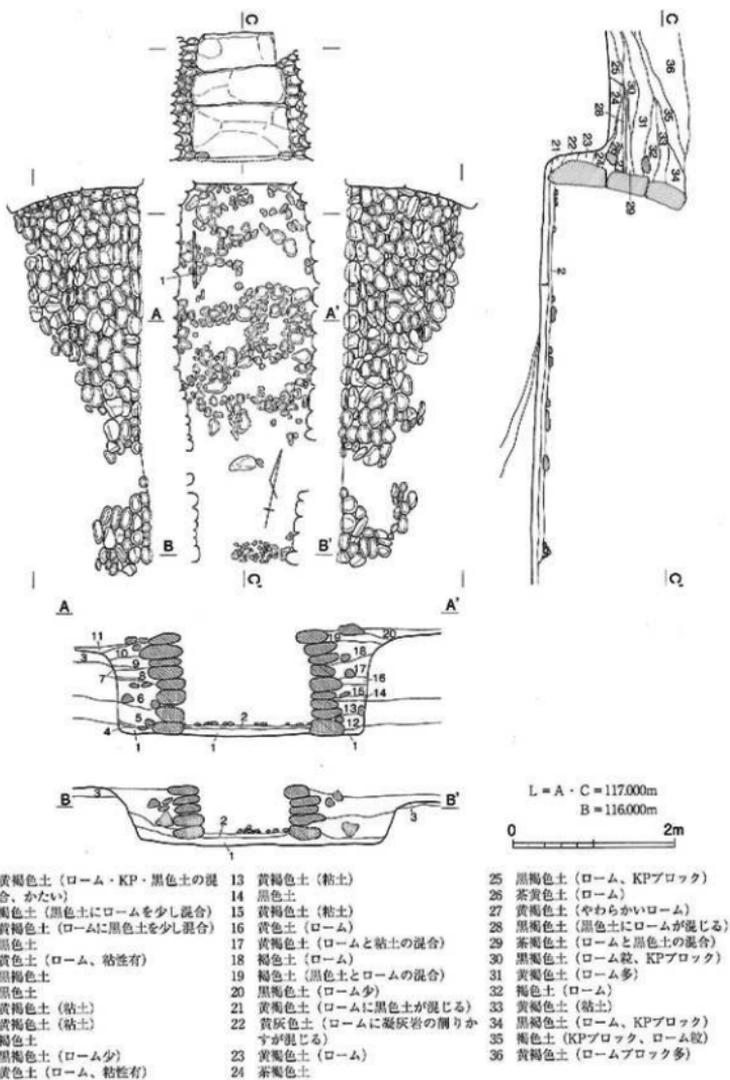
第114图 1~4号墳位置图



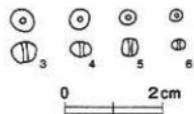
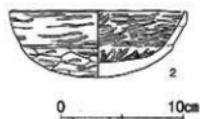
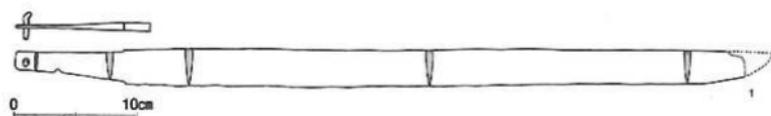
- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1 黒黄褐色土 (ローム・KPブロック) | 7 褐色土 (やわらかい) |
| 2 黄褐色土 (ロームブロック多) | 8 黒色土 |
| 3 茶褐色土 (ローム粒, KP) | 9 黒褐色土 (やわらかい) |
| 4 茶褐色土 (ローム粒, KPブロック) | 10 黄褐色土 (ローム, KP粒) |
| 5 黒褐色土 (KP) | 11 黒色土 |
| 6 黄褐色土 (KP粒少) | 12 表土 |

第115図 1号填平・断面図

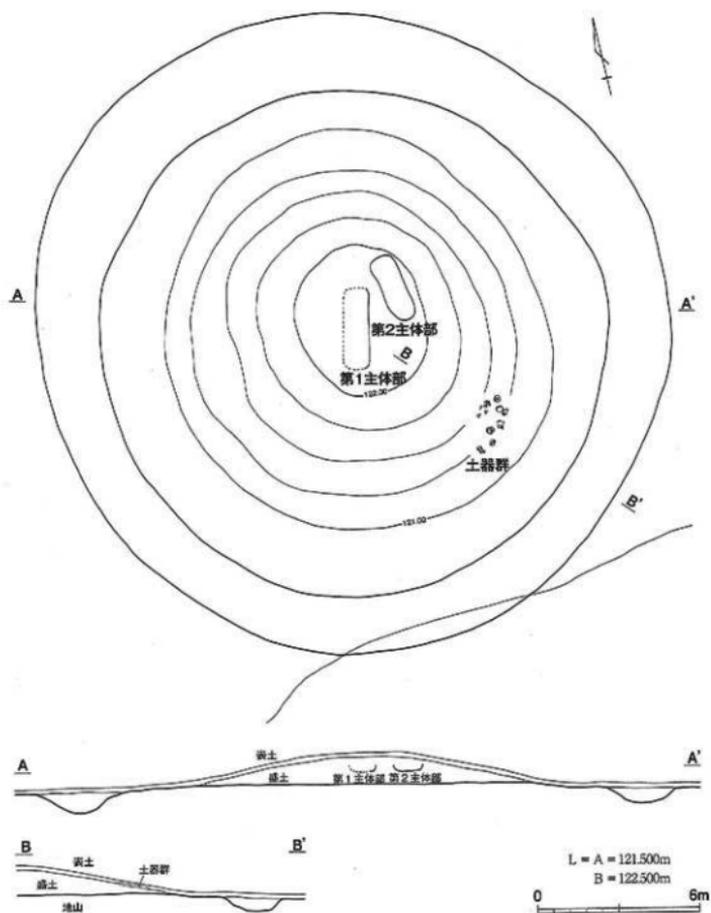




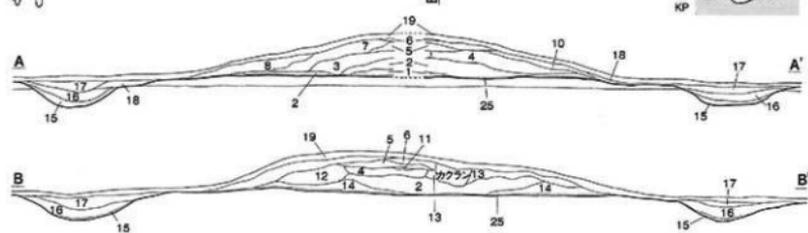
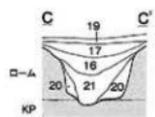
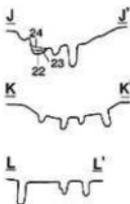
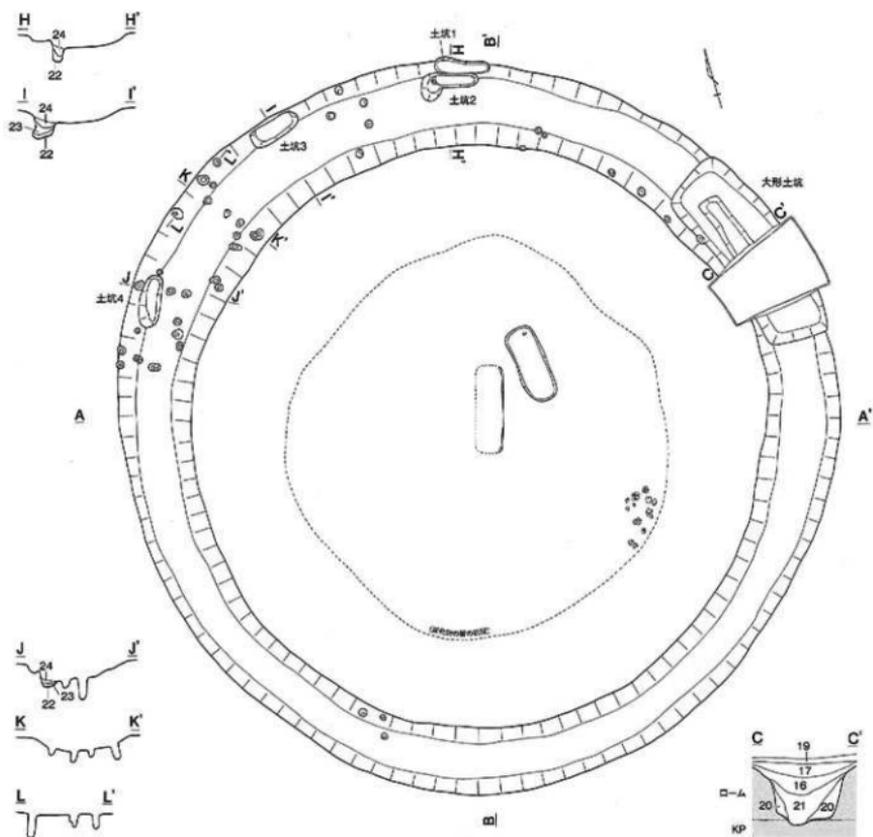
第116図 1号墳石室平・断面図



第117图 1号墳出土遺物実測図



第118图 2号墳実測図

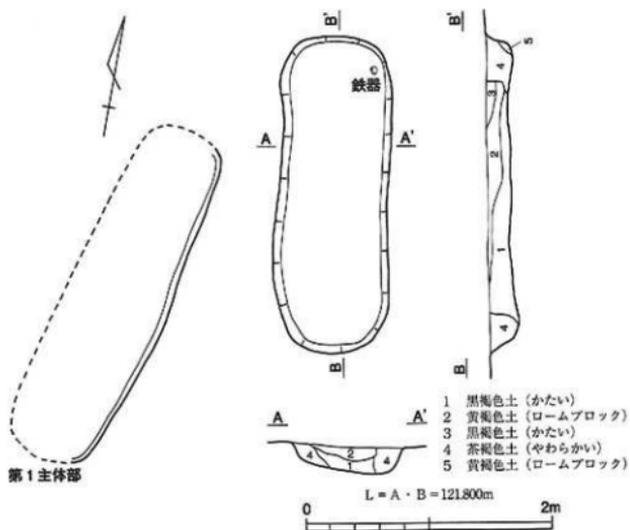


- | | | |
|-------------------|--------------------|--------------------|
| 1 黒褐色土 (かたい) | 10 黒褐色土 (ロームブロック少) | 19 表土 |
| 2 褐色土 (非常にかたい) | 11 褐色土 (C多) | 20 黄褐色土 (ロームブロック多) |
| 3 黄褐色土 (ロームブロック多) | 12 黄褐色土 (ロームブロック多) | 21 褐色土 (小ロームブロック少) |
| 4 茶褐色土 (やわらかい、C) | 13 黄褐色土 (ロームブロック多) | 22 黄褐色土 |
| 5 黒褐色土 | 14 黒色土 (かたい) | 23 褐色土 |
| 6 茶褐色土 (ローム粒) | 15 黄褐色土 (ローム粒) | |
| 7 褐色土 (ロームブロック) | 16 黒褐色土 | |
| 8 褐色土 (ロームブロック少) | 17 黒褐色土 | |
| 9 茶褐色土 (ローム粒) | 18 茶褐色土 (やわらかい) | |

L = A = 121.000m
 B = 121.100m
 C = 121.200m
 L = D ~ G = 121.400m
 H ~ J · L = 120.500m
 K = 120.000m



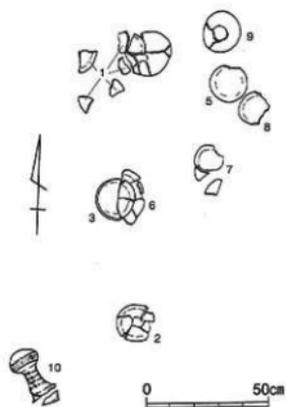
第119図 2号墳平・断面図



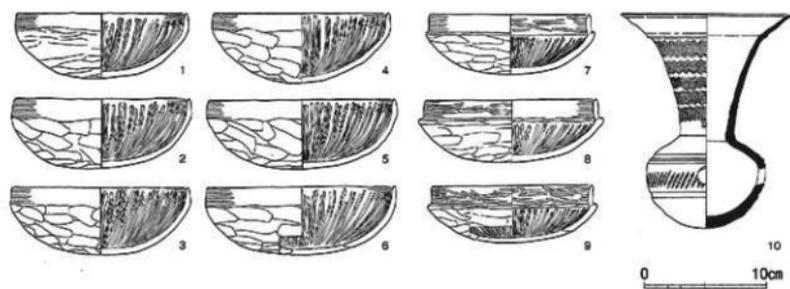
第120図 2号墳第2主体部平・断面図



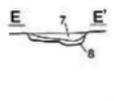
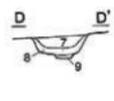
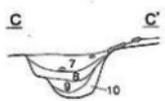
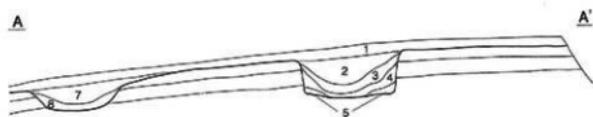
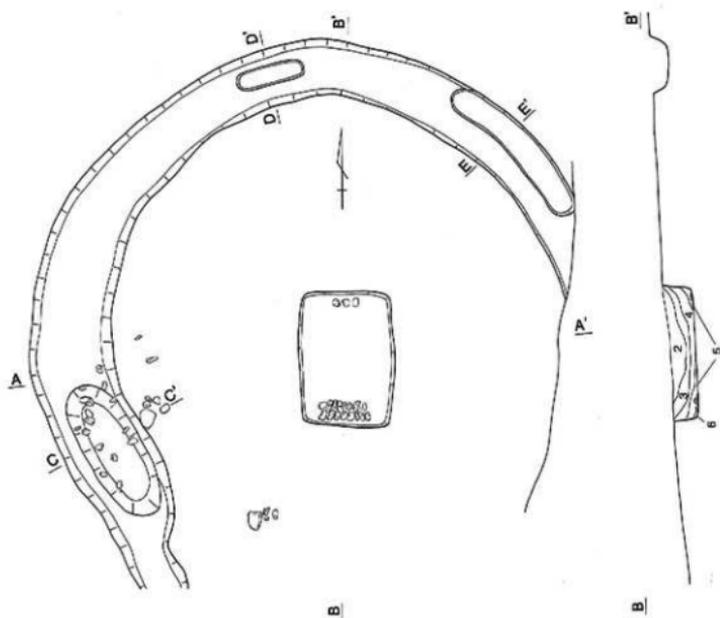
第121図 2号墳出土遺物実測図(1)



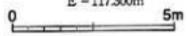
第122图 2号填造物出土状态实测图



第123图 2号填出土遗物实测图(2)

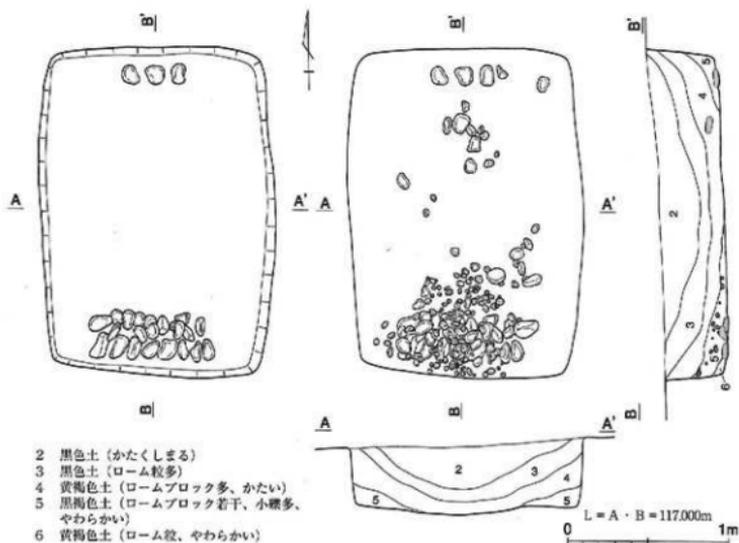


L - A = 117.900m
 B · D = 117.500m
 C = 117.000m
 E = 117.300m

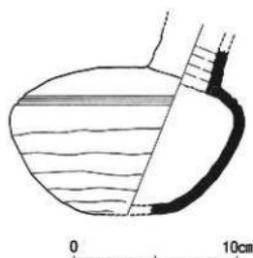


- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 黒色土 (かたい) | 7 黒色土 (ロームブロック) |
| 2 黒色土 (かたくしまる) | 8 黄褐色土 (ローム粒多) |
| 3 黒色土 (ローム粒多) | 9 黒褐色土 (ローム粒少) |
| 4 黄褐色土 (ロームブロック多、かたい) | 10 黄褐色土 (ローム粒・小ロームブロック) |
| 5 黒褐色土 (ロームブロック若干、小礫多、やわらかい) | |
| 6 黄褐色土 (ローム粒、やわらかい) | |

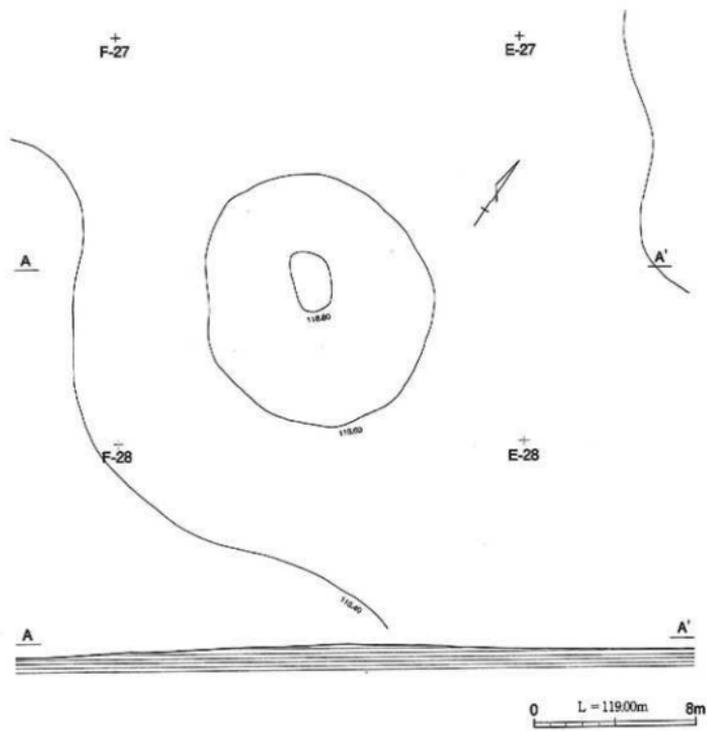
第124図 5号墳平・断面図



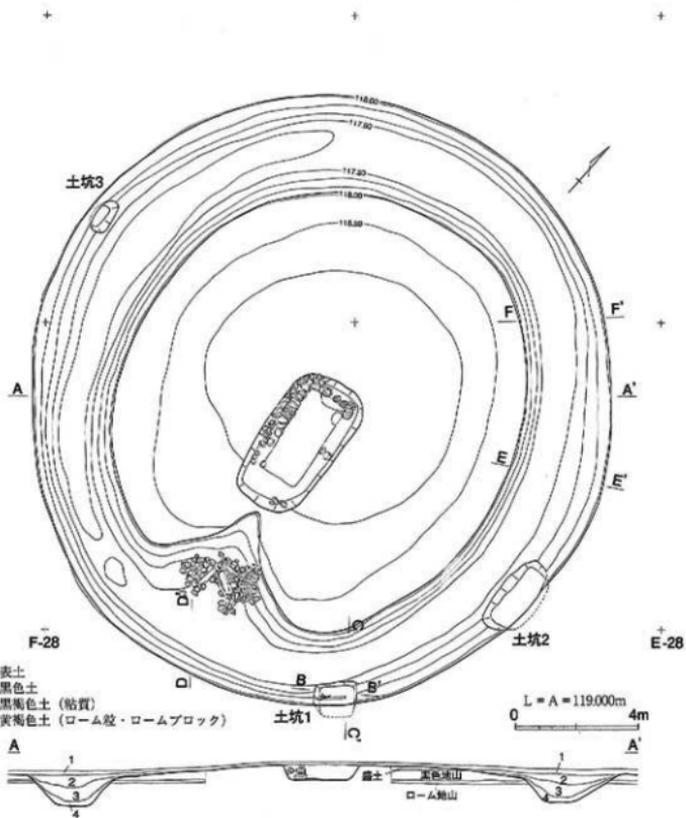
第125図 5号墳主体部平・断面図



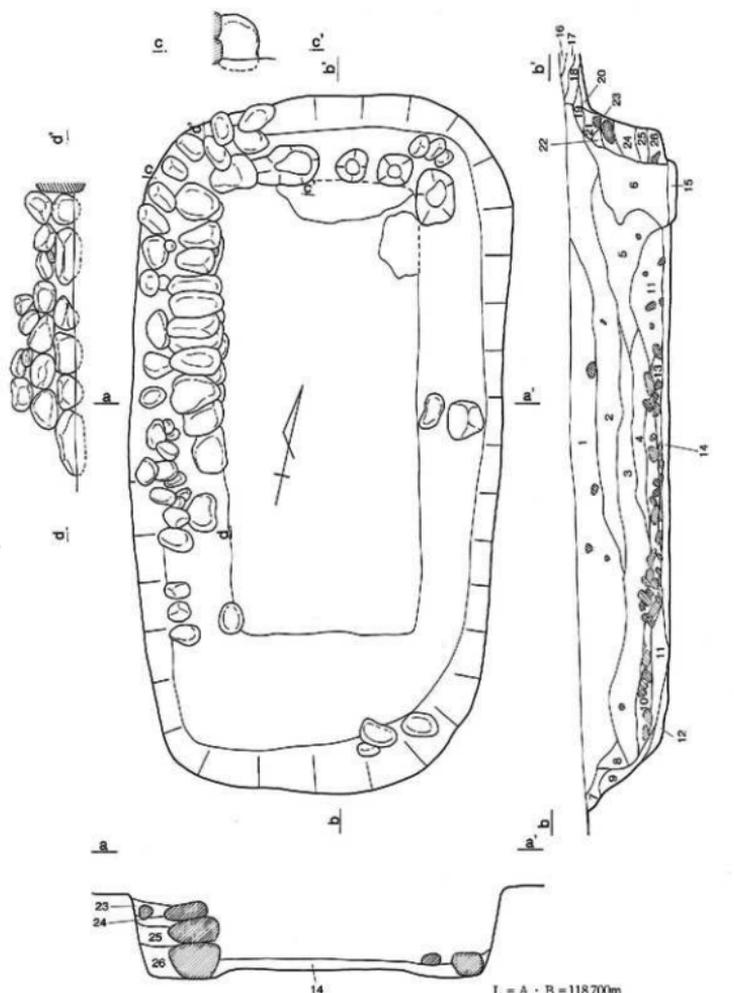
第126図 5号墳出土遺物実測図



第127图 6号墳丘測量図



第128図 6号墳平・断面図



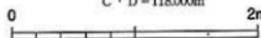
- 1 黄褐色土 (ロームブロック多、やわらかい)
- 2 褐色土 (ロームブロック少)
- 3 褐色土 (非常にやわらかい腐食土層)
- 4 褐色土 (やわらかい)
- 5 褐色土 (ローム少)
- 6 黒褐色土 (ローム錠、やわらかい)
- 7 黄色土 (ローム、粘性有)
- 8 黒褐色土
- 9 黒色土 (ローム錠、かたい)
- 10 黒褐色土 (非常にやわらかい)

- 11 褐色土 (ロームブロック多、ややしまりあり)
- 12 褐色土 (ローム、非常にかたい)
- 13 黄色土 (ロームと黒色土の混じり、やわらかい)
- 14 黄色土 (ロームを割めた層)
- 15 黄色土 (ロームと黒色土の混じり)
- 16 黒色土

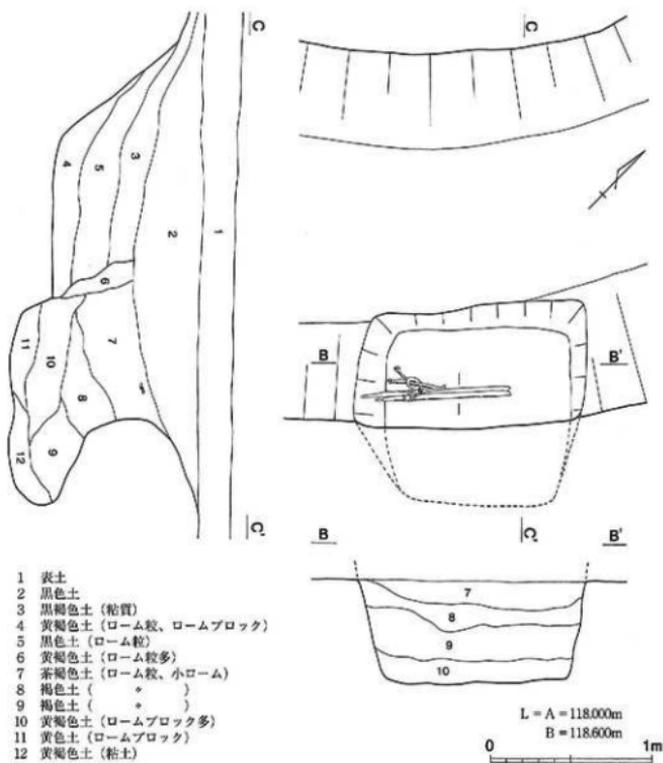
- 17 黄褐色土
- 18 黒色土
- 19 黄色土
- 20 黄色土
- 21 黄褐色土
- 22 褐色土
- 23 褐色土
- 24 黄褐色土
- 25 黒褐色土
- 26 黄色土

L = A · B = 118.700m

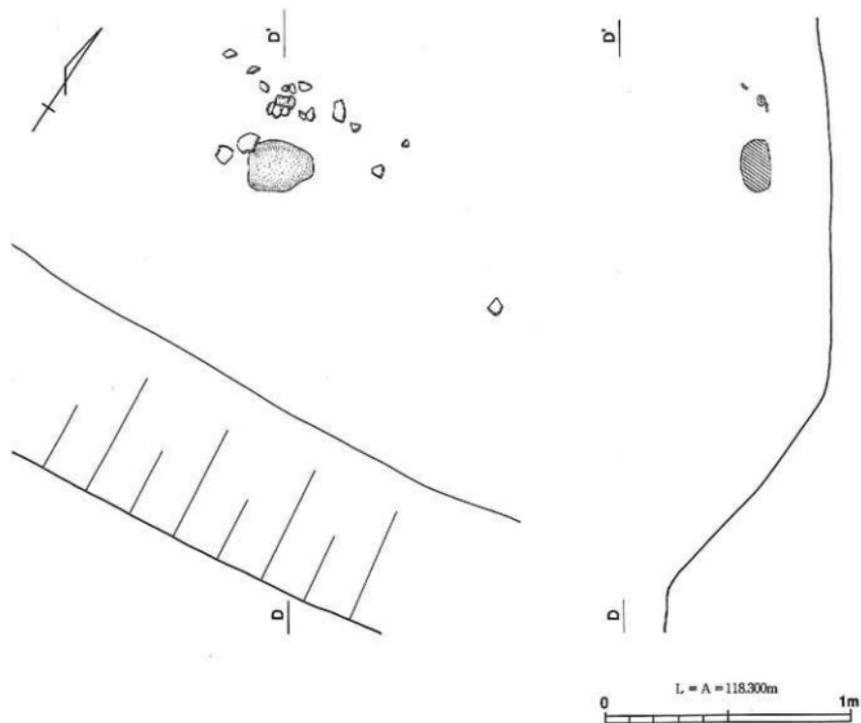
C · D = 118.000m



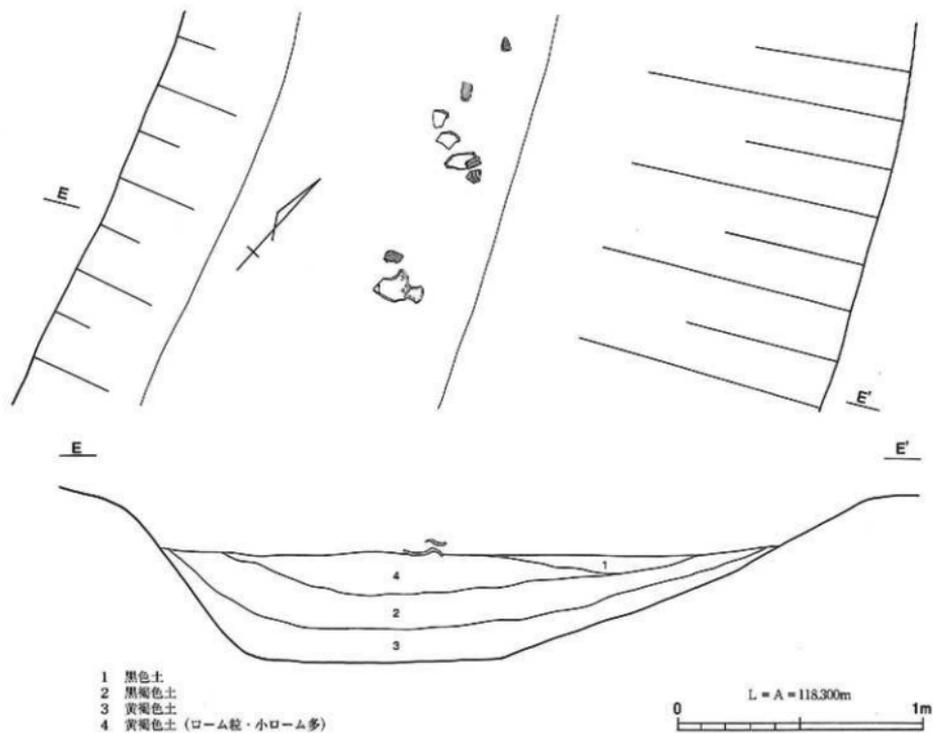
第129図 6号墳横穴式石室平・断面図



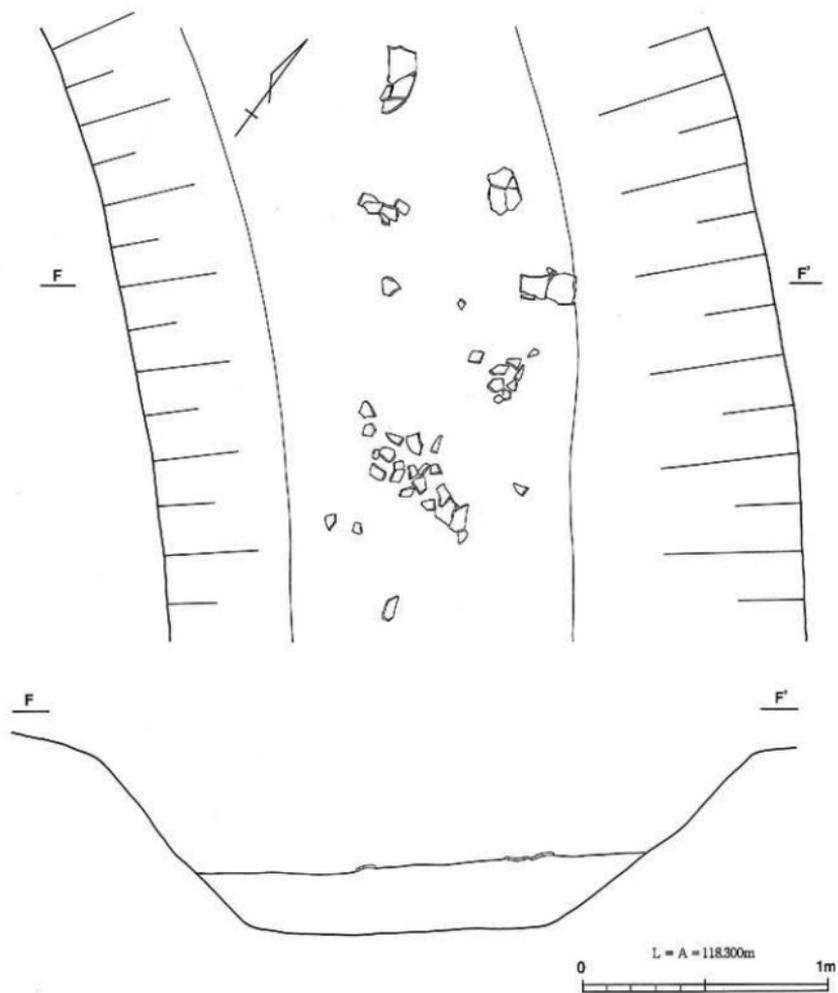
第130図 6号墳土坑1平・断面図、鉄器出土状況図



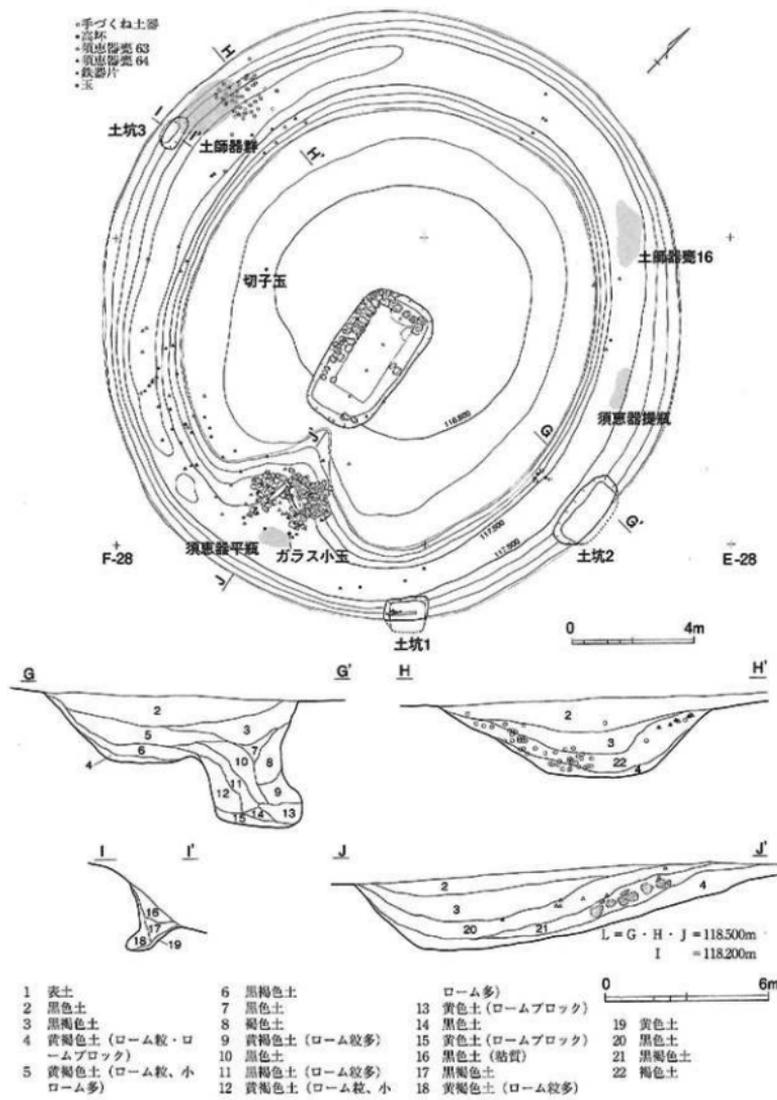
第131图 6号坑周溝内土器出土状态突測图 (須惠器平瓶)



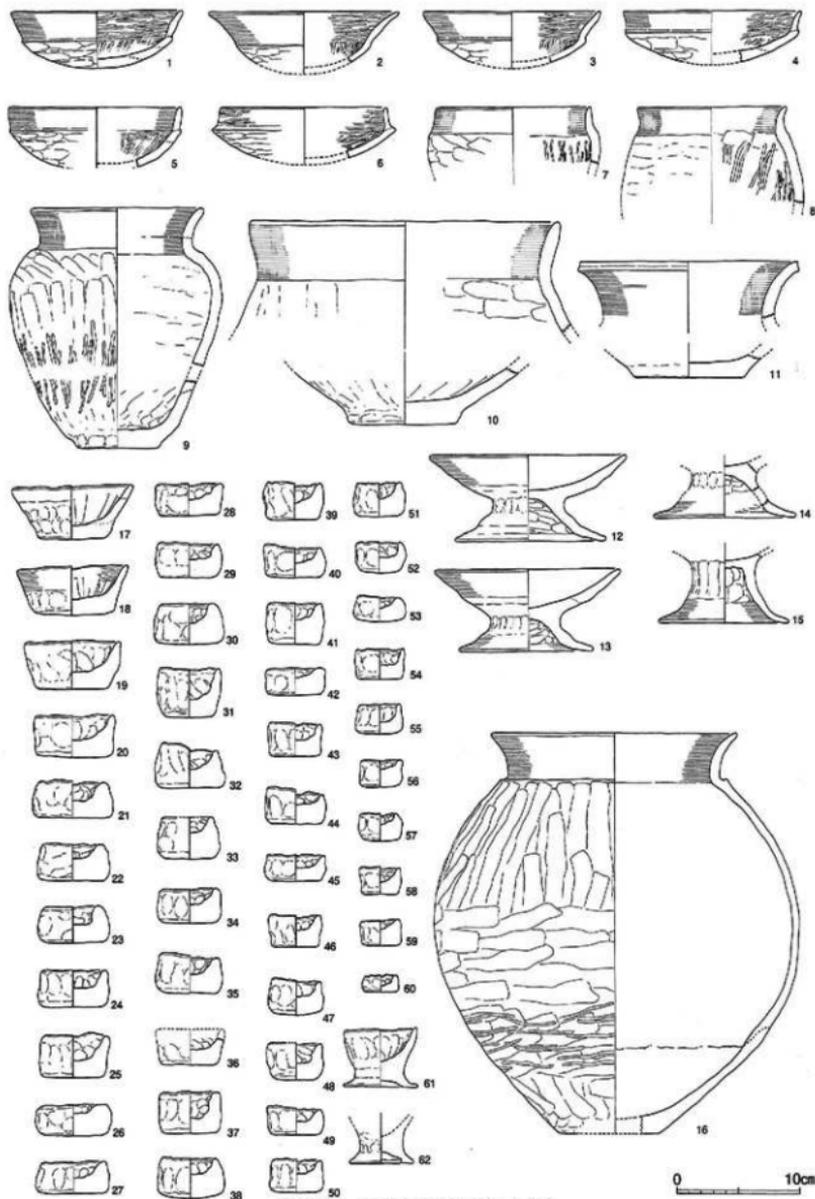
第132图 6号墳周溝内土器出土状態実測図 (須惠器提瓶)



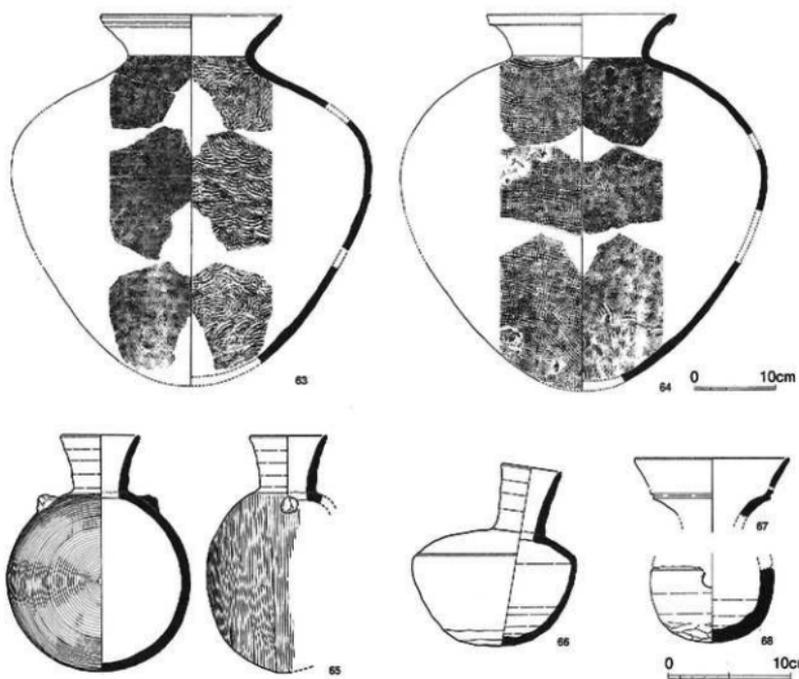
第133图 6号坑周溝内土器出土状态实测图(土師器要16)



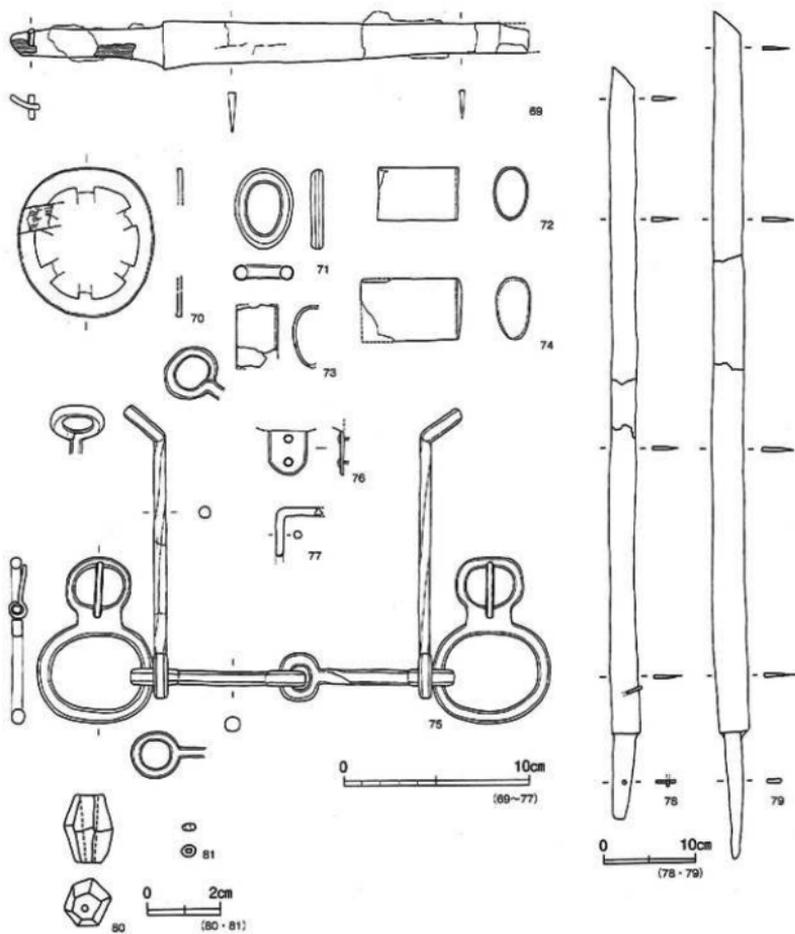
第134図 6号墳周溝内遺物出土状況図



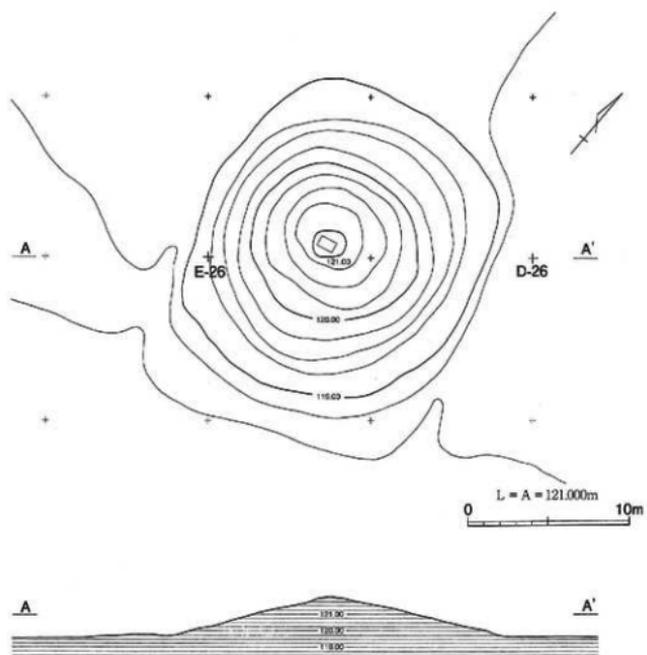
第135图 6号墳出土遺物実測図(1)



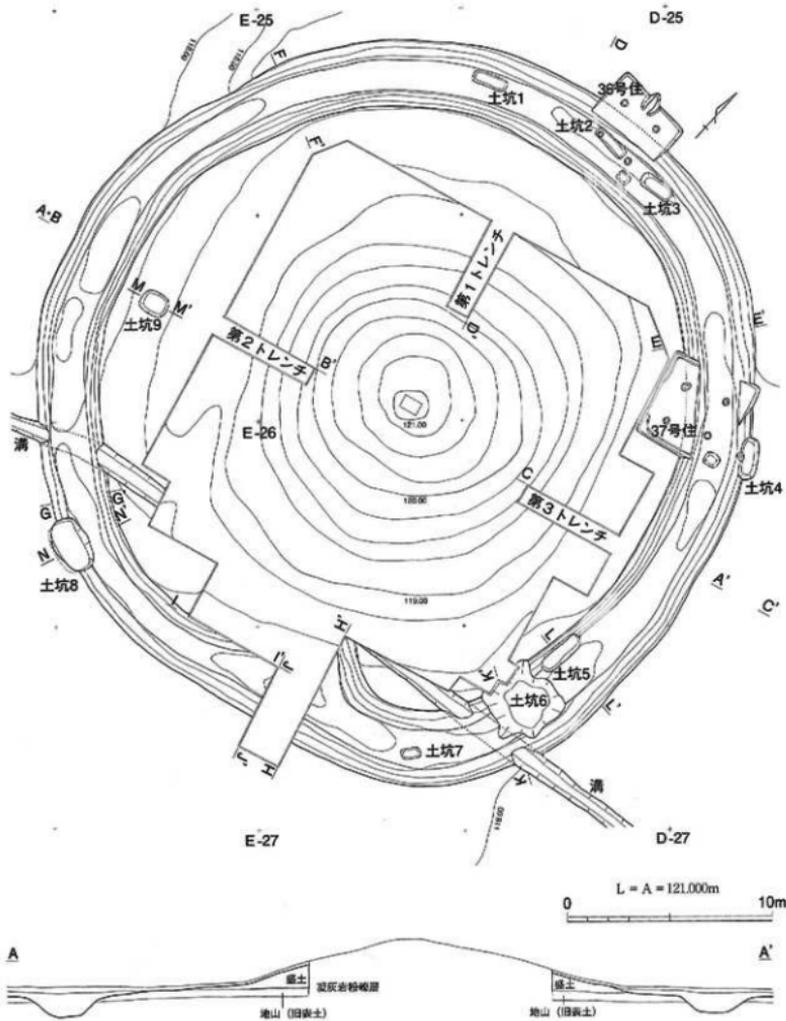
第136图 6号出土文物实测图(2)



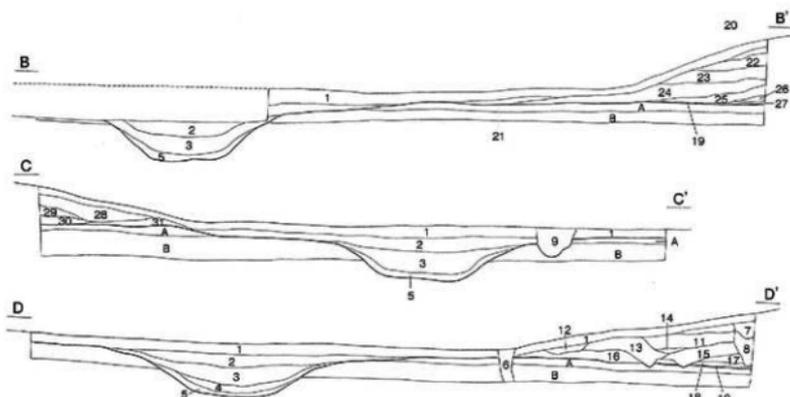
第137图 6号墳出土遺物実測図(3)



第138圖 將軍塚古墳墳丘測量圖



第139図 將軍塚古墳平・断面図



B~D

- 1 表土 2 黒褐色土 3 黒色土 4 黒褐色土 5 黄褐色土 6 攪乱 7 攪乱 8 攪乱
 9 攪乱 10 褐色土 11 褐色土 (ロームブロック多) 12 褐色土 13 明褐色土 14 褐色土
 15 黄褐色土 (ロームブロック多) 16 黒褐色土 (小ロームブロック) 17 黒褐色土 18 褐色土
 19 黒色土 (凝灰岩の粉・礫多) 20 褐色土 21 褐色土 22 黄褐色土 (ロームブロック多)
 23 褐色土 (ロームブロック) 24 黒褐色土 (ロームブロック少) 25 黄褐色土 (ロームブロック多) 26 褐色土
 27 黄褐色土 (ロームブロック) 28 褐色土 29 黄褐色土 (ロームブロック) 30 黒褐色土 31 褐色土
 A 黒色土地山 B 褐色土地山



E~G

- 1 黒色土
 2 黒褐色土
 3 黄褐色土
 4 黄褐色土 (ロームブロック)

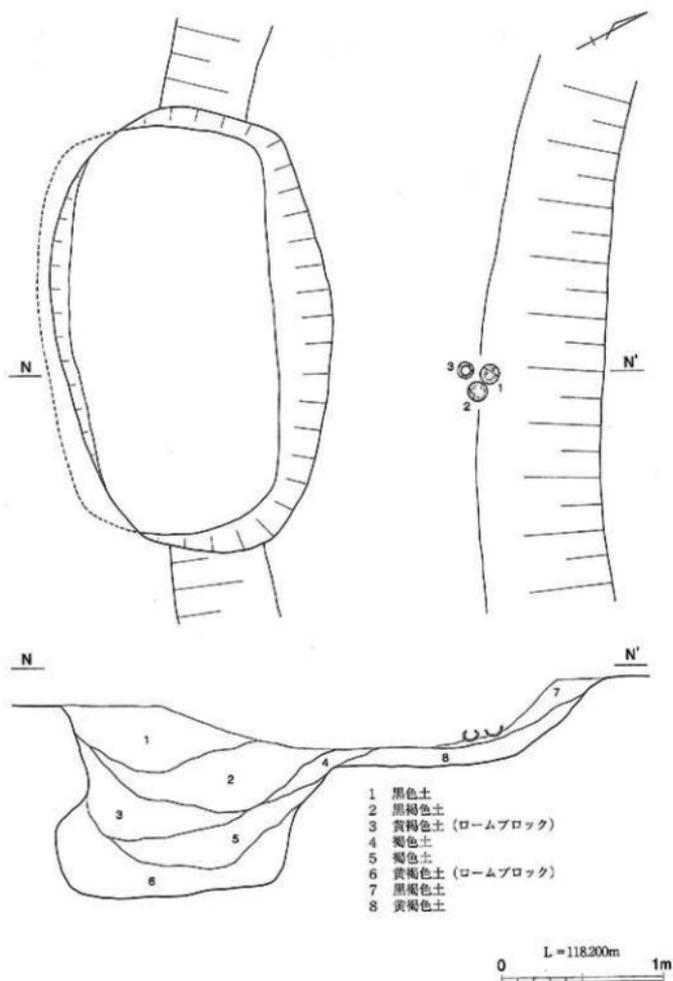


H~J

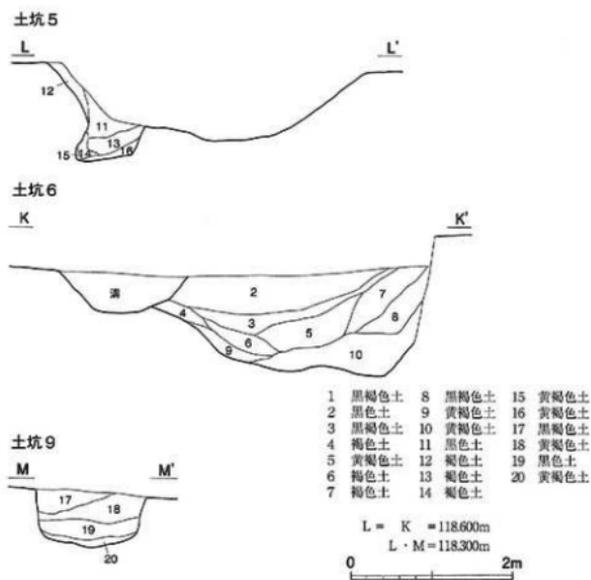
- 1 表土
 2 黒色土
 3 黒褐色土 (小川原石、凝灰岩の粉・礫等多)
 4 黒褐色土 (ローム較多)
 5 黄褐色土 (ロームブロック)

L = B · C · D = 119,000m
 B' = 120,100m
 C = 119,700m
 D' = 120,100m
 E = 118,800m
 F · H · I = 118,600m
 G = 118,400m
 J = 118,500m
 0 2m

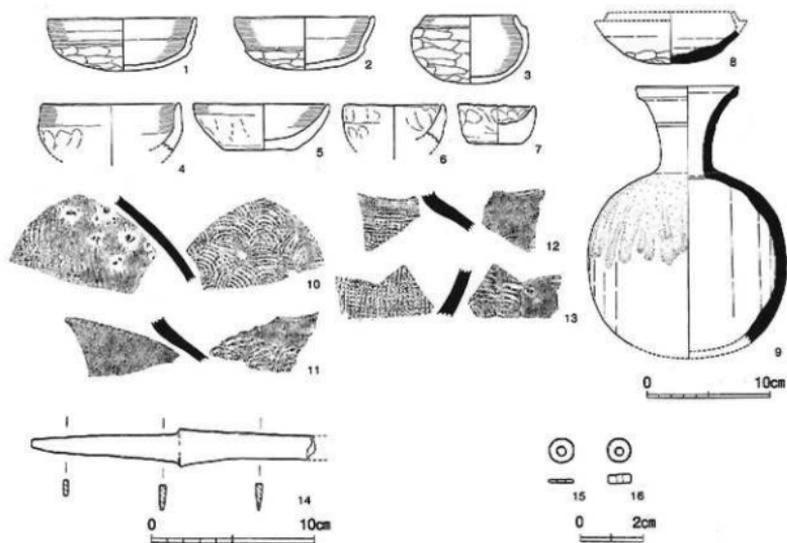
第140図 将軍塚古墳断面図



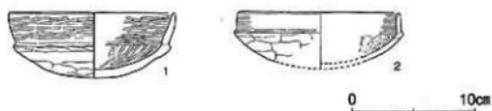
第141図 將軍塚古墳土坑8平・断面図、土器出土状態図



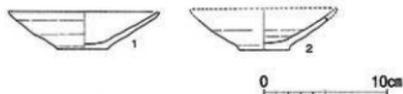
第142图 将军塚古墳土坑5·6·9断面图



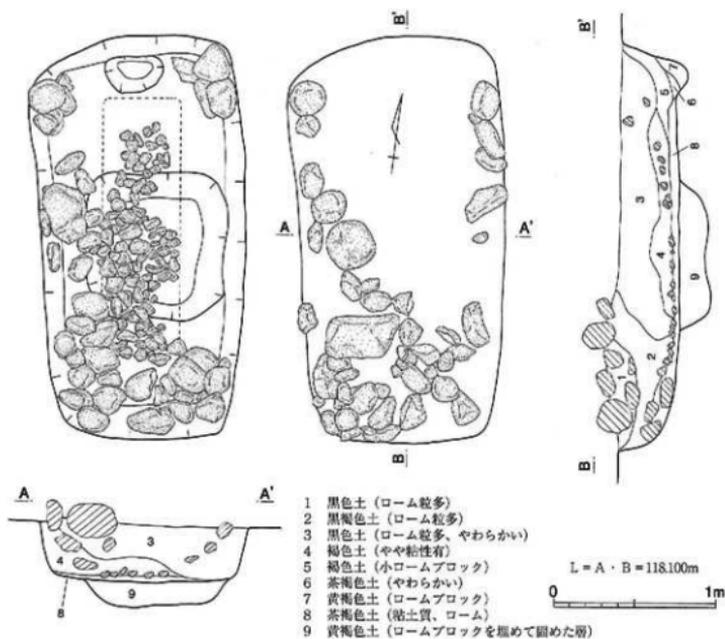
第143图 将军塚古墳出土遺物実測図



第144图 将军塚古墳盛土内出土遺物実測図



第145图 将军塚古墳南裾部溝内出土遺物実測図



第146図 58号土坑平・断面図

第3章 奈良時代

第1節 集落跡

奈良時代の遺構は、竪穴住居跡が16軒、掘立柱建物跡が19棟確認された。

(1) 竪穴住居跡

26号住居跡

【遺構】(第148図)

位置：台地上平坦部の縁辺部に位置し、北東に斜面を望む。

平面形：一辺3.0mのほぼ正方形で、北辺のみ30cmほど長い。

壁：確認面からの深さは50～60cmで、立ち上がりは垂直に近い。

柱穴：未検出。

貯蔵穴：未検出。

カマド：東壁の北寄りに、カマドとみられる掘り込みと壁への切り込みが検出された。

覆土：中層に炭化物を多く含む。

【遺物】(第190図)

出土した遺物は土師器と須恵器で、うち図示し得たものは土師器が坏2、甕2、須恵器が甕1、坏1の計6点である。

27号住居跡

【遺構】(第149・150図)

位置：台地上平坦部の縁辺部に位置し、北東に斜面を望む。南東に位置する26号住居跡との距離は約10m。

平面形：3.2×2.5mの東西に長い長方形。

壁：確認面からの深さは45cmで、立ち上がりは垂直に近い。

柱穴：南壁近くに径・深さとも約20cmのビット(P1)が検出された。住居周辺では深さ20～54cmのビットが多数検出された。

貯蔵穴：未検出。

カマド：北壁の東寄りに付設される。煙道部は壁へ約30cm切り込み、燃焼部の掘り込みの深さは約13cm。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第191図)

出土した遺物は土師器と須恵器で、うち図示し得たものは土師器が坏1、甕1、台付甕1、須恵器が坏3、甕1の計7点である。5は床面直上からの出土である。

28号住居跡

【遺構】(第151図)

位置：台地上平坦部の縁辺部に位置し、北東に斜面を望む。南東に位置する27号住居跡との距離は約15m。

平面形：3.2×2.8mの東西に長い長方形。

壁：確認面からの深さは40～45cmで、立ち上がりはやや緩やか。

柱穴：東壁沿いと南西隅からビットが検出された。床面からの深さはP1-14cm、P2-10cm、P3-16cm、P4-13cm、P5-19cm。住居周辺のビットは深さ19～53cm。

貯蔵穴：未検出。

カマド：北壁のほぼ中央に付設される。燃焼部は幅70cm、奥行70cm、深さ約8cmで、煙道部は壁に20cm切り込む。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第192図)

出土した遺物は土師器と須恵器、礫石で、うち図示し得たものは土師器が坏1、甕3、須恵器が蓋1、鉢1、甕1、礫石が1の計8点である。7は41号・43号住居跡から出土した破片と接合した。

29号住居跡

【遺構】(第152・153図)

位置：台地上平坦部の縁辺部に位置し、北東に斜面を望む。南東に位置する28号住居跡との距離は約17m。

平面形：4.3×3.2mの東西に長い長方形。

壁：確認面からの深さは約35cmで、立ち上がりは垂直に近い。

柱穴：南西隅近くの深さ5cmのビット1基以外は住居内から柱穴は検出されなかった。住居の周囲では深さ27～38cmのビットが4基検出された。

貯蔵穴：北東隅に位置し、73×55cmの東西に長い長方形で、床面からの深さは約27cm。覆土に焼土粒や炭化物を含む。

カマド：北壁の中央よりやや東寄りに付設される。幅は95cmで、壁に20cmほど切り込んだところから袖が延び、先端に石が埋め込まれる。煙道部は袖の根元からさらに80cm壁に切り込む。袖の上からは炭化した木材と糞が検出された。

覆土：下層に炭化物や焼土を多く含み、床面近くからは炭化材も多くみられることから焼失家屋の可能性がある。

【遺物】(第193図)

出土した遺物は全て土師器で、うち図示し得たものは坏3、甕4、台付甕1の計8点である。1、4、6～8は床面直上で検出された。

39号住居跡

【遺構】(第154・155図)

位置：台地上平坦部の、北東斜面まで約20mの地点に位置する。

平面形：3.4×3.7mの方形で、西辺が東辺よりやや長い。壁を四方に拡張し、古い床を埋めて浅く造り替えた痕跡が見られる。拡張前の平面形は一辺3.0mの正方形。

壁：拡張前の壁はほぼ垂直に立ち上がっていたが、新しい壁はやや緩やかな立ち上がり。確認面からの深さは古い床が70cm、新しい床が50cm。

床面：床面が2段に検出され、住居跡が拡張されている状況が確認できた。

柱穴：未検出。住居の周囲からは深さ20～30cmほどのビットが多数検出された。

貯蔵穴：未検出。

カマド：北壁の東寄りに付設される。両袖は約15cmと短く、40×15cm、厚さ5cmの板状の凝灰岩を護してつながらり焚口部分を形成する。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第194図)

出土した遺物は土師器と須恵器、砥石で、うち図示し得たものは土師器甕2、須恵器坏3、砥石1の計6点である。

40号住居跡

【遺構】(第156・157図)

位置：台地上平坦部の、北東斜面まで約20mの地点に位置する。北東に位置する29号住居跡との距離は約6m。

平面形：一辺4.0mの、ほぼ正方形。

壁：確認面からの深さは65cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

柱穴：西壁際のほぼ中央に、内傾する深さ20cmのピット(P1)が検出された。住居跡の周囲で検出されたピットの深さはいずれも約25cmである。

貯蔵穴：未検出。

カマド：北壁の中央よりやや東寄りに付設される。大きさは幅90cm、奥行45cmで、煙道部は50cmほど壁に切り込む。

覆土：下層に焼土と炭化物を多く含み、床面には炭化材がみられることから、焼失家屋の可能性がある。

【遺物】(第195図)

出土した遺物は土師器と須恵器で、うち図示し得たものは土師器が坏8、甕4、台付甕1、甗1の14点、須恵器が坏2、甕2の4点、それと鉄織1点の計19点である。1～3、7、9、11、12は床面直上で出土した。

41号住居跡

【遺構】(第158・159図)

位置：台地上平坦部の、北東斜面まで約20mの地点に位置する。北東に位置する28号住居跡との距離は約6m。

平面形：4.0×3.3mの東西に長い長方形。

壁：確認面からの深さは約60cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

周溝：幅10～18cm、深さ7～10cmの周溝がカマドの周囲を除いてほぼ全周する。

柱穴：北東、南東、南西の隅で柱穴を検出した。床面からの深さはP1・11cm、P2・15cm、P3・20cm。

貯蔵穴：未検出。

カマド：北壁の東寄りに付設される。大きさは幅100cm、奥行65cm、煙道部の壁への切り込みは65cm。

覆土：床面上に、焼土と炭化物を多く含む層が7cmほどの厚さに堆積する。

【遺物】(第196図)

出土した遺物は土師器と須恵器で、うち図示し得たものは土師器が坏2、台付甕1、甕3、須恵器が坏5、蓋1、甕1、鉢1の計14点である。

42号住居跡

【遺構】(第160図)

位置：台地上平坦部の、北東斜面まで約25mの地点に位置する。

平面形：一辺4.0mの正方形。

壁：確認面からの深さは60cmで、やや緩やかに立ち上がる。

周溝：南東部分を除き、幅12～25cm、深さ5cmの周溝が途切れながら廻る。

柱穴：南壁沿いの中央部で深さ20cmのP1が検出された。

貯蔵穴：平面形は不整形で丸底の土坑が1基、カマド脇で検出された。床面からの深さは約20cm。

カマド：煙道部の壁への切り込みは約25cm。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第197図)

出土した遺物は土師器と須恵器で、うち図示し得たものは土師器が坏5、台付甕1、甕3、須恵器が坏5、高台付坏1、蓋1、鉢2、甕1、金属製品1の計20点である。

43号住居跡

【遺構】(第161・162図)

位置：台地上平坦部の、北東斜面まで約25mの地点に位置する。

平面形：4.5×4.0mの東西に長い長方形。

壁：確認面からの深さは60cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

周溝：幅20～28cm、深さ5～7cmの周溝がカマド部分を除いて全周する。

柱穴：南壁中央部の周溝に接して、深さ35cmの外傾するビット(P1)が検出された。

貯蔵穴：未検出。

カマド：北壁の中央に付設される。大きさは幅90cm、奥行55cmで、煙道部は50cm壁に切り込み、立ち上がりの中途に一段を有する。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第198図)

出土した遺物は土師器と須恵器で、うち図示し得たものは土師器が坏3、甕1、須恵器が坏3、蓋1の計8点である。1と2は床面直上で出土した。

44号住居跡

【遺構】(第163・164図)

位置：台地上平坦部のほぼ中央に位置する。

平面形：約4.0×3.0mの東西に長い長方形。

壁：確認面からの深さは60～65cmで、東壁の立ち上がりはやや緩く、他は垂直に近い。

柱穴：南壁沿いの中央よりやや東で、深さ23cmのビット(P1)が検出された。

貯蔵穴：住居の四隅で、深さ25～30cmの土坑が検出された。

カマド：北壁の中央よりやや東寄りに付設される。煙道部は壁に60cm切り込む。

覆土：自然堆積。

【遺物】 (第199図)

出土した遺物は土師器と須恵器で、うち図示し得たものは土師器が坏3、鉢1、甕4、須恵器が坏2の計10点である。1は43号・46号住居跡、8は42号住居跡、10は43号住居跡出土の破片とそれぞれ接合した。

45号住居跡

【遺構】 (第165図)

位置：台地上平坦部の中央に位置する。

平面形：3.6×3.5mのほぼ正方形。

壁：確認面からの深さは55～60cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

周溝：幅10～22cm、深さ4～13cmの周溝がカマド部分を除いて全周する。

柱穴：北西隅 (P1) と南壁際 (P2) でピットを検出した。床面からの深さはP1・15cm、P2・20cm。

貯蔵穴：未検出。

カマド：北壁の中央よりやや東寄りに付設される。大きさは幅95cm、奥行50cmで煙道部は壁に45cm切り込む。

覆土：自然堆積。

【遺物】 (第200図)

出土した遺物は土師器と須恵器で、うち図示し得たものは土師器が坏2、甕1、須恵器が坏1、高台付坏1の計5点である。1は47号住居跡と70号土坑出土の破片と接合した。4はカマド前の床面直上で出土した。

46号住居跡

【遺構】 (第166・167図)

位置：台地上平坦部の中央に位置する。

平面形：5.5×5.0mのやや東西が長い方形。

壁：確認面からの深さは約70cmで、立ち上がりは垂直に近い。

柱穴：4本の主柱穴 (P1～P4) と、それらよりも浅いピットが2基 (P5・P6) 検出された。主柱穴は住居平面の対角線上に位置するが、P3のみやや内側に入っている。柱間はP1・P2が2.9m、P2・P3が2.7m、P3・P4が2.1m、P4・P1が3.2m。P5とP6はP3と一直線に並ぶ。床面からの深さはP1・35cm、P2・38cm、P3・40cm、P4・55cm、P5・18cm、P6・12cm。なお、P1・P4を検出した床面に比べてP2・3・5・6の検出面は5～7cmほど低い。

貯蔵穴：南壁際に35×55cm、深さ25cmの土坑があるほか、住居の四隅が約20cm、その周辺が5～7cmほど掘りくぼめられている。

カマド：北壁の西寄りに付設される。煙道部は壁に80cm切り込む。

覆土：自然堆積。

【遺物】 (第201・202図)

土師器を中心に多数の土器が出土している。うち図示し得たものは土師器が坏11、碗1、甕11、須恵器が坏1、高台付坏1、蓋1、甕1と紡錘車・鉄製品が各1点の計29点である。10は床面直上、他は覆土中からの出土である。

47号住居跡

【遺構】(第168・169図)

位置：台地上平坦部の中央に位置する。

平面形：4.2×3.3mの東西に長い長方形。

柱穴：北東隅で深さ18cmのビット(P1)が検出された。

貯蔵穴：未検出。

カマド：煙道部は壁に55cm切り込み、燃焼部には長さ25cmほどの川原石が2つ立った状態で検出された。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第203図)

出土した遺物は土師器と須恵器で、うち図示し得たものは土師器壺2、須恵器坏1の計3点である。1は床面直上、3はカマドの覆土中から出土した。

48号住居跡

【遺構】(第170・171図)

位置：台地上平坦部の、南東部緩斜面まで10mほどの地点に位置し、50号住居跡と隣接する。

平面形：4.2×3.2mの、やや隅丸な長方形。

壁：確認面からの深さは70～75cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床面：おおむね平坦であるが、中央部分がややくぼんでいる。

柱穴：東西の壁近くでP1・P2が検出された。床面からの深さはP1・18cm、P2・20cm。南壁際のP3はやや浅く、深さは14cmである。

貯蔵穴：未検出。

カマド：北壁の中央よりやや東寄りに付設される。大きさは幅75cm、奥行45cmで煙道部は壁に50cm切り込む。両袖の先端には川原石が置かれ、燃焼部の奥では長さ17cmの川原石の支脚が立って検出された。

覆土：自然堆積で、下層には焼土や炭化物が含まれる。

【遺物】(第204図)

出土した遺物は土師器と須恵器、鉄製品で、そのうち図示し得たものは土師器が坏2、壺8、小形壺1、台付壺1、須恵器坏1、鉄製品1の計14点である。7と8の壺はカマドの焚口部で検出され、二つの壺を繋げて袖石の上に渡していたものと思われる。その他の遺物は、床面直上で検出された14を除き、全て覆土中からの出土である。

49号住居跡

【遺構】(第172図)

位置：台地上平坦部の、南東部緩斜面まで10mほどの地点に位置する。

平面形：4.0×3.5mの東西に長い長方形で、南壁に向かってわずかに広がる。

壁：確認面からの深さは約60cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

周溝：西壁の一部で長さ1.2m、幅15cm、深さ4cmの周溝が検出された。

柱穴：未検出。住居周辺では深さ26～38cmのビットが多数検出された。

貯蔵穴：南壁際に深さ20cmの不整形の土坑が1基検出されたほか、四隅に深さ15～20cmの掘り込

みがみられる。そのうち南西コーナーの掘り込みはカマドの掘り込みに切られる。

カマド：東壁の南東コーナー近くに付設される。煙道部は壁に85cm切り込む。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第205図)

出土した遺物は土師器と鉄器、土錘で、そのうち図示し得たものは土師器環5、鉄鏝1、土錘1の計7点である。7の土錘はカマドの覆土中から出土した。

50号住居跡

【遺構】(第173図)

位置：台地上平坦部の、南東側緩斜面を望む縁辺部に位置し、48号住居跡と隣接する。

平面形：東辺が2.7mであるのに対し西辺が3.1mの台形気味の長方形。南北は約3.0m。南西隅が溝で切られる。

壁：確認面からの深さは30～40cmで、立ち上がりは垂直に近い。

柱穴：南壁沿いで深さ28cmのビット(P1)が検出された。

貯蔵穴：未検出。

カマド：北壁中央に付設される。煙道部の壁への切り込みは45cm。

覆土：自然堆積。

【遺物】(第206図)

出土した遺物は土師器と須恵器で、そのうち図示し得たものは土師器が坏4、甕1、蓋のつまみ1、須恵器が坏1、甕1の計8点である。

(2) 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (第174図)

位置：台地上平坦部の、北東斜面まで約25mの地点に位置する。

平面形：南北3.0m×東西3.0mの正方形。

間数：南北2間×東西2間。

方位：N-3°-E

遺物：無し。

2号掘立柱建物跡 (第175図)

位置：台地上平坦部の、北東斜面まで約22mの地点に位置する。調査区の南東端。1号掘立柱建物跡と隣接する。東側は調査区外。

平面形：南北4.0m×東西-mの長方形。

間数：南北2間×東西-間。

方位：N-75°-E

遺物：無し。

3号掘立柱建物跡 (第176図)

位置：台地上平坦部の、北東斜面まで約25mの地点に位置する。調査区の南東端。4号・5号・17号掘立柱建物跡と重複する。

平面形：南北-m×東西4.0m。南側の柱間は4.3mとやや広がる。

間数：南北-間×東西2間。

方位：N-8°-W

遺物：無し。

4号掘立柱建物跡（第176図）

位置：台地上平坦部の、北東斜面まで約25mの地点に位置する。調査区の南東端。3号・5号・17号掘立柱建物跡と重複する。

平面形：南北-m×東西4.1m。

間数：南北-間×東西2間。

方位：N-9°-W

遺物：無し。

5号掘立柱建物跡（第177図）

位置：台地上平坦部の、北東斜面まで約25mの地点に位置する。調査区の南東端。3号・4号・17号掘立柱建物跡と重複する。

平面形：南北-m×東西3.5m。

間数：南北-間×東西2間。

方位：N-28°-W

遺物：無し。

6号掘立柱建物跡（第178図）

位置：台地上平坦部のほぼ中央に位置する。

平面形：南北3.7m×東西3.5mの、やや不整な方形。

間数：南北2間×東西2間。

方位：N-16°-W

遺物：無し。

7号掘立柱建物跡（第179図）

位置：台地上平坦部の、南東緩斜面まで約25mの地点に位置する。

平面形：南北4.4m×東西4.4mの正方形。

間数：南北2間×東西2間。

方位：N-16°-W

遺物：無し。

8号掘立柱建物跡（第180図）

位置：台地上平坦部のほぼ中央に位置し、9号・15号掘立柱建物跡と隣接する。

平面形：南北4.3m×東西4.0mの方形。

間数：南北2間×東西2間。

方位：N-7°-W

遺物：無し。

9号掘立柱建物跡（第181図）

位置：台地上平坦部のほぼ中央に位置し、8号掘立柱建物跡と隣接する。

平面形：南北4.0m×東西4.0mのほぼ正方形。

間数：南北2間×東西2間。

方位：N-9°-W

遺物：無し。

10号掘立柱建物跡（第182図）

位置：台地上平坦部のほぼ中央に位置し、11号掘立柱建物跡と重複する。

平面形：南北2.3m×東西2.6mの方形。

間数：南北1間×東西1間。

方位：N-21°-W

遺物：無し。

11号掘立柱建物跡（第182図）

位置：台地上平坦部のほぼ中央に位置し、10号掘立柱建物跡と重複する。

平面形：南北2.3m×東西2.3mの正方形。

間数：南北1間×東西1間。

方位：N-8°-W

遺物：無し。

12号掘立柱建物跡（第183図）

位置：台地上平坦部のほぼ中央に位置し、8号掘立柱建物跡との距離は約5m。

平面形：南北2.9m×東西3.0mのほぼ正方形。

間数：南北1間×東西1間。

方位：N-8°-E

遺物：無し。

13号掘立柱建物跡（第184図）

位置：台地上平坦部のほぼ中央に位置し、14号掘立柱建物跡と重複する。

平面形：南北2.8m×東西2.8mの正方形。

間数：南北1間×東西1間。

方位：N-1°-W

遺物：無し。

14号掘立柱建物跡（第184図）

位置：台地上平坦部のほぼ中央に位置し、13号掘立柱建物跡と重複する。

平面形：南北2.5m×東西2.2mの方形。

間数：南北1間×東西1間。

方位：N-1°-E

遺物：無し。

15号掘立柱建物跡（第185図）

位置：台地上平坦部のほぼ中央に位置し、16号掘立柱建物跡と重複する。

平面形：南北6.0m×東西4.2mの長方形で、北側に1間分の庇が付く。

間数：南北2間×東西2間。

方位：N-13°-W

遺物：無し。

16号掘立柱建物跡 (第185図)

位置：台地上平坦部のほぼ中央に位置し、15号掘立柱建物跡と重複する。

平面形：南北4.5m×東西3.3mの長方形。

間数：南北2間×東西2間。

方位：N-20°-W

遺物：無し。

17号掘立柱建物跡 (第186図)

位置：台地上平坦部のほぼ中央に位置し、3～5・18号掘立柱建物跡と重複する。南側は調査区外。

平面形：南北-m×東西3.7m。

間数：南北-間×東西2間。

方位：N-8°-E

遺物：無し。

18号掘立柱建物跡 (第186図)

位置：台地上平坦部のほぼ中央に位置し、17号掘立柱建物跡と重複する。北側の2柱穴以外は調査区外。

平面形：南北-m×東西2.9m。

間数：不明。

方位：不明。

遺物：無し。

19号掘立柱建物跡 (第187図)

位置：台地上平坦部の、南東緩斜面まで約15mの地点に位置する。

平面形：南北4.3m×東西4.0m。

間数：南北2間×東西2間。

方位：N-3°-W

遺物：無し。

(3) 土坑

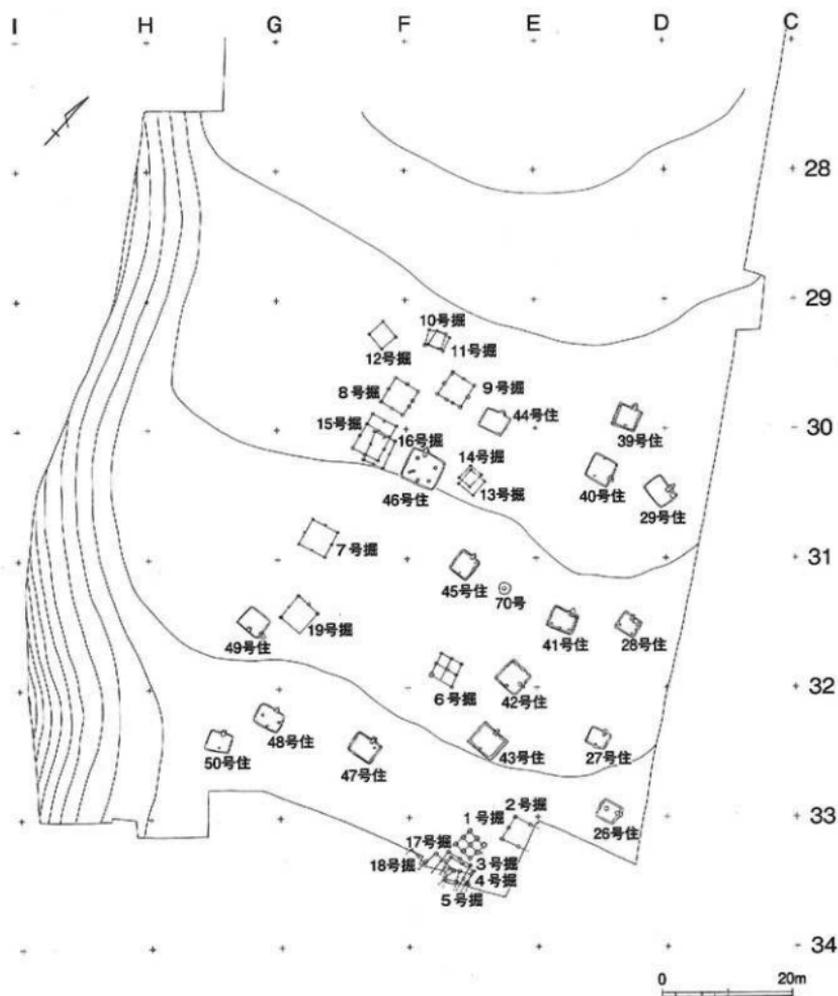
70号土坑 (第188・189図)

位置：45号住居跡の東4mの地点に位置する。

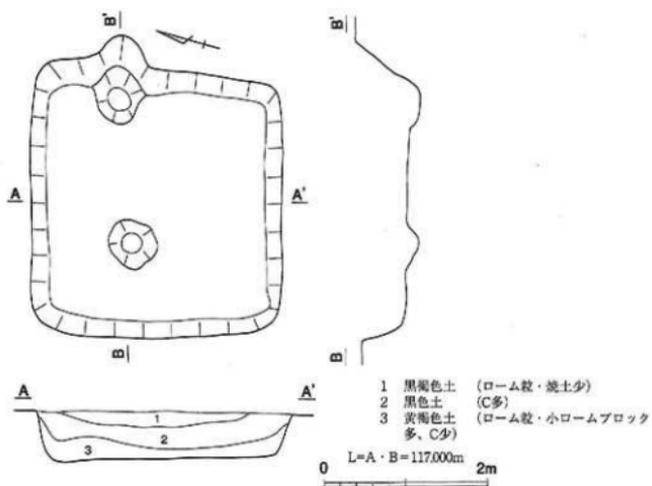
形状：円形。

規模：直径は1.8mで、確認面からの深さは1.35m。底面の中央近くでは深さ30cmのビットと、その周囲から深さ15cmの内傾する小ビットが4つ検出された。

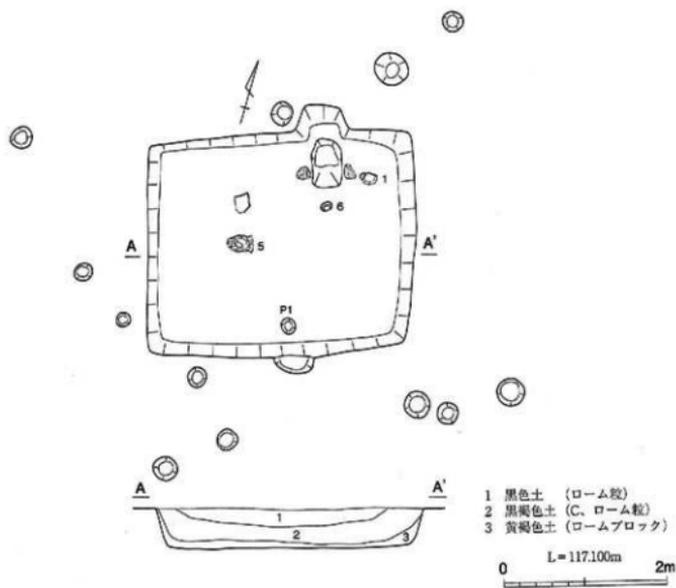
遺物：確認面近くで土師器の甕が1点検出された。



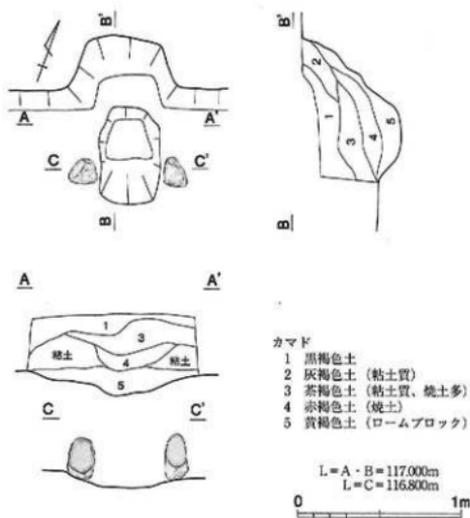
第147図 根古谷台遺跡奈良時代遺構配置図



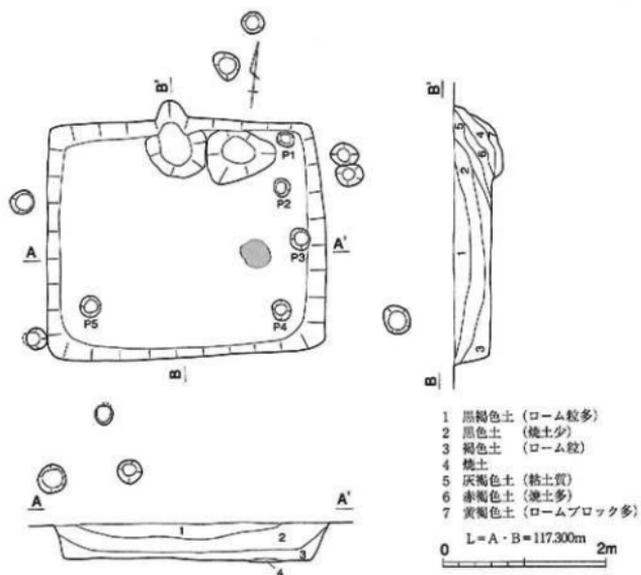
第148図 26号住居跡平・断面図



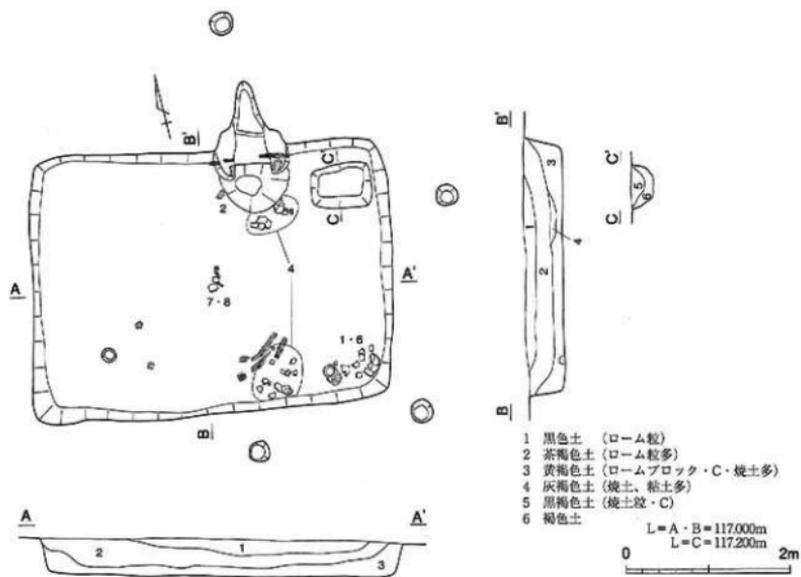
第149図 27号住居跡平・断面図



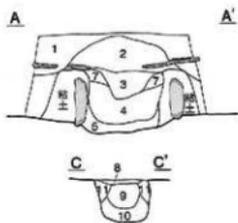
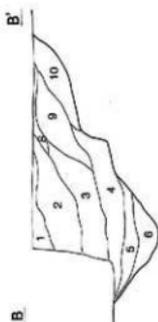
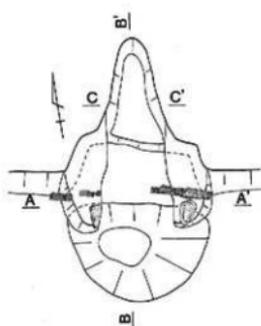
第150図 27号住居跡カマド平・断面図



第151図 28号住居跡平・断面図



第152図 29号住居跡平・断面図

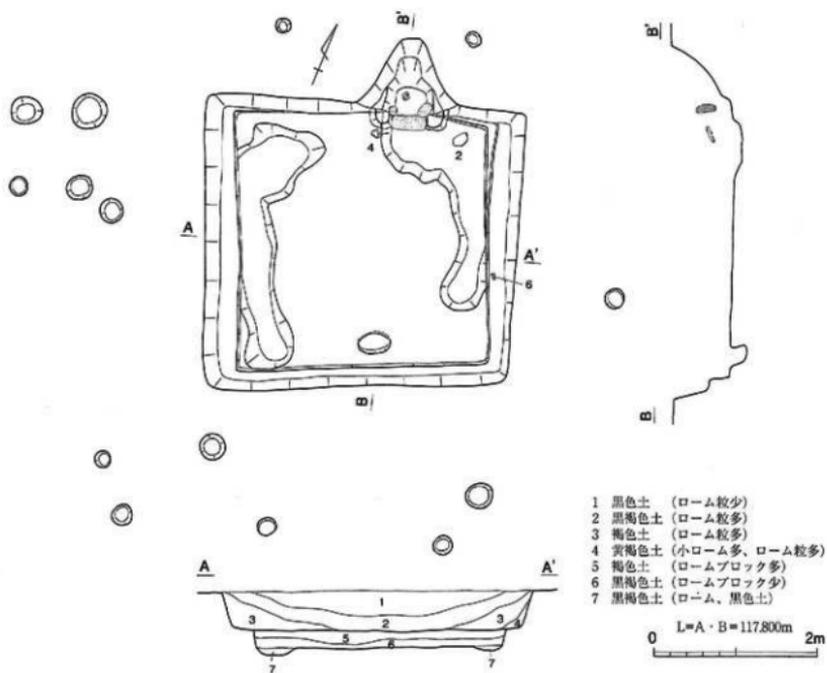


カマド

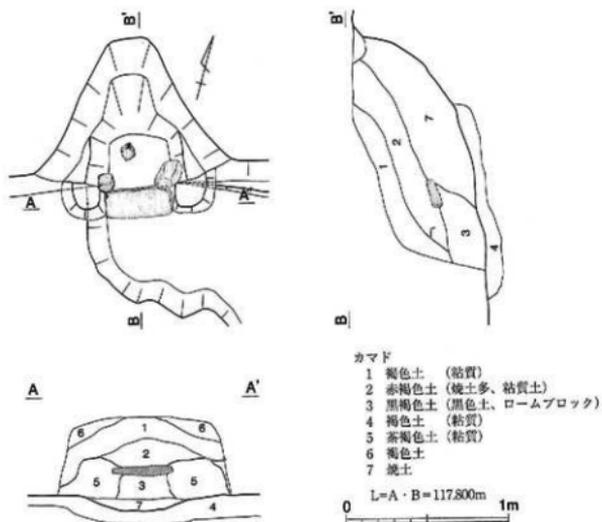
- 1 褐色土 (ローム紋多)
- 2 茶褐色土 (ローム紋多、粘性あり)
- 3 茶褐色土 (ローム紋・C・焼土多、粘性あり)
- 4 焼土 (C多)
- 5 黒褐色土 (ロームブロック)
- 6 褐色土 (大ロームブロック)
- 7 茶褐色土 (焼土、粘性あり)
- 8 赤褐色土 (焼土、粘性あり)
- 9 焼土 (粘性あり)
- 10 茶褐色土 (粘性あり)
- 11 褐色土

L = A-C = 117.600m
 0 ————— 1m

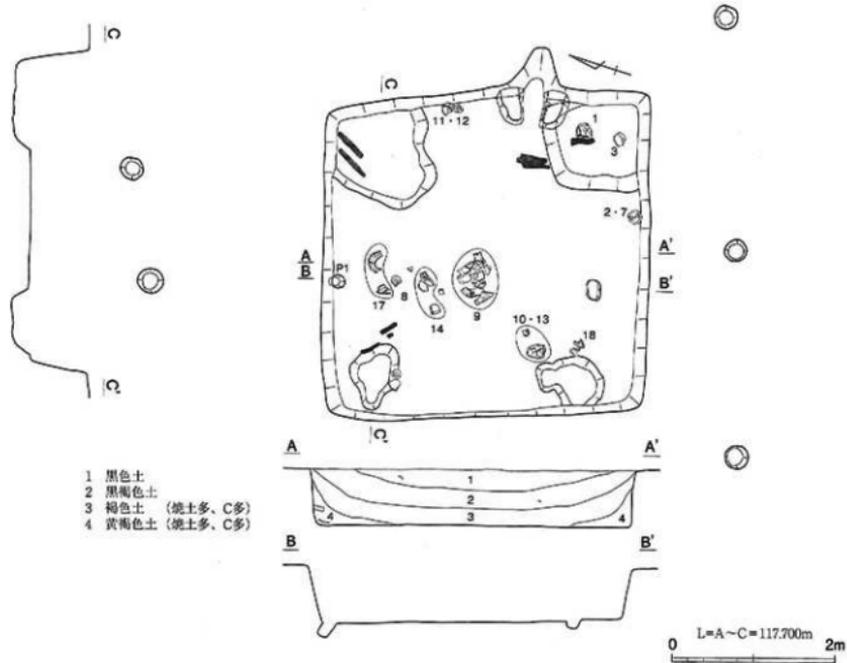
第153図 29号住居跡カマド平・断面図



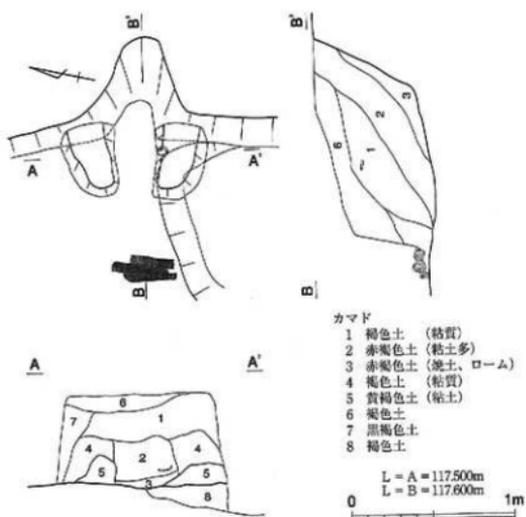
第154図 39号住居跡平・断面図



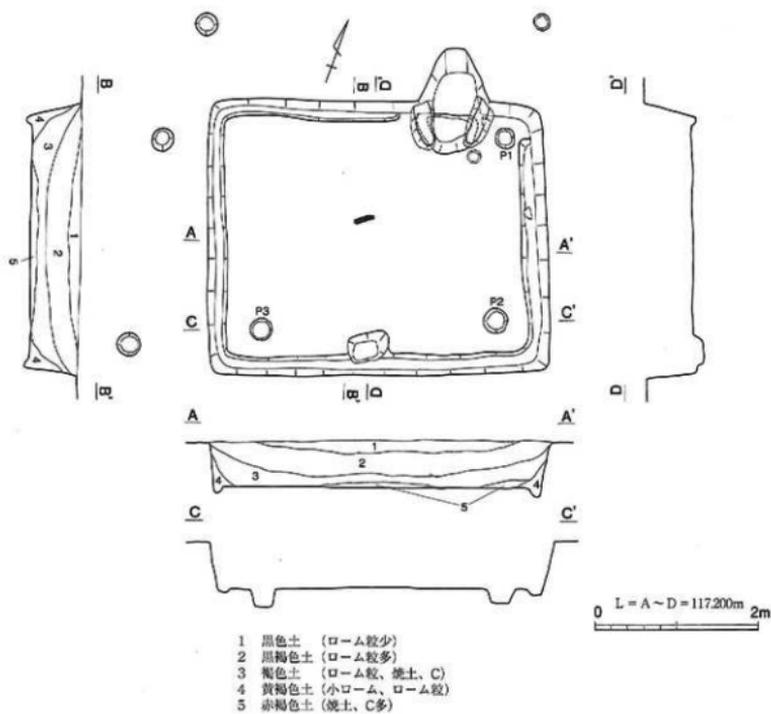
第155図 39号住居跡カマド平・断面図



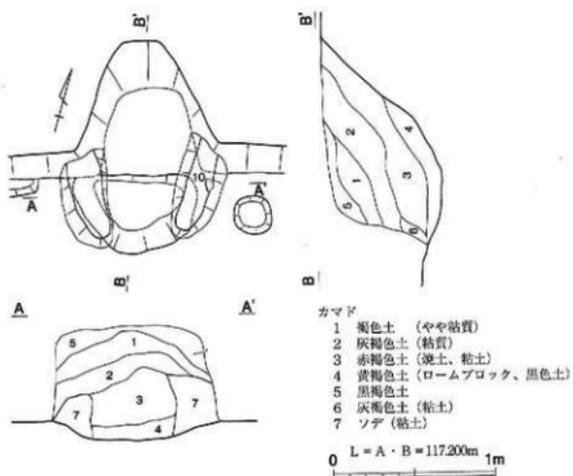
第156图 40号住居跡平・断面图



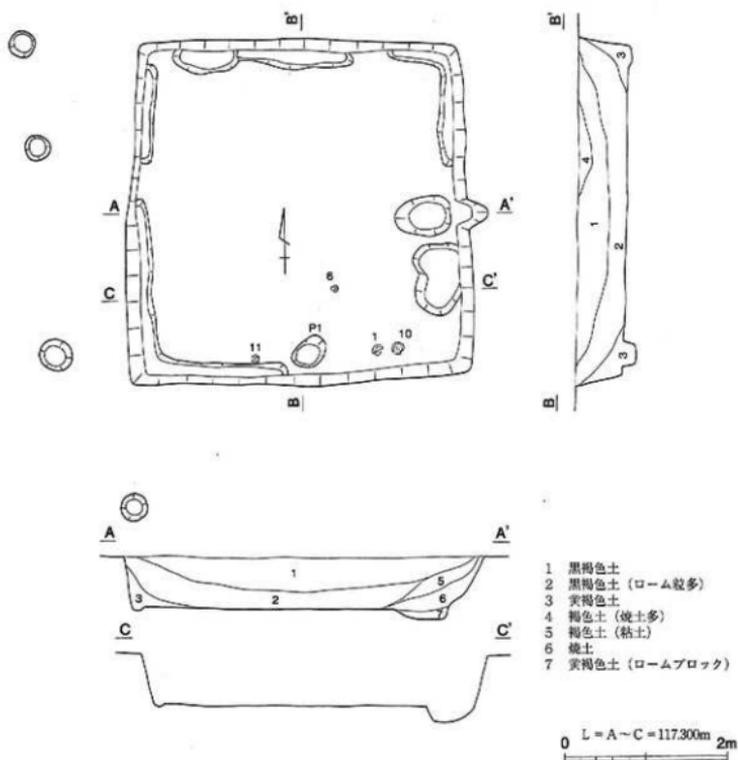
第157図 40号住居跡カマド平・断面図



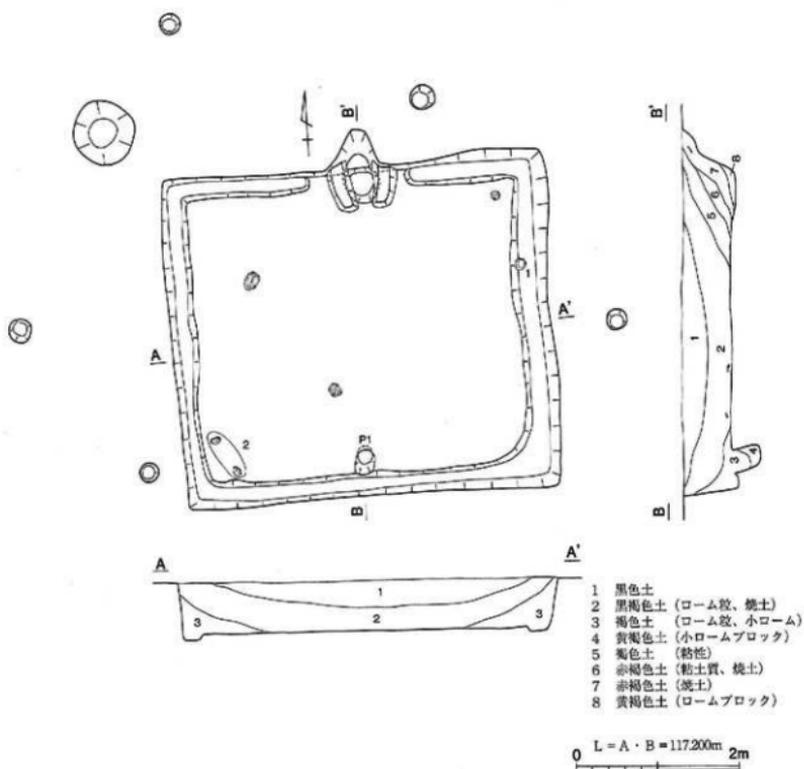
第158图 41号住居跡平・断面图



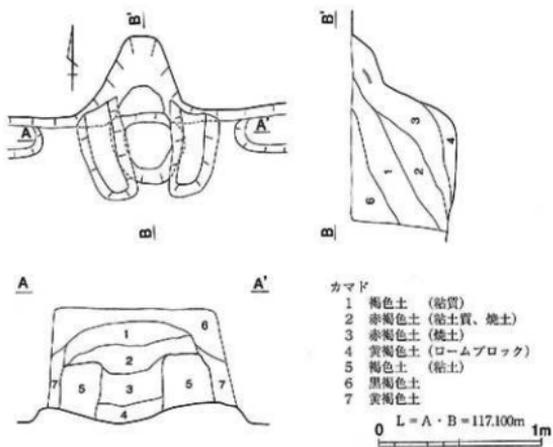
第159図 41号住居跡カマド平・断面図



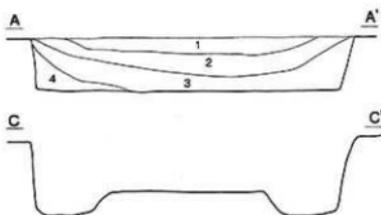
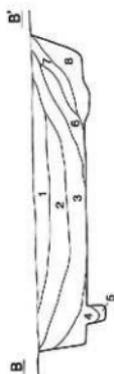
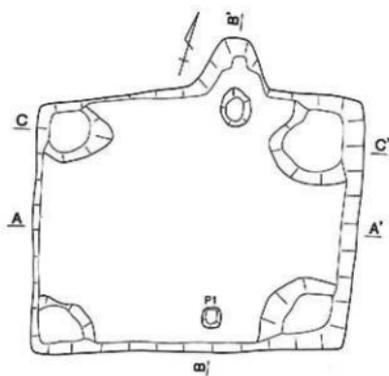
第160図 42号住居跡平・断面図



第161図 43号住居跡平・断面図



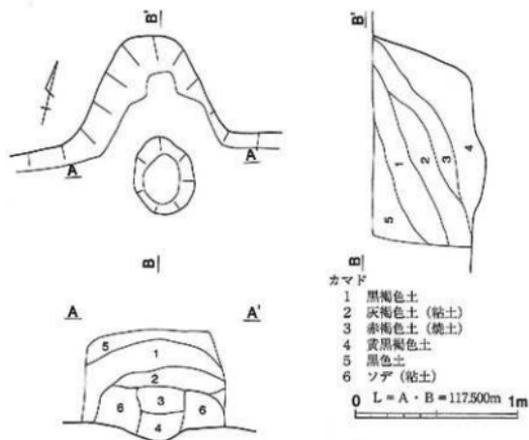
第162図 43号住居跡カマド平・断面図



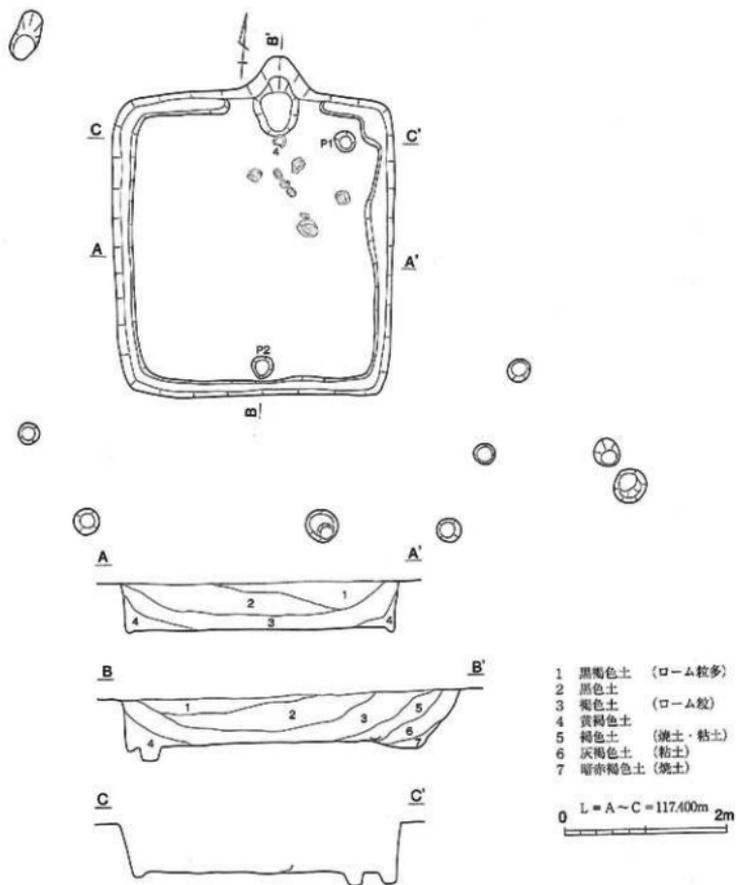
- 1 黒色土 (ローム粒)
- 2 黒褐色土 (ローム粒・小ローム)
- 3 褐色土 (ローム粒・小ローム多)
- 4 黒褐色土 (やわらかい)
- 5 黄褐色土 (小ローム多)
- 6 灰褐色土 (粘土)
- 7 赤褐色土 (焼土)
- 8 黄黒褐色土

0 L = A - C = 117.600m 2m

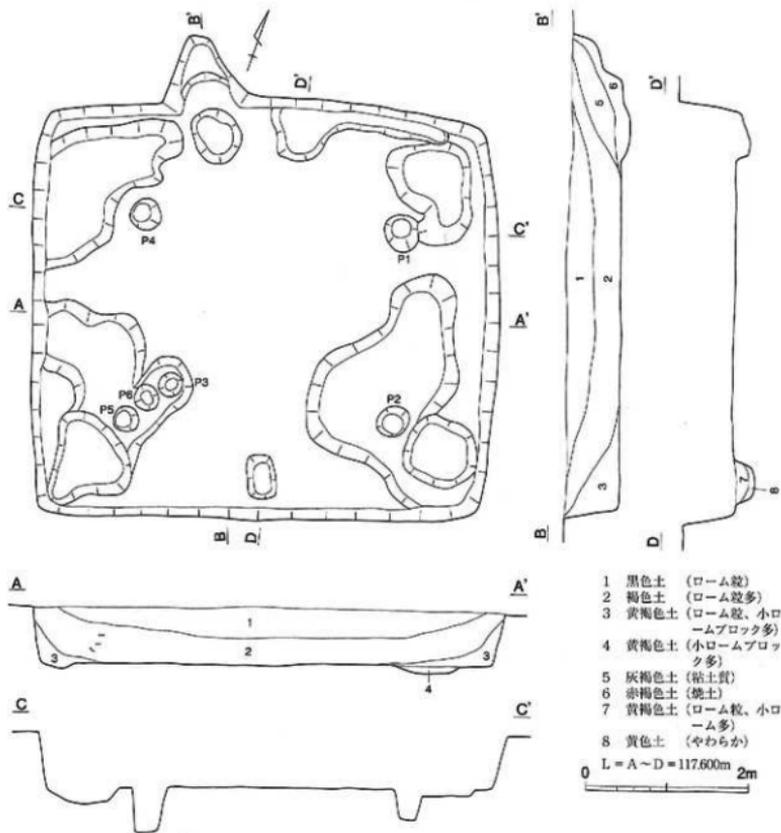
第163図 44号住居跡平・断面図



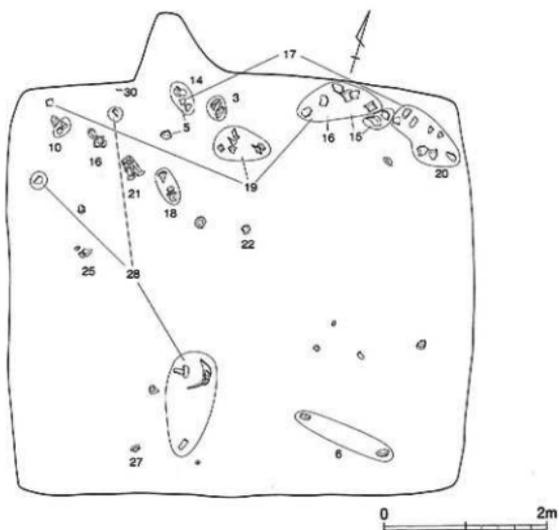
第164図 44号住居跡カマド平・断面図



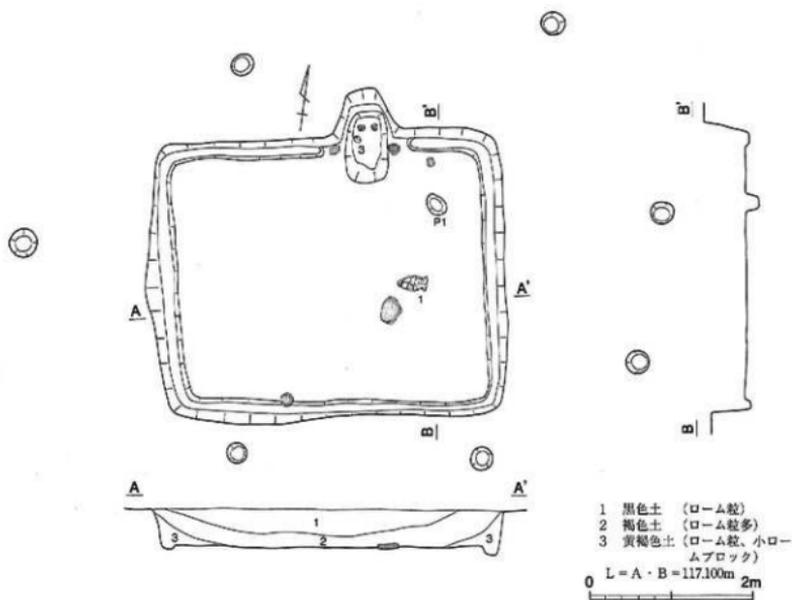
第165图 45号住居跡平·断面图



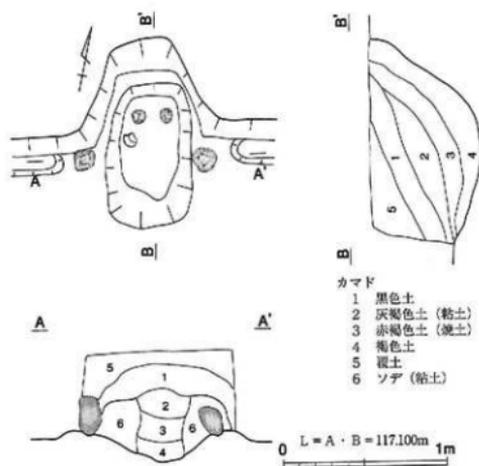
第166図 46号住居跡平・断面図



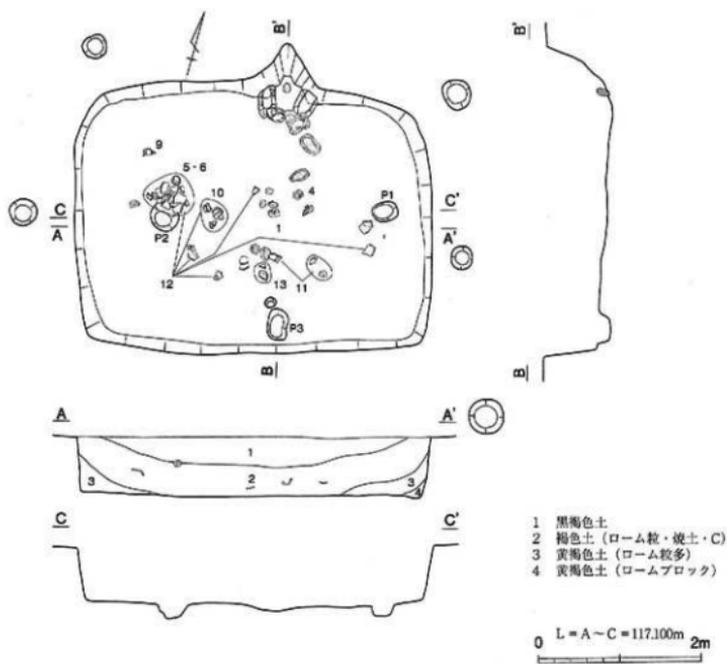
第167图 46号住居跡遺物出土状態図



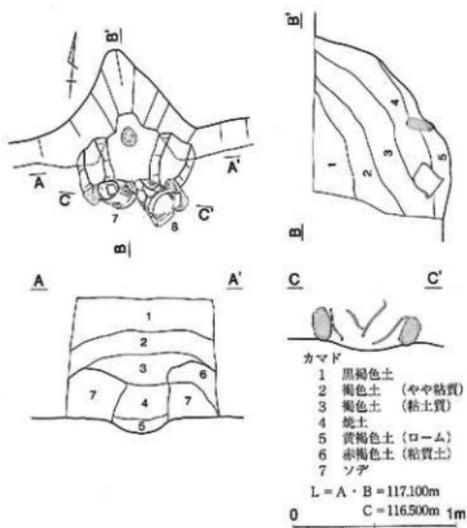
第168図 47号住居跡平・断面図



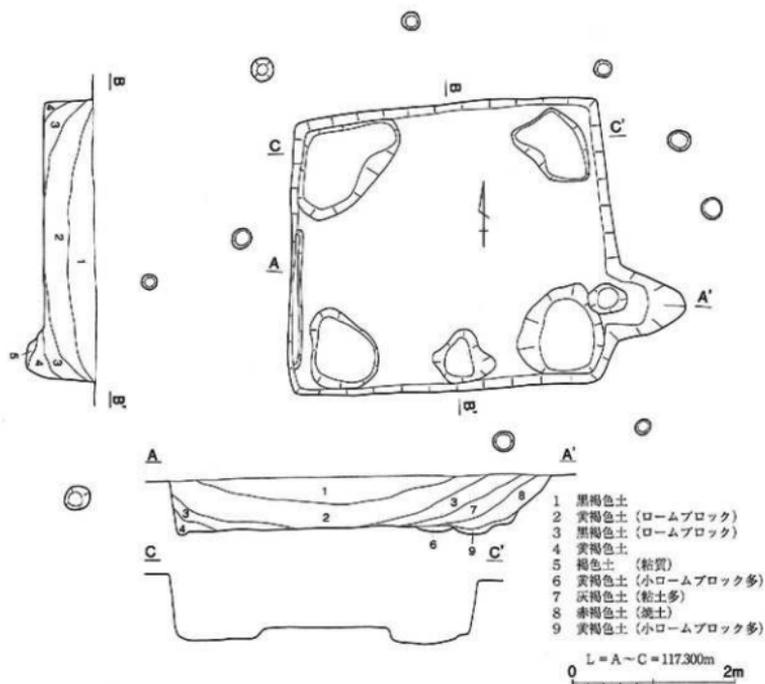
第169図 47号住居跡カマド平・断面図



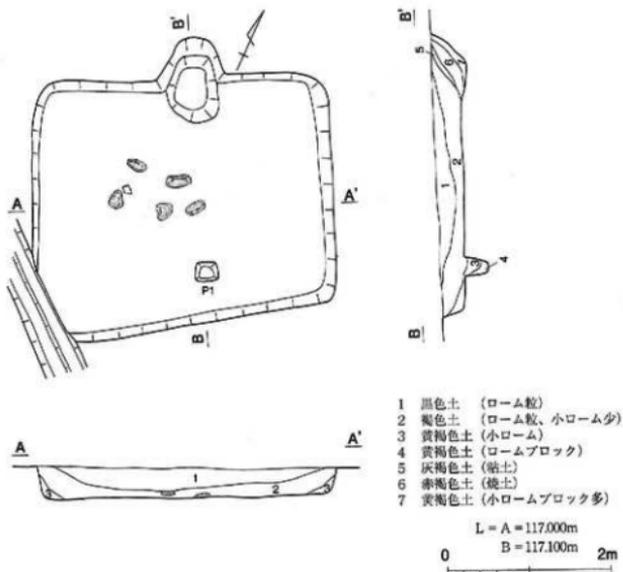
第170図 48号住居跡平・断面図



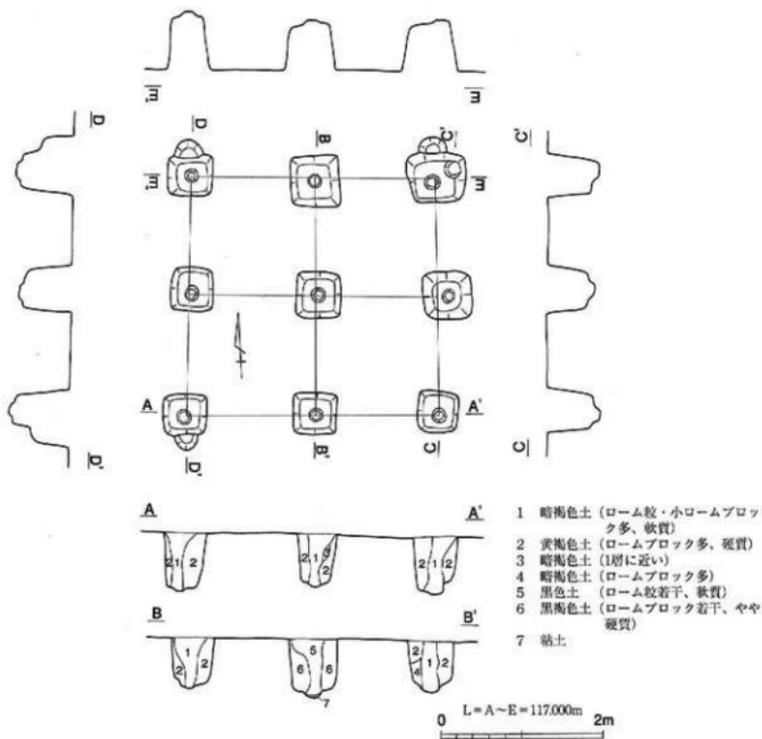
第171図 48号住居跡カマド平・断面図



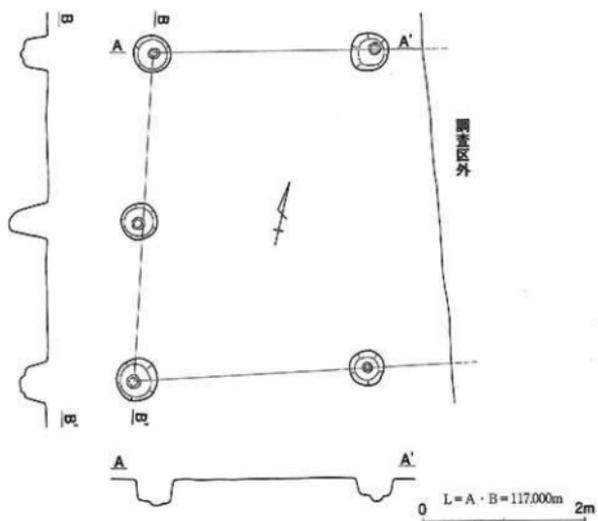
第172図 49号住居跡平・断面図



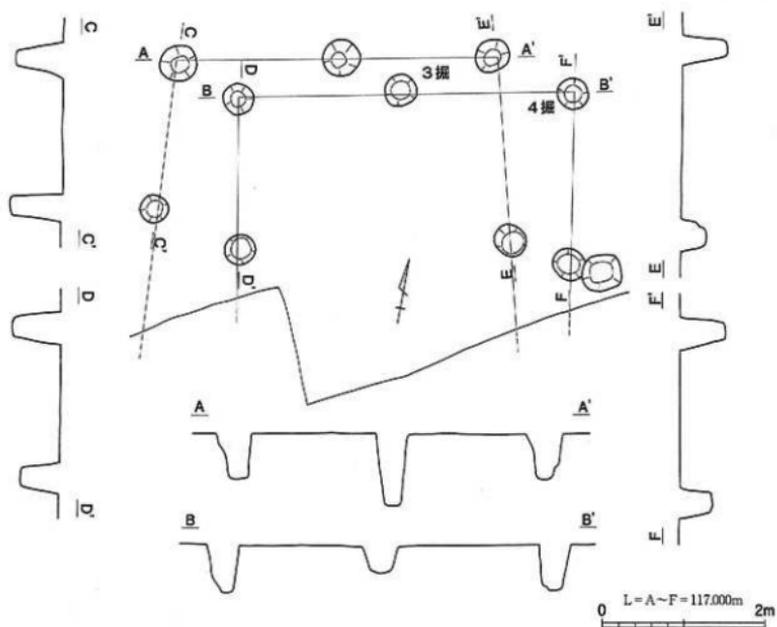
第173図 50号住居跡平・断面図



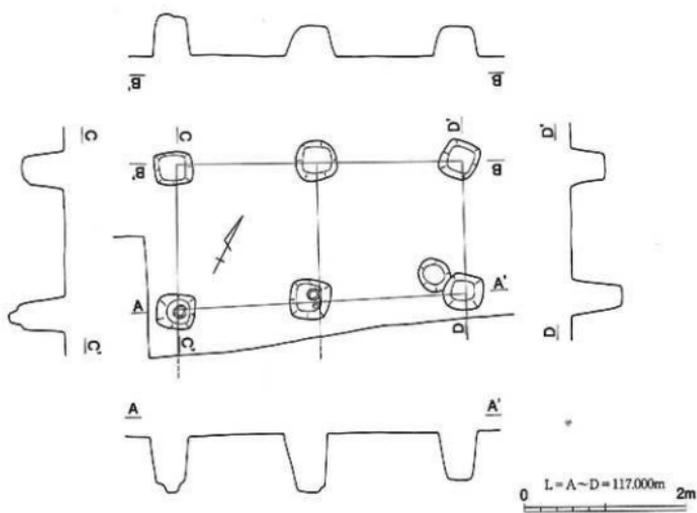
第174図 1号竪立柱建物跡平・断面図



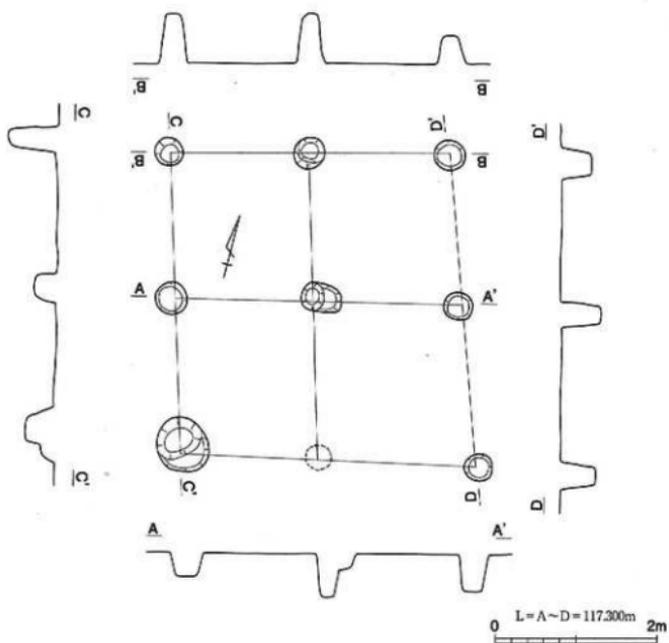
第175图 2号掘立柱建物跡平・断面图



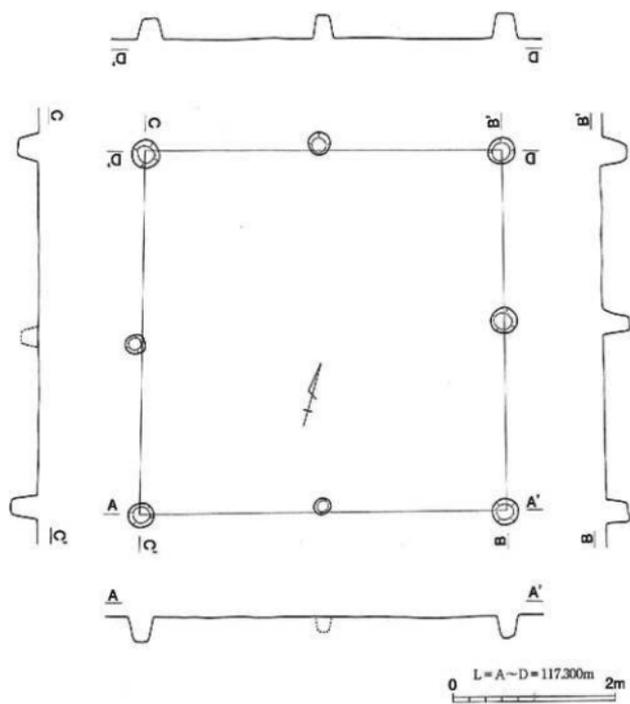
第176图 3·4号掘立柱建物跡平·断面图



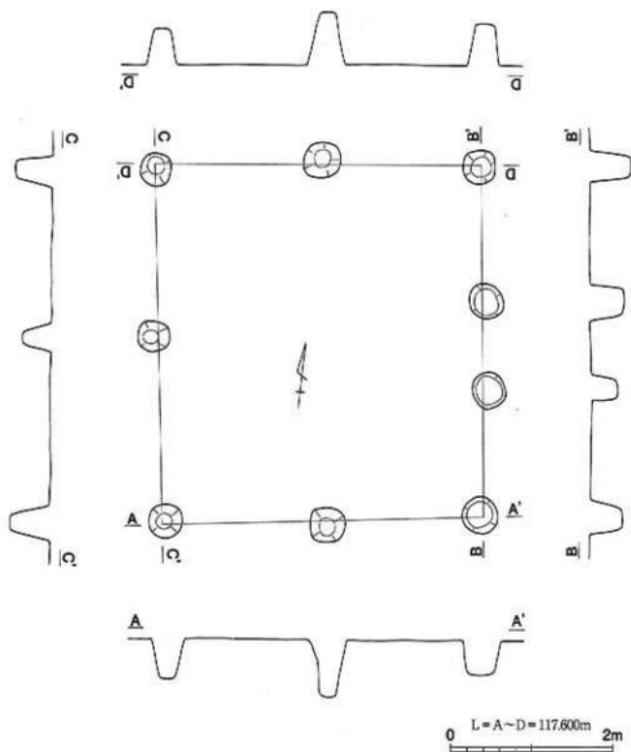
第177图 5号独立柱建物跡平·断面图



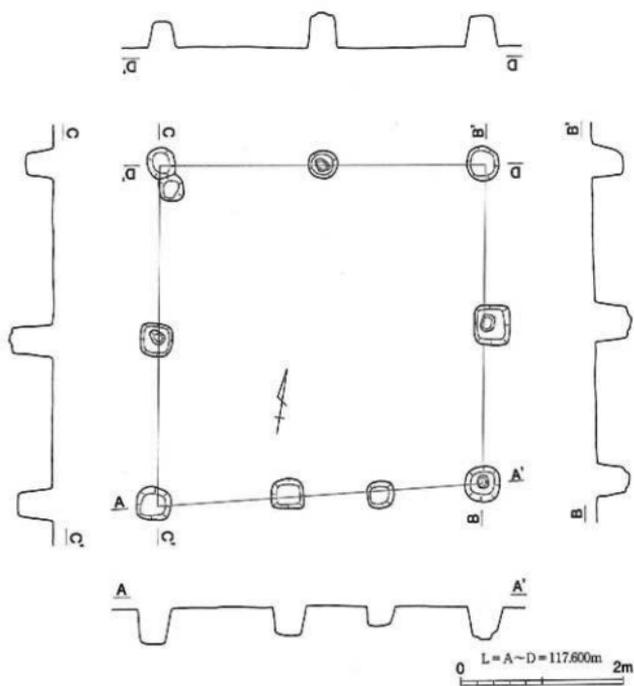
第178图 6号独立柱建物跡平·断面图



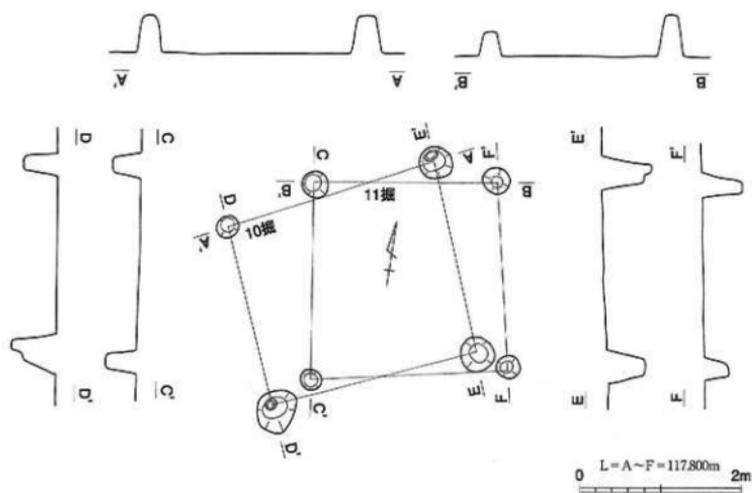
第179图 7号窟立柱建物跡平·断面图



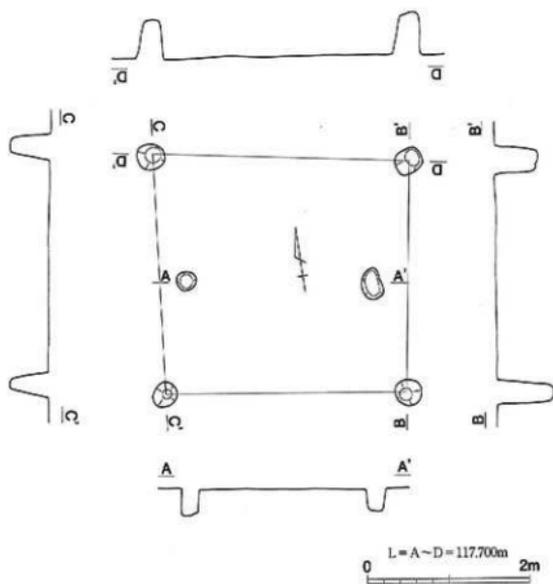
第180图 8号掘立柱建物跡平・断面图



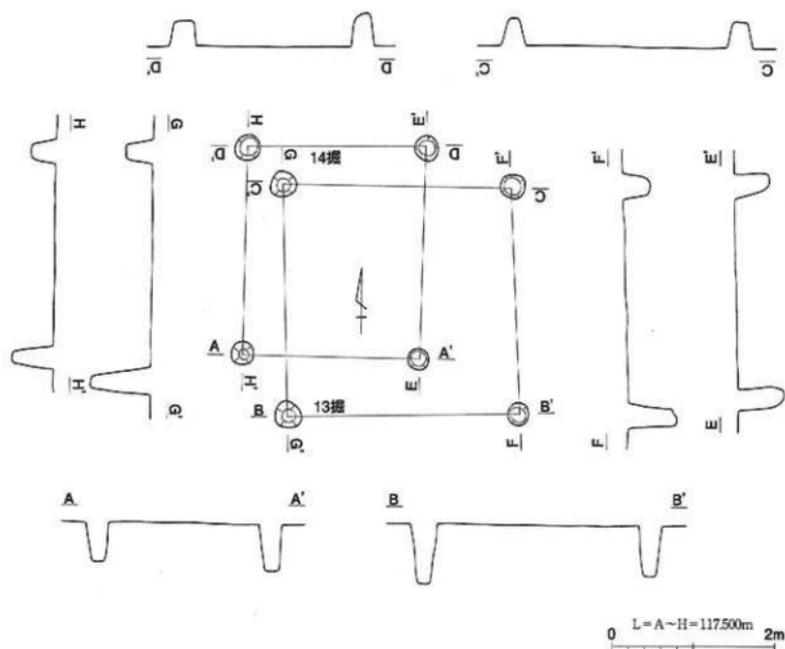
第181图 9号掘立柱建物跡平・断面图



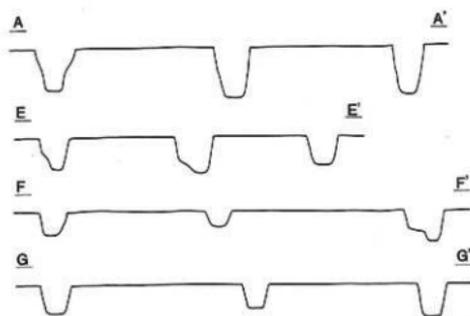
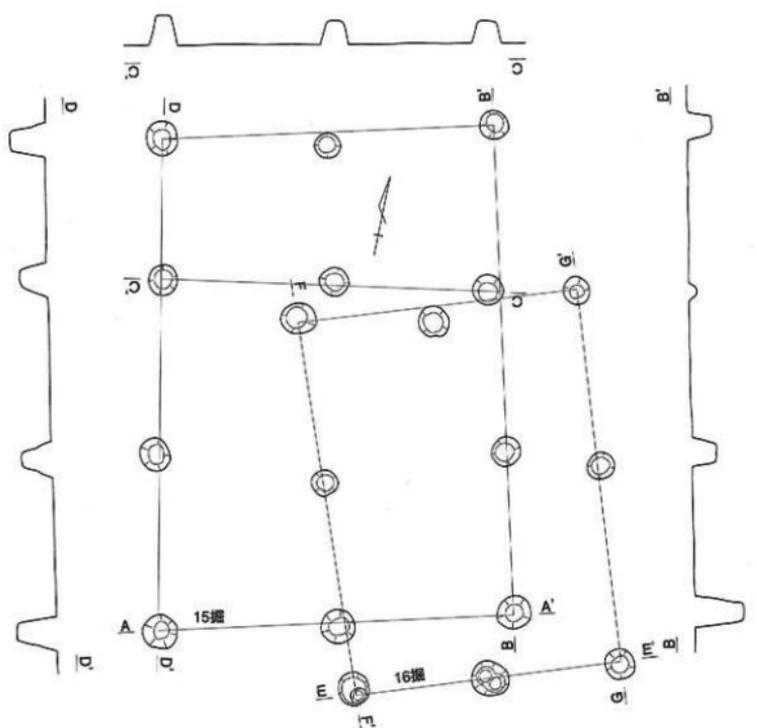
第182图 10·11号掘立柱建物跡平·断面图



第183图 12号掘立柱建物跡平・断面图

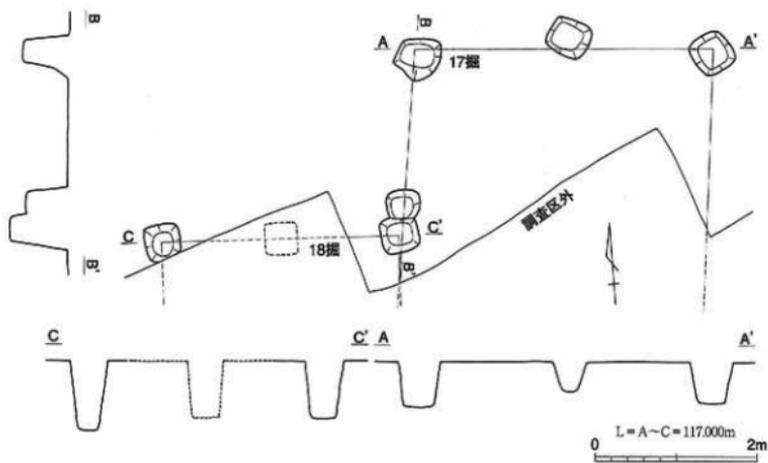


第184图 13·14号掘立柱建物跡平·断面图

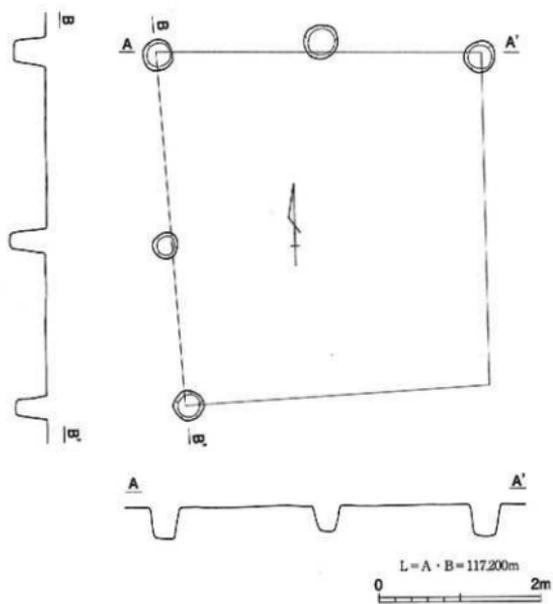


L = A-G = 117.500m
0 2m

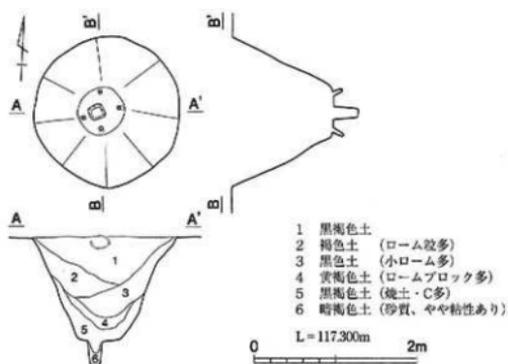
第185图 15·16号独立柱建物跡平·断面图



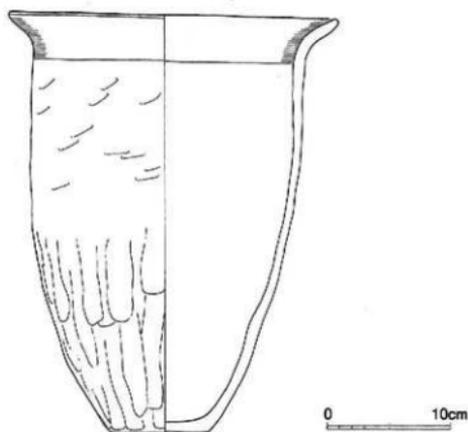
第186圖 17・18号獨立柱建物跡平・断面圖



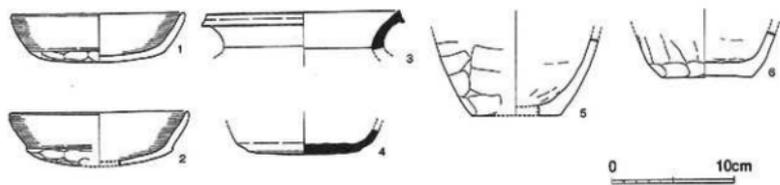
第187图 19号掘立柱建物跡平・断面図



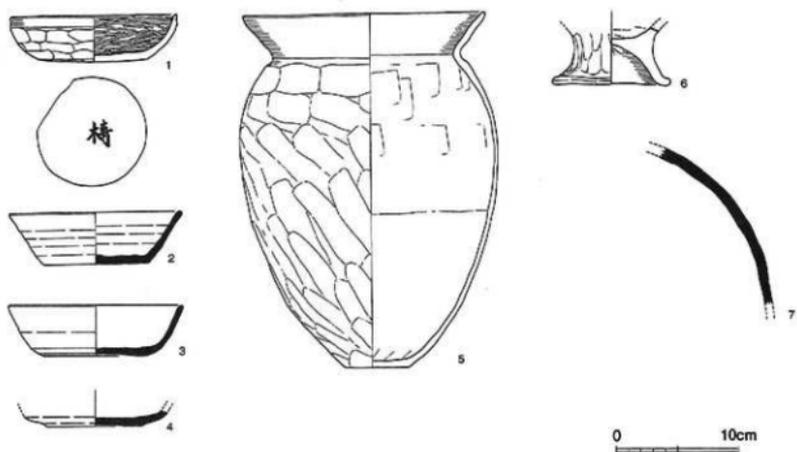
第188図 70号土坑平・断面図



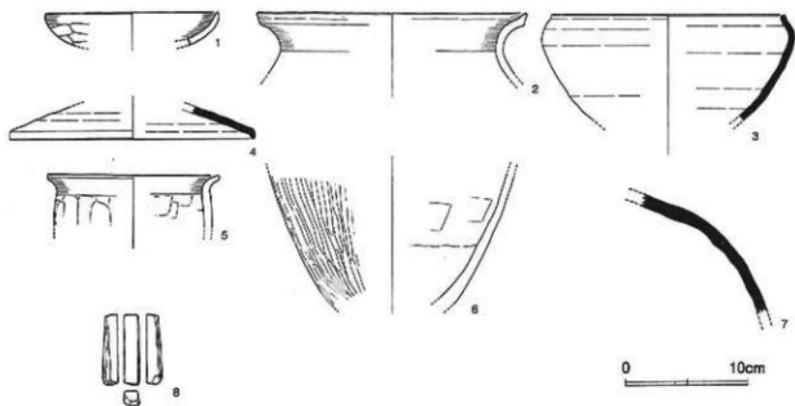
第189図 70号土坑出土遺物実測図



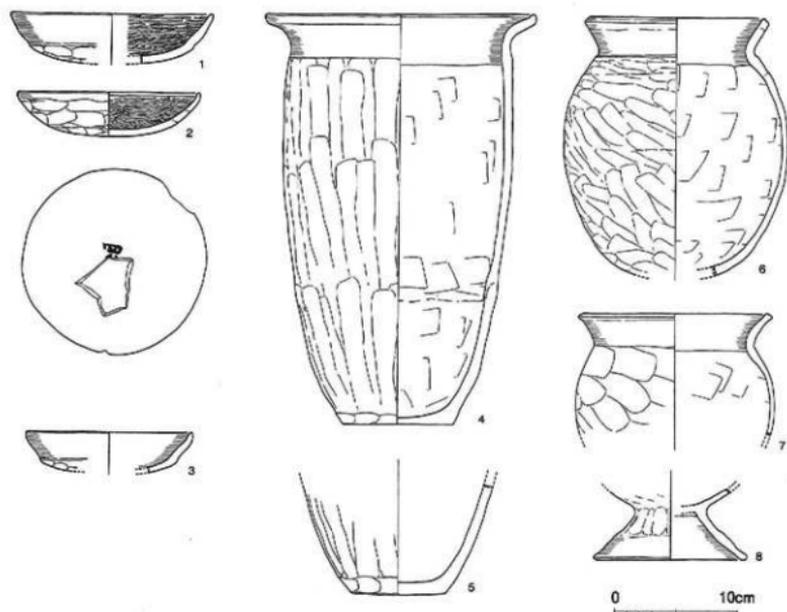
第190图 26号住居跡出土遺物実測図



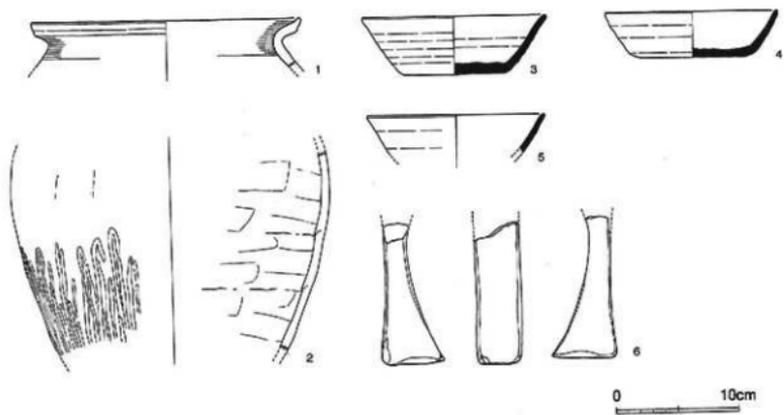
第191图 27号住居跡出土遺物実測図



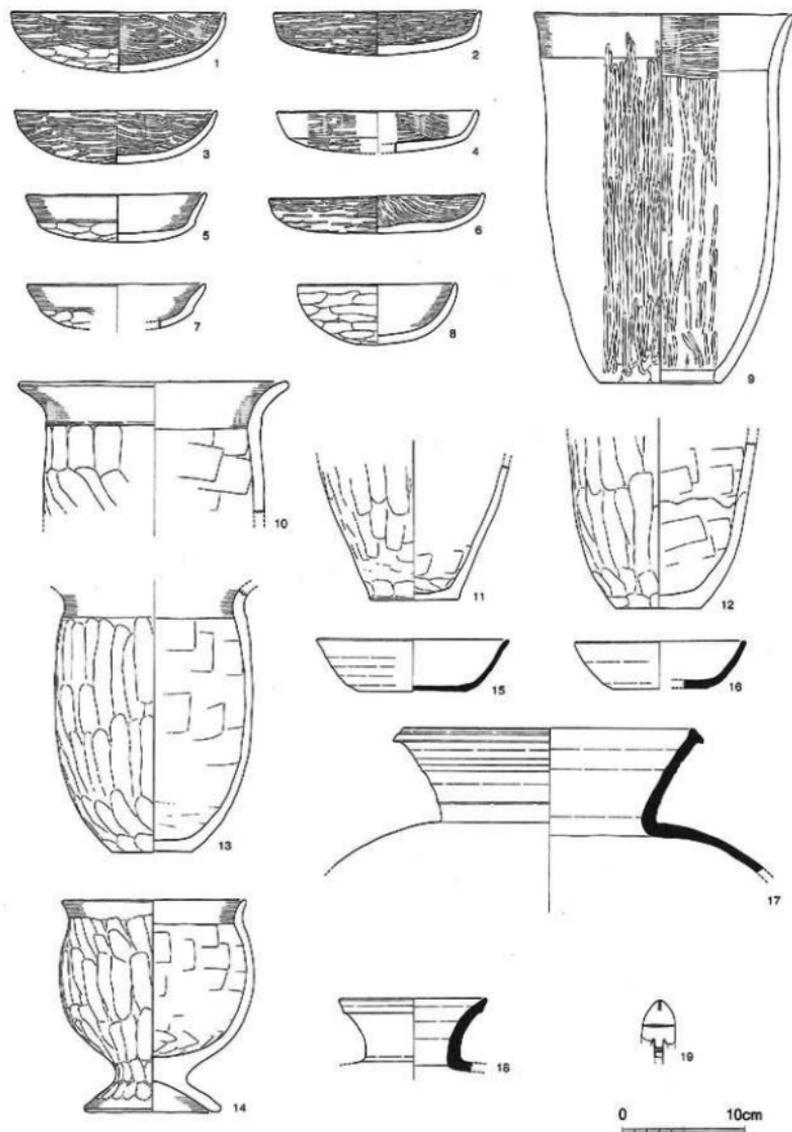
第192图 28号住居跡出土遺物実測図



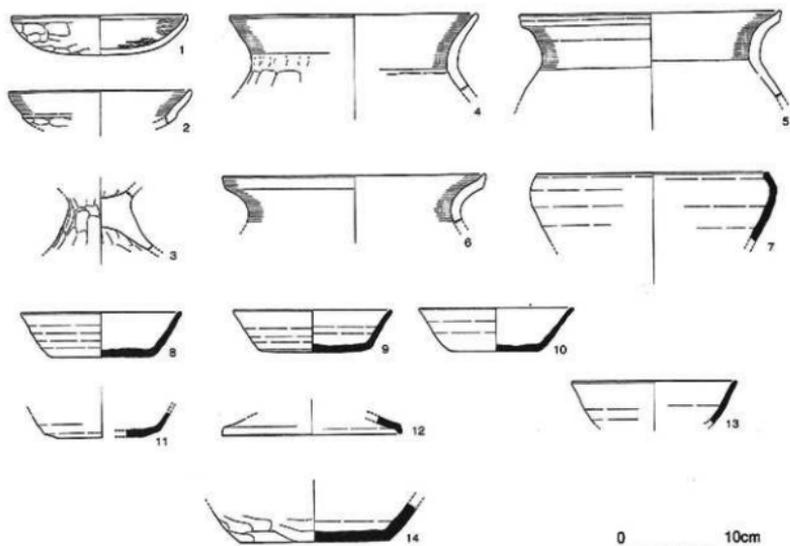
第193图 29号住居跡出土遺物実測図



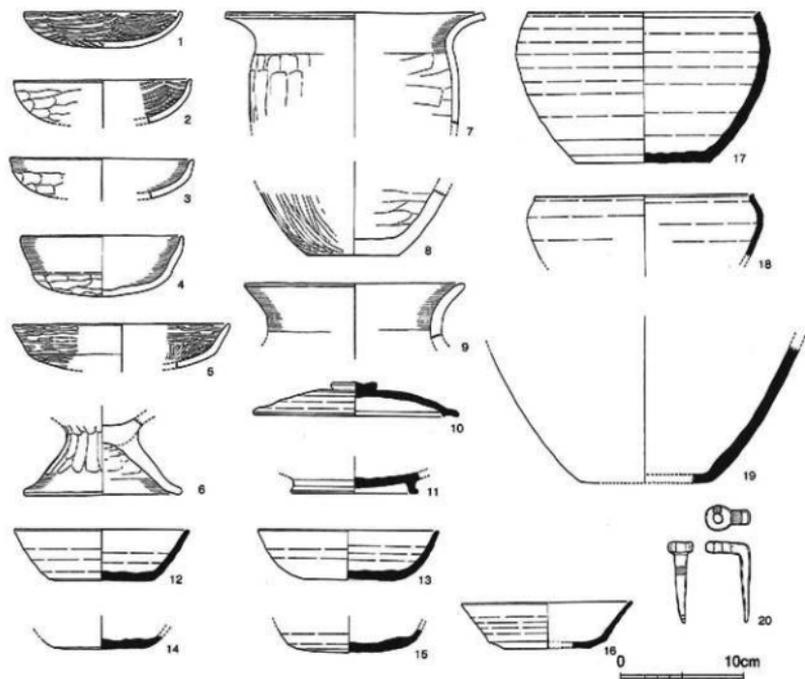
第194图 39号住居跡出土遺物実測図



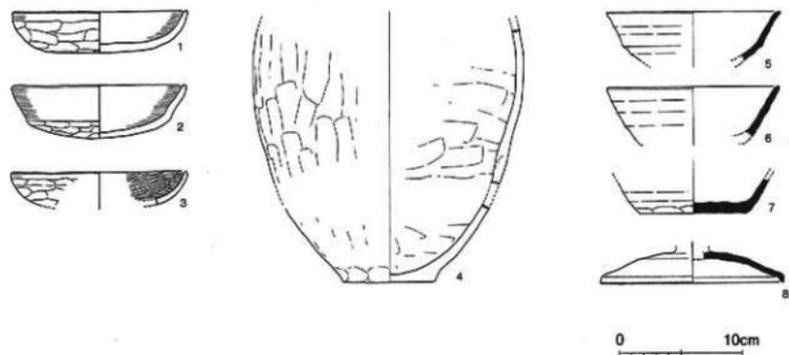
第195圖 40号住居跡出土遺物実測図



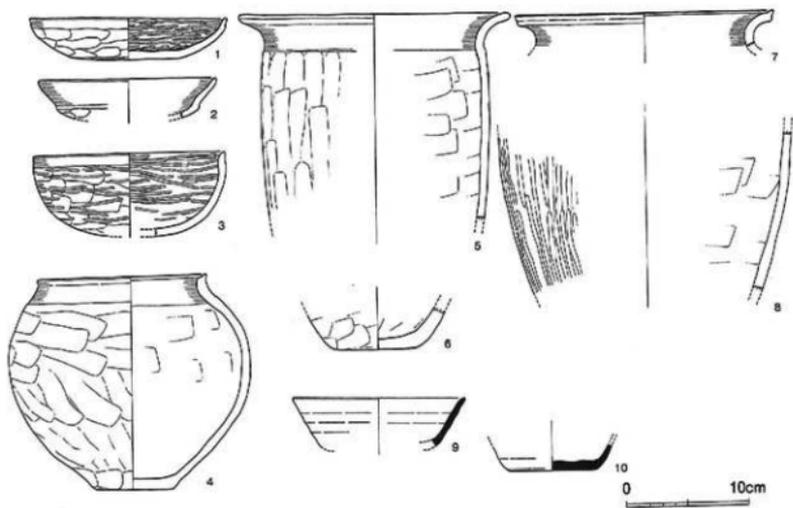
第196图 41号住居跡出土遺物実測図



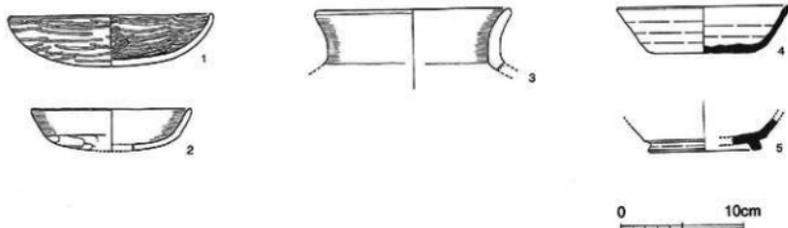
第197图 42号住居跡出土遺物実測図



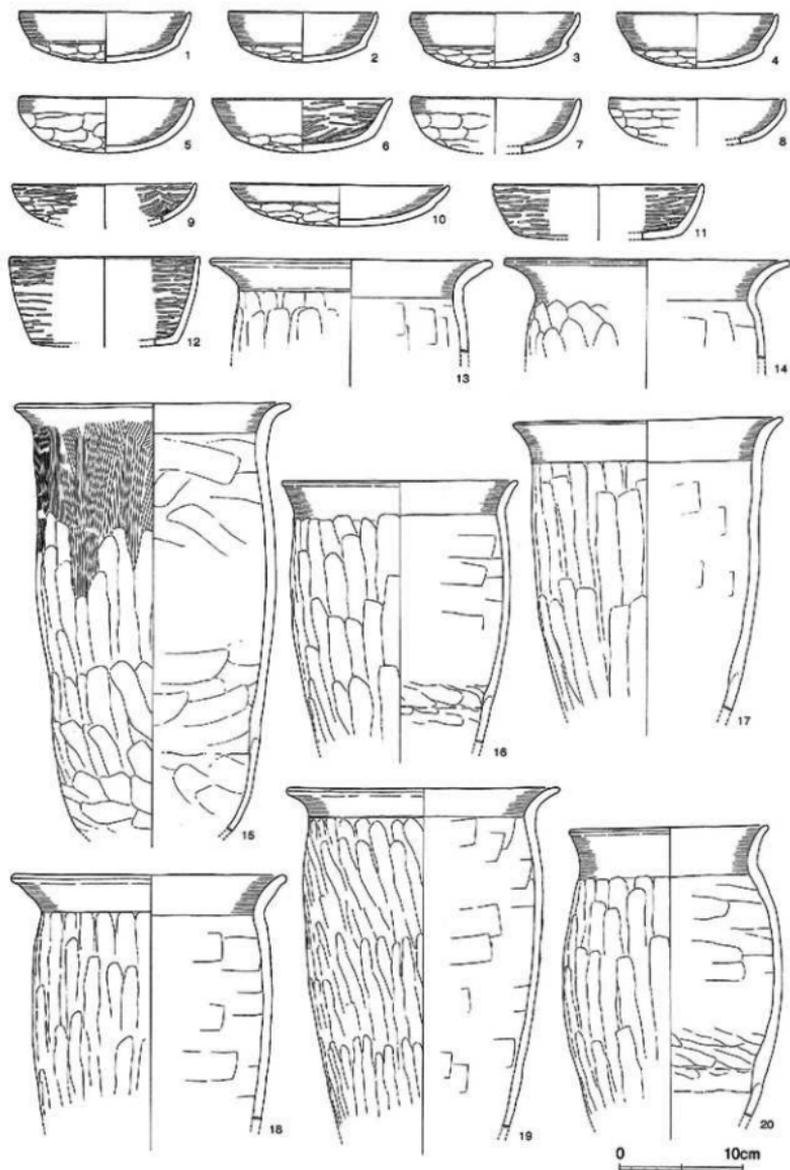
第198图 43号住居跡出土遺物実測図



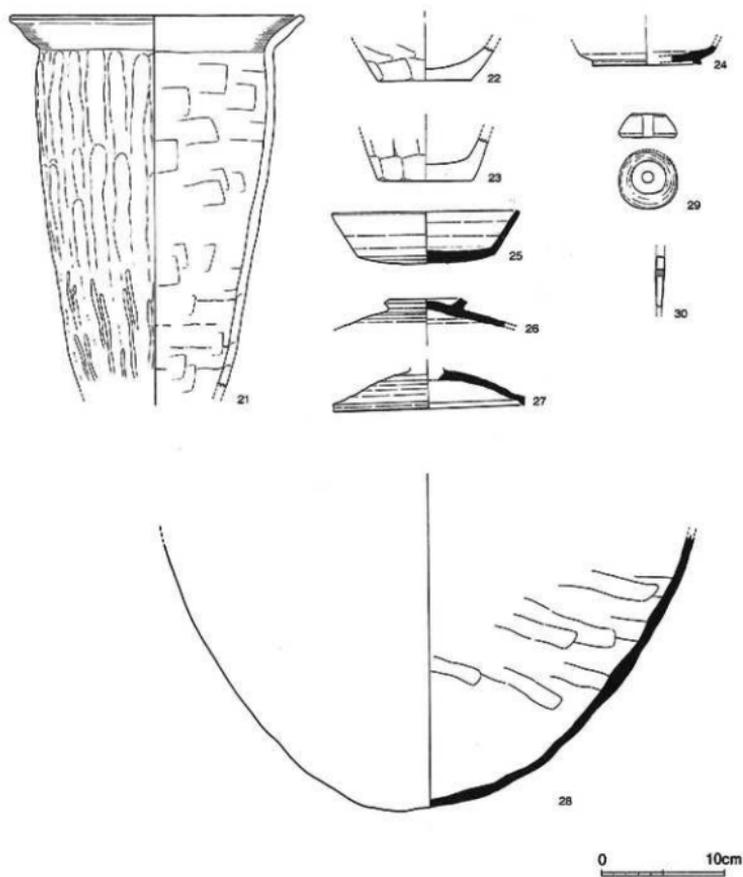
第199图 44号住居跡出土遺物実測図



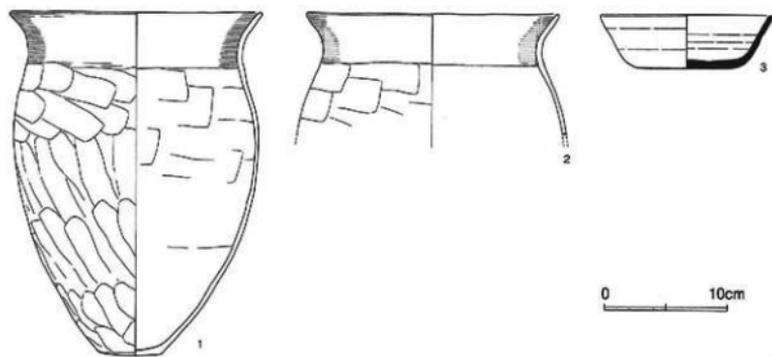
第200图 45号住居跡出土遺物実測図



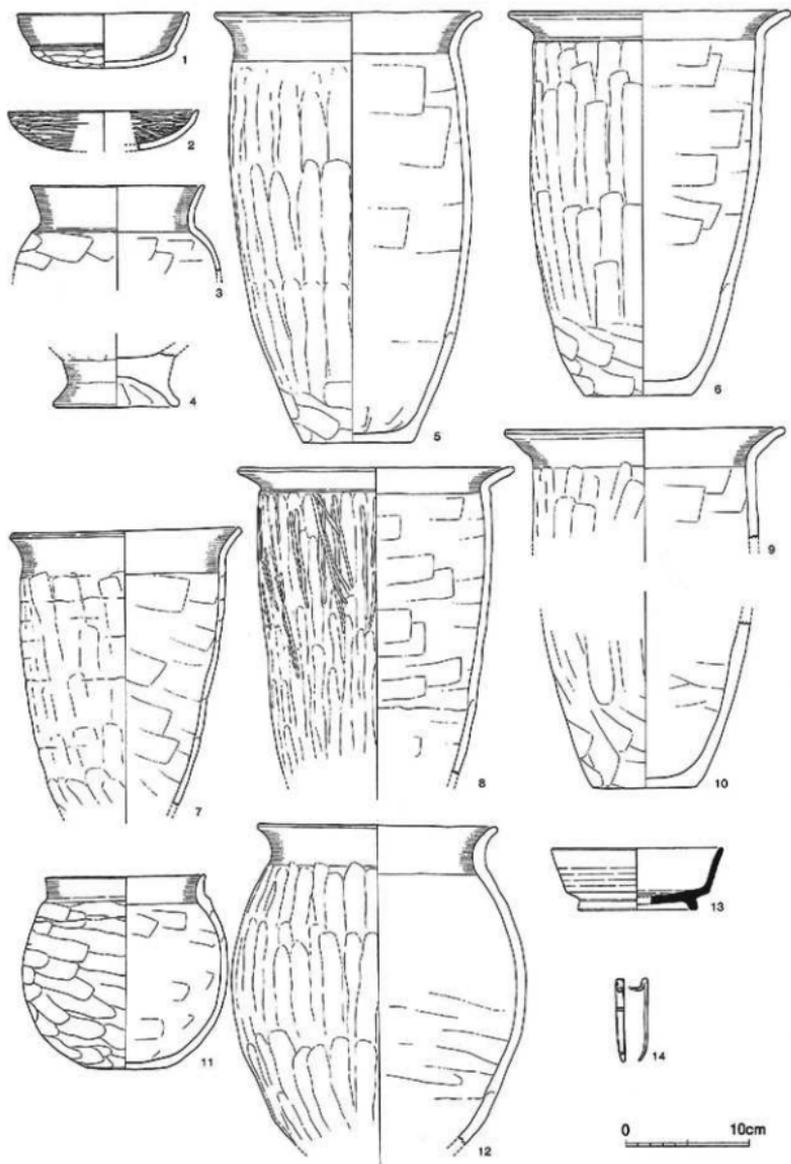
第201图 46号住居跡出土遺物実測図(1)



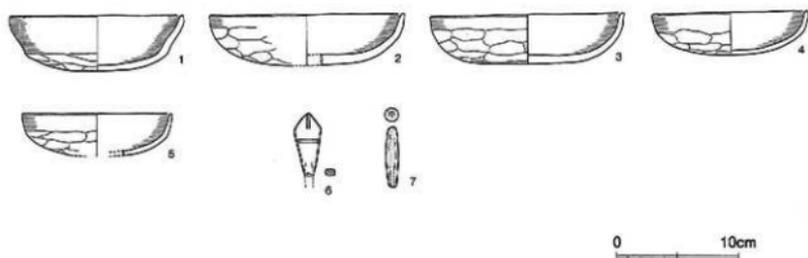
第202图 46号住居跡出土遺物実測図(2)



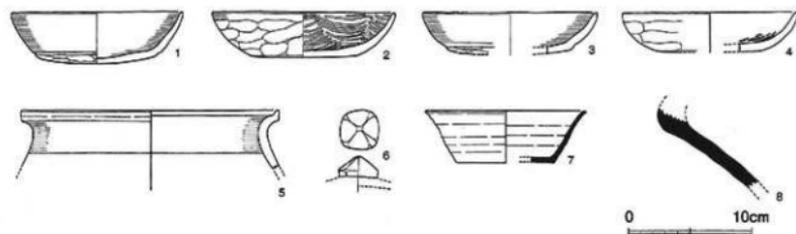
第203图 47号住居跡出土器物実測図



第204图 48号住居跡出土遺物実測図



第205図 49号住居跡出土遺物実測図



第206図 50号住居跡出土遺物実測図

遺物 番号	番 号	器 種	寸法 (cm)			器形の特徴	図案の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考	
			口径	器高	底径								
26号 住居跡	1	土師器杯	14.0	4.0		口縁部は外反、外面に 襷を有す。	内面はヨコナデ、外面は口縁部ヨ コナデ、底面はヘラケズリ。	灰青色、口 縁部内外部 褐色色	密	普通		1/4段	
26号 住居跡	2	土師器杯	14.5	4.4		口縁部は外反、外面に 襷を有す。	内面はヨコナデ、外面は口縁部ヨ コナデ、底面はヘラケズリ。	灰青色、口 縁部内外部 黒褐色	密、微砂状 含む	普通		2/5段	
26号 住居跡	3	須恵器甕	15.5	-	-	口縁部は外反。		灰青灰色	密、微砂状 含む	良好		口縁部 1/3段	
26号 住居跡	4	須恵器杯	-	-	8.9	底部のみ。	底面は回転ヘラケズリ。	青灰色	2~3mm の白色砂粒 含む	良好		底部1/2 段	
26号 住居跡	5	土師器甕	-	-	7.0	底部のみ。	内面はヘラナデ、外面はヘラケズリ。	褐色、外面 一部黒褐色	やや粗	普通		底部1/3 段	
26号 住居跡	6	土師器甕	-	-	7.4	底部のみ。	内面はヘラナデ、外面はヘラナデ、 胴部下端はヘラケズリ。	褐色、外面 一部黒褐色	やや粗、2 ~3mmの 砂粒多し	普通		木置窯	
27号 住居跡	1	土師器杯	13.4	3.9	5.8	口縁部は短く立つ、外 面に襷を有す。	内面は全面ヘラミガキ、外面は口縁 部ヨコナデ、他はヘラケズリ。	赤褐色	やや粗、微 砂状含む	良好	№1	4/5段 湯沸	
27号 住居跡	2	須恵器杯	13.8	4.2	8.3	平底で体部が外転す る。	口コナデ、底面はヘラ切り。	青灰色	1~2mm の砂粒、雲 母片多し	普通		1/4段	
27号 住居跡	3	須恵器杯	14.0	4.1	8.2	平底で体部が外転す る。	口コナデ、底面は回転糸切り状、 胴部下端はヘラケズリ。	灰青灰色	1~2mm の砂粒多し	良好		1/3段	
27号 住居跡	4	須恵器杯	-	-	7.7	平底。	口コナデ、底面は回転糸切り後、 胴部を半持ちヘラケズリ。	灰白色	密、2~ 3mmの砂 粒を含む	普通		底部のみ 1/2段	
27号 住居跡	5	土師器甕 台付型	19.5	28.8	5.1	口縁部は「く」の字状 に外転、趾大径は胴部 やや上位。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘ ラナデ、外面は口縁部ヨコナデ、胴部 はヘラケズリ。	赤褐色、外 部一部黒 褐色	やや粗、微 砂粒多量に 含む	普通	床中央	定形	
27号 住居跡	6	土師器 台付型	-	-	9.5	基部は外反。	内面はヨコナデとヘラナデ、外面は 黒色のヘラケズリ。	赤褐色	粗、3~ 4mmの砂 粒を含む	やや良	№2		
27号 住居跡	7	須恵器甕	-	-	-			青灰色	粗、5~ 6mmの白 色砂粒を 含む	普通			
28号 住居跡	1	土師器杯	14.0	-	-	口縁部は内湾気味に立 ち上がる。	内面はヨコナデ、外面は口縁部ヨ コナデ、底面ヘラケズリ。	口縁部内外 部黒褐色、 他は褐色	密	良好		口縁部 1/5段	
28号 住居跡	2	土師器甕	22.0	-	-	口縁部は外反。	内外面とも口縁部ヨコナデ。	内面黒褐色、 外面黒褐色	やや粗、雲 母粒・長石 粒を含む	普通			
28号 住居跡	3	須恵器杯	19.0	11.5	-	口縁部は内湾、胴部は 半球形。	口コナデ。	灰青灰色	密、微砂状 含む、やや 粗	やや良		1/5段	
28号 住居跡	4	須恵器甕	20.9	-	-		口コナデ。	灰褐色	やや粗、3 ~4mmの 白色砂粒を 含む	良好		口縁部 1/3段	
28号 住居跡	5	土師器甕	13.6	-	-	口縁部は外反。	内面は口縁部ヨコナデ。	暗褐色	やや粗、 2mm前後 の砂粒を含む	やや不 良		口縁部 1/3段	
28号 住居跡	6	土師器甕	-	-	-	底部へ向けて胴部が収 縮的にすぼまる。	内面はヘラナデ、外面は腹位のヘ ラミガキ。	内面黒褐色、 外面黒褐色	やや粗、雲 母粒・長石 粒を含む	普通		割下手 1/4段	
28号 住居跡	7	須恵器甕	-	-	-			青灰色	粗、雲母を 含む	普通		28・41・ 43号住 居	
28号 住居跡	8	碇石	長さ 5.7	幅 1.2	厚さ 1.2			灰色				3面使用	
29号 住居跡	1	土師器杯	16.2	4.2	-	口縁部は外反、外面に 襷を有す。	内面は全面ヘラミガキ、外面は口縁 部ヨコナデ、底面はヘラケズリ。	内面黒褐色、 外面褐色	やや粗、2 ~3mmの 砂粒少し含 む	良好		29号(№ 1)・40 号住居	1/3段
29号 住居跡	2	土師器杯	14.7	3.6	-	口縁部は内湾気味に立 ち上がる。	内面は全面ヘラミガキ、外面は口縁 部ヨコナデ、他はヘラケズリ。	赤褐色	密、微砂状 含む	良好	№7		定形 内面にウ ルン付留 り

第22表 奈良時代住居跡出土遺物観察表(1)

遺構 番号	番 号	種 類	寸法 (cm)			器形の特徴	調子の特徴	色調	胎土	表面	出土位置	備考
			口径	器高	底径							
29号 住居跡	3	土師器環	13.3	-	-	口縁部は外傾、外面に 稜を有す。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコ ナデ、底部ヘラケズリ。	褐色、内面 及び口縁部 外面は紫褐色	やや良	普通		
29号 住居跡	4	土師器甕	21.7	33.2	8.9	口縁部は外反、最大径は 口径。	内面は口縁部ヨコナデ、他はヘラナ デ、外面は口縁部ヨコナデ、他はヘ ラケズリ。	黄褐色	やや粗。3 ~4mmの 砂粒含む	普通	Ⅲ2・4	2/3段
29号 住居跡	5	土師器甕	-	-	7.7	底部のみ。	外面はヘラケズリ。	淡赤褐色	やや粗。2 ~3mmの 砂粒含む	普通		
29号 住居跡	6	土師器甕	14.3	21.3	-	口縁部は「く」の字状 に外傾。最大径は胴部 中位。	内面は口縁部ヨコナデ、他はヘラナ デ、外面は口縁部ヨコナデ、他はヘ ラケズリ。	淡赤褐色	やや粗。3 ~4mmの 砂粒少し含 む	やや良	Ⅲ1	底部のみ 欠損 縁部破
29号 住居跡	7	土師器甕	15.0	-	-	口縁部は「く」の字状 に外傾。最大径は胴部 中位。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラ ナデ、外面は口縁部ヨコナデ、胴部 はヘラケズリ。	茶褐色	やや粗。1 ~2mmの 砂粒含む	普通	Ⅲ3+中 材	
29号 住居跡	8	土師器台 付甕	-	-	12.2	脛部は「ハ」の字状 に固く。	内面はヨコナデ、外面は脛部ヨコナ デ、胴部は腹板のヘラケズリ。	茶褐色	やや粗。1 ~2mmの 砂粒含む	普通	Ⅲ3+中 材	
39号 住居跡	1	土師器甕	21.5	-	-	口縁部は「く」の字状 に外反する。	内外面とも口縁部ヨコナデ。	暗褐色	長石・石英・ 雲母粒含む	普通	上層	口縁部 1/6段
39号 住居跡	2	土師器甕	-	-	-	胴部のみ。	内面はヘラナデ。外面はヘラナデと ヘラミガキ。	赤褐色	やや粗。長 石・石英・ 雲母粒含む	普通	Ⅲ1	縁部破
39号 住居跡	3	須恵器杯	14.7	4.7	8.2	平底で脛部が外傾す る。	ロクロナデ、底面はヘラ切り。	淡灰色	やや粗。3 ~4mmの 砂粒含む	普通	カマド+ Ⅲ2	1/3段
39号 住居跡	4	須恵器杯	14.0	3.8	8.5	平底で脛部が外傾す る。	ロクロナデ、底面は折板ヘラケズリ。	黄灰色	黄、白色砂 粒含む	普通	カマド+ Ⅲ1+中 +下層	1/2段
39号 住居跡	5	須恵器杯	14.4	-	-	脛部は外傾する。	ロクロナデ。	黄青灰色	黄、白色砂 粒含む	良好	上層+中 ~下層	1/4段
39号 住居跡	6	磁石	器身長 11.5	最大幅 5.3	厚さ 3.7			灰白色				4面使用
40号 住居跡	1	土師器杯	17.3	4.9	-	口縁部はわずかに外 傾、外面に鋭い稜を有 す。	内面は底面一方向、口縁部は逆弧状 のヘラミガキ。外面は口縁部へ脛部 は逆弧状のヘラミガキ、底面はヘラ ケズリ。	赤褐色	黄	良好	Ⅲ3-5	完形
40号 住居跡	2	土師器杯	17.0	3.5	-	口縁部はやや外傾、外 面に鋭い稜を有す。	内面は口縁部傾位のヘラミガキ、底 面は滑面。外面は口縁部ヘラナデ、 底面はヘラケズリ後それれへラミ ガキ。	淡黄褐色	黄、赤褐色 微砂粒含む	良好	Ⅲ1	完形
40号 住居跡	3	土師器杯	16.5	4.3	-	口縁部はやや外傾、外 面に鋭い稜を有す。	内外面とも底面は一方、口縁部は 逆弧状のヘラミガキ。	赤褐色	黄、赤褐色 微砂粒含む	良好	Ⅲ2	3/4段 赤部破?
40号 住居跡	4	土師器杯	16.4	3.4	-	口縁部は外傾、外面に 鋭い稜を有す。	内面は底面一方向、口縁部は逆弧状 のヘラミガキ。外面は底面ヘラケズ リ、他はヘラミガキ。	淡黄褐色	黄	良好	下層+カ マド	1/5段
40号 住居跡	5	土師器杯	14.5	3.0	-	口縁部は外傾、外面に 鋭い稜を有す。	内面はヨコナデ。底面は滑面。外面 は口縁部ヨコナデ、底面はヘラケズ リ。	淡褐色、口 縁部内外面 はワルシ	黄	やや良	カマド	4/5段
40号 住居跡	6	土師器杯	17.6	3.1	-	口縁部は傾く(外傾す る)。	内面は全面へラミガキ。外面は口縁 部へラミガキ、他はヘラケズリ後ヘ ラミガキ。	褐色	黄	良好	Ⅲ3-5	完形 木炭痕
40号 住居跡	7	土師器杯	14.5	3.6	-	口縁部は外傾、外面に 鋭い稜を有す。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコ ナデ、底面はヘラケズリ。	淡褐色、口 縁部内外面 は淡褐色	黄	やや良	Ⅲ1+下 層	1/3段
40号 住居跡	8	土師器杯	12.9	4.0	-	口縁部は傾く(直立)。脛 部は平頭形。	内面はヨコナデ。底面は滑面。外面 はヘラケズリ。	淡褐色、内 面は淡黄褐色	黄、赤褐色 微砂粒含む	やや良	Ⅲ12	1/2段
40号 住居跡	9	土師器甕	21.2	30.0	9.6	口縁部はやや外傾。最 大径は口径。	内面は口縁部傾位、胴部は逆弧状の ヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ、 胴部はヘラケズリ後傾位のヘラミガ キ。	赤褐色(黒 染有り)	1~2mm の砂粒含む	良好	Ⅲ10	完形
40号 住居跡	10	土師器甕	21.5	-	-	口縁部は外反、脛部外 面下部に稜を有す。	内面は口縁部ヨコナデ、脛部はヘラ ナデ、外面は口縁部ヨコナデ、脛部 はヘラケズリ。	暗褐色	粗。3~ 4mmの砂 粒含む	普通	Ⅲ9	1/5段

第23表 奈良時代住居跡出土土器観察表(2)

遺構番号	番号	種類	寸法 (cm)			器形の特徴	装束の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
			口徑	底高	底径							
40号住居跡	11	土器器表	-	-	7.3	底面は平底で、胴部に向けて直線的に広がる。	内面はヘラナゲ、外面はヘラケズリ。	灰褐色	黒、3～4mmの砂粒を含む	やや不良	No7	木炭痕
40号住居跡	12	土器器表	-	-	6.9	底面は平底で、胴部は張らない。	内面はヘラナゲ、外面はヘラケズリ。	褐色	黒、2～3mmの砂粒を含む	普通	No7	吻痕 木炭痕
40号住居跡	13	土器器表	-	-	6.5	口縁部は外反し、胴部外面下部に稜を有す。	内面は口縁部ヨコナゲ、胴部はヘラナゲ。外面は口縁部ヨコナゲ、胴部は縦位のヘラケズリ。	暗赤褐色	やや粗、2～3mmの砂粒を含む	やや不良	No9	
40号住居跡	14	土器器台付蓋	14.6	17.3	11.0	口縁部は外反し、胴部に稜あり。	内面は口縁部と胴部はヨコナゲ、胴部ヘラナゲ。外面は口縁部と胴部はヨコナゲ、他はヘラケズリ。	赤褐色	黒、2～3mmの砂粒を含む	普通	No11	ほぼ完全 銅乳土手 外面にス ス付着
40号住居跡	15	須恵器杯	15.5	4.3	8.5	平底で体部は外反する。	右側部のロクロナゲ。底面は全面凹形ヘラケズリ。	灰褐色	密	やや不良	上層	1/5段
40号住居跡	16	須恵器杯	13.9	3.8	7.7	平底で体部は外反する。	右側部のロクロナゲ。底面は全面凹形ヘラケズリ。	青灰色	やや密、白色微砂を含む	良好	上+下層	1/3段
40号住居跡	17	須恵器蓋	23.0	-	-	口縁部は外反。	口縁部はロクロナゲ、胴部内面に同心円文をナゲ削し、外面は平行タテキ。	灰褐色	密	良好	No13+上+下層	緑色の胎 付着
40号住居跡	18	須恵器表	11.6	-	-	口縁部は外反。	ロクロナゲ。	暗灰色	やや密	良好	No8	
40号住居跡	19	鉄皿	縦径長 4.6	最大 2.7	厚さ 0.2						中層	重さ 10.0g
41号住居跡	1	土器器杯	14.2	3.3	-	口縁部に鋭く直立。	内面はヘラミダキ、外面は口縁部ヨコナゲ、他はヘラケズリ。	赤褐色	密	良好	上+中+下層	
41号住居跡	2	土器器杯	14.6	-	-	口縁部は外反、外面に稜を有す。	内面は口縁部ヨコナゲ、体部ヘラケズリ。	暗褐色、内面及び口縁部外面に黒褐色	やや密	普通	中層	1/5段
41号住居跡	3	土器器台付蓋	-	-	-	聯合部のみ。胴部は欠損。	内面はヘラナゲ、外面はヘラケズリ。	暗赤褐色	黒、3mm程度の砂粒多く含む	普通	中層	1/8段
41号住居跡	4	土器器蓋	20.0	-	-	口縁部は外反。	内面は口縁部ヨコナゲ。外面は口縁部ヨコナゲ、胴部削りさへ、胴部ヘラケズリ。	暗褐色	やや密	普通	中層	1/8段
41号住居跡	5	土器器蓋	21.2	-	-	口縁部は外反。	内外面とも口縁部ヨコナゲ、胴部ヘラナゲ。	暗赤褐色	やや粗、雲母・長石・石英を含む	やや不良	カマド+下層	口縁部 1/8段
41号住居跡	6	土器器蓋	21.4	-	-	口縁部は外反後傾く立つ。	内外面とも口縁部ヨコナゲ。	赤褐色、外面は黒褐色	雲母・長石を含む	普通	下層	口縁部 1/8段
41号住居跡	7	須恵器杯	19.0	-	-	口縁部は内凹。	ロクロナゲ。	灰褐色、外面は暗褐色	密、やや砂質	普通	下層	1/8段
41号住居跡	8	須恵器杯	13.0	3.7	8.0	平底で体部は外反する。	ロクロナゲ。底面外面はヘラ切り。	暗青灰色	やや粗、3～4mmの砂粒少し含む	良好	中+下層	1/5段
41号住居跡	9	須恵器杯	12.8	3.5	9.0	平底で体部はやや外反する。	ロクロナゲ。底面外面はヘラ切り。	青灰色	やや密、2～4mmの砂粒少し含む	良好	No1	短形、底面中央に「火」のヘラ削り有り
41号住居跡	10	須恵器杯	12.4	3.5	7.1	平底で体部は外反する。	ロクロナゲ。底面外面はヘラ切り状、一方のヘラケズリ。	青灰色	やや密、1～2mmの砂粒少し含む	良好	No2	2/3段
41号住居跡	11	須恵器杯	-	-	7.0	平底。	ロクロナゲ。底面外面はヘラ切り。	灰褐色(即ち青灰色)	やや密	良好	中層	底面1/4段
41号住居跡	12	須恵器蓋	-	-	-			灰褐色	やや粗	やや不良	上層	1/10段
41号住居跡	13	須恵器杯	13.4	3.5	8.0	体部は外反する。	ロクロナゲ。	青灰色	やや粗、3～4mmの砂粒少し含む	良好	中層	1/3段、 底面欠損
41号住居跡	14	須恵器蓋	-	-	12.0	底面のみ。平底。	底面内面はカキメカ？外面はヘラナゲ。	青灰色	やや密	良好		底面1/4段
42号住居跡	1	土器器杯	12.7	3.0	-	口縁部はやや内凹。丸底。	内外面とも底面は一方、口縁部は縦位のヘラミダキ。	赤褐色	緻密	良好	No2	完全形

第24表 奈良時代住居跡出土遺物観察表(3)

遺物 番号	種 類	寸法 (cm)			図形の特徴	調査の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	器径							
42号 住居跡	2 土師器杯	14.4	-	-	口縁部はわずかに外反。外面に斜い稜を有す。	内面はヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。体部はヘラケズリ。	内面は赤褐色、外面は黒褐色	密	良好		1/3残
42号 住居跡	3 土師器杯	14.8	3.2	-	口縁部は中々外反。外面に斜い稜を有す。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	灰褐色				口縁部 1/3残
42号 住居跡	4 土師器杯	13.1	5.0	-	口縁部は外反。外面に斜い稜を有す。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ。他はヘラケズリ。	内外面は褐色・黒褐色	やや密	普通		1/3残
42号 住居跡	5 土師器杯	17.5	3.6	-	口縁部は外反。外面に稜を有す。	内外面ともヘラミガキ。	赤褐色	密	良好		口縁部 1/4残
42号 住居跡	6 土師器台付甕	-	-	12.8	「ハ」の字状に開く脚台部のみ残存。	内面は須恵ヨコナデ。他はヘラナデ。外面は須恵ヨコナデ。他はヘラケズリ。	灰赤褐色	粗。2～3mmの砂粒多く含む	やや良	№3	台部2/3 残
42号 住居跡	7 土師器盃	20.8	-	-	口縁部は外反。胴部外面下部に稜を有す。	内面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラケズリ。	褐色	やや粗。3～4mmの砂粒を含む	やや良		口縁部 1/6残
42号 住居跡	8 土師器盃	-	-	7.0	底部のみ。	内面はヘラナデ。外面はヘラミガキ。	赤褐色	やや粗。長石・石英・雲母多し	やや良		未定
42号 住居跡	9 土師器盃	17.4	-	-	口縁部は外反。	内外面とも口縁部ヨコナデ。	暗褐色	やや粗。2～3mmの砂粒を含む	やや良		口縁部 1/5残
42号 住居跡	10 須恵器盃	16.8	2.8	-	平たい底縁状のつまみを付す。	ロクロナデ。胴部は回転ヘラケズリ。	灰褐色	やや粗。雲母多く含む	やや良	№1	完形
42号 住居跡	11 須恵器高台付杯	-	-	10.4	高台を付す。	底部外面は回転ヘラケズリ。	青灰色	2～3mmの白色砂粒を含む	良好	№4	底部のみ 外面に黒付着 部に転用
42号 住居跡	12 須恵器杯	14.0	4.2	8.5	平底で体部は外反する。	ロクロナデ。底部外面はヘラ切り後ナデ。	灰褐色	3～4mmの砂粒が干含む	良好	甌土中	1/4残
42号 住居跡	13 須恵器杯	14.0	4.0	7.4	平底で体部は外反する。	ロクロナデ。底部外面はヘラ切り。	青灰色	やや粗。4～5mmの白色砂粒少し含む	良好	甌土中	1/3残
42号 住居跡	14 須恵器杯	-	-	7.6	底部のみ。	底部外面はヘラ切り。	灰色	やや粗。雲母多く含む	やや良		
42号 住居跡	15 須恵器杯	-	-	9.0	底部のみ。	底部外面はヘラ切り。	灰褐色	2～3mmの砂粒少し含む	やや良	甌土中	
42号 住居跡	16 須恵器杯	14.0	3.8	7.0	平底で体部は外反する。体部外面下部に稜を有す。	ロクロナデ。底部外面はヘラ切り後手持ちケズリか？	灰褐色	やや粗。2～3mmの砂粒を含む	やや良	甌土中	1/4残
42号 住居跡	17 須恵器杯	19.0	12.2	11.0	口縁部は内凹。胴部は半球状。	ロクロナデ。底部外面下部は回転ヘラケズリ。底部内面に黒付着。	灰色	やや粗。2～3mmの砂粒が目立つ	普通		42・28 号住居
42号 住居跡	18 須恵器杯	17.8	-	-	口縁部は内凹。	ロクロナデ。	灰褐色	やや密。1mm前後の砂粒を含む	やや良		口縁部 1/6残
42号 住居跡	19 須恵器盃	-	-	10.5	底面から胴部に向けて直線的に広がる。			やや粗。2～5mmの砂粒多く含む 雲母含む	普通		上層
42号 住居跡	20 鉄製品 釜？	長 6.4	最大厚 0.9	最大径 1.0	底面に孔があり、しずめに刺れる。						重さ 38.9g
43号 住居跡	1 土師器杯	14.1	3.4	-	口縁部は短く立つ。外面に斜い稜を有す。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	褐色。口縁部内外ウルクシ仕上げ	密。赤色粒を含む	良好	№1	2/3残
43号 住居跡	2 土師器杯	13.5	4.3	-	口縁部は外反。外面に稜を有す。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部はヘラケズリ。	褐色。口縁部内外面は褐色部分多し	やや密。微砂を含む	やや良	№2	完形
43号 住居跡	3 土師器杯	14.0	2.7	-	口縁部は短く立つ。	内面はヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	赤褐色	密。赤色粒を含む	良好		口縁部 1/4残 輪破

第25表 奈良時代住居跡出土遺物観察表 (4)

遺物 番号	器 種	寸法 (cm)			器形の特徴	器壁の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
43号 住居跡	4 土師器蓋	-	-	7.4	平底。	内面はヘラナデ、外面は胴部中位ヘラケズリ、下位はヘラナデ、下部に凹線1筋	暗褐色	肌、3～4mmの砂粒多し	やや不良		1/3残 輪郭痕 本器面
43号 住居跡	5 須恵器環	14.1	-	-	口縁部はやや外反。体部外面に稜を有す。	ロクロナデ。	青灰色	やや密、白色砂粒含む	良好	43・44号住居	口縁部 1/4残
43号 住居跡	6 須恵器環	13.8	-	-	体部は外反。	ロクロナデ。	淡青灰色	やや密	良好		口縁部 1/3残
43号 住居跡	7 須恵器環	-	-	8.7	平底で体部は外反する。	ロクロナデ、体部外面下部は手持ちヘラケズリ、底部は凹線ヘラケズリ。	淡青灰色	やや粗	普通	中層	底部1/2 残
43号 住居跡	8 須恵器蓋	14.8	-	-	天弁部外縁に稜を有す。		青灰色、天弁部外面白無焼	やや密、白色砂粒含む	良好	中層	1/3残
44号 住居跡	1 土師器環	15.9	3.4	8.8	口縁部は短く外反。外面に深い稜を有す。	内面はヘラミガキ。外面は口縁部コナデ、体部ヘラケズリ。	赤褐色	やや粗、鉄砂粒多し	良好	44・43号住居	2/3残
44号 住居跡	2 土師器環	14.5	-	-	口縁部は外反。外面に稜を有す。	内面はコナデ、外面は口縁部コナデ、体部ヘラケズリ。	褐色	やや密	普通	南東土坑上床	1/3残
44号 住居跡	3 土師器環	15.6	6.8	-	口縁部は短く立つ。外面に深い稜を有す。	内面はヘラミガキ。外面は口縁部コナデ、体部はヘラケズリ後ヘラミガキ。	赤褐色	やや粗、2～3mmの砂粒多し	良好	カマド+北東土坑上床	1/2残
44号 住居跡	4 土師器鉢	13.7	17.3	6.4	口縁部は内傾し、肩部をつまみ上げる。外面に深い稜を有す。胴部は球形。	内面は口縁部コナデ、胴部はヘラナデ。外面は口縁部コナデ、他はヘラケズリ。	暗赤褐色	肌、2～3mmの砂粒多し	やや不良	カマド+北東土坑上床	2/3残
44号 住居跡	5 土師器甕	22.0	-	-	口縁部は外反。胴部外面下部に稜を有す。最大部は口縁。	内面は口縁部コナデ、胴部はヘラナデ。外面は口縁部コナデ、胴部は凹線のヘラケズリ。	暗褐色	肌、3～4mmの砂粒多し	良好	北東土坑上床	1/4残
44号 住居跡	6 土師器甕	-	-	6.7	底部のみ。	内面はヘラナデ、外面はヘラケズリ。	外面暗褐色、内面暗褐色	肌、3～4mmの砂粒含む	やや不良	中層	
44号 住居跡	7 土師器甕	21.0	-	-	口縁部は外反し、肩部をつまみ上げる。	内外面とも口縁部コナデ。	明赤褐色	肌層+灰石+石灰粒多し	普通	北東土坑上床	口縁部 1/6残
44号 住居跡	8 土師器甕	-	-	-	胴部のみ。	内面はヘラナデ。外面は凹線のヘラミガキ。	暗赤褐色	肌層+灰石+石灰粒多く含む	普通	44・42号住居	胴部1/3 残
44号 住居跡	9 須恵器環	13.8	-	-	体部は外反。	ロクロナデ。	暗青灰色	やや密、3～4mmの砂粒若干含む	普通	北東土坑上床	口縁部 1/3残
44号 住居跡	10 須恵器環	-	-	7.0	底部のみ。	ロクロナデ、底部外面は凹線ヘラケズリ。	灰褐色	やや粗、鉄砂粒含む	やや不良	44・43号住居	
45号 住居跡	1 土師器環	16.4	4.2	-	口縁部は短く立つ。	内面は底面一方向、口縁部凹線状のヘラミガキ。外面は深いヘラミガキ。	外面淡赤褐色、内面暗褐色	青、赤色粒混入	良好	罫門砂土坑下層+47号住居下層	
45号 住居跡	2 土師器環	13.0	3.5	-	口縁部は外反。外面に稜を有す。	内面はコナデ。外面は口縁部コナデ、底部ヘラケズリ。	明褐色	やや密、鉄砂粒含む	普通	下層	1/3残
45号 住居跡	3 土師器甕	16.0	-	-	胴部は短く直立し口縁部が外反する。	内外面とも口縁部コナデ。	褐色	やや粗、2～3mmの砂粒含む	普通	土坑内	1/5残
45号 住居跡	4 須恵器環	14.2	3.8	7.8	平底で体部は外反する。	ロクロナデ。底部外面はヘラ切り。	淡青灰色	やや密、白色砂粒含む	良好	カマド	
45号 住居跡	5 須恵器高台付環	-	-	8.0	高台を付す。	底部外面は凹線ヘラケズリ。	青灰色	やや密、白色小砂粒含む	良好	上層	底部1/5 残
46号 住居跡	1 土師器環	13.8	4.2	-	口縁部は外反。外面に稜を有す。	内面はコナデ。外面は口縁部コナデ、底部はヘラケズリ。	内面黒褐色、外面暗褐色	やや密、1mm前後の砂粒多し	普通	中層	1/2残 ウレシ土 上げ
46号 住居跡	2 土師器環	12.1	4.1	-	口縁部は外反。外面に稜を有す。	内面はコナデ。外面は口縁部コナデ、底部はヘラケズリ。	淡褐色で口縁部内外面の一部黒褐色	やや密、1mm前後の砂粒多し	普通	上層	1/2残
46号 住居跡	3 土師器環	13.7	4.5	-	口縁部は外反短く直立し、外面に稜を有す。	内面はコナデ。外面は口縁部コナデ、底部はヘラケズリ。	内面及び口縁部外面黒褐色(ウレシ)。他は褐色	やや密、1mm前後の砂粒多し	良好	№11	完形

第26表 奈良時代住居跡出土遺物観察表(5)

遺物 番号	器 種	寸法 (cm)			器形の特徴	胴部の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
45号 住居跡	4 土師器杯	13.1	4.5		口縁部は内肉気味に削ぎ、外側に稜を有す。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ、底部はヘラケズリ。	内面及び口縁部外周部は褐色、他は赤褐色	中・中良	中層+下層	2/3段 ウレン仕 上げ	
46号 住居跡	5 土師器杯	13.8	4.5		口縁部は短く直立する。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ、他はヘラケズリ。	内面及び口縁部外周部は褐色、他は褐色	中・中良、1mm前後の砂粒多し	普通	No12-13	完整 ウレン仕 上げ
47号 住居跡	6 土師器杯	14.7	4.4		口縁部は外傾、外側に稜を有す。	内面はヘラミダギ。外面は口縁部ヨコナデ、底部はヘラケズリ。	内面及び口縁部外周部は赤褐色、他は赤褐色	中・中良、2～4mmの砂粒含む	普通	No4	ウレン仕 上げ
48号 住居跡	7 土師器杯	13.8	4.6		口縁部は短く直立する。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ、底部はヘラケズリ。	内面及び口縁部外周部は褐色、他は明褐色	中・中良、1mm前後の砂粒多し	普通	下層	1/4段 ウレン仕 上げ
49号 住居跡	8 土師器杯	14.2	3.9		口縁部は短く直立し、外側に稜を有す。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ、底部はヘラケズリ。	褐色	密	良好	下層	ウレン仕 上げ
49号 住居跡	9 土師器杯	14.8	3.7		口縁部は短く外傾する。	内面はヘラミダギ。外面はヘラケズリの痕跡のヘラミダギ。	淡赤褐色	中・中良、赤色砂粒含む	良好	中層	
49号 住居跡	10 土師器杯	17.6	3.4		口縁部は外傾、外側に稜を有す。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ、底部はヘラケズリ。	内面及び口縁部外周部は褐色、他は褐色	中・中良、1mm前後の砂粒多し	中・中良	No19	1/4段
49号 住居跡	11 土師器杯	17.0	4.5		平底で底部は外傾する。	内外面ともヘラミダギ。	内・外周部褐色	密、塵砂粒含む	良好	中層	赤黒か?
49号 住居跡	12 土師器杯	15.4	7.3		平底で底部は外傾する。	内外面ともヘラミダギ。	淡赤褐色	密	良好	中～上層	
49号 住居跡	13 土師器盃	23.0	-		口縁部は外反、胴部外面に稜を有す。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位のヘラケズリ。	褐色	数、3～4mmの砂粒多く含む	普通	中～上層	口縁部 1/3段
49号 住居跡	14 土師器盃	23.2	-		口縁部は外反。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラケズリ。	淡赤褐色	中・中良、2～3mmの砂粒多く含む	普通	No12+上～下層	口縁部 1/3段
49号 住居跡	15 土師器盃	22.4	36.5		口縁部は外反、良器。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上位はハケス、中～下位はヘラケズリ。	赤褐色	中・中良、2～3mmの砂粒多く含む	良好	No7+8+中+下層	2/3段 輪切取
49号 住居跡	16 土師器盃	19.0	-		口縁部は外傾、最大径は口径。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデと輪切部分にヘラケズリ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位のヘラケズリ。	淡赤褐色(黒灰有り)	中・中良、3～4mmの砂粒多く含む	中・中良	No8+中～上層	2/3段
49号 住居跡	17 土師器盃	22.0	-		口縁部は外反、最大径は口径。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位のヘラケズリ。	褐色	粗、2～3mmの砂粒多く含む	普通	No6+12+中+下層	1/3段
49号 住居跡	18 土師器盃	22.3	-		口縁部は外反、最大径は口径。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位のヘラケズリ。	淡赤褐色	粗、4～5mmの砂粒多く含む	普通	No14+下～上層	2/3段
49号 住居跡	19 土師器盃	22.2	-		口縁部は外反、最大径は口径。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位のヘラケズリ。	淡赤褐色	中・中良、3～4mmの砂粒含む	中・中良	No8+10+20+中+下層	
49号 住居跡	20 土師器盃	16.2	-		口縁部は外反、最大径は胴部中位。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデとヘラケズリ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位のヘラケズリ。	淡赤褐色	中・中良、4～5mmの砂粒含む	良好	No5+下層	1/2段 輪切取
49号 住居跡	21 土師器盃	23.9	-		口縁部は外傾、最大径は口径。	内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上～中位は縦位のヘラミダギ、下位はヘラミダギ。	淡赤褐色	粗、3～4mmの砂粒と引律未含む	普通	No15	輪切取
49号 住居跡	22 土師器盃	-	-	7.5	底部のみ。	外面はヘラケズリ。	褐色	中・中良、2～3mmの砂粒多く含む	普通	No9	
49号 住居跡	23 土師器盃	-	-	7.8	底部のみ。	外面はヘラケズリ。	褐色	中・中良、2～3mmの砂粒含む	普通	中+下層	底部1/2 段

第27表 奈良時代住居跡出土遺物観察表(6)

遺物 番号	番号	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	図型の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
			口径	器高	口径							
46号 住居跡	24	須恵器 高台付杯	-	-	8.9	高台を付す。	クロコナダ。	灰白色	密	良好	上層	
46号 住居跡	25	須恵器 杯	15.1	4.3	-	丸底で体部は外展する。	クロコナダ。底部外面は糸切り後外周を回転ヘラケズリ。	灰青色	やや粗、4～5mmの砂粒少し含む	やや良	No21+中層	完形
46号 住居跡	26	須恵器 碗	-	-	-	平たいつまみを付す。	クロコナダ。	暗青灰色	やや密	良好	No1	
46号 住居跡	27	須恵器 碗	15.5	-	-		クロコナダ。	青灰色	やや密、白色砂粒含む	良好	上～下層	1/3残
46号 住居跡	28	須恵器 碗	-	-	-	丸底。	内面はヘラナダ。	灰青色	密	良好	No3+17+中層	底部内面に緑色釉
46号 住居跡	29	鉄器 釜	径4.7	厚1.9	孔径0.9	断面台形。		灰色			No2	重さ3.1g
46号 住居跡	30	鉄器 ? 鉄	径4.1	厚0.7	孔径0.5						No18	
47号 住居跡	1	土師器 盃	20.5	27.9	5.0	口縁部は外展し、頸部外面下部に稜を有す。最大径は口径。	内面は口縁部コナダ、胴部ヘラナダ。外面は口縁部コナダ、他はヘラケズリ。	赤褐色	やや粗、微砂多し、赤褐色粒子含む	普通	No1	完形
47号 住居跡	2	土師器 碗	20.5	-	-	口縁部は外展、頸部外面下部に稜を有す。	内面は口縁部コナダ。外面は口縁部コナダ、胴部ヘラケズリ。	赤褐色	やや粗、微砂粒含む	普通	カマド	1/3残
47号 住居跡	3	須恵器 杯	14.0	4.4	8.4	平底で体部が外展する。	クロコナダ。底部外面はヘラ切り後一方向への歪みを持ちヘラケズリ。	青灰色	やや粗、4～5mmの白色砂粒少し含む	良好	カマド内	4/5残
48号 住居跡	1	土師器 杯	13.8	4.5	-	口縁部は外展、外面に2本の稜と稜を有す。	内面はコナダ。外面は口縁部コナダ、底部ヘラケズリ。	地灰褐色	やや粗、砂粒少し含む	普通	No11	3/4残
48号 住居跡	2	土師器 杯	15.2	3.3	-	口縁部は短く外展し、外面に稜を有す。	内外面ともヘラミガキ。	内面褐色、外面褐色	密	良好	中層?	1/3残
48号 住居跡	3	土師器 盃	14.1	-	-	口縁部は外展、頸部外面下部に稜を有す。	内面は口縁部コナダ、胴部はヘラナダ。外面は口縁部コナダ、胴部はヘラケズリ。	暗赤褐色	やや粗、1mm前後の珪砂多し含む	普通	下層	口縁部1/4残
48号 住居跡	4	土師器 台付盃	-	-	10.2	脚台部のみ残存。胴部は短く「ハ」の字状に開く。	内面はヘラナダ、外面はコナダ。	褐色	やや粗、微砂粒含む	普通	No15+下層	
48号 住居跡	5	土師器 盃	21.3	35.0	9.0	口縁部は外反。長脚。	内面は口縁部コナダ、胴部ヘラナダ。外面は口縁部コナダ、胴部はヘラケズリ。	暗褐色	やや粗、4～5mmの砂粒含む	やや不良	No0+下層	輪郭面
48号 住居跡	6	土師器 碗	23.0	31.3	8.8	口縁部は外展、頸部外面下部に稜を有す。最大径は口径。	内面は口縁部コナダ、胴部ヘラナダ。外面は口縁部コナダ、胴部は底部ヘラケズリ。	暗赤褐色	粗、3～4mmの砂多し含む	普通	No0+下層	
48号 住居跡	7	土師器 盃	18.8	-	-	口縁部は外展。最大径は口径。	内面は口縁部コナダ、胴部ヘラナダ。外面は口縁部コナダ。胴部は軽いヘラケズリ、輪郭面を多く残す。	淡赤褐色	やや粗、2～3mmの砂粒若干含む	普通	カマドNo2	
48号 住居跡	8	土師器 碗	22.5	-	-	口縁部は外展、頸部外面下部に稜を有す。最大径は口径。	内面は口縁部コナダ、胴部ヘラナダ。外面は口縁部コナダ、胴部は粗ナダ後軽いヘラミガキ。	暗褐色	やや粗、3～4mmの砂粒と珪砂未含む	やや良	カマド	輪郭面
48号 住居跡	9	土師器 盃	23.0	-	-	口縁部は外展。	内面は口縁部コナダ、胴部ヘラナダ。外面は口縁部コナダ、胴部はヘラケズリ。	褐色	やや粗、2～3mmの砂多し含む	普通	No10	
48号 住居跡	10	土師器 碗	-	-	8.5	胴部から直線的に底部に至る。	内面はヘラナダ、外面はヘラケズリ。	暗褐色	やや粗、2～3mmの砂多し含む	普通	No5	
48号 住居跡	11	土師器 小形盃	13.9	15.7	6.5	口縁部は短く直立し、頸部外面に稜を有す。胴部は直脚。	内面は口縁部コナダ、胴部ヘラナダ。外面は口縁部コナダ、他はヘラケズリ。	赤褐色	やや粗、1～2mmの砂粒含む	やや良	No1+4+下層	完形 輪郭面
48号 住居跡	12	土師器 盃	19.6	-	-	口縁部は外反。最大径は胴部中央。	内面は口縁部コナダ、胴部ヘラナダ。外面は口縁部コナダ、胴部は縦位のヘラケズリ。	淡赤褐色	やや粗、2～3mmの砂多し含む	普通	No2+6～9+13	輪郭面

第28表 奈良時代住居跡出土遺物観察表(7)

遺物 番号	番 号	器 種	寸法 (cm)			器形の特徴	装束の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
			口径	器高	底径							
48号 住居跡	13	須恵器環	13.8	5.0	9.8	胴部は外折。肩台を有す。	ロクロナデ。	灰褐色	やや密、微砂粒含む	良好	№3+50号住カマド	
48号 住居跡	14											重さ 5.0g
49号 住居跡	1	土師器平	13.0	4.6		口縁部は内湾気味に開き、外面に縁を有す。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ。底平ヘラケズリ。	赤褐色	やや密、微砂粒含む	良好	カマド	2/3残 二次焼成を受け、もろい
49号 住居跡	2	土師器環	15.8	4.2		口縁部は短く立つ。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ。底平ヘラケズリ。	明褐色。内面の大平は黒褐色(ウルシ)	密、赤色粒子混入	良好	カマド	
49号 住居跡	3	土師器環	15.7	4.1		口縁部は短く立つ。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ。他はヘラケズリ。	明褐色	密、赤色粒子混入	良好	№1+2	
49号 住居跡	4	土師器平	12.5	3.5		口縁部はやや外折。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ。他はヘラケズリ。	黒赤褐色	やや密、1mm前後の砂粒含む	普通	上層	1/2残
49号 住居跡	5	土師器平	12.0	3.5		口縁部はやや外折。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ。他はヘラケズリ。	黒赤褐色	やや密、1mm前後の砂粒含む	普通	№3	1/2残
49号 住居跡	6	陶器	現存径 5.1	幅 2.2	厚さ 0.3							重さ 8.2g
49号 住居跡	7	土師	長さ 4.9	最大径 1.1	孔径 0.2			灰褐色	密	良好	カマド	
50号 住居跡	1	土師器環	13.8	4.2		口縁部は内湾気味に開き、外面に1条の沈線を有す。	内面はヨコナデ。外面は口縁部ヨコナデ。底平ヘラケズリ。	黒褐色。内面は一部黒褐色(ウルシ)	やや密、微砂粒含む	やや不良	カマド	1/3残
50号 住居跡	2	土師器平	14.8	3.7	8.7	口縁部は短く外折する。	内面はヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。他はヘラケズリ。	赤褐色。外面一部黒褐色	やや密、1~2mmの砂粒含む	良好	№2	
50号 住居跡	3	土師器平	14.3	3.5		口縁部は内湾気味に開き、外面に1条の沈線を有す。	内面はヘラミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。底平ヘラケズリ。	内面黒褐色(ウルシ)。外面黒褐色	やや密	普通		1/5残
50号 住居跡	4	土師器環	14.3	3.3	8.0	口縁部は短く外折する。	内面は河原。外面は口縁部ヨコナデ。他はヘラケズリ。	赤褐色	密	良好		1/4残
50号 住居跡	5	土師器環	21.0	-	-	口縁部は外反し、底平をつまみ上げる。	内外面とも口縁部ヨコナデ。	灰褐色	やや密、雲母・長石粒含む	やや良	カマド	1/5残
50号 住居跡	6	土師器蓋				丸味を帯びた器内縁。		褐色	密	良好	ツマミ部分残	
50号 住居跡	7	須恵器環	13.1	4.2	8.0	平底で縁部が外折する。	ロクロナデ。底平外面は河原ヘラケズリ。	青灰色	やや密、白色砂粒含む	良好	上層	
50号 住居跡	8	須恵器蓋	-	-	-		内面はナデと同心円文。	青灰色	やや密。2~3mmの白色砂粒少し含む	良好	№1	

第29表 奈良時代住居跡出土遺物観察表(8)

第4章 中近世

第1節 経塚

(1) 規模と形状

本遺跡のほぼ中央に北西から南東へ向う幅2~3mの道がある。この道は土地の人々から「しろみち（城道）」と呼ばれ、本遺跡からさらに南東へ300m程の地点に現存する中世犬飼城（根古屋城とも呼ばれる）跡へと通じている。塚は、ちょうどこの道の北東側沿いに3基並んで確認されている（第207図）。1号塚と2号塚は接近しており、両塚の裾部はほとんど付いている。2号塚と3号塚の間には約4mの距離がある。

塚の形状は、3基とも平面が円形の高塚である。各塚の大きさは、次のとおりである。1号塚は、径7.5m、高さ1.3m。2号塚は、径6m、高さ0.8m。3号塚は、径7.3m、高さ1.2m。

盛土 盛土は表土を除くと一層しか認められない。盛土直下には旧表土層が鮮明に残っており、整地などを行った様子もみられない。また、盛土外周は、あまり深く掘られておらず40~50cm前後である。ただし、周溝のような形態はとらず、広範囲に渡って浅く掘られているという状態である。以上のように、塚の築造にあたっては、古墳のように周溝を掘り、版築で盛土するという方法はとらず、単に周辺の表土をかき集め、塚状に盛土したという程度のものである。

(2) 出土遺物

経筒（第208図）

2号塚のほぼ中心部で、表土下約20cmの深さから出土したものである。埋納施設と思われる遺構は認められず、直に埋められたものと思われる。

経筒は厚さ1mmの銅版製で、一部に鍍金の痕が残る。形状は六角柱状で、現存高は10.8cmである。底部は被底式の平底であり、2個の爪で留められている。側面には、観音開きの扉があり、留め金も付けられている。なお、蓋は検出されていない。

両扉の内面には、次のように銘文が刻まれている。

[右扉] 〔梵字〕奉納大乘妙典六十六部聖賢正

[左扉] 十羅刹女

享禄二天二月吉日

三十番神

（享禄二天は西暦1529年）

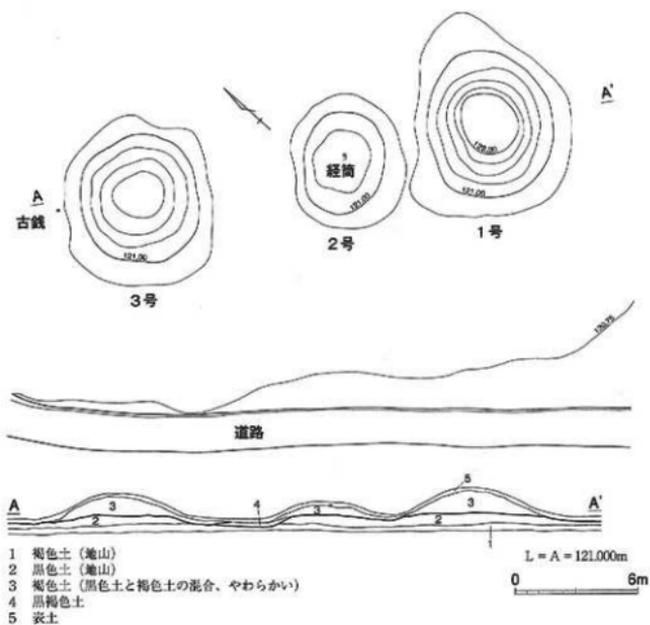
また、裏側面の下部には、次のような銘文が刻まれている。

□□高岳 □川住呂
土州 ?

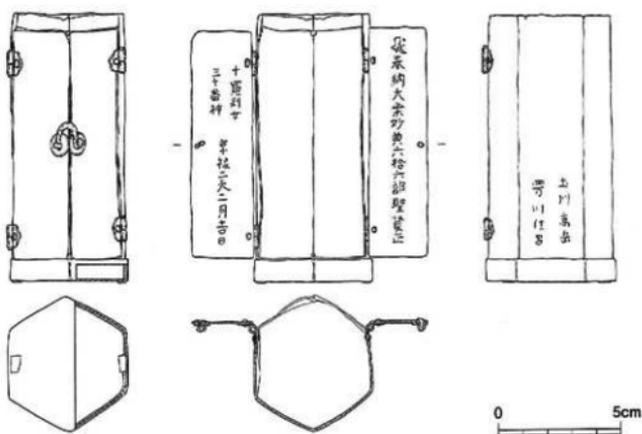
熊掌元宝（第209図）

3号塚の北側裾部で、表土下30cm程の深さより出土したものである。盛土のために掘り下げた部分であり、盛土から流れた土によって埋まったものと思われる。

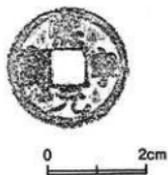
中国宋代の銭貨で、初鋳年代は西暦1068年とされている。



第207図 経塚墳丘測量図・断面図



第208図 2号経塚出土経筒実測図



第209図 3号経塚出土古銭拓影図

第5章 まとめ

今回の5か年に渡る発掘調査により確認された遺構は、古墳時代の竪穴住居跡34軒・土坑49基・円墳7基（うち3基は現状保存）、奈良時代の竪穴住居跡16軒・掘立柱建物跡19棟・土坑1基および室町時代の経塚3基である。ここでは、特に古墳時代と奈良時代に関する遺構および出土遺物等の特徴を概観し、まとめとすることにした。

第1節 古墳時代の集落跡

(1) 土器の様相と年代

今回確認された34軒の竪穴住居跡では、そのほとんどから古墳時代後期の土師器が出土している。これらは様式的にはかなり近接したものと見られるが、環や甕の形態的特徴などから、大きく2群に分けることができる。

I群土器群（1・2・3・5・7・8・9・11・15・16・17・20・23・32・33・34・35号住）

環は体部外面に鋭い稜を持って口縁部が直立又はやや内傾するもの（3号住-1・2、23号住-3～5等）が主体で、陶器Ⅰ期段階の蓋環を模倣したとみられるものである。また、壺には丸底で口縁が外傾する（23号住-7・8、32号住-6・7等）古墳時代中期の系譜に繋がるものもみられる。甕は全体に丸胴で、口縁部が緩く「く」の字に外反するものが多い。

なお、1号住および23号住からは、陶器Ⅰ期後半（TK23～47）に比定できる須恵器蓋付が伴出していることから、本土器群の年代も5世紀末から6世紀初め頃と考えられる。

II群土器群（4・6・10・13・14・19・21・22・24・25・30・31・36・37・38号住）

環は大きく2種類あり、まず体部外面に稜を持って口縁部が短く内傾するもの（13号住-10・11、24号住-1・2等）が一定量みられ、陶器Ⅱ期段階の蓋環を模倣したのと考えられる。またもう一つは、体部外面に軽い稜を持って口縁部が大きく外反する環（13号住-1～4、24号住-8・9等）で、赤彩されたものが多い。甕は全体に長胴化の傾向がみられ、口縁部は緩く外反するものが主体となっている。

なお、37号住からは、陶器Ⅱ期前半（MT15～TK10）に比定できる須恵器環が伴出するとともに、14号住からは長脚一段透かしを模倣したとみられる土師器高環（脚部のみ）が出土している。これらのことから、本土器群は6世紀前半頃の所産と考えられる。

(2) 竪穴住居跡の特徴

今回確認された竪穴住居跡は、一部に炉を有したものの（A区-7号住、B区-35号住等）が見られるものの、他は全て古墳時代後期のカマドを有したものである。ここでは便宜的に分けたA～C区の三つの竪穴住居跡群について、それぞれの構造的な特徴をまとめてみたい。

A区 本区は未調査地域（保存地域）を多く含むことから一つの群としてとらえるにはやや無理もあるが、10軒の竪穴住居跡が確認され、出土土器からは2時期の変遷（1・2・3・5・7・8・9・10号住→4・6・9号住）が考えられる。このうち1号住居跡は、一辺7mを超える大規模

なものであり、周辺には対照的に一辺3～4mの小規模なものが配置されている。なお、3号住居跡には拡張の跡がみられ、この際に支柱も4本から6本に変わっている。

B区 本区は、調査対象区域では台地上平坦部が最も広いところであり、このほぼ中央部から18軒の竪穴住居跡が確認されている。出土土器からは2時期にわたる変遷(11・15・16・17・20・23・32・33・34・35号住居→13・14・19・21・22・38号住居)が考えられる。竪穴住居跡の平面積は、2時期目になると明らかに大型化の傾向がみられ、中でも13号住居跡は一辺約8mで、今回の調査で確認された中では最大である。また、この時期のものには間仕切り溝が多く見られるのも特徴である。

C区 本区は、保存した將軍塚古墳内と土取りにより破壊された区域にまたがることから、一群としては未確認部分をかなり含むが、6軒の竪穴住居跡が確認されている。出土土器からいずれも2時期目のものと考えられ、竪穴住居跡の特徴としては、24・25号住居跡で張り出しピットが確認されていることを挙げることができる。

(3) 集落の立地と構成

住居群の構成としては、B区のそれが一つの在り方を示していると思われる。B区は住居の大型化を図りながら2時期にわたって営まれるとみられるが、直径40～50mほどの広場を囲み、全体が弧状に配される形態が踏襲されている。なお、35号住居跡だけは、広場の中心部に位置してしまうが、カマドや柱穴が確認できないものであり、特殊な用途の竪穴と考えられる。

集落全体の変遷としては、B区以外は断片的な資料からの推測になるが、C区に1時期目の住居跡が認められないことや、A区北西に位置する3軒(4・6・10号住居)が2時期目の住居跡であることなどから、当初は台地上平坦部が最も広いB区を中心に住居群が形成され、やがてA区の北西、C区へと住居群を拡大していった様子が窺える。

第2節 古墳群

(1) 各古墳の特徴と年代

今回、調査区内から確認された古墳は7基で、いずれも円墳であった。このうち2基(3・4号墳)は現状保存とし、將軍塚については周溝を調査した上、墳丘は現状保存とした。

1号墳 斜面を上手く利用して横穴式石室を築いた、山寄せ型の小円墳であり、谷側には明確な周溝が認められない。横穴式石室は当地域によく見られる川原石小口積みのものであり、平面形がやや胴張りで新しい傾向がみられる。出土した土師器等は、小作りで口縁部がやや内湾気味に開くもので、集落跡のII群土器群よりも新しいものと考えられる。これらのことから、本墳の年代は6世紀後半頃とみられる。

2号墳 直径約20mの円墳で、今回確認されたものの中では將軍塚古墳に次ぐ規模である。埋葬主体部は、墳丘中心部から確認された2基の長方形土坑であり、木棺直葬とみられる。墳丘上からは葬送の祭祀に使用されたとみられる土師器等と須恵器などが出土しているが、このうち須恵器は陶邑II期のTK10に比定できるものである。これらのことから、本墳の年代は6世紀中葉頃と考えられる。

5号墳 斜面部に築かれた小円墳で、墳丘はほぼ削平されていたものである。主体部は、中心部に残された土坑の状況から、川原石等を用いた小型の横穴式石室であったと思われる。出土した須恵器横瓶の特徴から、6世紀後半から7世紀にかけてのものと見られる。

6号墳 將軍塚古墳のすぐ南に位置する、直径15mほどの円墳である。埋葬主体部はかなり破壊を受けていたが、半地下式で、川原石小口積み横穴式石室とみられる。墓道部分が大きく「ハ」の字状に開き周溝に繋がっているのも特徴的である。この墓道部分の集石も含め周溝内埋葬とみられる施設が複数みられ、古墳として頻繁な活用状況が窺える。また、これらに伴って土器を使用した祭祀が活発に行われていたとみられ、土師器、手捏ね土器、須恵器が数多く出土している。出土土器の様相から、本古墳は6世紀後半から7世紀にかけて使用されたものと思われる。

將軍塚古墳 周溝調査の結果、直径30mを超える堂々とした円墳であることが確認された。埋葬主体部は不明であるが、南部周溝内側の屈曲状況から、南に開口する横穴式石室であるとみられる。さらに、墳丘の整地層に凝灰岩の粉・礫が多量に確認されたことから、凝灰岩の切石が使用されていた可能性も考えられる。本墳は北部周溝での重複状況から、Ⅱ群土器群を伴う集落を切っていることは明らかであり、築造は7世紀代に下るものと思われる。

(2) 古墳群の立地と構成

今回の調査は、地区によっては部分的であること、また土取り等により既に破壊を受けていたところもあることなどから、台地上の古墳時代の状況がすべて判明したわけではないが、大きくは集落跡を挟むように古墳群が立地している状況が窺える。集落跡の北西部に立地するのが1～4号墳の円墳群で、おそらく6世紀の中頃、まず台地の高所に2号墳が築かれ、その後1・3・4号墳が斜面部に継続して築かれたものとみられる。もう一つは、集落跡南東部に位置する6号墳と將軍塚古墳の一群で、おそらく6世紀後半にまず6号墳が築かれ、その後大規模な將軍塚古墳の築造につながったものとみられる。

集落跡との時期的な関係でみると、集落は5世紀末か6世紀初め頃に開始し、6世紀中頃までには廃絶したと考えられるのに対し、古墳群は6世紀の中頃に築造が開始されたとみられる。すなわち集落の移転に伴って、本台地上は墓域として設定され、その後継続して使用されていたものと考えられる。

第3節 奈良時代の集落跡

(1) 土器の様相と年代

今回確認された16軒の堅穴住居跡からは、大量の土師器に加え、一定量の須恵器も出土している。これらは概ね奈良時代前半期のものとみられるが、土師器甕・坏や須恵器坏の特徴等から大きく2群に分けることができる。

Ⅰ群土器群 (26・29・40・42・43・44・45・46・48・49号住)

土師器甕は長胴で、口縁部に最大径を有するもの(46号住-15・19・21、48号住-5～9等)が主体である。土師器坏は古墳時代後期の系譜である体部外面に稜を有するもの(40号住-5・7、46号住-1～4等)と丸底皿状のもの(40号住-1・3、42号住-1・2等)の2種類がみられる。

一方須恵器環は、底径が広く浅めのものが多い。

なお、42号住からは口縁部内面に「カエリ」を有する須恵器蓋が出土していることから、本土器群は8世紀前葉頃のものと考えられる。

II 群土器群 (27・28・39・41・47・50号住)

土師器壺は長胴なものにかわって、武蔵型と呼ばれる薄手で「く」の字口縁のもの(27号住-5、47号住-1等)と下野型と呼ばれる口縁がつまみ出され胴部外面が磨き仕上げとなるもの(28号住-2・6、39号住-1・2等)の2種類となる。土師器環には平底のもの(27号住-1、50号住-2)がみられるようになるが、須恵器環に比べ量的に減少している。須恵器環は、全体的に小型化の傾向(39号住-3・4、41号住-8・9・10等)がみられる。

なお、本土器群は、須恵器環が増加傾向にあること、土師器環がロクロ未使用ながら平底化していることなどから、8世紀中葉頃の様相と思われる。

(2) 竪穴住居跡・掘立柱建物跡の特徴

今回確認された16軒の竪穴住居跡は、互いに切り合う関係は無いが、出土土器から2時期の変遷が考えられる。I時期目(26・29・40・42・43・44・45・46・48・49号住)は46号住が中心的な住居跡で、平面規模が抜きん出て大きく、唯一4本柱を有している。これに対し、他はすべて小規模で4本柱は無く、一辺にカマドを有することだけが共通している。次にII時期目(27・28・39・41・47・50号住)になると中心的な住居跡はみられず、すべて小規模なものとなり、平面規模もさらに小型化の傾向がみられる。最も小規模な27号住の平面規模は、僅か8㎡(ほぼ4畳半)という狭さである。

一方、掘立柱建物跡は今回19棟が確認されている。形態的には1間×1間が5棟(10～14号掘立)、2間×2間で側柱のものが3棟(7・16・19号掘立)、同じく一辺を出入り口状3間とするもの2棟(8・9号掘立)、同じく北面に廂を付けるもの1棟(15号掘立)、2間×2間で総柱のものが2棟(1・6号掘立)とバラエティーに富むが、いずれも規模は小型である。1号掘立南側の重複状況(3～5・17・18号掘立)等からは、複数回に渡る建て替えが想定されるが、ほとんどの掘立柱建物跡に土器の伴出はみられず、建物の時期的な変遷については不明である。ただし、8・9・15号掘立の3棟は柱筋が通るとともに、8・9号掘立の出入り口も中庭を意識したものとなっている。さらに46号住・44号住の並びも良いことから、これらの掘立柱建物と竪穴住居が中庭を囲んで一つの屋敷を形成していた可能性は高いと思われる。

(3) 集落の立地と構成

本集落の成立は、出土土器等から8世紀の初めごろとみられる。將軍塚古墳を中心とする円墳群がまだ墓域として意識されていたのか、集落形成はこれを避けるように南方へ展開している。掘立柱建物跡の時期判断は難しいところであるが、前述した46号住周辺の状況を見ると、竪穴住居と一体で機能していたと考える方が自然であろう。このような前提で集落構成をみると、それぞれの建物の主軸がほぼ南北にとられていることに加え、建物どうしの配列も直線的であり、例えば本遺跡古墳時代後期集落のB区にみられるような広場を囲んで竪穴住居が弧状に並ぶ状況とは大きく異なっている。さらに、集落全体の配置をみても東辺と北辺が直線的であり、集落敷地全

体が、方形的な区画を意識したものになっている可能性も窺わせる。以上のことから、本集落はかなり計画的に形成された集落と考えられる。

参考文献

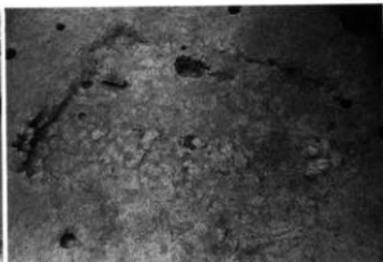
田辺昭三『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古学クラブ 1966年

梁木 誠・田熊清彦「古代下野の土器様相（Ⅰ）」『栃木県考古学会誌』第11集 1989年

写 真 图 版



①1号住居跡（南東から）



②2号住居跡（北西から）



③3号住居跡（東から）



③3号住居跡カマド（東から）



④4号住居跡カマド周辺遺物出土状況（西から）



⑤5号住居跡遺物出土状況（南西から）



⑥6号住居跡カマド（南東から）



⑦7号住居跡遺物出土状況（北東から）



①8号住居跡遺物出土状況（北東から）



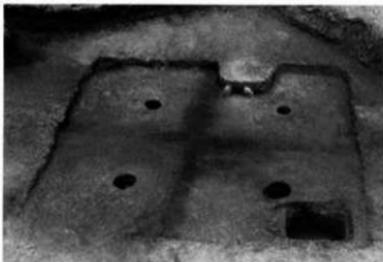
②9号住居跡（南西から）



③10号住居跡（南西から）



④10号住居跡カマド（南西から）



⑤11号住居跡（南から）



⑥11号住居跡カマド（南から）



⑦12号住居跡（西から）



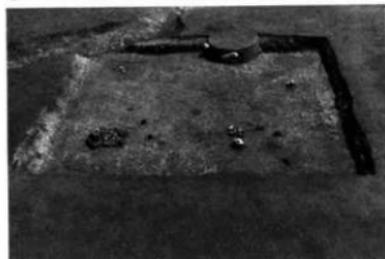
⑧13号住居跡（南から）



①13号住居跡カマド遺物出土状況 (南東から)



②13号住居跡カマド遺物除去後 (南から)



③14号住居跡 (西から)



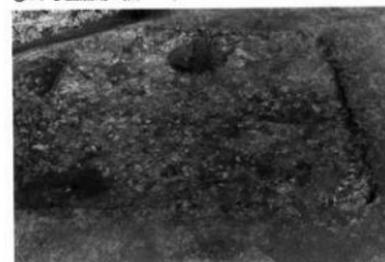
④15号住居跡 (南から)



⑤16号住居跡 (南から)



⑥17号住居跡 (西から)



⑦18号住居跡 (南から)



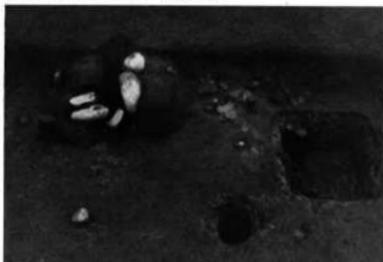
⑧19号住居跡 (南から)



①19号住居跡カマド (北から)



②20号住居跡 (西から)



③20号住居跡カマド (西から)



④21号住居跡 (南から)



⑤21号住居跡カマド (南から)



⑥22号住居跡 (南から)



⑦23号住居跡 (西から)



⑧32号住居跡 (西から)



①32号住居跡カマド (西から)



②33号住居跡 (南西から)



③33号住居跡カマド (南西から)



④34号住居跡 (南西から)



⑤34号住居跡カマド (南西から)



⑥35号住居跡 (西から)



⑦38号住居跡 (南から)



⑧24号住居跡 (南東から)



①25号住居跡（北西から）



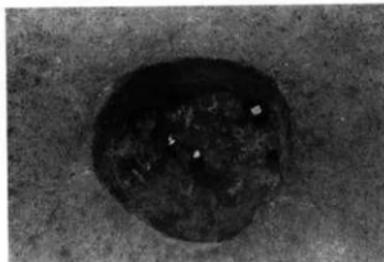
②31号住居跡（西から）



③36号住居跡（南から）



④37号住居跡（南から）



①2号土坑 (南西から)



②3・4号土坑 (北西から)



③20号土坑 (南西から)



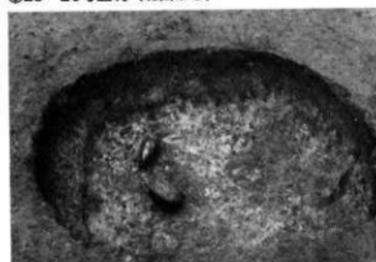
④24号土坑 (南西から)



⑤25・26号土坑 (北西から)



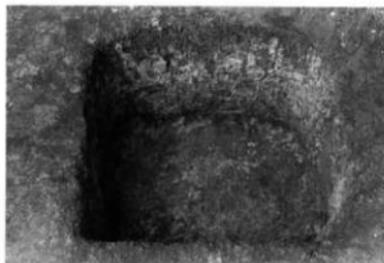
⑥26号土坑 (北西から)



⑦27号土坑 (南東から)



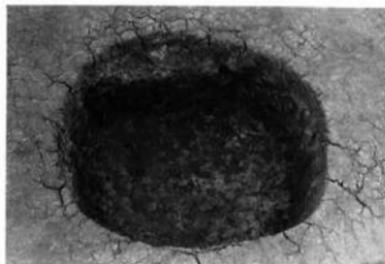
⑧30・31号土坑 (西から)



①32号土坑



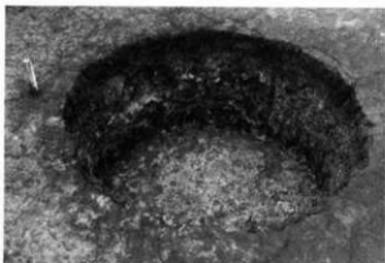
②39号土坑



③40号土坑 (東から)



④42号土坑 (南から)



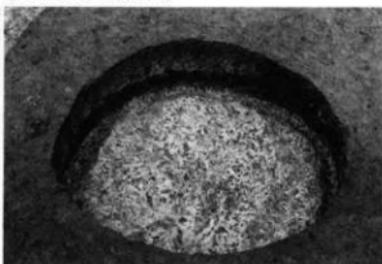
⑤43号土坑 (北東から)



⑥45号土坑 (南東から)



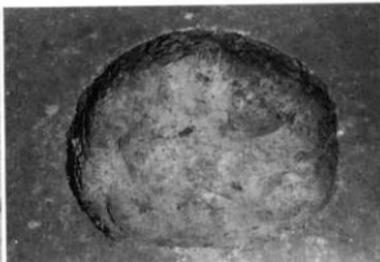
⑦46号土坑 (東から)



⑧48号土坑 (南西から)



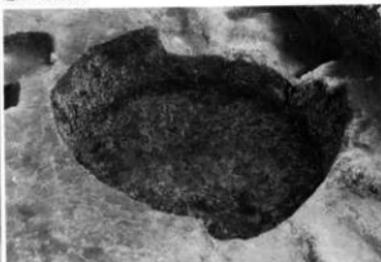
①50号土坑



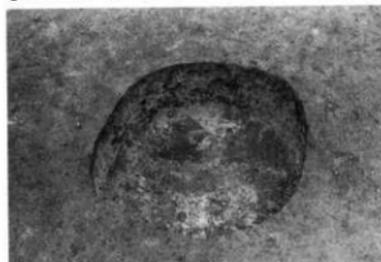
②51号土坑



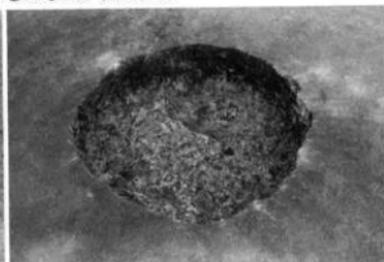
③52号土坑 (東から)



④53号土坑 (北西から)



⑤54号土坑



⑥55号土坑



①1号墳石室 (南から)



②1号墳石室 (西から)



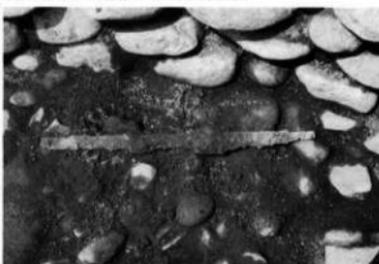
③1号墳石室表込め断面 (南から)



④1号墳石室掘り方全景 (南から)



⑤1号墳出土状況 (東から)



⑥1号墳直刀出土状況 (東から)



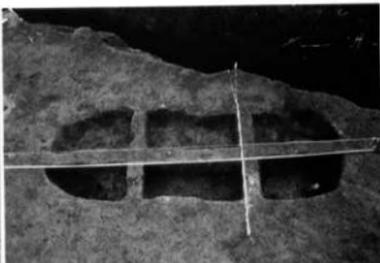
⑦2号墳調査前風景 (南から)



⑧2号墳全景 (北東から)



①2号墳周溝内大型土坑と第2主体部 (西から)



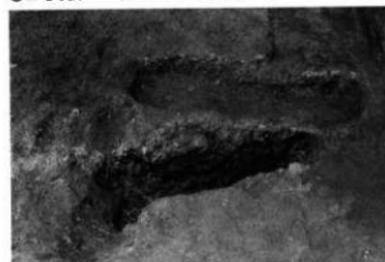
②2号墳第2主体部 (東から)



③2号墳第2主体部鉄器出土状況 (南から)



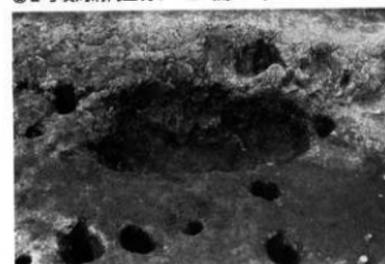
④2号墳遺物出土状況 (東から)



⑤2号墳周溝内土坑1・2 (南から)



⑥2号墳周溝内土坑3 (南東から)



⑦2号墳周溝内土坑4 (東から)



⑧6号墳全景 (南から)



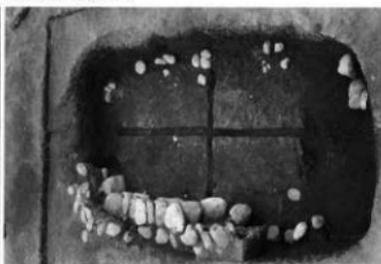
①6号墳 (南から)



②6号墳 (東から)



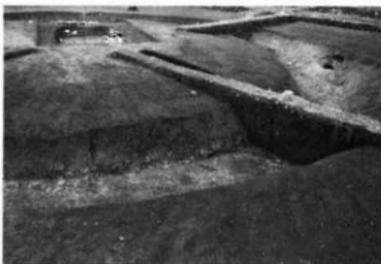
③6号墳前底部石敷 (南から)



④6号墳主体部 (西から)



⑤6号墳掘出状況 (西から)



⑥6号墳 (北から)



⑦6号墳周溝内土坑1セクション (南西から)



⑧6号墳周溝内土坑1セクション (南西から)



①6号墳周溝内土坑1 (北西から)



②6号墳周溝内土坑2セクション (南から)



③6号墳周溝内土坑2 (西から)



④6号墳周溝内土坑3 (東から)



⑤將軍塚古墳調査前風景



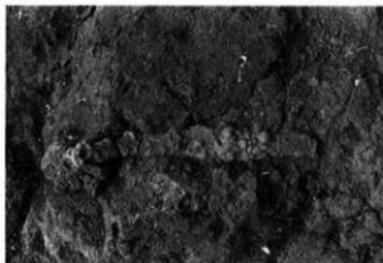
⑥將軍塚古墳と6号墳



⑦將軍塚古墳 (南東から)



⑧將軍塚古墳周溝内土器出土状況 (南西から)



①將軍塚古墳刀子出土状況



②將軍塚古墳第3トレンチセクション (南西から)



③將軍塚古墳周溝内土坑5 (東から)



④將軍塚古墳周溝内土坑6セクション (北から)



⑤將軍塚古墳周溝内土坑8セクション (北西から)



⑥將軍塚古墳周溝内土坑8 (北東から)



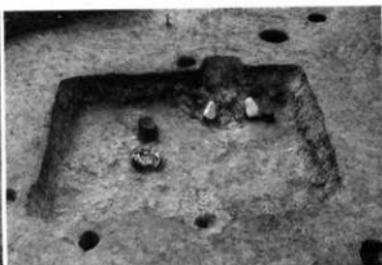
⑦3号墳



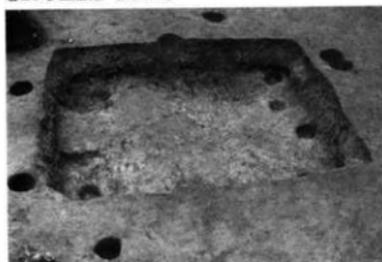
⑧58号土坑 (南から)



①26号住居跡 (西から)



②27号住居跡 (南から)



③28号住居跡 (南から)



④29号住居跡 (南から)



⑤39号住居跡セクション (南から)



⑥39号住居跡完型 (南から)



⑦39号住居跡カマド (南から)



⑧40号住居跡遺物出土状況 (西から)



①40号住居跡カマド (西から)



②40号住居跡完掘 (西から)



③41号住居跡 (南から)



④42号住居跡 (西から)



⑤43号住居跡 (南から)



⑥44号住居跡 (南から)



⑦45号住居跡 (南から)



⑧46号住居跡 (南から)



①47号住居跡 (南から)



②47号住居跡カマド (南から)



③48号住居跡 (南から)



④48号住居跡カマド (南から)



⑤49号住居跡 (西から)



⑥50号住居跡 (南東から)



⑦1号掘立柱建物跡 (南から)



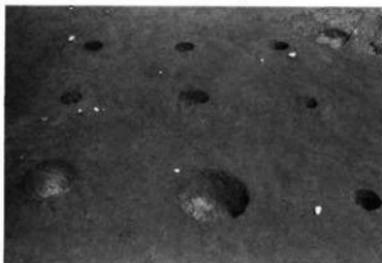
⑧2号掘立柱建物跡 (西から)



①3～5号掘立柱建物跡（北から）



②3～5・17・18号掘立柱建物跡（北西から）



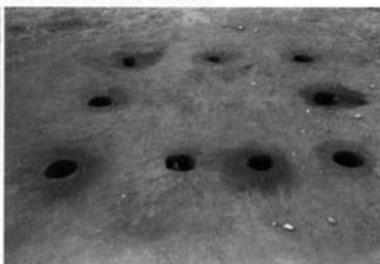
③6号掘立柱建物跡（南から）



④7号掘立柱建物跡（南から）



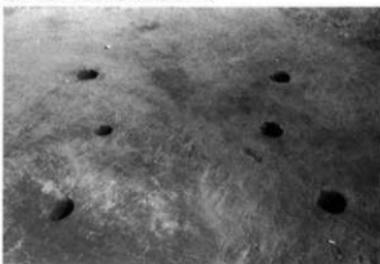
⑤8号掘立柱建物跡（南から）



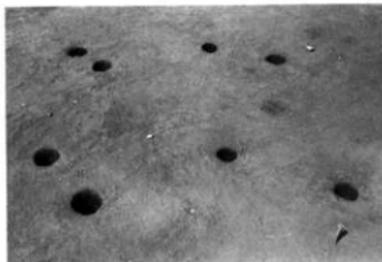
⑥9号掘立柱建物跡（南から）



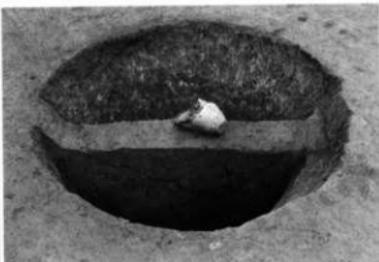
⑦10・11号掘立柱建物跡（南東から）



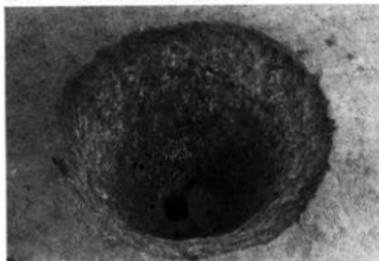
⑧12号掘立柱建物跡（南から）



①13・14号獨立柱建物跡 (南から)



②70号土坑遺物出土状況・セクション (南から)



③70号土坑完掘 (南から)



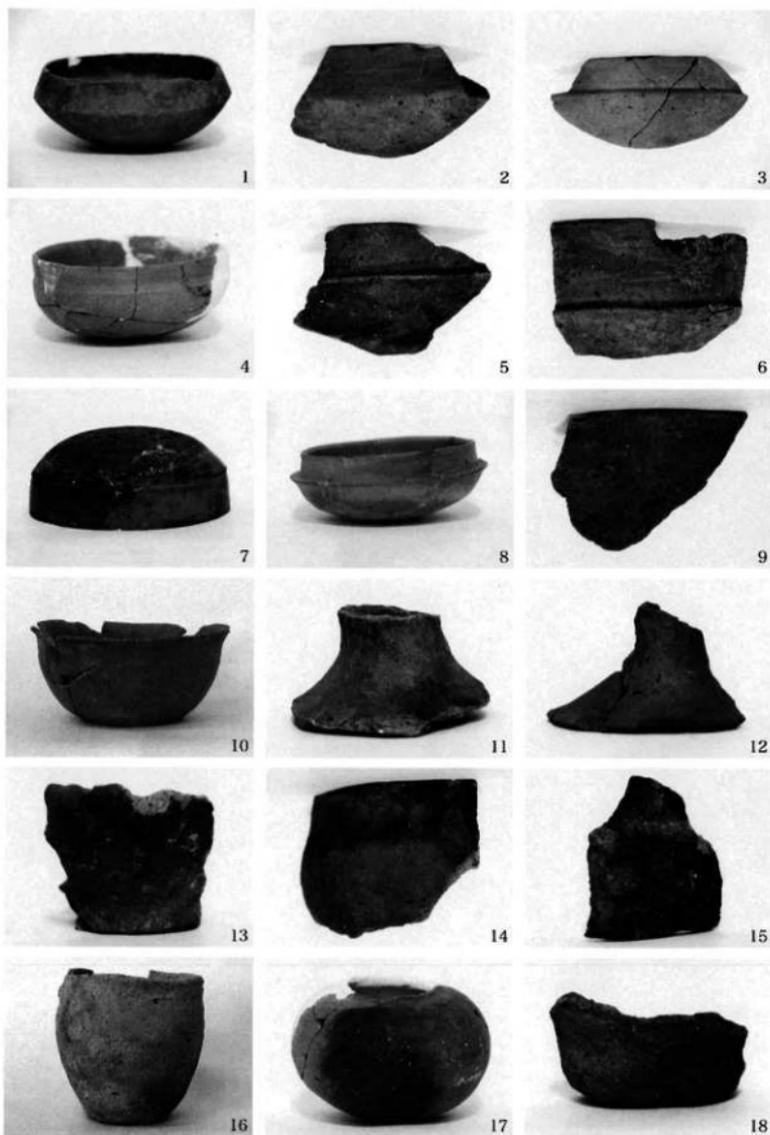
④1～3号経塚全景 (南から)



⑤1～3号経塚セクション (南から)



⑥2号経塚経筒出土状況



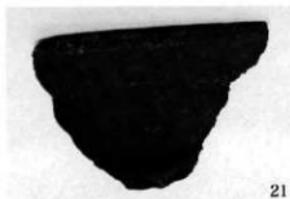
①1号住居跡出土遺物(1)



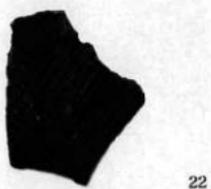
19



20



21



22

①1号住居跡出土遺物(2)



1

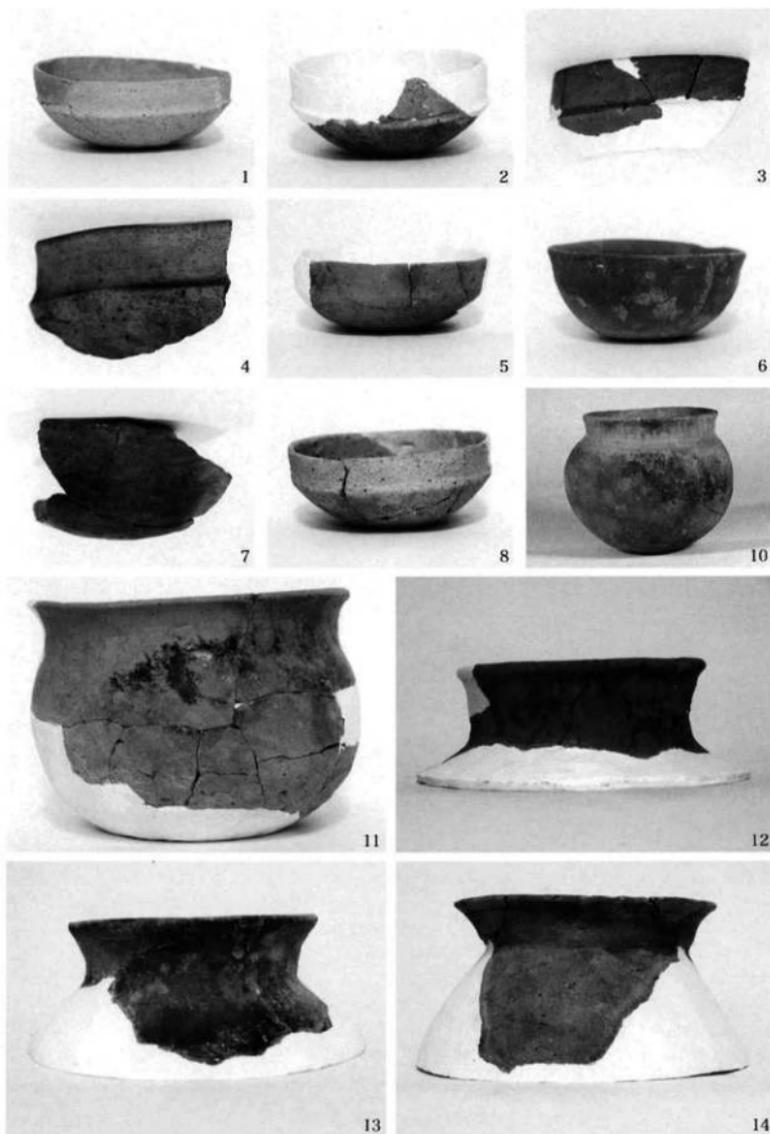


2



4

②2号住居跡出土遺物



①3号住居跡出土遺物(1)



16

①3号住居跡出土遺物(2)



1



2



3



4



5



6



8



9



10



11



12

②4号住居跡出土遺物(1)



13



14



16



20



21

①4号住居跡出土遺物(2)



1



2



3



4

①5号住居跡出土遺物



2



3



4



5

②6号住居跡出土遺物 (1)



6



8



9



10

①6号住居跡出土遺物 (2)



1



2

②7号住居跡出土遺物 (1)



①7号住居跡出土遺物 (2)



1



2



4



6

①8号住居跡出土遺物



2



4



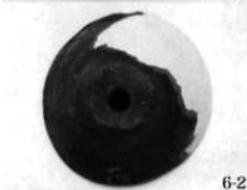
5



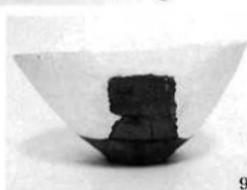
6-1



8



6-2



9

②9号住居跡出土遺物





①11号住居跡出土遺物



②13号住居跡出土遺物 (1)



10



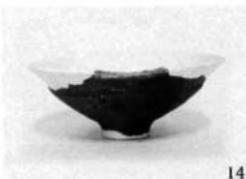
11



12



13



14



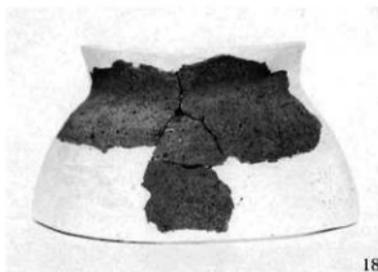
15



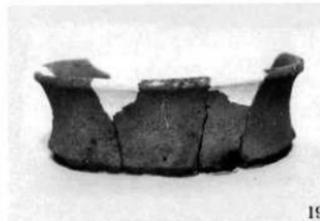
16



17

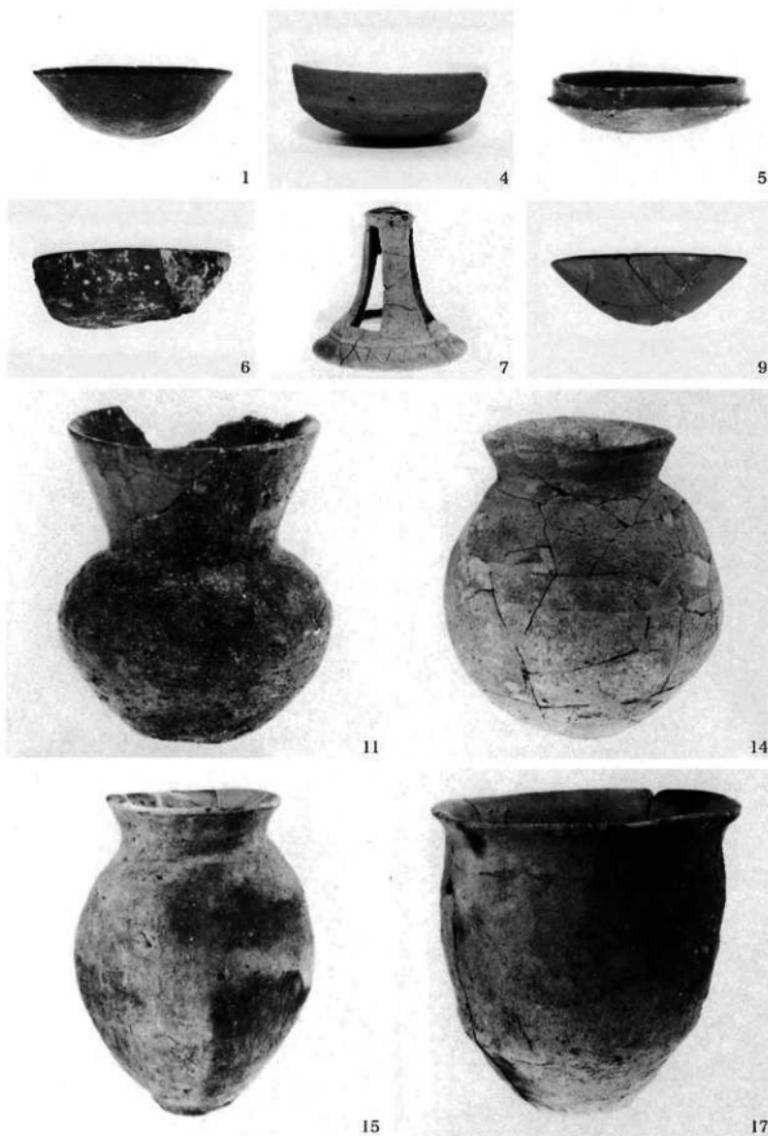


18



19

①13号住居跡出土遺物(2)



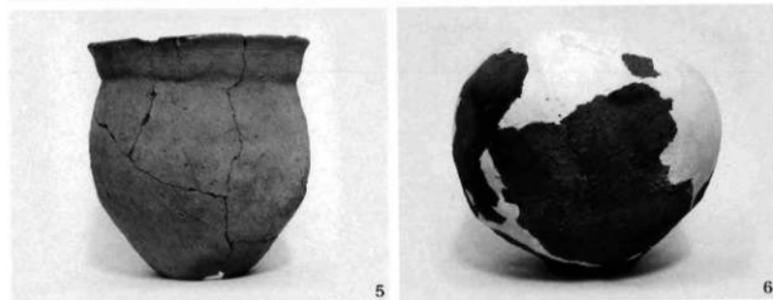
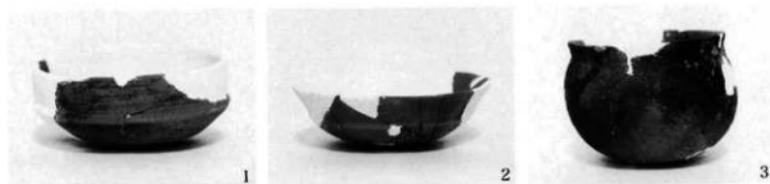
①14号住居跡出土遺物



①15号住居跡出土遺物



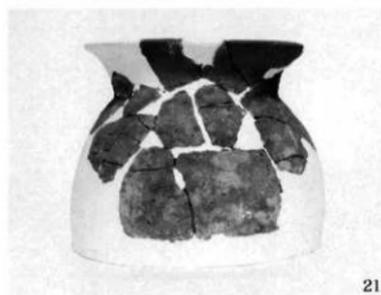
②16号住居跡出土遺物



③17号住居跡出土遺物



①19号住居跡出土遺物 (1)





①19号住居跡出土遺物 (3)



①19号住居跡出土遺物 (4)



36

①19号住居跡出土遺物 (5)



1



2



3



4

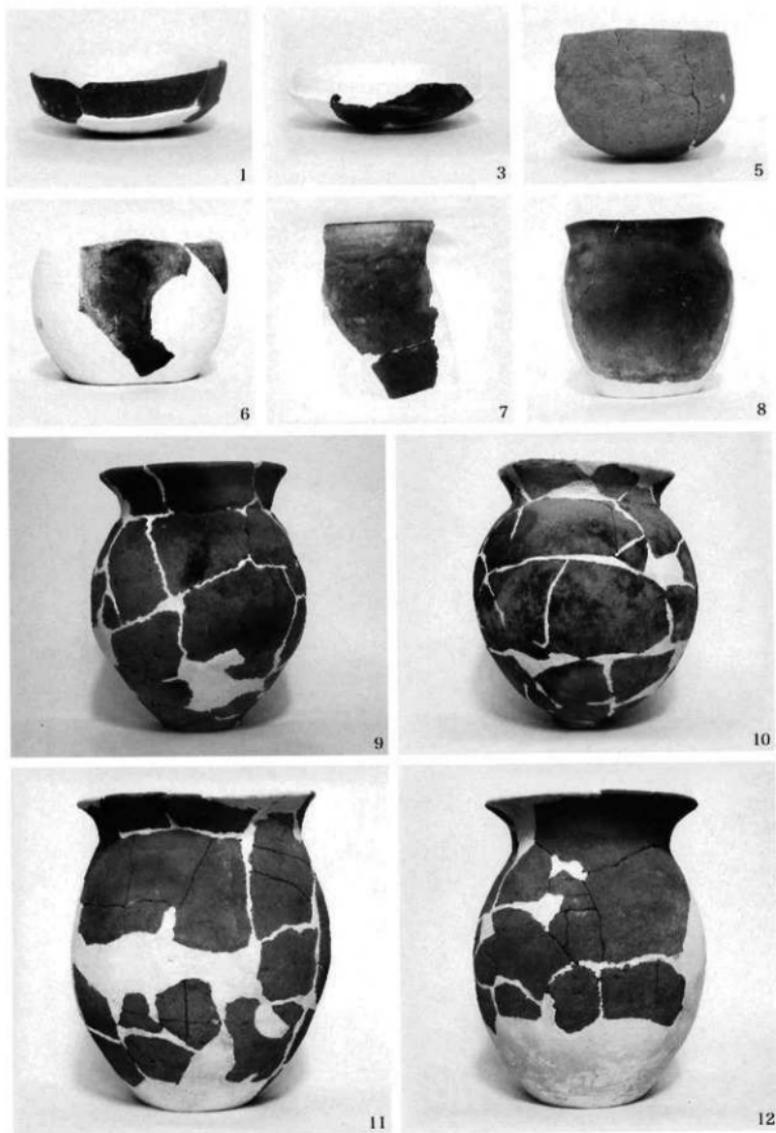


5



6

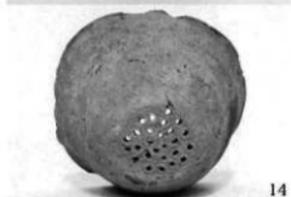
②20号住居跡出土遺物



①21号住居跡出土遺物 (1)

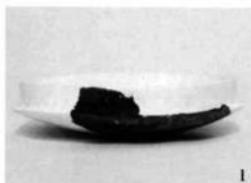


13



14

①21号住居跡出土遺物 (2)



1

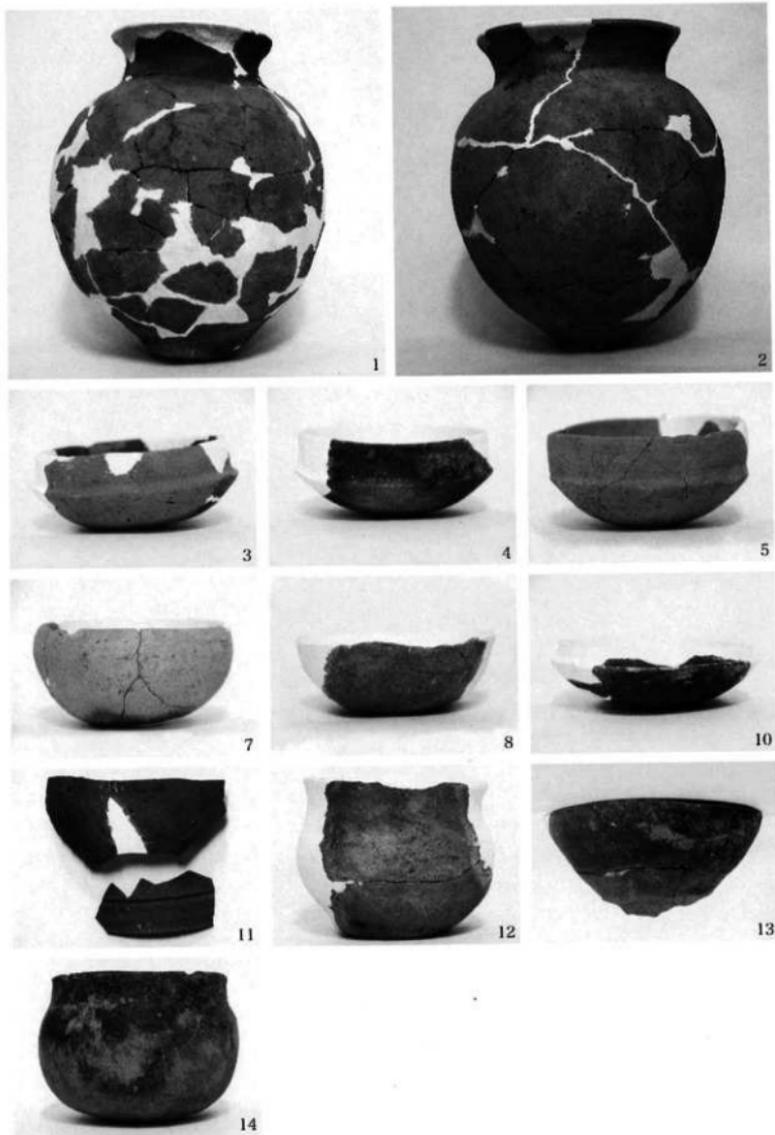


3



4

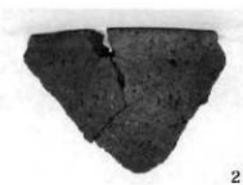
②22号住居跡出土遺物



①23号住居跡出土遺物 (1)



①23号住居跡出土遺物 (2)



②32号住居跡出土遺物 (1)



9



11



10



12



13

①32号住居跡出土遺物 (2)



1



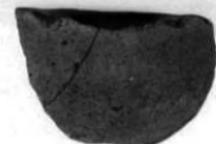
2



3



4



5



9

②33号住居跡出土遺物 (1)



①33号住居跡出土遺物(2)



1



3



5



6

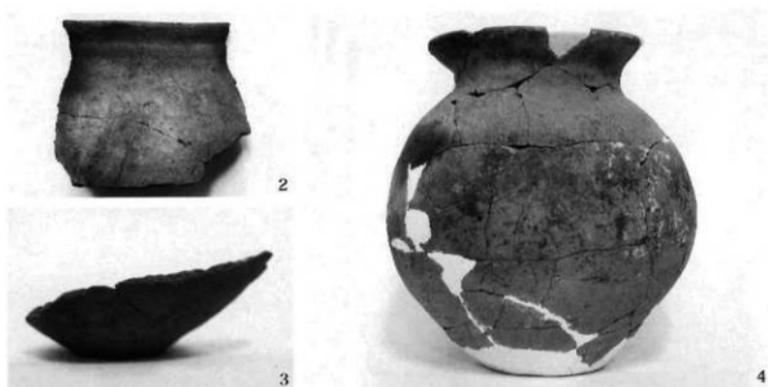


8

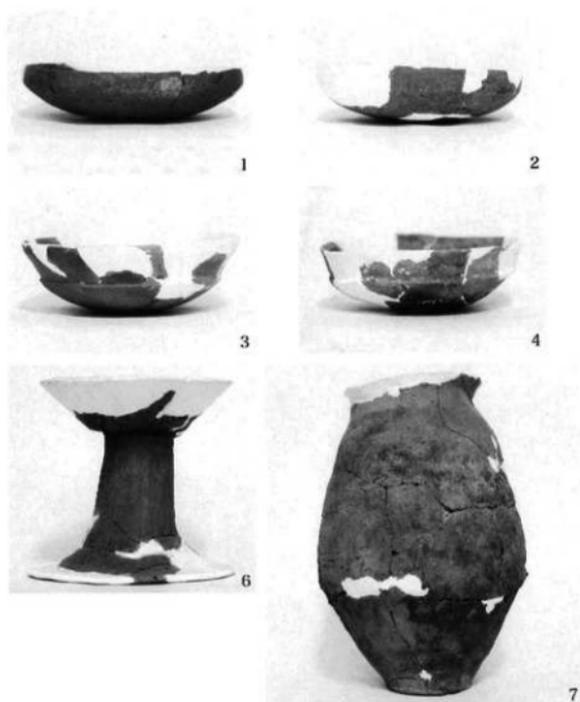


9

②34号住居跡出土遺物



①35号住居跡出土遺物



②38号住居跡出土遺物 (1)



8



9

①38号住居跡出土遺物 (2)



1



2



3



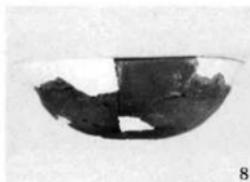
5



6



7



8



9



10



11



12

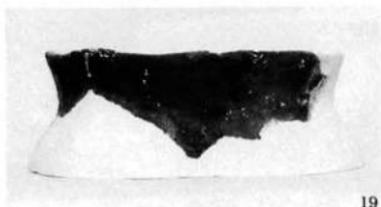
②24号住居跡出土遺物 (1)



13



18



19

①24号住居跡出土遺物 (2)



1



3



5

②25号住居跡出土遺物



1



2



3

③30号住居跡出土遺物 (1)



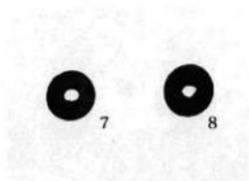
4



5



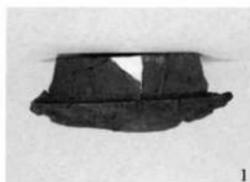
6



7

8

①30号住居跡出土遺物 (2)



1



2



3

②31号住居跡出土遺物



1



7

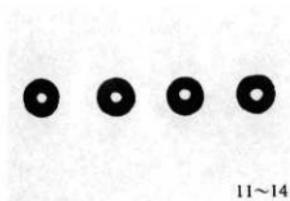


8

③36号住居跡出土遺物 (1)



9



11~14

①36号住居跡出土遺物 (2)



1



2



3



4

②37号住居跡出土遺物



B-2



B-3



B-4



B-8



B-10

①B区内土坑出土遺物



②B区内グリッド出土子持勾玉

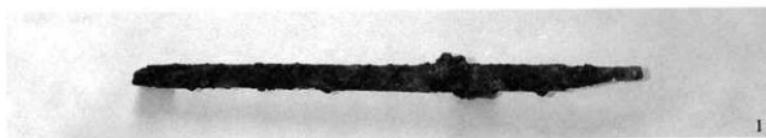


1



2

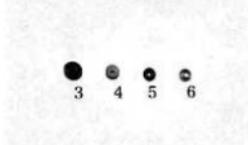
③子持勾玉周辺出土遺物



1



2



3 4 5 6

①1号墳出土遺物



1



2



3



4



5



6



7



8



9



鉄器

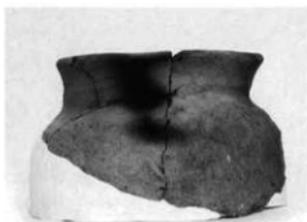


10

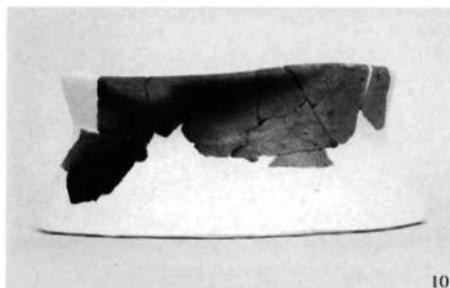
②2号墳出土遺物



1



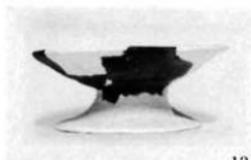
9-上



10



9-下



13



15



手捏ね土器



16

①6号墳出土遺物(1)



63



(前面)



(背面) 65



66



64



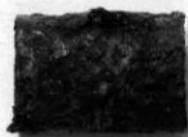
67



68



71



72



73



74



75



76



77



80



81



69



78

①6号填出土遺物 (3)



1



2



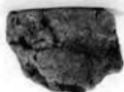
3



4



5



6



7



8



10



12



11



13



9



14

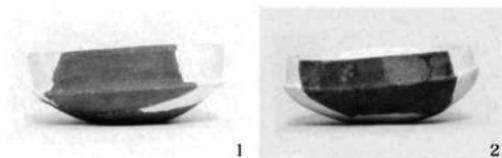


15



16

①將軍塚古墳出土遺物



①將軍塚古墳盛土内出土遺物



②將軍塚古墳南裾部周溝内出土遺物



(扉を閉じた状態)

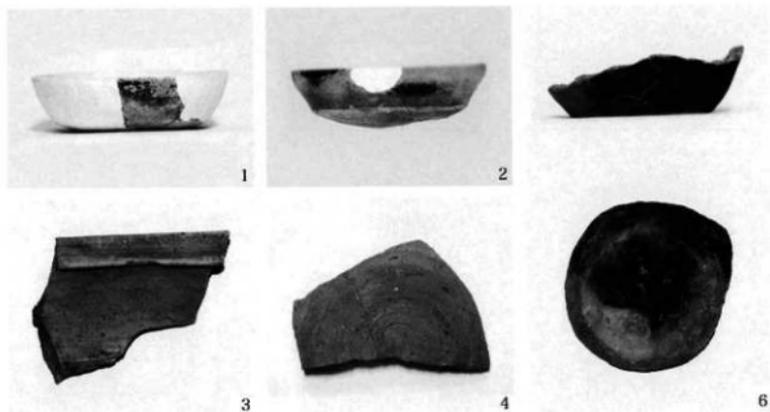


(扉を開いた状態)

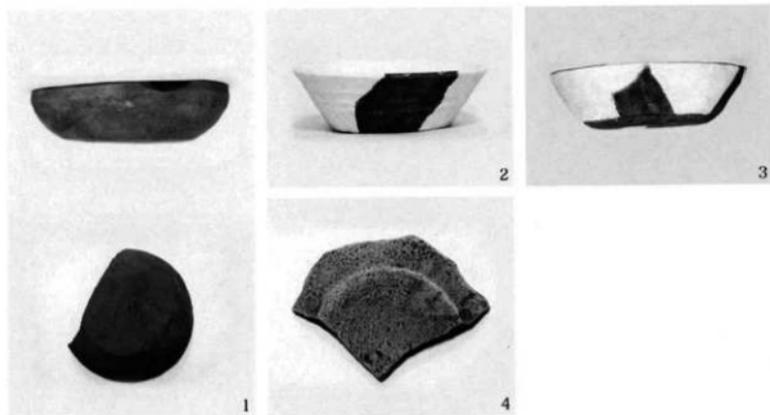
③2号経塚出土経筒



④70号土坑出土遺物



①26号住居跡出土遺物



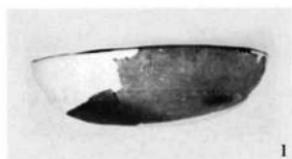
②27号住居跡出土遺物 (1)



①27号住居跡出土遺物 (2)



②28号住居跡出土遺物



5



7



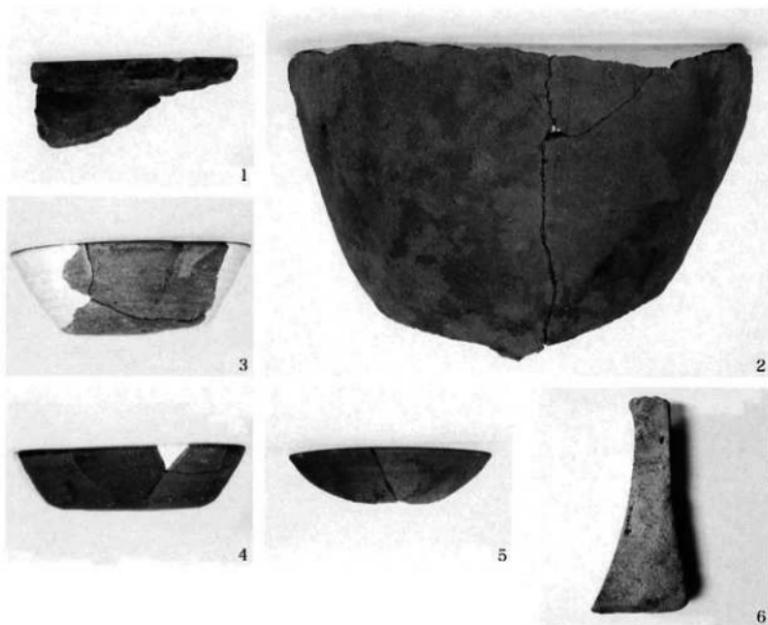
4



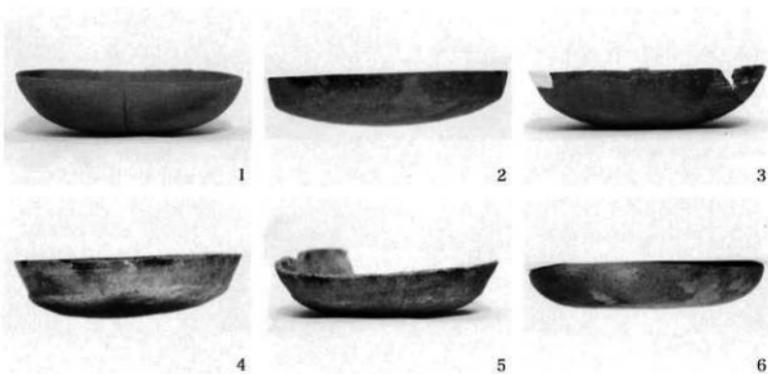
6



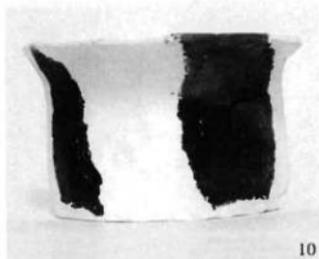
8



①39号住居跡出土遺物



②40号住居跡出土遺物 (1)



13



18



19

①40号住居跡出土遺物 (3)



5



8



9



10



11



13



14

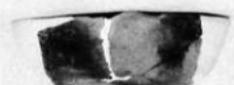
②41号住居跡出土遺物



1



3



4



5



10

③42号住居跡出土遺物 (1)



11



13



16



17



19



20

①42号住居跡出土遺物 (2)



1



2



3



4上



5

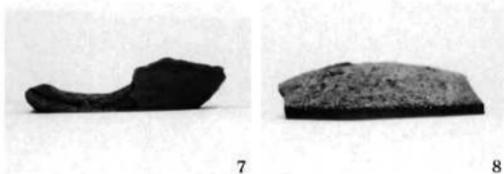


4下

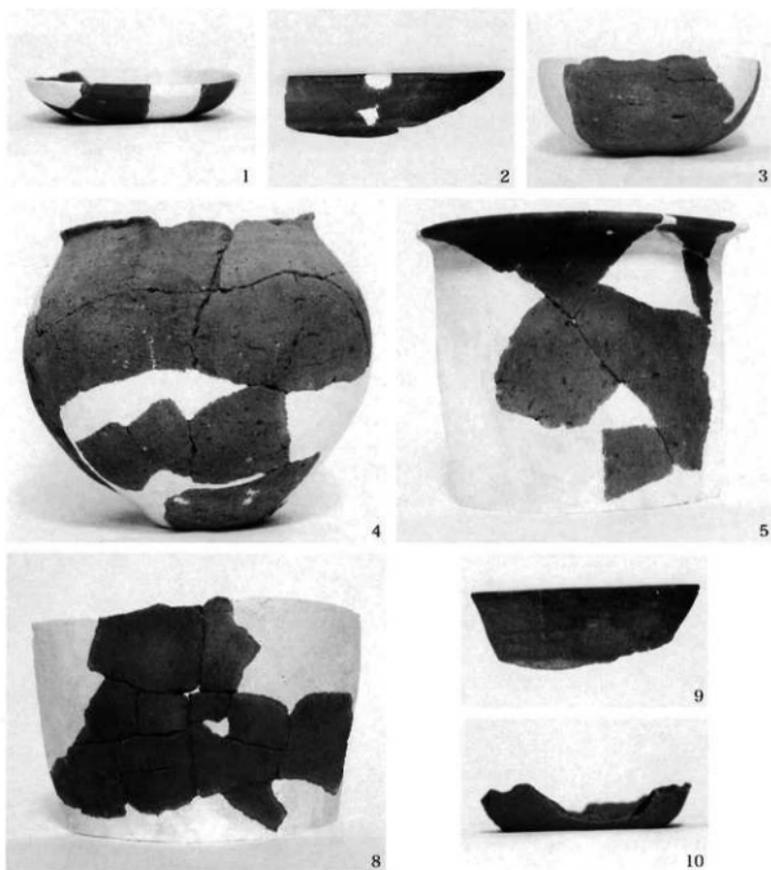


6

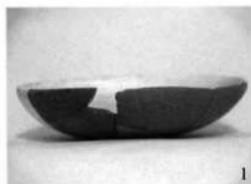
②43号住居跡出土遺物 (1)



①43号住居跡出土遺物 (2)



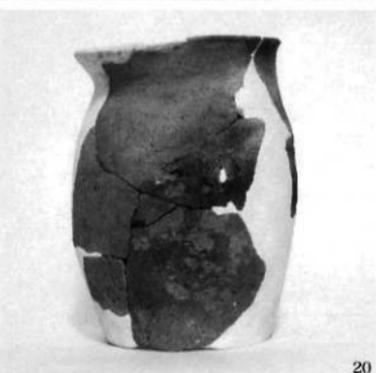
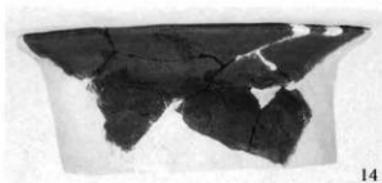
②44号住居跡出土遺物



①45号住居跡出土遺物



②46号住居跡出土遺物 (1)



①46号住居跡出土遺物(2)



25



26



27

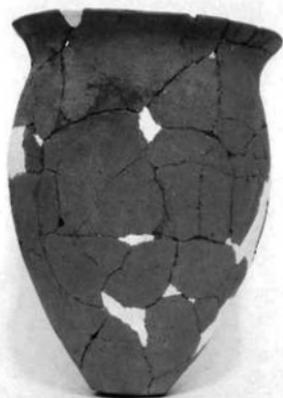


29

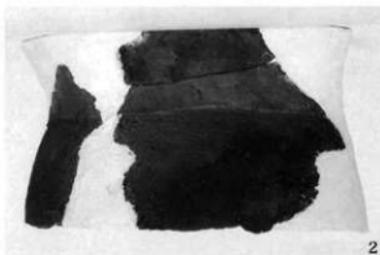


30

①46号住居跡出土遺物 (3)



1



2



3

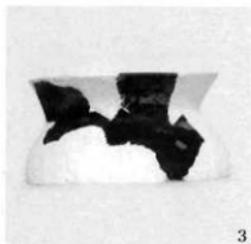
②47号住居跡出土遺物



1



2



3



4



5



6

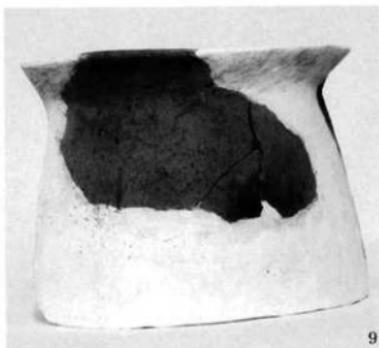


7

①48号住居跡出土遺物(1)



8



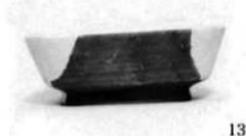
9



10



12



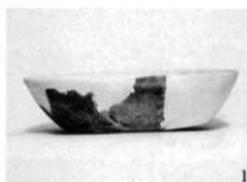
13



14



①49号住居跡出土遺物



②50号住居跡出土遺物

宇都宮市埋蔵文化財発掘調査報告第31集

聖山公園遺跡
根古谷台遺跡
(古代・中近世編)

平成5年3月31日発行

発行 宇都宮市教育委員会
(宇都宮市旭一丁目1番5号)
Tel. 0286-32-2764

印刷 株式会社 松井ビ・テ・オ・印刷
(宇都宮市平出町 4287-7)
Tel. 0286-62-2511

宇都宮市教育委員会